

# 大学院便覧・講義要項 博士前期・後期課程

2017



東京女子医科大学大学院  
看護学研究科

# 目次

1	東京女子医科大学の建学の精神、大学の理念	1
---	----------------------	---

## 【博士前期課程（修士）】

2	平成29年度大学院博士前期課程学事暦	3
3	東京女子医科大学大学院看護学研究科博士前期課程の教育理念	5
4	看護学研究科博士前期課程 3つのポリシー	7
5	教育課程	
1)	教育課程の構造（博士前期課程）	11
2)	博士前期課程の流れ（概要）	12
3)	入学から修了までのプロセス	17
4)	大学院学則第8条および第9条関係「履修方法に関する内規」	14
5)	授業科目、単位数及び学年配置	17
6)	授業科目及び履修例	20
7)	講義要目	22
8)	【修士論文コース】修士論文作成要項	31
9)	【実践看護コース】課題研究論文作成要項	43
10)	授業科目および教員一覧	7
11)	教員一覧 専任教員・兼任教員・非常勤講師	55

## 6 講義概要

### 1) 基盤分野

共通必修科目	59
共通選択科目	61
自由選択科目	75

### 2) 専攻科目（自由選択科目を含む）

基礎看護学	78
看護管理学	78
看護職生涯発達学	85
クリティカルケア看護学	91
がん看護学	101
ウーマンズヘルス	115
老年看護学	124
精神看護学	135
地域看護学	150
小児看護学	163

3) 助産選択科目	175
-----------	-----

## 【博士後期課程（博士・甲）】

7	平成29年度大学院博士後期課程学事歴	183
8	東京女子医科大学大学院看護学研究科博士後期課程の教育理念	185
9	看護学研究科博士後期課程 3つのポリシー	186

1 0	教育課程	
1)	教育課程の構造（博士後期課程）	189
2)	博士後期課程の流れ（概要）	192
3)	入学から修了までのプロセス	192
4)	大学院学則第8条および第9条関係「履修方法に関する内規」	192
5)	授業科目、単位数及び学年配置	195
6)	授業科目及び履修例	200
7)	講義要目	197
8)	【平成28年度以前入学生】博士後期課程学位論文作成の過程	199
9)	【平成29年度以降入学生】博士後期課程学位論文作成の過程	199
1 0)	授業科目および教員一覧、論文指導教員一覧	186
1 1)	教員一覧 専任教員・非常勤講師	209
1 1	講義概要	
1)	共通選択科目	
	心理学特論	211
	統計学特論	212
	哲学特論	213
	倫理学特論	214
	研究方法特論	215
2)	看護基礎科学	
	看護管理学特論	216
	看護管理学演習	216
	看護職生涯発達学特論	216
3)	実践看護学	
	クリティカルケア看護学・がん看護学特論	217
	ウーマンズヘルスト論	218
	老年看護学特論	219
	解釈的精神看護学特論	220
	解釈的精神看護学演習	221
	地域看護学特論	222
	小児看護学特論	223
4)	論文指導	224
	<b>【満期退学後2ヶ年以内の者による学位申請（甲）・論文提出による学位申請（乙）】</b>	
1 2	平成29年度学事歴	230
1 3	論文提出による学位申請について（乙のみ該当）	231
	<b>【共通】</b>	
1 4	学生生活の手引き	
1)	学生証・諸届・諸手続等	259
2)	学生生活	261
3)	奨学金制度・教育訓練給付制度	264
4)	傷害保険・賠償責任保険	263
1 5	図書館利用案内	256
1 6	東京女子医科大学大学院学則	236

1 7	学位規程	236
1 8	倫理委員会規程	248
1 9	看護学研究科倫理審査委員会規程	250
2 0	大学院看護学研究科学費減免内規	
2 1	廣澤克江看護国際交流助成金規程	253
2 2	Kidney 太田奨励賞規程	255
2 3	フローラドーミトリー使用規程	255
2 4	大学院看護学研究科科目等履修生規程	248
2 5	利用施設	272
2 6	時間割表	272
2 7	2017・2018・2019年カレンダー	

# 1 東京女子医科大学の建学の精神、大学の理念

## I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

## II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

## 博士前期課程（修士）

## 2 平成29年度学事暦(博士前期課程)

	事項	日程
前 期	オリエンテーション(1年次のみ) *大学院科目等履修生、博士後期課程合同	4月 7日(金)
	入学式	4月 8日(土)
	前期授業開始	4月 10日(月)
	履修届提出	4月 21日(金) 17時まで
	特別研究計画書の提出(修士論文コース)	5月 17日(水) 13時まで
	特別研究計画書の発表会(修士論文コース)	5月 24日(水)
	特別研究計画書の再提出(修士論文コース)	5月 31日(水)
	研究科委員会による特別研究計画書の審査	6月 2日(金)
	課題研究テーマの提出(最終締切日)(注1) (実践看護コース)	6月 26日(月) 13時まで
	大学院博士前期・後期課程入学試験(1期)	8月 4日(金)
	履修願変更期間(後期に実施する科目のみ有効)	9月 25日(月)~29日(金) 17時まで
	前期授業終了	9月 30日(土)
	後 期	後期授業開始
大学院博士前期・後期課程入学試験(2期)		1月 17日(水)
学位申請書(修士論文、課題研究論文)提出		1月 25日(木) 13時まで
審査委員会の構成委員の決定		2月 2日(金)
審査委員会による論文審査と最終試験日 (実践看護コース)		2月 6日(火)
審査委員会による論文審査と最終試験日 (修士論文コース)		2月 14日(水)
再審査論文提出締切日		2月 21日(水) 13時まで
主査による最終審査結果提出日		2月 26日(月)
研究科委員会による学位授与の可否判定		3月 2日(金)
学生への通知		3月 5日(月)
特別研究の発表会(修士論文コース) 事例報告会(実践看護コース)		3月 14日(水)
学位授与式ー修了式		3月 26日(月)

(注1)

課題研究テーマについては、平成29年4月1日(土)以降随時提出可能とし、提出後直近の研究科委員会(定例)にて課題研究テーマの報告を行うこととする。

### 3 東京女子医科大学大学院看護学研究科博士前期課程の教育理念

#### I. 設置の趣旨

わが国の医学・医療は、臓器移植法の実施を迎え、ますます高度化・煩雑化へと急速な変化をとげている。また、高齢・少子化の進展や生活習慣病を中心とした疾病構造の変化に伴い、医療の社会経済的情勢の変化をきたしている。これにより医療制度および医療法の改正がなされ、医療をとりまく新たな環境に応じた医療サービス提供体制の整備が行われてきた。このような現状において、多様な人々の健康の保持増進に向けて、保健・医療・看護・福祉に関連したチーム医療を推進できる質の高い人材がますます必要になっている。また、国際的視野に立ち、看護学の立場から主体的、協動的に他職種の専門家と協働して社会のニーズに対応できる実践能力を有する人材が求められる。

東京女子医科大学は、社会の保健・医療・看護・福祉に対する人々の多様なニーズを認識し、看護の立場から、これらのニーズに対応できる高度な実践能力、豊かな学識および人間性を備え、人々のQOLを高めるように社会を変革する能力を有する人材を育成するために、さらに看護学の独自の学問の発展のために看護学研究科博士前期課程を設置した。

#### II. 教育研究上の理念・目的

本学大学院看護学研究科博士前期課程看護学専攻（以下本大学院）は、看護基礎科学（食看護学・基礎看護学）、看護管理学、看護職生涯発達学、実践看護学Ⅰ（クリティカルケア看護学・がん看護学）、実践看護学Ⅱ（ウーマンズヘルス）、実践看護学Ⅲ（老年看護学）、実践看護学Ⅳ（精神看護学）、実践看護学Ⅴ（地域看護学）、実践看護学Ⅵ（小児看護学）の看護実践に即した研究を中心に、看護実践・教育・行政における指導者を育成する。ついで高度医療を専門とする附属病院を有する最良の条件を有効に生かし、多様な状況の中でも本学の創立者の至誠と愛の精神を貫き、常に対象者の立場を理解して包括的、かつ高度な看護を実践できる専門職業人の育成を目指している。

さらに、21世紀の情報化社会において、国際的感覚を有し、あらゆる人々の健康に関するニーズを視野に入れ、人間性を高め、科学的思考および高度な看護技術を提言できる看護研究者の育成をも併せ目的とする。

#### 教育目的

本大学院は、建学の精神にのっとり、看護学に関する学術の理論及び応用学を研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与するとともに社会に貢献すべき有為の人材を育成する。

#### 修了後の資格

- ・ 所定の授業科目を履修し必要な単位を取得したものについては、修了したことを認定し、修士（看護学）の学位が授与される。
- ・ 実践看護学コースの修得者<sup>注)</sup>に対しては、専門看護師の認定を受ける資格が与えられる。  
注) クリティカルケア看護学、がん看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学
- ・ 実践看護学Ⅱ分野（ウーマンズヘルス）の学生で所定の助産選択科目を履修し、必要な単位を取得したものについては、助産師国家試験受験資格が与えられる。

## 4 看護学研究科博士前期課程 3つのポリシー

看護学研究科博士前期課程では、教育・研究上の理念の達成のため、以下のポリシーを定めている。

### 【アドミッションポリシー】

社会の保健・医療・看護・福祉に対する人々の多様なニーズを認識し、これらのニーズに対応できる高度な看護実践能力、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々のQOLを高められるように社会を変革する能力を有する人々の育成を目指しています。入学者は性・年齢を問わず、また仕事をもつ社会人も受け入れています。

博士前期課程では、以下のような方の入学を希望します。

1. 看護学および看護実践への強い関心と問題意識を有している人
2. 専門分野の基礎的知識ならびに実践力を有し、課題探究力、論理的思考を有している人
3. 看護専門職として看護実践・看護学の発展に貢献する意欲を有している人
4. 豊かな感性と人間関係をはぐくむ力を有し、他者と協調しながら主体的に行動できる人

### 【カリキュラムポリシー】

本学看護学研究科博士前期課程においては、看護の発展に貢献する研究を中心に、看護実践・教育・行政における指導者の育成および人々の健康生活に貢献しうる包括的、かつ高度な看護実践ができる看護専門職の育成をめざします。

博士前期課程では修士論文コースと実践看護コースの教育課程を設けております。

修士論文コースは、看護基礎科学、看護管理学、看護職生涯発達学と実践看護学Ⅰ～Ⅵの専攻分野から編成しています。学際的な立場から広く看護学を学ぶ基盤科目、専門領域における看護をさらに深める主分野専門科目の履修、および自己の研究課題を探究し修士論文を作成することを課しております。

実践看護コースには、基盤科目に加えて、専門看護師を目指す学生のために、日本看護系大学協議会に認定された専門看護師教育課程の科目（38単位）を履修することを課しております。

また、ウーマンズヘルス領域では助産師国家試験の受験資格に必要な科目（28単位）を含む58単位以上の科目を履修することを課しております。

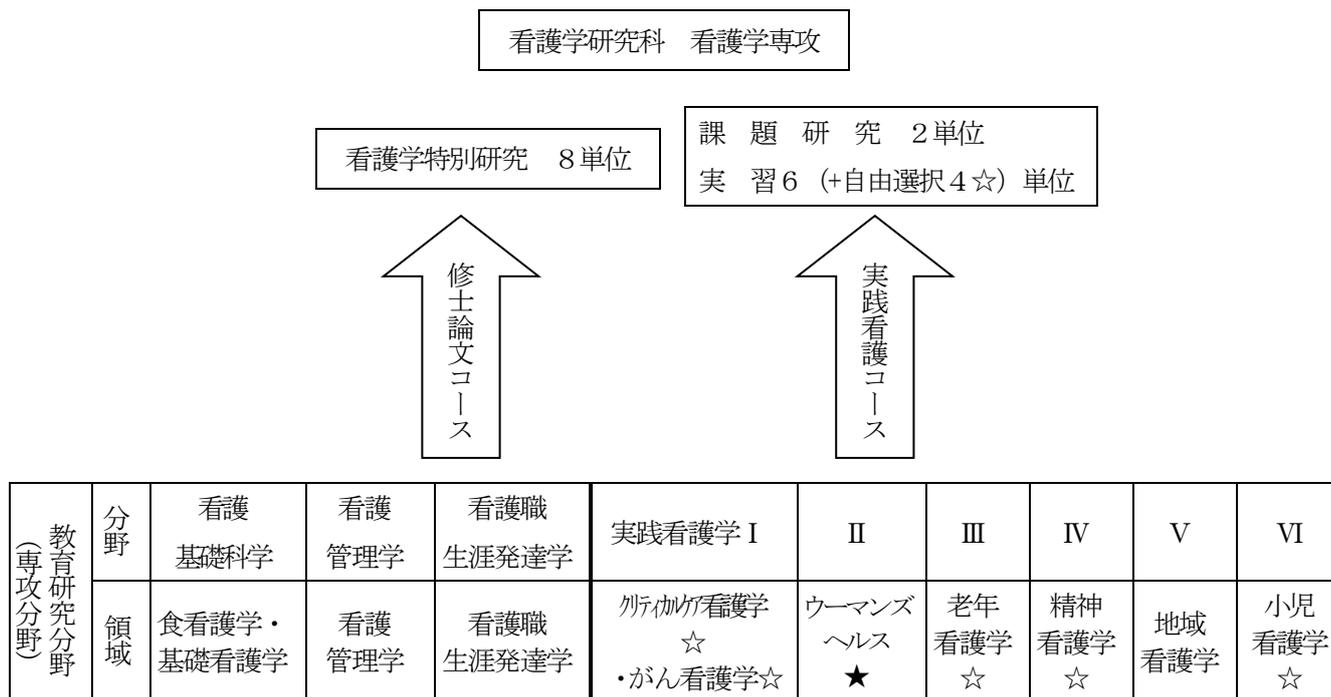
### 【ディプロマポリシー】

本学博士前期課程では所定の単位を修め、修士論文または課題研究論文を提出し、最終試験において以下の能力が認められたものに、修士(看護学)の学位が授与されます。

1. 看護の専門領域に関して、質の高い高度な看護実践を開発する研究能力を有する。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な看護実践能力および指導力を有する。
3. 保健医療・看護の場における課題に関して主体的に取り組み、科学的・論理的な分析に基づき検討・提言する能力を有する。

## 5 教育課程

### 1) 教育課程の構造 (博士前期課程)



★助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目を設置

☆日本看護系大学協議会専門看護師教育課程修了のための自由選択科目を設置

基盤科目	共通必修科目 (4)	看護理論 (2) 看護研究 (2)
	共通選択科目 修士論文コースは6単位以上 実践看護コースは4単位以上 (但し、4単位は*印の科目から選択する。) 実践看護学分野II (ウーマンズヘルス) 実践看護コースは 6単位以上	*看護教育論(2) *看護政策論(2) *コンサルテーション論(2) *看護倫理(2) *看護管理論(2) 家族論(2) 社会学(2) 人間学(2) 保健統計学(2) 臨床心理学(2) 研究方法 (生体・生理学的研究、臨床医学的研究各2) (2) 先端医療 (2) 国際コミュニケーション英語演習 (2)
	自由選択科目 (6) ☆	病態生理学 (2) フィジカルアセスメント (2) 臨床薬理学 (2)

( ) 内の数字は単位を表す

修士論文コース 修得単位 30単位以上

実践看護コース 修得単位 30単位以上

修士論文コース:教育研究分野(専攻分野)の修得単位は、専攻主分野選択必修科目を12単位以上履修する。

実践看護コース:教育研究分野(専攻分野)の修得単位は、専攻主分野選択必修科目を14単位(但し、うち2単位は他の専攻分野でも特論に限り選択可)履修する。但し、実践看護学分野II (ウーマンズヘルス)の学生は、専攻主分野選択必修科目を12単位以上履修する。なお、実践看護学I~VI分野(ただし、実践看護学II分野(ウーマンズヘルス)を除く)の学生で、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程修了を希望する者は、上記に加えて基盤科目自由選択科目を6単位以上、専攻主分野自由選択科目を2単位以上、実習(自由選択科目)を4単位以上履修する。

また、実践看護学分野II (ウーマンズヘルス)の学生で助産師国家試験受験資格取得を希望する者は助産師国家試験受験資格希望者のための選択必修科目28単位をすべて履修すること。

## 2) 博士前期課程の流れ(概要)

### 1. 履修について

指導教員の指導のもとに履修科目を選択し履修する。

#### 1) 修士論文コース：

基盤分野から10単位、専攻主分野から12単位以上履修する。

基盤分野の10単位の内訳として、共通必修科目の看護理論、看護研究から4単位、共通選択科目の看護倫理、看護教育論、看護政策論、コンサルテーション論、看護管理論、家族論、社会学、人間学、保健統計学、臨床心理学、研究方法、先端医療、国際コミュニケーション英語演習から6単位以上履修する。

#### 2) 実践看護コース：

基盤分野から8単位、専攻主分野から14単位以上履修する。

基盤分野の8単位の内訳として、共通必修科目の看護理論、看護研究から4単位、共通選択科目の\*看護倫理、\*看護教育論、\*看護政策論、\*コンサルテーション論、\*看護管理論、家族論、社会学、人間学、保健統計学、臨床心理学、研究方法、先端医療、国際コミュニケーション英語演習から4単位以上履修する。(但し、\*印5科目から4単位以上選択すること。)

専攻主分野の14単位のうち2単位は他の専攻分野でも特論に限り選択可能である。但し、実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）の学生は、専攻主分野選択科目を12単位以上履修する。

### 2. 修了要件

- 1) 2年以上在学し、授業科目について30単位以上を修得すること。
- 2) 看護学特別研究または課題研究の審査および最終試験に合格すること。

### 3. 修士論文(特別研究)の提出について

- 1) 担当教員の指導のもと、関心ある研究テーマに関して研究計画書を作成する。
- 2) 1年次後期より看護学研究科倫理審査委員会の申請に向けて準備し、本学の倫理委員会において研究計画に関わる承認を得る。
- 3) 原則として本学倫理委員会の審査で研究実施の承認を受けた後、承認通知書の写しを添付して、定められた提出書類とともに、研究計画書の審査を看護学研究科委員会に申請する（5月）。
- 4) 研究計画書の審査を受け合格した者は、特別研究計画発表会において発表し、研究を開始する。
- 5) 指導教員の定期的な指導を受けて修士論文を完成させた者は、修士論文、論文要旨、学位論文審査願等を提出し学位申請する。（1月）

- 6) 必要単位を履修し、修士論文審査および最終試験に合格した者は修士(看護学)の学位を授与される。(3月)
  - 7) 特別研究発表会において研究発表をする。(3月)
- ※ 修士論文作成についての詳細は修士論文作成要項を参照のこと。

#### 4. 課題研究(文献研究等)論文の提出について

- 1) 担当教員の指導のもと、研究テーマを決定し提出する(5月)。
  - 2) 研究科委員会において研究テーマの承認を受けた後、研究を開始する。
  - 3) 課題研究論文を完成させた者は、課題研究論文、論文要旨、学位論文審査願等を提出し学位申請する。(1月)
  - 4) 必要単位を履修し、課題研究論文審査および最終試験に合格した者は修士(看護学)の学位を授与される。(3月)
  - 5) 研究発表会において研究発表または、看護実践発表をする。(3月)
- ※ 課題研究論文作成についての詳細は課題研究論文作成要項を参照のこと。

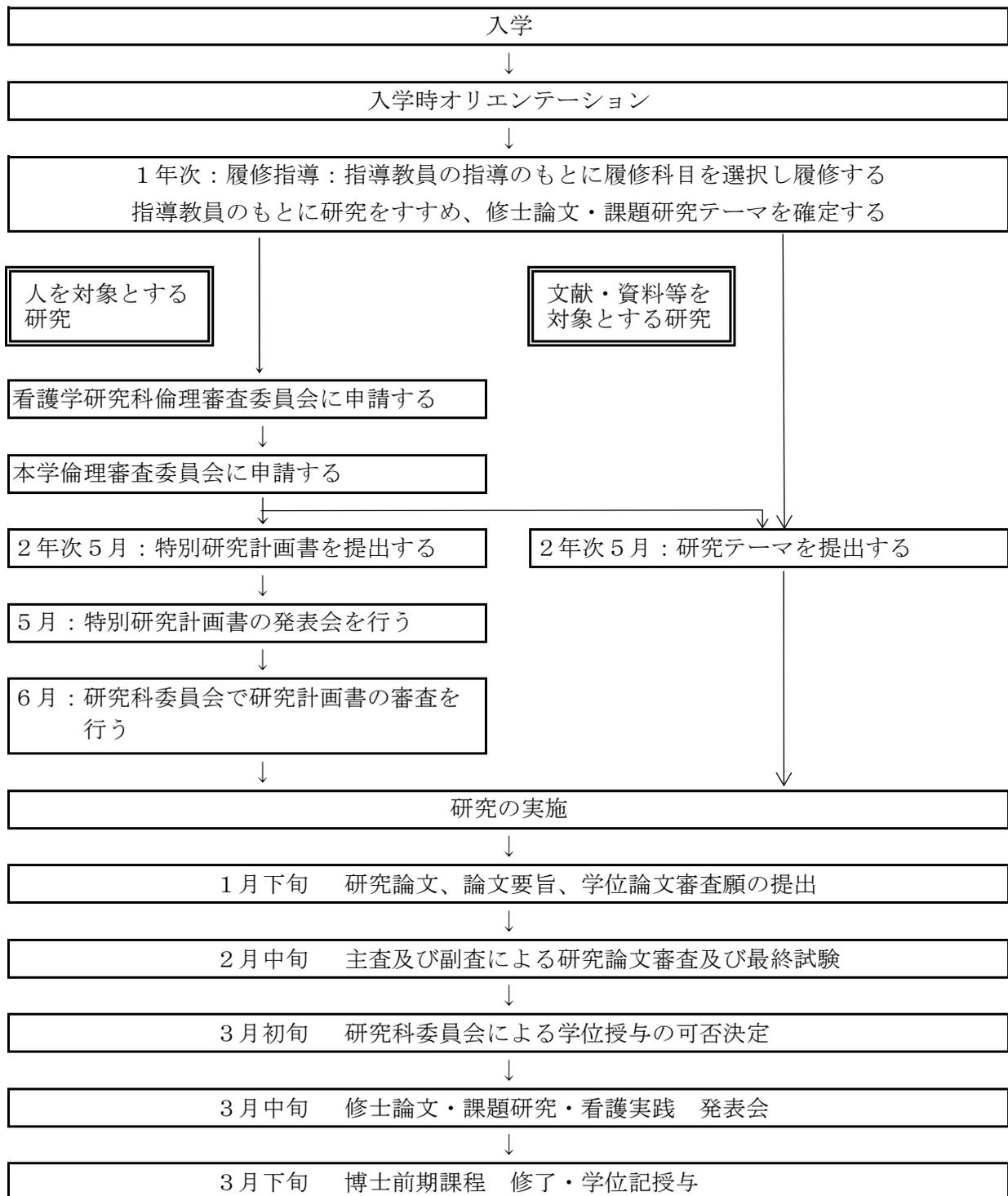
#### 5. 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程(38単位)修了について

実践看護学Ⅰ～Ⅵ分野(ただし、実践看護学Ⅱ分野(ウーマンズヘルス)を除く)の学生で日本看護系大学協議会専門看護師教育課程(38単位)修了を希望する者は、上記に加えて基盤自由選択科目を6単位以上、専攻主分野自由選択科目を2単位以上、実習(自由選択科目)を4単位以上履修する。

#### 6. 助産師国家試験受験資格について

実践看護学分野Ⅱ(ウーマンズヘルス)の学生で助産師国家試験受験資格を希望する者は、助産選択科目(助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学特論Ⅲ、助産学特論Ⅳ、助産学演習Ⅰ、助産学演習Ⅱ、助産学実習)の28単位すべてを履修すること。

### 3) 入学から修了までのプロセス



#### 4) 大学院学則 8 条および 9 条関係「履修方法に関する内規」

1. 学生は入学後原則として、1 ヶ月以内に、研究指導教授の指導および承認を得て、学科目の選択を決定しなければならない。
2. 学生は、毎学年始め研究指導教授の指導および承認を得て、当該学年に履修しようとする学科目を定め、所定の様式により届け出なければならない。
3. 学科目の単位は、半年間 15 週を標準として、毎週時間数講義 1 時間、演習 2 時間、実習 3 時間が各々 1 単位に相当する。
4. 学科目、単位数については別表の通りとする。
5. 学生は下表に従って学科を履修しなければならない。

<博士前期課程>

《修士論文コース》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
看護学特別研究	8
修了最低修得単位数	計 30 単位

《実践看護コース》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	4
*但し、看護倫理、看護教育論、看護政策論、コンサルテーション論、看護管理理論の中から 4 単位以上選択すること	
自由選択科目 <sup>注)</sup>	(6)
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	14
*但し、うち 2 単位は、他の専攻分野でも特論に限り選択することができる。	
自由選択科目 <sup>注)</sup>	(2)
実習	
選択必修科目	6
自由選択科目 <sup>注)</sup>	(4)
課題研究	2
修了最低修得単位数	計 30 単位
日本看護系大学協議会専門看護師教育課程 (38 単位) 修了のための自由選択科目	12
	計 42 単位

注) 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程 (38 単位) 修了を希望する者は、自由選択科目を履修することとする。

《実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）修士論文コース 選択者》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
看護学特別研究	8
修了最低修得単位数	計 30 単位
助産師国家試験受験資格取得希望者のための 選択必修科目	28
	計 58 単位

《実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）実践看護コース 選択者》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
実習	
選択必修科目	6
課題研究	2
修了最低修得単位数	計 30 単位
助産師国家試験受験資格取得希望者のための 選択必修科目	28
	計 58 単位

<博士後期課程>

科 目	修了最低修得単位数
専攻主領域の科目	2 単位 但し、看護管理学、解釈的精神看護学 は4 単位とする。
共通選択科目または 他の専攻領域の科目	4 単位 但し、看護管理学、解釈的精神看護学 は2 単位とする。
修了最低修得単位数	計 6 単位

- 1) 学科目の内容は、年度始めに発行される博士前期課程講義要項ならびに博士後期課程講義要項に示されている。各科目の内容は、看護学研究科委員会の議を経て変更することができる。
- 2) 博士前期課程の各開講区分中、共通必修科目、共通選択科目、選択必修科目、看護学課題研究および看護学特別研究を置く。
- 3) 2) のほかに、助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程(38単位)修了のための自由選択科目を置く。ただし、これらの科目は本研究科の履修単位として認定されるが、修了要件となる共通必修科目、共通選択科目および選択必修科目として読み替えることはできない。
- 4) 博士後期課程の各開講区分中、共通選択科目および専攻主分野の科目を置く。
- 5) 博士前期課程においては主分野以外、博士後期課程においては主領域以外の特論を選択するときには、研究指導教授の許可を得て、希望する専攻分野あるいは主領域の教授に所定の様式による依頼書を提出し、その許可を得て、当該科目の教員の指導・評価を受けるものとする。但し、実践看護学分野Ⅱ(ウーマンズヘルス)選択者は除くものとする。
- 6) 4項に示した科目は、看護学研究科委員会の承認を得た後、定員枠内で大学院学生以外の看護師等の受講を有料で認める。料金はその都度決める。
6. 修士論文、課題研究論文および博士論文について、研究指導教授以外の大学教員から研究の指導を希望する学生は、研究指導教授の許可を得て、指導を希望する大学院教員に所定の様式の依頼書を提出し、その許可を得て指導を受けるものとする。
7. 学位論文の審査及び試験方法については、別に定める「学位規程」及び細則による。

附則 この内規は、平成24年 4月 1日より施行する。

5) 博士前期課程 授業科目、単位数および学年配置

授業科目の名称		単位数					配当年次			
		修士論文コース		実践看護コース			1年次	2年次		
		必修	選択必修	必修	選択必修	自由選択				
基 盤	科 共 通 必 修 目	看護理論	2		2			○		
		看護研究	2		2			○		
	共 通 選 択 科 目	看護倫理		2		* 2		○		
		看護教育論		2		* 2		○		
		看護政策論		2		* 2		○		
		コンサルテーション論		2		* 2		○		
		看護管理論		2		* 2		○		
		家族論		2		2		○		
		社会学		2		2		○		
		人間学		2		2		○		
		保健統計学		2		2		○		
		臨床心理学		2		2		○		
		研究 方法	生体・生理学的研究		2		2		○	
		臨床医学的研究		2		2		○		
先端医療		2		2		○				
国際コミュニケーション英語演習		2		2		○				
科 自 由 選 択 目	臨床薬理学☆					2	○			
	フィジカルアセスメント☆					2	○			
	病態生理学☆					2	○			
専 攻	看護基礎科学 (食看護学・基礎看護学)	食看護学特論Ⅰ(食生態学・食看護の歴史の変遷)		2				○		
		食看護学特論Ⅱ(食教育とヘルスプロモーション)		2				○		
		食看護学特論Ⅲ(食看護の学際的、科学的アプローチ)		2				○		
		食看護学特論Ⅳ(国際的視野からの食環境・食問題に対応する看護)		2				○		
		食看護学演習Ⅰ(特定機能病院入院患者および地域住民の食環境と看護)		2				○		
		食看護学演習Ⅱ(食看護の実践と効果測定)		4				○		
		食看護学特別研究		8					○	
		基礎看護学特論Ⅰ(科学と看護)		2				○		
		基礎看護学特論Ⅱ(看護の原理)		2				○		
		基礎看護学特論Ⅲ(看護技術論)		2				○		
		基礎看護学特論Ⅳ(看護学における学習指導論)		2				○		
		基礎看護学演習Ⅰ(看護実践に関する基礎研究)		2				○		
	基礎看護学演習Ⅱ(看護教育に関する基礎研究)		2				○			
	基礎看護学特別研究		8					○		
	看護管理学	看護管理学特論Ⅰ(看護管理学)		2				○		
		看護管理学特論Ⅱ(組織行動論)		2				○		
		看護管理学特論Ⅲ(看護経済学)		2				○		
		看護管理学演習Ⅰ(看護システム)		3				○		
看護管理学演習Ⅱ(看護管理学特論)			3					○		
看護管理学特別研究			8					○		
看護職生涯発達学	看護職生涯発達学特論Ⅰ(看護職の生涯発達)		2				○			
	看護職生涯発達学特論Ⅱ(看護職生涯発達支援の教育論)		2				○			
	看護職生涯発達学特論Ⅲ(個としての看護職と組織)		2				○			
	看護職生涯発達学演習Ⅰ(『知』の創造)		3				○			
	看護職生涯発達学演習Ⅱ(看護職生涯発達支援プログラムの開発)		3					○		
	看護職生涯発達学特別研究		8					○		

授業科目の名称		単位数					配当年次		
		修士論文コース		実践看護コース			1年次	2年次	
		必修	選択必修	必修	選択必修	自由選択			
専攻	実践看護学Ⅰ (クリティカルケア看護学・がん看護学)	クリティカルケア看護学特論Ⅰ(危機とストレスに関する科目)		2		2		○	
		クリティカルケア看護学特論Ⅱ(代謝病態生理学に関する科目)		2		2		○	
		クリティカルケア看護学特論Ⅲ(治療管理に関する科目)		2		2		○	
		クリティカルケア看護学特論Ⅳ(看護援助に関する科目Ⅲ)		2		2		○	
		クリティカルケア看護学特論Ⅴ(看護援助に関する科目Ⅱ)		2		2		○	
		クリティカルケア看護学演習Ⅰ(フィジカルアセスメント)		2		2		○	
		クリティカルケア看護学演習Ⅱ(看護援助に関する科目Ⅰ)		2		2		○	
		クリティカルケア看護学演習Ⅲ(看護援助に関する科目Ⅳ)☆					2	○	
		クリティカルケア看護学実習Ⅰ☆					1	○	
		クリティカルケア看護学実習Ⅱ				6			○
		クリティカルケア看護学実習Ⅲ☆					3		○
		クリティカルケア看護学課題研究				2			○
		クリティカルケア看護学特別研究		8					○
		がん看護学特論Ⅰ(基礎的概念と理論)		2		2		○	
		がん看護学特論Ⅱ(病態生理と診断・治療)		2		2		○	
		がん看護学特論Ⅲ(がん看護援助論)		2		2		○	
		がん看護学特論Ⅳ(がんリハビリテーション看護)		2		2		○	
		がん看護学特論Ⅴ(がん予防・早期発見)		2		2		○	
		がん看護学演習Ⅰ(がん薬物療法看護)		2		2		○	
		がん看護学演習Ⅱ(緩和ケア)		2		2		○	
	がん看護学演習Ⅲ(緩和医療における身体・メンタルアセスメント)☆					2	○		
	がん看護学実習Ⅰ				1		○		
	がん看護学実習Ⅱ				5			○	
	がん看護学実習Ⅲ☆					2	○		
	がん看護学実習Ⅳ☆					2		○	
	がん看護学課題研究				2			○	
	がん看護学特別研究		8					○	
実践看護学Ⅱ (ウーマンズヘルス)	ウーマンズヘルス特論Ⅰ(女性のライフサイクル全般にわたる個人及び集団の健康問題の理解に関する科目)		2		2		○		
	ウーマンズヘルス特論Ⅱ(女性のライフサイクル全般にわたる援助に関する科目)		2		2		○		
	ウーマンズヘルス特論Ⅲ(女性の健康への援助に関する科目)		2		2		○		
	ウーマンズヘルス特論Ⅳ(国内外のウーマンズヘルスに関する科目)		2		2		○		
	ウーマンズヘルス演習Ⅰ(女性の健康への課題を理解・解決方法に関する科目)		2		2		○		
	ウーマンズヘルス演習Ⅱ(女性の健康への援助に関する科目)		2		2		○	○	
	ウーマンズヘルス実習				6			○	
	ウーマンズヘルス課題研究				2			○	
ウーマンズヘルス特別研究		8					○		
実践看護学Ⅲ (老年看護学)	老年看護学特論Ⅰ(老年看護理論)		2		2		○		
	老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価)		2		2		○		
	老年看護学特論Ⅲ(老年看護援助論)		2		2		○		
	老年看護学特論Ⅳ(社会システムと老人保健医療政策)		2		2		○		
	老年看護学特論Ⅴ(老年病態・治療学)☆					2	○		
	老年看護学演習Ⅰ(急性期看護演習)		2		2		○		
	老年看護学演習Ⅱ(在宅看護演習)		2		2		○		
	老年看護学実習Ⅰ				6		○	○	
	老年看護学実習Ⅱ☆					4	○	○	
	老年看護学課題研究				2			○	
老年看護学特別研究		8					○		

授業科目の名称		単位数					配当年次	
		修士論文コース		実践看護コース			1年次	2年次
		必修	選択必修	必修	選択必修	自由選択		
専攻 実践看護学 IV (精神看護学)	精神看護学特論Ⅰ(歴史・法制度論)		2		2		○	
	精神看護学特論Ⅱ(精神・身体のアセスメント)		2		2		○	
	精神看護学特論Ⅲ(精神看護倫理・当事者論)		2		2		○	
	精神看護学特論Ⅳ(リエゾン精神看護)		2		2		○	
	精神看護学特論Ⅴ(精神科薬物療法)☆					2	○	
	精神看護学演習Ⅰ(精神・身体状態のアセスメント演習)		2		2		○	
	精神看護学演習Ⅱ(精神科援助技法)		2		2		○	
	精神看護学演習Ⅲ(精神看護援助方法)		2		2		○	
	精神看護学実習Ⅰ				2		○	
	精神看護学実習Ⅱ				4			○
	精神看護学実習Ⅲ☆					2		○
	精神看護学実習Ⅳ☆					2		○
	精神看護学課題研究				2			○
	精神看護学特別研究		8					○
	実践看護学 V (地域看護学)	地域看護学特論Ⅰ(地域看護の各領域における専門性の探求)		2		2		○
地域看護学特論Ⅱ(地域看護政策論)			2		2		○	
地域看護学特論Ⅲ(ヘルスプロモーション・健康教育論)			2		2		○	
地域看護学特論Ⅳ(地域ケアシステムと在宅ケア看護学の専門性)			2		2		○	
地域看護学特論Ⅴ(地域看護学研究論)			2		2		○	
地域看護学特論Ⅵ(疫学・実践保健統計学)						2	○	
地域看護学演習Ⅰ(地域看護の各分野における実践企画演習)			2		2		○	○
地域看護学演習Ⅱ(行政看護実践演習)			2		2		○	○
地域看護学実習Ⅰ					4			○
地域看護学実習Ⅱ					2			○
地域看護学実習Ⅲ						4		○
地域看護学課題研究					2			○
地域看護学特別研究		8					○	
実践看護学 VI (小児看護学)	小児看護学特論Ⅰ(小児と家族の心理、社会的発達理論)		2		2		○	
	小児看護学特論Ⅱ(発達とアセスメント)		2		2		○	
	小児看護学特論Ⅲ(小児医療倫理)		2		2		○	
	小児看護学特論Ⅳ(小児医療法制度論)		2		2		○	
	小児看護学演習Ⅰ(健康状態・環境へのアセスメント演習)		2		2		○	
	小児看護学演習Ⅱ(小児援助論演習)		2		2		○	
	小児看護学演習Ⅲ(専門領域演習)☆					2	○	
	小児看護学実習Ⅰ☆					2	○	○
	小児看護学実習Ⅱ☆					2	○	○
	小児看護学実習Ⅲ				6			○
	小児看護学課題研究				2			○
小児看護学特別研究		8					○	
助産 選択科目※	助産学特論Ⅰ(基礎助産学)		4		4		○	
	助産学特論Ⅱ(助産診断・技術学)		5		5		○	
	助産学特論Ⅲ(地域母子保健)		1		1		○	
	助産学特論Ⅳ(助産管理)		2		2		○	
	助産学演習Ⅰ(基礎助産学)		2		2		○	
	助産学演習Ⅱ(助産診断・技術学)		3		3		○	○
	助産学実習		1	1	1	1		○

※については、実践看護学Ⅱ分野(ウーマンズヘルス)の学生で助産師国家試験受験資格取得を希望する者はすべて履修すること。

☆については、**実践看護学Ⅰ～Ⅵ分野(ただし、実践看護学Ⅱ分野(ウーマンズヘルス)を除く)**の学生で日本看護系大学協議会専門看護師教育課程(38単位)修了を希望する者は基盤自由選択科目ならびに専攻主分野の自由選択科目をすべて履修すること。

修士論文コース(最低修得単位数)

基盤共通必修科目	4単位
基盤共通選択科目	6単位
専攻主分野の科目	12単位
看護学特別研究	8単位
計	30単位

実践看護コース(最低修得単位数)

実践看護学Ⅱ分野以外	
基盤共通必修科目	4単位
基盤共通選択科目	4単位
(但し、*印の授業科目から選択のこと)	
専攻主分野の科目	14単位
(但し、うち2単位は他の専攻分野でも特論に限り選択可)	
実習	6単位
課題研究	2単位
計	30単位

実践看護学Ⅱ分野(ウーマンズヘルス)

基盤共通必修科目	4単位
基盤共通選択科目	6単位
専攻主分野の科目	12単位
実習	6単位
課題研究	2単位
計	30単位





7) 講義要目

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
共通必修科目	看護理論	看護学の理論体系の変遷を概観し、諸理論の構造と特徴について理解を深め、また、理論構築の基本的なアプローチについて学ぶ。
	看護研究	専門技術の向上や開発を図るために、実践の場における研究活動を行うに必要な研究方法について、分野を越えた共通する知識を教授する。
基盤 共通選択科目	看護倫理	看護活動場面における倫理的諸問題に対し、解決に向けて調整を行うための幾つかの考えについて論じる。
	看護教育論	看護学の教育の特徴から看護教育のあり方を検討する。また、看護学教育を生涯教育の観点からとらえ、総合的な教育として考察する。
	看護政策論	看護に関する政策決定とは、どのような過程で行われるのかを理解する。またその過程に関わる関連団体の力学的な相互関係についても管理的視点から分析することにより、看護職能のもつ社会的機能と貢献について学習する。
	コンサルテーション論	看護職を含むケア提供者に対して実践的な問題を解決する援助のために、コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントとしての役割機能、個人や組織を対象としたコンサルテーションのプロセスについて学習する。また、コンサルテーションの実際について理論的・実践的分析をふまえながら学習する。
	看護管理論	組織論および組織行動論など管理としての理論を学習しリーダーシップ、マネージメント、意思決定、システム論、変化論などの概念を使いながら看護の実践場面における管理的視点を分析する能力を養う。
	家族論	現代社会における家族の多様化の実態を理解する。「家族機能の低下」と表現されている家族をめぐる変化を実証的に分析し、家族介護配偶者介護の現状と問題点を通して、家族機能の展望および家族援助体制のあり方と介入方法について考察する。
	社会学	保健・医療の分野でのコミュニケーション、人間関係、集団・組織にテーマを絞り、講義や演習などを通して学んでいく。
	人間学	これまでに修得した諸知識と人間として生きてきた経験を基に、人間が人間として存在することの意味について探究する。また、人々がお互いを尊重する存在として、又生命に畏敬の念を持ち、尊厳ある存在として意識できることの重要性について、人間哲学の視点から探求する。
	保健統計学	看護基礎課程において保健医療統計学の基礎知識としての統計的手法を、一通り履修している。ここでは、この知識を基に、個々の保健現象の解明に応用できる能力を養うとともに、研究成果を科学的にデータをもとに理論づけることができる能力を養うことを目的とする。
	臨床心理学	臨床心理学を広義に捉え、看護実践に役立つ諸理論および方法論を講義する。まず、アセスメントに関して質問紙（心理尺度）の作成方法について解説し、その応用例として高年齢や病者のQOLを規定する心理・社会的諸要因の研究を取り上げ、臨床心理学の看護への貢献について考察する。また、カウンセリングの基礎理論と諸技法を習得させ、看護実践への応用を目指す。さらに、臨床心理的地域援助、即ちコミュニティ心理学の基本的考え方を、癌患者のサポート・グループに関する介入研究やインフォームド・コンセントに関する医療倫理学的研究を例として解説する。
	研究方法 生体・生理学的研究 臨床医学的研究	医療場面における研究は、治療効果の追求であると同時に原因追求および人間の生体の変化を丁寧に観察することから出発する。それらを方法論として基盤に位置付け、看護研究の方法論に応用できるように学習する。
	先端医療	近年、工学的手法やテクノロジーを医学に持ち込み、従来できなかった先端医療が次々に実現されることとなった。本科目は幅広いテクノロジーと医学の融合によって誕生する先端医療について解説する。特に、再生医療の発展はめざましく、薬物治療とは異なる効果が期待でき、この治療法について移植法との相違について明確にしながら現状と将来について展望する。また遺伝子診断や画像監視下手術、ロボット手術についても最近の進歩を解説し、今後、大きく変わる先端医療全体の流れと、診断、治療と手術の将来について講義する。
	国際コミュニケーション英語演習	海外における看護の情報を積極的に学ぶ姿勢を養うとともに、日本の情報、自分の研究内容を海外に発信することができるようになるための英語演習をおこなう。日本人の苦手とする英語論文理解・国際学会における発表を克服するために、典型的な英語表現や英語による発表スタイルのコツを習得する訓練を通して、英語によるコミュニケーション・スキルの向上を目指す。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
基 盤	自由選択科目	臨床薬理学☆ 対象者の健康問題に応じた薬物治療を薬力学的、薬物動態学的見地から理解した上で、専門看護師として、対象者の薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、最良の治療や症状緩和のケアの提供に参画するための知識、技術を修得する。
	自由選択科目	フィジカルアセスメント☆ 複雑な健康問題をもった対象の身体・精神状況を診査し、日常生活のアセスメントを含んだ臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得する。
	自由選択科目	病態生理学☆ 身体が恒常性を維持する機能の基礎知識を理解した上で、症例をもとに異常をきたす原因、経過、主な症状、治療・処置について学び、今後専門看護師に求められる対象の病態生理学的変化を解釈、判断、実践するために必要な知識と技術について教授する。
専 攻	看護基礎科学（食看護学・基礎看護学）	食看護学特論Ⅰ 人間生活の営みの基本である「食」に焦点をあて、食をめぐる諸学問の概観をし、食生態学的視点で食を問う。また、多様な暮らし、健康状態の人にとってのQOLを高める食とはについて考え、食の援助の歴史的変遷を通して、今日の社会が抱える食の問題、その中で今後の食を中心とした生活への援助における看護が果たす役割について、展望する。
		食看護学特論Ⅱ ヘルスプロモーションの変遷と今日の活動の実態、健康政策や健康教育のための行動学的、食生態学的アプローチについて探求する。食生活を中心とした家族関係と教育効果については、交流分析を用い、実践的レベルにて探求する。
		食看護学特論Ⅲ 食看護学における食看護アプローチの科学的実践方法について多角的に探求する能力を養う。
		食看護学特論Ⅳ 発展途上国および先進国での食生活の現状の比較検討から、今後の食生活援助のあり方および食看護の方向性について検討する。
		食看護学演習Ⅰ 高度医療の特定機能病院の実状にふれ、また、特定の地域に生活する人々の食生活の実状を参加観察し、食生活に関する問題把握および食看護への具体的アプローチについて探求する能力を養う。
		食看護学演習Ⅱ 食看護ケアの具体的な援助とその効果を実証し、人々の健康の保持増進に役立てることが出来るように、創造的・研究的に発展させ、提言できる能力を培う。
		食看護学特別研究 “食は人をつくる”という理想を貫き尊重しつつ、現代の食生活の問題点の様相をあらゆる角度からとらえ、浮き彫りにし、これらの課題に看護師としてどのように対処していくのか、その方向性を探求し、論文とする。また、食への具体的な援助を通して人々の生活の質（QOL）の向上に寄与するための、食看護学研究の推進を図る。
		基礎看護学特論Ⅰ 科学史における自然観・生命観の変遷をふまえ、科学技術がもつ本質の理解の上に、看護技術の独自性、倫理的課題を探究する。
		基礎看護学特論Ⅱ 看護実践を成立させる主要概念について、ナイチンゲール看護論を中心とした看護論の視点から捉え直し、看護の原理を再検討する。
		基礎看護学特論Ⅲ 看護技術が人間の生活にもたらす意義、看護技術の特質・構造を理解したうえで、看護技術教育および看護技術研究のあり方を検討する。
		基礎看護学特論Ⅳ 看護学教育の基本的課題を理解したうえで、看護教育の指導過程に焦点を当てて、教育・指導のプロセスを理論的に理解し、学習者への効果的な教育過程を探究する。
		基礎看護学演習Ⅰ 看護実践における様々な研究的課題を取り上げ、各自の関心と研究課題に応じて、課題探究のプロセスを踏む。
		基礎看護学演習Ⅱ 看護教育における様々な教育的課題を取り上げ、各自の関心と研究課題に応じて、課題探究のプロセスを踏む。
基礎看護学特別研究 学生個々の研究テーマに沿って具体的な方法論および研究内容に関する討議を通して、個々の研究テーマを極める。その過程を通して、自立して研究論文を作成し公表できる能力を修得する。		

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
看護管理学	看護管理学特論Ⅰ	看護管理学の概念枠組みを用いて、看護サービス提供システムについて、先進諸国の医療政策、時代背景と比較しながら時代に即した看護の変化を創造するために必要な理論や課題を追求する。
	看護管理学特論Ⅱ	組織における人間の行動について理論を活用しながら分析できる能力を身につけ、多様な組織における管理のあり方、管理者としての機能を追求する。
	看護管理学特論Ⅲ	保健医療福祉における経済的管理に焦点を当てるもので、看護経済学の概念、看護ケアの経済評価の基本について探求し、21世紀における診療報酬制度や医療制度が看護にもたらす変化を分析し、戦略的看護サービスを実践するための看護管理者の役割と課題、将来展望について探求する。
	看護管理学演習Ⅰ	看護管理の実践場面において、既修の理論を活用しながら組織における管理者としての機能について、その現象を分析できる能力を養う。具体的には、医療施設において看護管理者について実習を行う。
	看護管理学演習Ⅱ	看護管理の創造として、先駆的・創造的看護管理の発想を展開させる能力開発を行う。具体的には、さまざまな機関において先駆的な管理者の下で実習を行う。
	看護管理学特別研究	世界的な視野から看護管理全般、看護行政または保健医療福祉政策・経済に関して時代の趨勢を反映した現在または未来の看護としてのあり方を追求したり、組織分析や変革を通して創造的看護管理を実践するための手法を追求することを目的として研究を行い、論文としてまとめる。
看護職生涯発達学	看護職生涯発達学特論Ⅰ	実践科学である看護学の特徴を踏まえ、自分と他者とが関与する場において「聴くこと」「語ること」「対話すること」「省察すること」などを通して、その過程で創造される『知』について、理論的かつ実践的に探求する。
	看護職生涯発達学特論Ⅱ	質の高いケアの提供者を育成するという看護学の観点から、看護基礎教育と継続教育の有機的かつ相補的統合を視野に入れながら、「成人教育（アンドラゴジー）」「教育課程」「教育方法」「教育評価」「教育研究」に関する理論を学修し、さらに新規で独創的な教育計画の開発・実施・評価の方法を探求する。
	看護職生涯発達学特論Ⅲ	生涯発達理論を基盤とした個々の看護師の生涯発達を軸とし、「組織論」「変革理論」「キャリアデザイン／キャリアカウンセリング」等に関する理論の学修を通し、人を育てる組織の創造とその活用の方法について探求する。
	看護職生涯発達学演習Ⅰ	学生が選択したフィールドにおいて、看護の『知』の創造のプロセスを実践的に探求する。（場は看護実践あるいは看護教育の場。対象者は学生あるいは看護師あるいはその他の人々）
	看護職生涯発達学演習Ⅱ	学生が選択したテーマについて、教育的機能を発揮しながら対象者に関わり、その過程をとおり自己あるいは組織の課題を探求する。
	看護職生涯発達学特別研究	看護職生涯発達学領域の研究テーマを発見し、研究プロセスを踏むことを通して、臨床実践や教育に貢献できる研究能力の基礎を養う。
実践看護学Ⅰ（クリティカルケア看護学・がん看護学）	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	クリティカルケア期にある患者および家族が体験する身体的および心理的变化を理解し、強度のストレス状況下における心身の変化および家族関係の変化についてアセスメントし、回復を促進する理論に基づいた専門的看護ケアを行うための基本的知識を学ぶ。
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	クリティカル期における患者の呼吸、循環、代謝の変化に示された病態生理を学習し、看護介入のための基礎的知識を学ぶ。
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	集中治療を受けている患者に対する治療内容を理解し、専門看護師として患者・家族を中心とした看護ケアを行うための基礎的知識を学ぶ。
	クリティカルケア看護学特論Ⅳ	クリティカルケア期における患者の全人的な苦痛を理解し、人間としての尊厳を保持し、チームによる心理的・社会的支援を行うための薬理的・非薬理的緩和方法および看護ケアについて学ぶ。
	クリティカルケア看護学特論Ⅴ	先端医療を受ける患者およびその家族の治療の選択と自由の問題について、価値観の相違による葛藤状況を適切に認識し、患者および家族の人権擁護の立場で倫理的問題解決ができるための理論的基礎を学ぶ。
	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	クリティカルケア期における生理学的変化を理解し、フィジカルアセスメントの方法を学び、臓器の機能不全がある患者の状態および生活行動、機能回復の状況を事例を通してアセスメントする。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専 攻	実践看護学Ⅰ (クリティカルケア看護学・がん看護学)	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	危機的状況下および拘束状態にある心身統一体としての患者およびその家族に対し、ケアとキュアを融合した看護介入の方法を学ぶ。
		クリティカルケア看護学演習Ⅲ☆	救命救急またはICUにおいて様々な患者に対応できるように必要な医学・検査・処置に関する知識を深め、生命の危機にある患者とその家族に対する身体的・心理的状況を把握し、専門看護師として実践する力を養う。
		クリティカルケア看護学実習Ⅰ☆	急性・重症患者看護専門看護師として活動するために必要な【ケアとキュアを融合した高度な看護実践】の概要を、実習を通して把握する。
		クリティカルケア看護学実習Ⅱ	クリティカルケア看護学領域における専門看護師としての看護活動を展開するために必要な能力を習得する。
		クリティカルケア看護学実習Ⅲ☆	自身が今後専門として深めていきたい分野の医療チームにおいて、サブスペシャリティーを深め、急性・重症患者看護専門看護師が果たすべき役割を理解・実践する。
		クリティカルケア看護学課題研究	クリティカルケア看護学領域において、特定の課題を研究的視点から探求し、課題に即した研究方法を学ぶ。
		クリティカルケア看護学特別研究	クリティカルケア看護学の領域において、特定のテーマを選択し、研究を行う過程を通して自立して研究活動ができ、研究論文を作成し公表できる能力を修得する。
		がん看護学特論Ⅰ	専門的ながん看護の基盤となる基礎的概念と主要理論、ならびにその活用について探求する。
		がん看護学特論Ⅱ	がんの分子生物学、遺伝子を含む病態生理学全般を学び、がん看護に関連した専門的な知識を深める。
		がん看護学特論Ⅲ	がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供できるよう看護援助の方法を修得する。診断、治療の原理と最新事情を学び、それに伴う患者や家族の反応に対処できるように身体管理・看護ケアの概要を修得する。
		がん看護学特論Ⅳ	がん治療によってもたらされる身体の器質的・機能的な変化に対して、身体・心理・社会的な働きかけを行い、機能の改善方法を提供し、生活の再構築にむけて患者が自らQOL、セルフケア能力を高めることができるような援助を考究する。
		がん看護学特論Ⅴ	がんおよびがん再発の予防・早期発見をめざし、知識、情報、技術を統合し、自己検診や生活の調整、管理ができるような支援・教育方法のため知識・技術を修得する。社会に対するがん予防・早期発見のための啓発のため知識・技術を修得する。さらに治療選択における意思決定の支援のための知識、技術を修得する。
		がん看護学演習Ⅰ	がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対応を行い、治療の継続および治療中の生活の質を高めるために必要な看護について学ぶ。セルフケア能力向上のための方略について探索する。
		がん看護学演習Ⅱ	がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合して提供する能力を修得する。薬物療法、理学療法的介入、心理的支援等包括的な介入についてリソースを活用し展開する能力を修得する。End of Life Care や家族のグリーフワークについて知識と技術を習得する。
		がん看護学演習Ⅲ☆	がん治療過程で特有な身体症状および精神心理的苦痛に関する専門的知識を深め、エビデンスに基づく確かな臨床判断を行うことができる。対象者のQOLの維持・向上に向け看護実践に必要なアセスメント・援助技法を修得する。
		がん看護学実習Ⅰ	がん看護専門看護師の諸活動が実践されている場への主体的な参加を通し、がん看護専門看護師としての役割や機能を発揮するために必要な知識・技術・態度について体験的に学習し、専門看護師の役割を担うための自己の課題を明らかにする。
		がん看護学実習Ⅱ	地域がん診療連携拠点病院である本大学病院において、専門看護師に必要とされている実践、相談、調整、教育、研究、倫理的調整等の実践能力の基礎を実践の中で修得し、自己の課題とその解決方法を明確にする。また、他職種とのチーム医療の中で専門看護師の役割開発に関する学びを深める。さらに、在宅支援推進室において、病棟と在宅における医療チームの連携のあり方や地域医療コーディネーターとしての役割について学ぶ。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
実践看護学Ⅰ (クリティカルケア看護学 がん看護学)	がん看護学実習Ⅲ☆	症状緩和を必要としている患者・家族に対して、本大学病院の緩和ケア病棟において、トータルペインの視点から心理的な支援など包括的な介入について、リソースを活用して展開する実践方法を学ぶ。また、エンド・オブ・ライフ・ケアや家族へのグリーフケアの実際について修得する。
	がん看護学実習Ⅳ☆	在宅療養中のがん患者・家族に必要な卓越した直接的ケアを行う。また、医療チームとの連携のあり方や医療連携を推進することのできる地域医療コーディネーターとしての役割について在宅訪問実習を通して修得する。さらに在宅がん看護実践における自己の課題とその解決方法を明確にする。
	がん看護学課題研究	講義、演習、実習を通して、研究的視点からがん看護におけるテーマを見出し、科学的な過程を踏んで実践に寄与する研究を行う。
	がん看護学特別研究	がん看護学特論および演習で得た知見をもとに、がん看護学領域における課題を追求し研究テーマを見出す。研究のプロセスを通して、がん看護実践やがん看護教育の発展に寄与する基礎的研究能力を養う。
専 攻 実践看護学Ⅱ (ウーマンズヘルス)	ウーマンズヘルス特論Ⅰ	出生前の発生・生理の状態から始まり、出生後はライフステージ各段階にある女性特有のホルモンを中心とした身体の変化と精神の変化やその対応策、なりやすい病気の予防などについて、データに基づいて女性のライフステージ各段階のヘルスケアについての基礎を修得する。
	ウーマンズヘルス特論Ⅱ	世界的視野から女性のヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダーの視点から女性特有の健康問題を探る。女性への暴力事象については、ジェンダーの視点から問題分析し、性暴力被害者へのケア能力の基礎を修得する。
	ウーマンズヘルス特論Ⅲ	女性のライフサイクルの各段階で味わう経験の諸相を学び、女性という対象の生き方・環境・健康問題について探求し、女性を対象にした看護介入を行うための技法に関する基礎を修得する。
	ウーマンズヘルス特論Ⅳ	国内外のウーマンズヘルスについて理解を深めるとともに発展途上国での援助活動等へ貢献できる基礎的能力を修得する。
	ウーマンズヘルス演習Ⅰ	女性看護学領域の研究の動向(国内・外)と健康に対する課題を理解し、各自の研究課題をみだし、研究的アプローチを修得する。
	ウーマンズヘルス演習Ⅱ	女性の生涯の健康を視野に入れ、性と生殖に関する健康教育援助技術を検証し、科学的根拠に基づくよりよい専門的な援助技術の開発に向けた研究的思考過程を学ぶ。さらに女性の意思や希望を最大限に尊重した支援を実施する能力を修得する。
	ウーマンズヘルス実習	妊婦・産婦・褥婦・新生児に関する水準の高い助産診断・技術の実践を行う。さらにハイリスク事例のケアを実践する。また実践者に必要な役割としての教育・相談・調整能力を培い、さらに地域における助産所のケアの構築について、医療連携を踏まえて実践する能力を修得する。
	ウーマンズヘルス課題研究	特論及び演習で学び得た知識と技術を基に、直接的看護介入や助産診断技術に関する研究テーマを導き出し、一連の研究プロセスを通じた、専門的看護・助産援助の質の向上に寄与する臨床研究能力を養う。
	ウーマンズヘルス特別研究	特論及び演習で学び得た知識を基に、ウーマンズヘルス領域における各自のテーマを導き出し、一連の研究プロセスを通してウーマンズヘルスに寄与する基礎的研究能力を養う。
実践看護学Ⅲ (老年看護学)	老年看護学特論Ⅰ	老年看護で用いる理論、概念について学ぶとともに、老年看護における倫理的課題について探究し、高齢者とその家族を対象にした看護を実践するための理論的基盤を養う。
	老年看護学特論Ⅱ	高齢者の健康生活上のニーズを知るために必要な、健康と生活機能、家族、介護、環境等の評価方法の理論的基盤を理解し、統合して評価する能力を修得する。
	老年看護学特論Ⅲ	高齢者の健康レベルに応じた生活の質を維持、向上するための看護について探求すると共に高齢者に多く見られる健康事象について現状を分析し、看護の開発や評価の方法を探る。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専攻	実践看護学Ⅲ (老年看護学)	老年看護学特論Ⅳ	個人に最適なサービス調整や他職種との連携を促進し、継続看護を展開するための能力を養う。さらに高齢者への保健医療福祉政策やシステム構築のプロセスを学び、ケアシステム開発能力を養う。老年者の保健福祉政策の現状をグローバルな視点から分析し、今後の方向性を提案できる。
		老年看護学特論Ⅴ☆	老年期に多くみられる症候について、リスクの程度を判断し、適切に対応するための能力を養う。フィジカルアセスメントや検査方法を学び、ハイリスク状況を査定できる能力を修得する。もってこれらが高齢者の質の高い生活を継続するための方法であることを理解する。
		老年看護学演習Ⅰ	急性期における老年看護領域の研究から質の高い実践方法、評価アセスメントについて文献購読し、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特にせん妄や、一般病棟に入院する認知症高齢者に質の高い看護を提供するための方法を習得する。研究的視点を持って事例を詳細に検討し、老年看護の特徴および専門性について探求する。臨床の場において看護実践の場面を、看護理論を用いて振り返り、学生間で討議する。領域における専門性について自己の考えを明確にする。
		老年看護学演習Ⅱ	在宅における老年看護領域の研究から質の高い実践方法、評価アセスメントについて文献購読し、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特に終末期看護、退院調整について理解する。研究的視点を持って事例を詳細に検討し、老年看護の特徴および専門性について探求する。各臨床の場において看護実践の場面を、看護理論を用いて振り返り、学生間で討議する。領域における専門性について自己の考えを明確にする。
		老年看護学実習Ⅰ	急性期の病棟に入院している高齢者（特に認知症高齢者）と在宅療養をしている高齢者（特に終末期、あるいは退院調整の必要な高齢者）に対して、研究的視点を持ちながら、最新の知識と技術を用いた看護実践を行う。そして看護スタッフからの相談への対応、スタッフへの教育、保健医療福祉チームとの調整など、現場の改革者としての独自の行動を発展させる能力を修得する。事例報告と高度実践看護師の役割機能についてのレポート作成
		老年看護学実習Ⅱ☆	高齢者の病態生理、薬物療法を踏まえ、フィジカルアセスメントによりリスクの程度を判断し、適切な対応を行う能力を修得する。フィジカルアセスメント技法を習得する。事例報告書作成
		老年看護学課題研究	老年看護学実習に関連するテーマを選択し文献研究を行い論文を作成する。
		老年看護学特別研究	老年看護学における理論開発、老年者とその家族の健康と生活を支えるアセスメント方法の開発、評価、実践方法に関する研究を通して、老年者のQOLの向上を探求する。
		実践看護学Ⅳ (精神看護学)	精神看護学特論Ⅰ
精神看護学特論Ⅱ	精神分析理論、精神病理学理論、対人関係論等、精神看護学を構成する基礎的理論を学び、対象をアセスメントし、関係を形成し、看護介入を行うための理論的基盤を養う。		
精神看護学特論Ⅲ	精神看護倫理の基礎理論、当事者論等を学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリカバリーを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。さらに当事者の側から求められる精神保健医療・看護について、リカバリーモデルおよびストレングスモデルを基盤に洞察する。		
精神看護学特論Ⅳ	心身一元論の立場より、ホリスティック・アプローチを基本とするリエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、活動の実際などについて、実践的レベルで探求する。		

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専 攻	実践看護学 IV (精神看護学)	精神看護学特論Ⅴ☆	精神科薬理学、精神科薬物治療論について学び、精神科薬物療法の効果(作用・副作用)をアセスメントできる能力を養うとともに、服薬心理教育等、薬物療法を受けている患者への看護について学ぶ。
		精神看護学演習Ⅰ	精神状態のアセスメントならびに個対個の関係の展開、集団における関係について、実践的な演習を通して学習し、対象理解と自己理解を深め、看護介入の基本となる精神状態のアセスメントの技術と対人関係的技術を習得する。
		精神看護学演習Ⅱ	心理教育、家族心理教育、認知行動療法、薬物療法への援助など精神看護における教育治療的介入技法を演習を通して学習するとともに、身体合併症看護、自殺予防、衝動行為への対処、早期介入、リハビリテーション精神看護など、精神看護の多様な実践について焦点化して学び、新しい援助方法開発の可能性を探究する。
		精神看護学演習Ⅲ	特定の精神保健問題について、さらに専門的な知識と技術を獲得するために、学生は以下の領域からいずれかを選択し、その領域の看護援助方法論について、文献学習とフィールドワークを通して探究する。 (領域) 救急・急性期看護、慢性・長期入院看護、薬物依存症看護、児童・思春期看護、うつ病看護、身体合併症看護、精神訪問看護・地域精神看護、リエゾン精神看護
		精神看護学実習Ⅰ	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNSの役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。 (1)精神科医療施設におけるCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。 (2)各自の関心テーマに基づいて、独自に実習の焦点を定め、それに基づいて実習中に参加観察を行う。
		精神看護学実習Ⅱ	精神科医療施設において、直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。
		精神看護学実習Ⅲ☆	学生各自が選択する、救急急性期、慢性期、依存症、リエゾン等の精神看護の専門領域において直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。
		精神看護学実習Ⅳ☆	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、施設内において相談・調整・倫理調整などの間接ケアを実際に体験し、専門看護師としての間接ケア能力を養う。
		精神看護学課題研究	精神看護学特論および演習で得た知識と技術をもとに、精神看護における直接的看護介入ならびに間接的看護介入に関する問題群の中から、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献の検討を行うことで、精神看護学の実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。
		精神看護学特別研究	精神看護学特論および演習で得た知見をもとに、精神看護学領域における各自の問題意識を精錬し、研究テーマを発見するとともに方法論的吟味を行い、一連の研究プロセスを通して精神看護学の学的発展に寄与する基礎的研究能力を養う。
実践看護学 V (地域看護学)	地域看護学特論Ⅰ	地域看護学の各分野における看護専門職として、個人と家族への専門的な看護ケア、及び集団に対する看護ケアの主要な概念を理解する。さらに、介入方法の変遷と近年の動向、ケアの質の管理、運営方法等の開発に関わる専門的能力を養う。	
	地域看護学特論Ⅱ	コミュニティとしての組織・集団の成員における生涯健康とQOLの向上をめざし、地域看護領域で広く用いられている健康政策の技法を修得する。特に、行政看護活動の事業化および政策化のプロセス、および地域と職域を結んだ関連機関とのネットワーク等を構築する能力を養う。	
	地域看護学特論Ⅲ	地域・職域で生活を共有する人々の健康およびQOLの向上のための主要な活動であるヘルスプロモーション・健康教育について、その理論とケアモデル、および効果的な健康教育プログラムの開発方法を修得し、それに基づいた地域看護実践方法を探究する。	

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専 攻	実践看護学 V (地域看護学)	地域看護学特論Ⅳ	地域ケアシステムの構成要素および構築プロセスを分析する。また地域における各種ケアシステムおよび社会資源の現状と課題をアセスメントし、その発展の方向性を探求する。さらに、在宅ケアシステムの構成要素と構築プロセスを分析し、現状と課題の査定、発展の方向性を探求し、効果的なケアシステム開発の能力を養う。
		地域看護学特論Ⅴ	地域看護学をめぐる最新の課題を明確にし、活動を発展させ貢献しうる量的・質的研究方法論の実際を学ぶ。その中で、データ収集技法、面接技法、調査と測定の方法、および介入研究の方法を修得する。
		地域看護学特論Ⅵ	保健師活動における地域アセスメントおよび地域看護診断の基礎となる疫学・高度保健統計学的手法を習得し、地域ケアにおける情報リテラシー、すなわち体験やメディアを通じて得られる大量の情報の中から必要なものを探し出し、地域の健康課題に即して加工し、意思決定を下したり、アウトカムを記述しエビデンスを得るための知識と技能を養う。
		地域看護学演習Ⅰ	地域看護分野（CNS コースは行政看護分野）において、関心のあるトピックスを選択し、コミュニティヘルスアセスメントの理論に基づいた現状のアセスメント、課題の明確化、その課題を解決するための活動計画の立案、コミュニティの人々や他職種、他機関との協働、活動マネジメント方略と看護の果たすべき役割について検討する。
		地域看護学演習Ⅱ	行政看護分野において、実際の活動の評価を行うことを通し、行政看護専門看護師に求められる管理運営機能を明確にする。具体的には、行政看護のフィールドにおける活動全般について見学し、対象集団の包括的な健康状態、行政保健組織の位置づけ、既存の研究成果から学修を深める。行政看護実践者と関連職種者とのディスカッションを通して活動全般の批判的評価と提言を試みる。諸活動の成果と専門看護師に求められる管理運営機能との関連を考察し、将来的に質の高い実践力をつけるために必要な専門的能力を養う。
		地域看護学実習Ⅰ	行政看護分野における専門看護師の役割を認識し、対象者（個人・家族・集団）に対する卓越した看護実践、相談、連携調整、教育、研究、倫理的問題の調整を行う能力を養う。
		地域看護学実習Ⅱ	産業看護の場における直接的な看護活動を通して、その専門性を学ぶとともに、地域専門看護師としての産業看護分野との連携調整を実践により理解する。
		地域看護学実習Ⅲ	Population-centered approach を基盤として、行政看護分野において、地域住民および他職種との協働による事業化のプロセスの実際を実践的に学習する。さらに、地域特性と新しい公衆衛生エビデンスの知見を踏まえて、行政看護事業のアウトカムの評価と改善の方法を実践的に学習する。
		地域看護学課題研究	地域看護の新たな実践方法の開発や、ヘルスケアシステムの構築に関連する内容を中心とした研究活動を通して、地域看護専門看護師の実践家として、現場での活動を行っていく上で効果的な方法と、精錬された技術の向上へと応用する課題を論文形式で提出する。
		地域看護学特別研究	量的アプローチと質的アプローチを組み合わせ、修得した調査・測定技法を応用して、地域看護の対象特性や健康問題の明確化、環境と人々の健康や生活との関連性の実証、各種ヘルスケアシステムの構築、地域看護学教育方法の開発等を中心とした研究のプロセスを踏み、地域看護実践や地域看護教育に応用できる基礎能力を養う。
実践看護学 VI (小児看護学)	小児看護学特論Ⅰ	小児看護の対象理解のため、親子を巡る現代社会の特徴を踏まえ、子どもと家族の成長・発達および援助理論について、心理・社会的な側面から理解を深める。	
	小児看護学特論Ⅱ	看護の対象である子どもの心身の発達を査定するために、発達診断と評価について目的、意義、方法、看護への応用の理論や技法の理解を深める。	
	小児看護学特論Ⅲ	臨床において、子どもの最善の利益を保証するための倫理的判断に基づき、小児と家族に適切に援助する能力を修得することを目的に、小児医療および小児看護において発生しやすい倫理的諸問題についてその現状と、状況に応じた対応について学習する。	

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専 攻	実践看護学 VI (小児看護学)	小児看護学特論Ⅳ	子どもと家族を取り巻く小児保健・医療・福祉制度に関して歴史と現状をふま え、施設および地域における小児と家族への具体的援助方法および制度の活用 について理解を深める。
		小児看護学演習Ⅰ	小児のフィジカルアセスメント(呼吸器系・循環器系・代謝系・脳神経系・感 覚器系など)および子どもと家族の包括的なアセスメントを実践的に学ぶ。
		小児看護学演習Ⅱ	専門看護師の役割として、複雑な健康問題を抱える子どもと家族への看護実践、 教育、コンサルテーション、関係機関の調整、他職種との協働、社会的資源の 活用、患者会活動の支援の実際について理解を深める。
		小児看護学演習Ⅲ☆	小児期に多い疾病の病態、診断、治療について、講義・症例検討を通して学ぶ。
		小児看護学実習Ⅰ☆	小児の診断治療実習 小児に特有な疾患の診断治療過程を見学実習し、10例以上についてレポートに まとめる。
		小児看護学実習Ⅱ☆	専門看護師実習1 専門看護師の役割、機能に関して、専門看護師の活動に同行、見学し理解を深 める。専門看護師の役割機能に関する学びをレポートする。
		小児看護学実習Ⅲ	専門看護師実習2 複雑な健康上の課題を持つ小児と家族に対して直接的ケア 5事例以上、相談・ 調整・倫理調整・教育 各2事例以上について経験し、レポートにまとめる。
		小児看護学課題研究	小児看護学特論および演習で習得した知識と技術、および小児看護学実習で得 た看護実践に関する問題意識や知見を元に、文献検討を通して臨床での看護 実践に関する研究課題について知見を得る。
		小児看護学特別研究	小児看護学特論および演習で習得した知見や問題意識を元に、看護上の課題に ついて研究的にとり組み、研究論文を作成する。研究のプロセスを踏むこと により、研究能力を修得する。
助 産 選 択 科 目	助産学特論Ⅰ (基礎助産学)	助産学特論Ⅰ (基礎助産学)	助産学の基盤となる概念および理論をふまえ、周産期の女性と胎児・新生児の well-beingおよび成長・発達を診断するために必要な解剖・生理学の基礎を学 ぶ。さらに性と生殖に関する基礎的知識・健康問題に関する基礎的能力を修得 する。
		助産学特論Ⅱ (助産診断・技術学)	助産過程の展開に必要な診断の技法及び助産実践に必要な基本的な技術を学 ぶ。さらに、性と生殖の健康問題について相談・教育・援助活動ができる基礎 的能力を修得する。
		助産学特論Ⅲ (地域母子保健)	地域の母子保健を推進するための基本的な理解と社会資源の活用や保健・医 療・福祉機関との調整ができる能力を修得する。
		助産学特論Ⅳ (助産管理)	専門職者としての助産所管理・運営能力や、施設・地域でのリーダーシップが 発揮できるように、助産マネジメントの理論や知識を修得する。
		助産学演習Ⅰ (基礎助産学)	助産師の機能と役割を理解し母子保健活動に必要な、生命倫理、助産の変遷、 母子保健と諸制度を学ぶとともに母子の健康に影響を及ぼす環境因子、性と性 殖に関連する疾患・異常や妊娠・分娩・産褥・新生児の異常についての基礎的 能力を修得する。
		助産学演習Ⅱ (助産診断・技術学)	助産学領域で実践されている特定の援助技術について、従来の研究成果を比較 分析し、助産についてのエビデンスを検討する。さらに、周産期の女性と胎児・ 新生児のwell-being、分娩開始および進行の診断方法や分娩介助技術を学び、 事例学習を通じて基礎的な助産過程を展開する。さらに、実習終了後に体験し た事例の援助技術を検証し、よりよい助産援助技術の開発に向けた研究的思考 過程を学ぶ。
		助産学実習	Evidence-based Practice (EBP) の知識を生かして、妊婦・産婦・褥婦および 胎児・新生児のケアに必要な診断を行い健康教育や分娩介助を実践する。

東京女子医科大学大学院看護学研究科

**【修士論文コース】**

修士論文作成要項

## 修士論文

### (1) 手続き

修士論文コースの院生は修士論文、実践看護コースの院生は課題研究論文として文献研究による論文を提出する。

ここでは修士論文の特別研究計画書の提出、審査及び最終試験、修士論文の発表会の日時、提出書類、提出先等の手続きについて説明する。

なお、人を研究対象とする場合は、本学の倫理委員会において研究実施の許可を得なければ研究を開始することができない。審査は2段階で行われる。第一段階は倫理審査に必要な書類を作成し、看護学研究科倫理審査委員会に提出し、口頭審査により可否の判定を受ける。第2段階は倫理審査委員会の審査結果票と倫理審査に必要な書類を本学の倫理委員会に申請し、倫理委員会の審査を受ける。

#### 〈申請資格〉

博士前期課程に1年以上在学し、所定の単位を取得した者、または修得見込みの者は修士論文審査の申請をすることができる。

### (2) 特別研究計画書申請

#### ・提出期限

平成29年5月17日(水) 13時まで (期限厳守)

#### ・提出書類

①修士論文研究計画書審査申請書 [様式修士1-1] 1部

②特別研究計画書 (「(3) 特別研究計画書の作成要項」参照) 14部

\*ワードプロセッサ印刷

#### ・提出先

看護学部学務課

#### ・特別研究計画書の発表会 (修士論文コース)

平成29年5月24日(水)

#### ・再提出

平成29年5月31日(水)

#### ・研究科委員会による特別研究計画書の審査

平成29年6月 2日(金)

### (3) 特別研究計画書の作成要項

#### 《特別研究計画書の作成様式》

#### ① 用紙サイズ

A4判

#### ② 書き方

・縦置き横書き

・40字 × 38行

・10.5ポイント 明朝体

・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

- \* 原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。
- \* 外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。
- \* 研究に係る費用は個人負担とする。

《特別研究計画書の構成》

1. 研究課題名
2. 研究動機
3. 研究の目的
4. 本研究の意義
5. 文献検討
6. 研究の対象と方法
  - (1) 研究デザイン
  - (2) 対象
    - ① 条件
    - ② データ収集施設
  - (3) データ収集方法
    - ① データ収集開始までの手続き
      - a. データ収集施設への依頼
      - b. 対象者の選定
      - c. 対象者の決定
    - ② データ収集
      - a. 期間
      - b. データ収集方法
  - (4) データ分析方法  
(信頼性・妥当性を含む)
7. 倫理的配慮  
倫理委員会にかかる必要のある場合は、東京女子医科大学倫理委員会を通し許可を得た資料を添付する。
8. 引用文献

(4) 学位（修士）申請

- 提出期限  
平成30年1月25日（木）13時まで （期限厳守）
- 提出書類
 

①学位（修士）申請書 [様式修士2-1]	1 部
②修士論文（「(5) 修士論文の作成要項」参照）	1 部
③修士論文の要旨（1200字以内：両面印刷）	1 部
* A4判 横書き ワードプロセッサ印刷	
* 修士論文内の要旨と同内容のもの	
④単位認定書（成績証明書）	1 部
⑤審査手数料	5 万円
- 提出先  
看護学部学務課

- ・審査委員会による論文審査と最終試験日  
平成30年2月14日（水）
- ・学生への通知  
平成30年3月5日（月）

#### (5) 修士論文の作成要項

##### 《修士論文作成様式》

###### ①用紙サイズ

A4判

###### ②書き方

- ・縦置き横書き
- ・40字 × 38行
- ・10.5ポイント 明朝体
- ・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

\* 原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。

\* 外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。

###### ③論文形態

左綴じの片面印刷とし、指定の表紙をつける。

##### 《修士論文の構成》

###### ①構成概要

表紙 [資料1]

要旨（1200字以内とする） [資料2]

目次

表目次

図目次

本文

第1章 序論

第2章 文献の検討

第3章 研究の方法と対象

第4章 結果

第5章 考察

第6章 結論

謝辞

引用文献

付録・資料

###### ②頁と見出し

- i. 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より1ページとし、引用文献の最後のページを最終ページとする。
- ii. 付録・資料の頁は、下中央につける。本文と区別するために i ii iii とつける。
- iii. 見出しをつける

- I.
- 1.
- 1)
- (1)
- ①

### ③図、表及び写真

- i. 図、表及び写真は、それぞれに図1、表1、写真1などの一連番号を付し、表題をつける。
- ii. 図、表及び写真は、本文の該当する箇所に（図1）と明示する。
- iii. 本文中に挿入する図、表及び写真を本文と別頁にする場合はページ番号をつけずに本文の該当する頁のあとにつづる。

### ④文献の記載様式

文献の記載方法は下記に従う。

- i. 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。
- ii. 文献は著者名のアルファベット順に列記する。外国人名は姓名の順とする。但し、共著名は3名まで表記する。
- iii. 記載方法は下記の例示のごとくにする。
  - i) 雑誌掲載論文の場合・・・著者名（発行年次）：論文の表題，掲載雑誌名，号もしくは巻（号），最初のページ数－最後のページ数.
  - ii) 単行本の場合・・・①著者名（発行年次）：書名（版数），出版社名，発行地.  
②著者名（発行年次）：論文の表題，編者名，書名（版数），ページ数，出版社名，発行地.
  - iii) 翻訳書の場合・・・原著者名（原書の発行年次）/訳者名（翻訳書の発行年次）：翻訳書の書名（版数），出版社名，発行地.

### (6) 再審査

主査より論文の再審査の通知を受けた者は、論文を再提出する。

- ・再審査論文締切日  
平成30年2月21日（水）13時まで
- ・提出書類
  - ①修士論文 4部
  - ②学位論文要旨（上記同様） 14部

### (7) 研究発表会

平成30年3月15日（水）

2017 年度 東京女子医科大学大学院 看護学研究科

修士論文

タイトル

学籍番号

氏名

提出日

年

月

日

資料 2

↑

3cm

↓

1 2 ポイント

東京女子医科大学大学院看護学研究科

修士論文要旨

字体 明朝体

サイズ 10.5 ポイント

一頁 24 行

一行 35 文字

文字数 1200 字以内

研究課題名

1 1 ポイント

東京女子医科大学大学院

看護学研究科看護学専攻

河田 若子

## I. はじめに

[Redacted text block]

←3.2cm→

←3.2cm→

## II. 方法

### 1. 調査対象

[Redacted text block]

### 2. 調査内容

[Redacted text block]

↑

3cm

↓

### III. 結果

[REDACTED]

### IV. 考察

[REDACTED]

## 修士論文研究計画書審査申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとつき、必要書類を添えて修士論文研究計画書の審査を申請いたします。

必要書類

研究計画書 14 部

## 学位(修士)申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_  
学生氏名 \_\_\_\_\_ 印  
生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日  
指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて学位(修士)論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

学位(修士)申請書[様式修士2-1]	1 部
学位(修士)論文	1 部
学位論文の要旨(1200字以内)	1 部
単位認定書	1 部
審査手数料	5 万円

東京女子医科大学大学院看護学研究科

【実践看護コース】

課題研究論文作成要項

## 課題研究論文

### (1) 手続き

修士論文コースの院生は修士論文、実践看護コースの院生は課題研究論文として文献研究による論文を提出する。

ここでは課題研究論文の審査及び最終試験、課題研究論文の発表会の日時、提出書類、提出先等の手続きについて説明する。

#### 〈申請資格〉

博士前期課程に1年以上在学し、所定の単位を修得した者、または修得見込みの者は課題研究論文審査の申請をすることができる。

### (2) 研究テーマ申請

#### ・提出期限

平成29年4月1日(土)以降随時提出可とする。

ただし、平成29年6月26日(月)13時を最終とする。

注)上記の期限を過ぎた申請については一切受理しない。

#### ・提出書類

課題研究テーマ申請書 [様式修士1-2] 1部

#### ・提出先

看護学部学務課

### (3) 学位(修士)申請

#### ・提出期限

平成30年1月25日(木) 13時

注)上記の期限を過ぎた申請については一切受理しない。

#### ・提出書類

①学位(修士)申請書 [様式修士2-2] 1部

②課題研究論文 (「(6)課題研究論文の作成要項」参照) 1部

③課題研究論文の要旨 (1200字以内:両面印刷) 1部

\* A4判 横書き ワードプロセッサ印刷

\* 課題研究論文内の要旨と同内容のもの

④単位認定書 (成績証明書) 1部

⑤審査手数料 5万円

#### ・提出先

看護学部学務課

#### ・審査委員会による論文審査と最終試験

平成30年2月6日(火)

#### ・学生への通知

平成30年3月5日(月)

#### (4) 課題研究論文の作成要項

##### 《課題研究論文作成様式》

- ① 用紙サイズ  
A4 判
- ② 書き方
  - ・縦置き横書き
  - ・40 字 × 38 行
  - ・10.5 ポイント 明朝体
  - ・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm
  - ＊ 原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。
  - ＊ 外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。
- ③ 論文形態  
左綴じの片面印刷とし、指定の表紙をつける。

##### 《課題研究論文の構成》

- ① 構成概要
  - 表紙 [資料3]
  - 要旨 (1200 字以内とする) [資料4]
  - 目次
  - 表目次
  - 図目次
  - 本文
    - 第1章 序論(背景・目的)
    - 第2章 研究方法(文献収集方法、文献分析方法)
    - 第3章 結果
    - 第4章 考察
    - 第5章 結論
  - 謝辞
  - 引用文献
  - 付録・資料

- ② 頁と見出し
  - i . 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より1ページとし、引用文献の最後のページを最終ページとする。
  - ii . 付録・資料の頁は、下中央につける。本文と区別するために i ii iii とつける。
  - iii . 見出しをつける
    - I .
      - 1.
        - 1)
          - (1)
            - ①

③ 図、表及び写真

- i. 図、表及び写真は、それぞれに図1、表1、写真1などの一連番号を付し、表題をつける。
- ii. 図、表及び写真は、本文の該当する箇所に(図1)と明示する。
- iii. 本文中に挿入する図、表及び写真を本文と別頁にする場合はページ番号をつけずに本文の該当する頁のあとにつづる。

④ 文献の記載様式

文献の記載方法は下記に従う。

- i. 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。
- ii. 文献は著者名のアルファベット順に列記する。外国人名は姓名の順とする。  
但し、共著名は3名まで表記する。
- iii. 記載方法は下記の例示のごとくにする。
  - i) 雑誌掲載論文の場合・・・著者名(発行年次):論文の表題, 掲載雑誌名, 号もしくは巻(号), 最初のページ数-最後のページ数.
  - ii) 単行本の場合・・・①著者名(発行年次):書名(版数), 出版社名, 発行地.  
②著者名(発行年次):論文の表題, 編者名, 書名(版数), ページ数, 出版社名, 発行地.
  - iii) 翻訳書の場合・・・原著者名(原書の発行年次)/訳者名(翻訳書の発行年次):翻訳書の書名(版数), 出版社名, 発行地.

(5) 再審査

主査より論文の再審査の通知を受けた者は、論文を再提出する。

・再審査論文締切日

平成30年2月21日(水) 13時まで

・提出書類

- ①課題研究論文 3 部
- ②課題研究論文の要旨(上記同様) 14 部

(6) 研究発表会

平成30年3月14日(水)

2017 年度 東京女子医科大学大学院 看護学研究科

課題研究論文

タイトル

学籍番号

氏名

提出日 年 月 日

資料 4

↑

3cm

↓

12ポイント

東京女子医科大学大学院看護学研究科

課題研究論文要旨

字体 明朝体

サイズ 10.5ポイント

一頁 24行

一行 35文字

文字数 1200字以内

研究課題名

11ポイント

東京女子医科大学大学院

看護学研究科看護学専攻

河田 若子

I. はじめに

[Redacted text block for Section I]

←3.2cm→

←3.2cm→

II. 方法

1. 文献収集方法

[Redacted text block for 1. 文献収集方法]

2. 文献の分析方法

[Redacted text block for 2. 文献の分析方法]

↑

3cm

↓

### III. 結果

[REDACTED]

### IV. 考察

[REDACTED]

様式修士1-2

## 課題研究論文テーマ 申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき下記のとおり研究テーマを申請いたします。

研究テーマ

---

## 学位(修士)申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて課題研究論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

学位(修士)申請書 [様式修士 2-2]	1 部
課題研究論文	1 部
課題研究論文の要旨(1200 字以内)	1 部
単位認定書	1 部
研究テーマの変更がある場合	
研究テーマ変更理由書(様式自由)	1 部
審査手数料	5 万円

## 10) 授業科目および教員一覧

### 1. 基礎分野

授業科目名		科目責任者	科目担当者
必 共 修 通	看護理論	田中 美恵子	田中美恵子、佐藤紀子、守屋治代
	看護研究	長江 弘子	長江弘子、田中美恵子、中田晴美、加藤京里、坂井志麻
共 通 選 択	看護倫理	鶴若 麻理	鶴若麻理、佐藤紀子、田中美恵子
	看護教育論	佐藤 紀子	佐藤紀子、守屋治代、菊池昭江
	看護政策論	池田 真理	池田真理
	コンサルテーション論	飯岡 由紀子	飯岡由紀子、江川知子
	看護管理論	池田 真理	池田真理
	家族論	泉 真由子	泉真由子
	社会学	諏訪 茂樹	諏訪茂樹
	人間学	足立 智孝	足立智孝
	保健統計学	坂田 成輝	坂田成輝
	臨床心理学	松寄 英士	松寄英士
	研究方法 生体・生理学 臨床医学	神山 暢夫 尾崎 恭子	神山暢夫、榊建二郎 尾崎恭子、南家由紀
先端医療	小泉 雅子	小泉雅子、清水達也、有賀淳、村垣善浩、正宗賢、山本俊至、松浦勝久、岩田隆紀、中山正道、秋山義勝、小林純、関根秀一、金井信雄、武岡真司、武田直也	
国際コミュニケーション英語演習	池田 真理	池田真理	
自 由 選 択	臨床薬理学☆	丸 義朗	丸義朗、尾崎恭子、田中美恵子、日沼千尋、中村（平塚）佐千枝、塚原富士子、中村誓子、山本郁生、深谷寛、川辺桂太郎、平井浩二
	フィジカルアセスメント☆	原 三紀子	原三紀子、小泉雅子、小山達也、原美鈴、原沢のぞみ、三浦美奈子、小林礼実、飯塚あつ子、鈴木香緒理、峯川美弥子、那須実千代、齋藤登、成宮孝祐
	病態生理学☆	尾崎 恭子	尾崎恭子、南家由紀、小泉雅子

### 2. 専攻分野

授業科目名		論文指導	科目責任者および科目担当者
（食 看 護 学 ・ 基 礎 科 学 看 護 学 ）	食看護学特論Ⅰ	守屋 治代	*今年度開講なし
	食看護学特論Ⅱ		*今年度開講なし
	食看護学特論Ⅲ		*今年度開講なし
	食看護学特論Ⅳ		*今年度開講なし
	食看護学演習Ⅰ		*今年度開講なし
	食看護学演習Ⅱ		*今年度開講なし
	食看護学特別研究		*今年度開講なし
	基礎看護学特論Ⅰ		守屋治代、小宮山陽子
	基礎看護学特論Ⅱ		守屋治代、小宮山陽子、北條由佳
	基礎看護学特論Ⅲ		見城道子、加藤京里
	基礎看護学特論Ⅳ		菊池昭江
	基礎看護学演習Ⅰ		守屋治代、菊池昭江、見城道子、加藤京里、小宮山陽子、北條由佳
	基礎看護学演習Ⅱ		守屋治代、菊池昭江、見城道子、加藤京里、小宮山陽子、北條由佳
	基礎看護学特別研究		守屋治代

授業科目名		論文指導	科目責任者および科目担当者
(看護管理学)	看護管理学特論Ⅰ	池田 真理	池田真理
	看護管理学特論Ⅱ		池田真理
	看護管理学特論Ⅲ		池田真理
	看護管理学演習Ⅰ		池田真理
	看護管理学演習Ⅱ		池田真理
	看護管理学特別研究		池田真理
(看護職生涯発達学)	看護職生涯発達学特論Ⅰ	佐藤 紀子	佐藤紀子、草柳かほる、山口紀子、多久和善子
	看護職生涯発達学特論Ⅱ		佐藤紀子、草柳かほる、松寄英士、原美鈴
	看護職生涯発達学特論Ⅲ		佐藤紀子、草柳かほる、原三紀子
	看護職生涯発達学演習Ⅰ		佐藤紀子、草柳かほる、原三紀子、香川秀太
	看護職生涯発達学演習Ⅱ		佐藤紀子、草柳かほる
	看護職生涯発達学特別研究		佐藤紀子
実践看護学Ⅰ(クリティカルケア看護学・がん看護学)	クリティカルケア看護学特論Ⅰ		小泉雅子
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ		小泉雅子、小川洋司、志賀剛、鈴木豪、相野田祐介、川俣貴一、土谷健、貞廣智仁、有泉俊一、久保豊、小川朝生
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ		小泉雅子、山口淳一、芹澤直紀、南雄一郎、相野田祐介、川俣貴一、土谷健、貞廣智仁、谷澤武久、山田卓司、久保豊、小川朝生
	クリティカルケア看護学特論Ⅳ		小泉雅子、佐藤憲明
	クリティカルケア看護学特論Ⅴ		小泉雅子、小林礼実、岡部祥、山崎千草、山中源治、遠藤奈津美
	クリティカルケア看護学演習Ⅰ		小泉雅子、峯川美弥子、日沼千尋、関森みゆき、櫻田章子、佐藤憲明、山中源治
	クリティカルケア看護学演習Ⅱ		小泉雅子、小林礼実
	クリティカルケア看護学演習Ⅲ☆		小泉雅子、小林礼実、峯川美弥子、山中源治、山崎千草、山内典子、大友 陽子
	クリティカルケア看護学実習Ⅰ☆		小泉雅子、小林礼実、峯川美弥子
	クリティカルケア看護学実習Ⅱ		小泉雅子、小林礼実、峯川美弥子、山崎千草、山中源治
	クリティカルケア看護学実習Ⅲ☆		小泉雅子、小林礼実、峯川美弥子、山崎千草、山中源治、佐藤憲明
	クリティカルケア看護学課題研究		
	クリティカルケア看護学特別研究		
	がん看護学特論Ⅰ		*今年度開講なし
	がん看護学特論Ⅱ		*今年度開講なし
	がん看護学特論Ⅲ		*今年度開講なし
	がん看護学特論Ⅳ		*今年度開講なし
	がん看護学特論Ⅴ		*今年度開講なし
	がん看護学演習Ⅰ		*今年度開講なし
	がん看護学演習Ⅱ		*今年度開講なし
がん看護学演習Ⅲ☆	*今年度開講なし		
がん看護学実習Ⅰ	*今年度開講なし		
がん看護学実習Ⅱ	*今年度開講なし		
がん看護学実習Ⅲ☆	*今年度開講なし		
がん看護学実習Ⅳ☆	*今年度開講なし		
がん看護学課題研究	*今年度開講なし		
がん看護学特別研究	*今年度開講なし		

授業科目名		論文指導	科目責任者および科目担当者
(ウーマンズヘルス 実践看護学Ⅱ)	ウーマンズヘルス特論Ⅰ	小川久貴子	小川久貴子
	ウーマンズヘルス特論Ⅱ		小川久貴子
	ウーマンズヘルス特論Ⅲ		小川久貴子、川嶋朗、横田仁子、岡野浩哉
	ウーマンズヘルス特論Ⅳ		小川久貴子、杉下智彦
	ウーマンズヘルス演習Ⅰ		小川久貴子、楠田聡、平澤恭子、関森みゆき、大友陽子、富川由美子
	ウーマンズヘルス演習Ⅱ		小川久貴子、土江田奈留美、抜田博子
	ウーマンズヘルス実習		土江田奈留美、抜田博子、潮田千寿子
	ウーマンズヘルス課題研究		小川久貴子、土江田奈留美
	ウーマンズヘルス特別研究		小川久貴子、土江田奈留美
実践看護学Ⅲ (老年看護学)	老年看護学特論Ⅰ	長江 弘子	長江弘子
	老年看護学特論Ⅱ		長江弘子、尾崎恭子、坂井志麻、松村美由起、待井典子
	老年看護学特論Ⅲ		長江弘子、尾崎恭子、原沢のぞみ、三村千弦
	老年看護学特論Ⅳ		長江弘子、坂井志麻
	老年看護学特論Ⅴ☆		長江弘子、久保豊、坂井志麻、原沢のぞみ
	老年看護学演習Ⅰ		長江弘子、原沢のぞみ、渡邊賢治
	老年看護学演習Ⅱ		長江弘子、坂井志麻、小池愛弓
	老年看護学実習Ⅰ		長江弘子、坂井志麻、原沢のぞみ、渡邊賢治、小池愛弓
	老年看護学実習Ⅱ☆		坂井志麻、原沢のぞみ
	老年看護学課題研究		長江弘子
	老年看護学特別研究		長江弘子
実践看護学Ⅳ (精神看護学)	精神看護学特論Ⅰ	田中 美恵子	田中美恵子
	精神看護学特論Ⅱ		田中美恵子
	精神看護学特論Ⅲ		田中美恵子、濱田由紀、畠山卓也
	精神看護学特論Ⅳ		田中美恵子、尾崎恭子、山内典子
	精神看護学特論Ⅴ☆		田中美恵子、異儀田はづき、稻田健、高橋一志、嵐弘美、濱田由紀
	精神看護学演習Ⅰ		田中美恵子、小山達也、飯塚あつ子、山内典子
	精神看護学演習Ⅱ		田中美恵子、小山達也、濱田由紀、嵐弘美
	精神看護学演習Ⅲ		田中美恵子、小山達也、異儀田はづき、飯塚あつ子
	精神看護学実習Ⅰ		田中美恵子、小山達也、異儀田はづき、飯塚あつ子
	精神看護学実習Ⅱ		田中美恵子
	精神看護学実習Ⅲ☆		田中美恵子、畠山卓也、山内典子、安田妙子
	精神看護学実習Ⅳ☆		田中美恵子、山内典子、安田妙子、畠山卓也
	精神看護学課題研究		田中美恵子
	精神看護学特別研究		田中美恵子
(地域看護学Ⅴ) 実践看護学Ⅴ	地域看護学特論Ⅰ	清水 洋子	清水洋子、中田晴美、池戸啓子、吉澤裕世、高紋子
	地域看護学特論Ⅱ		清水洋子、中田晴美、犬飼かおり、吉澤裕世、北島勉
	地域看護学特論Ⅲ		清水洋子、中田晴美、犬飼かおり、吉澤裕世、北島勉
	地域看護学特論Ⅳ		清水洋子、犬飼かおり、高紋子
	地域看護学特論Ⅴ		清水洋子、中田晴美
	地域看護学特論Ⅵ		清水洋子、中田晴美

授業科目名		論文指導	科目責任者および科目担当者
実践看護学Ⅴ (地域看護学)	地域看護学演習Ⅰ	清水 洋子	中田晴美、清水洋子、犬飼かおり、渡辺昌子、高紋子、吉澤裕世、池戸啓子
	地域看護学演習Ⅱ		清水洋子、中田晴美、犬飼かおり、渡辺昌子、高紋子、吉澤裕世
	地域看護学実習Ⅰ		清水洋子
	地域看護学実習Ⅱ		清水洋子
	地域看護学実習Ⅲ		清水洋子
	地域看護学課題研究		清水洋子、中田晴美
	地域看護学特別研究		清水洋子、中田晴美
実践看護学Ⅵ (小児看護学)	小児看護学特論Ⅰ	日沼 千尋	日沼千尋、諏訪茂樹、松壽英士
	小児看護学特論Ⅱ		日沼千尋、関森みゆき、榊原みゆき
	小児看護学特論Ⅲ		日沼千尋、関森みゆき
	小児看護学特論Ⅳ		日沼千尋
	小児看護学演習Ⅰ		日沼千尋、櫻田章子、関森みゆき、奥野順子、平澤恭子
	小児看護学演習Ⅱ		日沼千尋、山田咲樹子、大友陽子、遠藤奈津美、富川由美子、榊原みゆき
	小児看護学演習Ⅲ☆		日沼千尋、朴仁三、永田智、立川恵美子、石垣景子、清谷知賀子、三浦健一郎、世川修
	小児看護学実習Ⅰ☆		日沼千尋、関森みゆき、奥野順子、永田智、杉原茂孝
	小児看護学実習Ⅱ☆		日沼千尋、関森みゆき、奥野順子
	小児看護学実習Ⅲ		日沼千尋、関森みゆき、奥野順子、高木志帆、栗田直央子、山田咲樹子
	小児看護学課題研究		日沼千尋、関森みゆき
小児看護学特別研究	日沼千尋、関森みゆき		
助産選択科目*	助産学特論Ⅰ	小川久貴子	小川久貴子、正岡 直樹、尾崎 恭子、中林 章、平澤恭子、土江田奈留美、竹内 道子、潮田千寿子
	助産学特論Ⅱ		土江田奈留美、松井 英雄、竹内 道子、抜田 博子、潮田千寿子、田幡 純子、大原 明子
	助産学特論Ⅲ		小川久貴子
	助産学特論Ⅳ		小川久貴子、抜田 博子、潮田千寿子、馬木小夜子、内田 朋子
	助産学演習Ⅰ		土江田奈留美、抜田博子、潮田千寿子、金野潤、鈴木志帆
	助産学演習Ⅱ		土江田奈留美、竹内道子、抜田博子、潮田千寿子、田幡純子、鈴木小弥香、神山綾乃
	助産学実習		土江田奈留美、竹内道子、抜田博子、潮田千寿子、田幡純子、鈴木小弥香

\*については、実践看護学Ⅱ（ウーマンズヘルス）分野の学生で助産師国家試験受験資格取得を希望する者はすべて履修すること。

☆については、**実践看護学Ⅰ～Ⅵ分野（ただし、実践看護学Ⅱ分野（ウーマンズヘルス）を除く）**の学生で日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38単位）修了を希望する者は基盤自由選択科目ならびに専攻主分野の自由選択科目をすべて履修すること。

# 1 1) 教員一覧 専任教員・兼任教員・非常勤講師

## 看護学研究科専任教員

氏名	職名	科目名
守屋 治代	教授	基礎看護学特論Ⅰ、基礎看護学特論Ⅱ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ、基礎看護学特別研究、看護理論、看護教育論
佐藤 紀子	教授	看護職生涯発達学特論Ⅰ、看護職生涯発達学特論Ⅱ、看護職生涯発達学特論Ⅲ、看護職生涯発達学演習Ⅰ、看護職生涯発達学演習Ⅱ、看護職生涯発達学特別研究、看護理論、看護倫理、看護教育論
小川 久貴子	教授	ウーマンズヘルスト論Ⅰ、ウーマンズヘルスト論Ⅱ、ウーマンズヘルスト論Ⅲ、ウーマンズヘルスト論Ⅳ、ウーマンズヘルス演習Ⅰ、ウーマンズヘルス演習Ⅱ、ウーマンズヘルス課題研究、ウーマンズヘルス特別研究、助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅲ、助産学特論Ⅳ、
長江 弘子	教授	老年看護学特論Ⅰ、老年看護学特論Ⅱ、老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅳ、老年看護学特論Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学課題研究、老年看護学特別研究、看護研究
田中 美恵子	教授	精神看護学特論Ⅰ、精神看護学特論Ⅱ、精神看護学特論Ⅲ、精神看護学特論Ⅳ、精神看護学特論Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅱ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ、精神看護学実習Ⅱ、精神看護学実習Ⅲ、精神看護学実習Ⅳ、精神看護学課題研究、精神看護学特別研究、看護理論、看護研究、看護倫理、臨床薬理学
清水 洋子	教授	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学特論Ⅱ、地域看護学特論Ⅲ、地域看護学特論Ⅳ、地域看護学特論Ⅴ、地域看護学特論Ⅵ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ、地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲ、地域看護学課題研究、地域看護学特別研究
日沼 千尋	教授	小児看護学特論Ⅰ、小児看護学特論Ⅱ、小児看護学特論Ⅲ、小児看護学特論Ⅳ、小児看護学演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅱ、小児看護学演習Ⅲ、小児看護学実習Ⅰ、小児看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅲ、小児看護学課題研究、小児看護学特別研究、クリティカルケア看護学演習Ⅰ、臨床薬理学
池田 真理	教授	看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護管理学特論Ⅲ、看護管理学演習Ⅰ、看護管理学演習Ⅱ、看護管理学特別研究、看護政策論、看護管理論、国際コミュニケーション英語演習
尾崎 恭子	教授	研究方法（臨床医学の研究）、臨床薬理学、病態生理学、老年看護学特論Ⅱ、老年看護学特論Ⅲ、精神看護学特論Ⅳ、助産学特論Ⅰ
南家 由紀	准教授	研究方法（臨床医学の研究）、病態生理学
菊池 昭江	准教授	基礎看護学特論Ⅳ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ、看護教育論
見城 道子	准教授	基礎看護学特論Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ
原 三紀子	准教授	看護職生涯発達学特論Ⅲ、看護職生涯発達学演習Ⅰ、フィジカルアセスメント
小泉 雅子	准教授	クリティカルケア看護学特論Ⅰ、クリティカルケア看護学特論Ⅱ、クリティカルケア看護学特論Ⅲ、クリティカルケア看護学特論Ⅳ、クリティカルケア看護学特論Ⅴ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ、クリティカルケア看護学演習Ⅱ、クリティカルケア看護学演習Ⅲ、クリティカルケア看護学実習Ⅰ、クリティカルケア看護学実習Ⅱ、クリティカルケア看護学実習Ⅲ、先端医療、フィジカルアセスメント、病態生理学
土江田奈留美	准教授	ウーマンズヘルス演習Ⅱ、ウーマンズヘルス実習、ウーマンズヘルス課題研究、ウーマンズヘルス特別研究、助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学演習Ⅰ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
坂井 志麻	准教授	老年看護学特論Ⅱ、老年看護学特論Ⅳ、老年看護学特論Ⅴ、老年看護学演習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ、看護研究
中田 晴美	准教授	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学特論Ⅱ、地域看護学特論Ⅲ、地域看護学特論Ⅴ、地域看護学特論Ⅵ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ、地域看護学課題研究、地域看護学特別研究、看護研究
関森 みゆき	准教授	小児看護学特論Ⅱ、小児看護学特論Ⅲ、小児看護学演習Ⅰ、小児看護学実習Ⅰ、小児看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅲ、小児看護学課題研究、小児看護学特別研究、クリティカルケア看護学演習Ⅰ、ウーマンズヘルス演習Ⅰ
諏訪 茂樹	准教授	社会学、小児看護学特論Ⅰ

氏名	職名	科目名
榊 建二郎	准教授	研究方法(生体・生理学的研究)
神山 暢夫	准教授	研究方法(生体・生理学的研究)
松寄 英士	特任准教授	臨床心理学、看護職生涯発達学特論Ⅱ、小児看護学特論Ⅰ
加藤 京里	講師	基礎看護学特論Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ、看護研究
草柳 かほる	講師	看護職生涯発達学特論Ⅰ、看護職生涯発達学特論Ⅱ、看護職生涯発達学特論Ⅲ、看護職生涯発達学演習Ⅰ、看護職生涯発達学演習Ⅱ
原 美鈴	講師	看護職生涯発達学特論Ⅱ、フィジカルアセスメント
竹内 道子	講師	助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
抜田 博子	講師	ウーマンズヘルス演習Ⅱ、ウーマンズヘルス実習、助産学特論Ⅱ、助産学特論Ⅳ、助産学演習Ⅰ、助産学演習Ⅱ、助産学実習、
原沢 のぞみ	講師	老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ、フィジカルアセスメント
小山 達也	講師	精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅱ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ、フィジカルアセスメント
犬飼 かおり	講師	地域看護学特論Ⅱ、地域看護学特論Ⅲ、地域看護学特論Ⅳ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ
奥野 順子	講師	小児看護学演習Ⅰ、小児看護学実習Ⅰ、小児看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅲ
小宮山 陽子	助教	基礎看護学特論Ⅰ、基礎看護学特論Ⅱ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ
北条 由佳	助教	基礎看護学特論Ⅱ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ
多久和 善子	助教	看護職生涯発達学特論Ⅰ
山口 紀子	助教	看護職生涯発達学特論Ⅰ
小林 礼実	助教	クリティカルケア看護学特論Ⅴ、クリティカルケア看護学演習Ⅱ、クリティカルケア看護学演習Ⅲ、クリティカルケア看護学実習Ⅰ、クリティカルケア看護学実習Ⅱ、クリティカルケア看護学実習Ⅲ、フィジカルアセスメント
峯川 美弥子	助教	クリティカルケア看護学演習Ⅰ、クリティカルケア看護学演習Ⅲ、クリティカルケア看護学実習Ⅰ、クリティカルケア看護学実習Ⅱ、クリティカルケア看護学実習Ⅲ、フィジカルアセスメント
三浦 美奈子	助教	フィジカルアセスメント
渡邊 賢治	助教	老年看護学演習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ
小池 愛弓	助教	老年看護学演習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ
異儀田はづき	助教	精神看護学特論Ⅴ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ
飯塚 あつ子	助教	精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ、フィジカルアセスメント
渡辺 昌子	助教	地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ
高 紋子	助教	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学特論Ⅳ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ
吉澤 裕世	助教	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学特論Ⅱ、地域看護学特論Ⅲ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ
櫻田 章子	助教	小児看護学演習Ⅰ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ
田幡 純子	助教	助産学特論Ⅱ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
潮田 千寿子	助教	ウーマンズヘルス実習、助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学特論Ⅳ、助産学演習Ⅰ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
鈴木 小弥香	助教	助産学演習Ⅱ、助産学実習
鈴木 香緒理	助教	フィジカルアセスメント
那須 実千代	助教	フィジカルアセスメント

看護学研究科兼担教員

氏名	職名	担当科目
川俣 貴一	教授	クリティカルケア看護学特論Ⅱ、クリティカルケア看護特論Ⅲ
土谷 健	教授	クリティカルケア看護学特論Ⅱ、クリティカルケア看護特論Ⅲ
有賀 淳	教授	先端医療
杉下 智彦	教授	ウーマンズヘルス特論Ⅳ
楠田 聡	教授	ウーマンズヘルス演習Ⅰ
杉原 茂孝	教授	小児看護学実習Ⅰ
永田 智	教授	小児看護学演習Ⅲ、小児看護学実習Ⅰ
正岡 直樹	教授	助産学特論Ⅰ
松井 英雄	教授	助産学特論Ⅱ
村垣 善浩	教授	先端医療
清水 達也	教授	先端医療
正宗 賢	教授	先端医療
丸 義朗	教授	臨床薬理学
志賀 剛	准教授	クリティカルケア看護学特論Ⅱ
齋藤 登	准教授	フィジカルアセスメント
貞廣 智仁	准教授	クリティカルケア看護学特論Ⅱ、クリティカルケア看護特論Ⅲ
有泉 俊一	准教授	クリティカルケア看護学特論Ⅱ
平澤 恭子	准教授	ウーマンズヘルス演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅰ、助産学特論Ⅰ
中林 章	准教授	助産学特論Ⅰ
世川 修	准教授	小児看護学演習Ⅲ
朴 仁三	准教授	小児看護学演習Ⅲ
松浦 勝久	准教授	先端医療
岩田 隆紀	准教授	先端医療
山本 俊至	准教授	先端医療
中村(平塚)佐千枝	准教授	臨床薬理学
久保 豊	講師	クリティカルケア看護学特論Ⅱ、クリティカルケア看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅴ
山口 淳一	講師	クリティカルケア看護学特論Ⅲ
横田 仁子	講師	ウーマンズヘルス特論Ⅲ
松村美由起	講師	老年看護学特論Ⅱ
稲田 健	講師	精神看護学特論Ⅴ
高橋 一志	講師	精神看護学特論Ⅴ
石垣 景子	講師	小児看護学演習Ⅲ
三浦健一郎	講師	小児看護学演習Ⅲ
秋山 義勝	講師	先端医療
小林 純	講師	先端医療
中山 正道	講師	先端医療
関根 秀一	講師	先端医療
塚原富士子	講師	臨床薬理学
成宮 孝祐	准講師	フィジカルアセスメント
鈴木 豪	助教	クリティカルケア看護学特論Ⅱ
田中 伸枝	助教	クリティカルケア看護学特論Ⅱ
相野田祐介	助教	クリティカルケア看護学特論Ⅱ、クリティカルケア看護特論Ⅲ
山田 卓司	助教	クリティカルケア看護学特論Ⅲ
谷澤 武久	助教	クリティカルケア看護学特論Ⅲ
南 雄一郎	助教	クリティカルケア看護学特論Ⅲ
芹澤 直紀	助教	クリティカルケア看護学特論Ⅲ
立川恵美子	助教	小児看護学演習Ⅲ
金野 潤	助教	助産学演習Ⅰ
鈴木 志帆	助教	助産学演習Ⅰ
金井 信雄	特任助教	先端医療
山崎 千草	臨床講師	クリティカルケア看護学特論Ⅴ、クリティカルケア看護学演習Ⅲ、クリティカルケア看護学実習Ⅱ、クリティカルケア看護学実習Ⅲ
山中 源治	臨床講師	クリティカルケア看護学特論Ⅴ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ、クリティカルケア看護学演習Ⅲ、クリティカルケア看護学実習Ⅱ、クリティカルケア看護学実習Ⅲ

氏名	職名	担当科目
山内 典子	臨床講師	クリティカルケア看護学演習Ⅲ、精神看護学特論Ⅳ、精神看護学演習Ⅰ、精神看護学実習Ⅲ、精神看護学実習Ⅳ
安田 妙子	臨床講師	精神看護学実習Ⅲ、精神看護学実習Ⅳ
内田 朋子	臨床講師	助産学特論Ⅳ、助産学演習Ⅱ
神山 綾乃	臨床講師	助産学演習Ⅱ
三村 千弦	臨床講師	老年看護学特論Ⅲ、臨床薬理学
山田咲樹子	臨床講師	小児看護学演習Ⅱ、小児看護学実習Ⅲ
高木 志帆	臨床講師	小児看護学実習Ⅲ
栗田直央子	臨床講師	小児看護学実習Ⅲ
江川 知子	臨床講師	コンサルテーション論
中村 誓子	兼任講師	臨床薬理学
山本 郁生	兼任講師	臨床薬理学
深谷 寛	兼任講師	臨床薬理学
川辺桂太郎	兼任講師	臨床薬理学
平井 浩二	兼任講師	臨床薬理学
遠藤奈津美	兼任講師	クリティカルケア看護学特論Ⅴ、小児看護学演習Ⅱ
岡部 祥	兼任講師	クリティカルケア看護学特論Ⅴ
大友 陽子	兼任講師	クリティカルケア看護学演習Ⅲ、ウーマンズヘルス演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅱ
富川由美子	兼任講師	ウーマンズヘルス演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅱ
待井 典子	兼任講師	老年看護学特論Ⅱ
嵐 弘美	兼任講師	精神看護学特論Ⅴ、精神看護学演習Ⅱ
榊原みゆき	兼任講師	小児看護学特論Ⅱ、小児看護学演習Ⅱ
大原 明子	兼任講師	助産学特論Ⅱ
馬木小夜子	兼任講師	助産学特論Ⅳ

### 看護学研究科非常勤講師

氏名	担当科目
鶴若 麻理	看護倫理
飯岡由紀子	コンサルテーション論
泉 真由子	家族論
足立 智孝	人間学
坂田 成輝	保健統計学
武岡 真司	先端医療
武田 直也	先端医療
香川 秀太	看護職生涯発達学演習Ⅰ
佐藤 憲明	クリティカルケア看護学特論Ⅳ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ、クリティカルケア看護学実習Ⅲ
秋山 正子	地域看護学特論Ⅳ
小川 朝生	クリティカルケア看護学特論Ⅱ、クリティカルケア看護特論Ⅲ
川嶋 朗	ウーマンズヘルス特論Ⅲ
岡野 浩哉	ウーマンズヘルス特論Ⅲ
濱田 由紀	精神看護学特論Ⅲ、精神看護学特論Ⅴ、精神看護学演習Ⅱ
畠山 卓也	精神看護学特論Ⅲ、精神看護学実習Ⅲ、精神看護学実習Ⅳ
池戸 啓子	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学演習Ⅰ
北島 勉	地域看護学特論Ⅱ、地域看護学特論Ⅲ
清谷知賀子	小児看護学演習Ⅲ

# 博士前期課程 講義概要

※科目責任者に○印が記してあります

## 科目名 看護理論

(2単位 15コマ)

科目担当者	○田中美恵子、佐藤 紀子、守屋 治代				
講義概要	看護学の理論体系の変遷を概観し、諸理論の構造と特徴について学ぶとともに、諸理論と看護現象との関係について探求し、看護研究ならびに卓越した看護実践のための理論的基盤を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学の理論体系の変遷、理論構築のための主要概念と哲学的基盤について理解する。</li> <li>2. 主要な看護理論の構造と特徴について学び、看護現象との関係について理解する。</li> <li>3. 看護研究ならびに卓越した看護実践に応用するための理論的基盤を養う。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生によるプレゼンテーションと討議を中心に進める。討議は看護理論と看護現象との関わり、看護理論の看護実践・看護研究への応用などの観点を中心に進める。				
教科書	筒井真由美編：看護理論家の業績とその評価、医学書院、2015.				
参考文献	適宜紹介				
成績評価の方法	プレゼンテーション準備度20%、出席・参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。				
課題	<p>看護理論家の1名の著作（本または論文）を読み次の観点からまとめる。  「まず、その看護理論の特徴についてまとめ、次にその看護理論が、看護研究および看護実践に対してどのように役立つ可能性を持つか、またはどのような弱点や限界があるかについて、自分の専攻領域の看護現象に当てはめながら考えをまとめる。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A4版（24字×40行） 5枚程度</li> <li>・ 学生氏名、専攻領域、選んだ理論家とその著作について、レポートの最初に明記すること。</li> </ul> <p>提出期限：2017 年10月 6日（金）13時 学務課前ボックスまで。</p>				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月11日(火)	10:35～12:00	田中美恵子	イントロダクション：看護理論の分析
	2	4月18日(火)	10:35～12:00	田中美恵子	ペプロウ看護論と看護実践との関わり
	3	4月25日(火)	10:35～12:00	佐藤 紀子	ヘンダーソン看護論と看護実践との関わり
	4	5月9日(火)	10:35～12:00	佐藤 紀子	オレム看護論と看護実践との関わり
	5	5月16日(火)	10:35～12:00	守屋 治代	ナイチンゲール看護論と看護実践との関わり
	6	5月23日(火)	10:35～12:00	佐藤 紀子	ウィーデンバック看護論と看護実践との関わり
	7	5月30日(火)	10:35～12:00	守屋 治代	ワトソン看護論と看護実践との関わり
	8	6月6日(火)	10:35～12:00	佐藤 紀子	ロイ看護論と看護実践との関わり
	9	6月13日(火)	10:35～12:00	守屋 治代	ロジャーズ看護論と看護実践との関わり
	10	6月20日(火)	10:35～12:00	田中美恵子	トラベルビー看護論と看護実践との関わり
	11	6月27日(火)	10:35～12:00	佐藤 紀子	ベナー看護論と看護実践との関わり
	12	7月4日(火)	10:35～12:00	守屋 治代	M. ニューマン看護論と看護実践との関わり
	13	7月11日(火)	10:35～12:00	田中美恵子	レイニンガー看護論と看護実践との関わり
	14	9月5日(火)	10:35～12:00	田中美恵子	各専門領域への看護理論の応用
15	9月12日(火)	10:35～12:00	田中美恵子	各専門領域への看護理論の応用	

科目名 看護研究

(2単位 22コマ)

科目担当者	○長江 弘子、田中美恵子、中田 晴美、加藤 京里、坂井 志麻				
講義概要	専門知識や技術の開発など、看護の向上をはかるために必要な研究の方法について理解することを目的として、看護学における研究の役割や研究プロセス、研究成果の臨床への活用について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エビデンスに基づいた実践のための研究について理解する。</li> <li>2. 研究疑問を根拠づける文献の収集・分析・整理方法を理解する。</li> <li>3. 量的研究・質的研究における論文のクリティークの方法を理解する。</li> <li>4. 看護学で用いられている量的研究について学び、研究プロセス、重要概念を理解する。</li> <li>5. 看護学で用いられている実験研究について学び、研究プロセス、重要概念を理解する。</li> <li>6. 看護学で用いられている質的研究について学び、研究プロセス、重要概念を理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	プレゼンテーションと討論によってすすめる。				
参考文献	<p>ポーリット&amp;バック (2010) : 看護研究 原理と方法、第2版 医学書院 (量的研究テキスト)</p> <p>ホロウェイ&amp;ウィーラー、ナースのための質的研究入門(第2版)、医学書院、2006 (質的研究部分教科書) 他 適時紹介</p> <p>ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ著 (2009) : バーンズ&amp;グループ看護研究入門、一実践・評価・活用、エルゼア・ジャパン社、(P668-686 : 研究クリティーク)</p> <p>Garaad, J. (2010). Health sciences literature review made easy: The matrix method. (3rd Ed.). Jones &amp; Bartlett Publication.安部陽子訳 (2012) : 看護研究のための文献レビューマトリックス方式一、医学書院.</p> <p>北素子、谷津裕子 (2007) : 質的研究論文のクリティークのためのサブストラクション、看護研究40(2)、p 39-49.</p> <p>北素子、谷津裕子 (2009) : 質的研究の実践と評価のためのサブストラクション、医学書院.</p>				
成績評価の方法	プレゼンテーションの準備と発表 60%、講義への参加度 20%、レポート 20%により評価する				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月28日(金)	9:00~10:25	長江 弘子	オリエンテーション・看護研究の基礎 (1章)
	2	4月28日(金)	10:35~12:00	中田 晴美	研究の重要概念とプロセス概観 (2・3章)
	3	5月19日(金)	9:00~10:25	中田 晴美	文献検討 (図書館)
	4	5月19日(金)	10:35~12:00	中田 晴美	文献検討 (図書館)
	5	5月26日(金)	9:00~10:25	中田 晴美 長江 弘子	研究問題～仮説、文献レビュー (4・5章)
	6	5月26日(金)	10:35~12:00	中田 晴美	理論枠組みと研究倫理 (6・7章)
	7	6月9日(金)	9:00~10:25	坂井 志麻	研究デザイン (8・9章)
	8	6月9日(金)	10:35~12:00	坂井 志麻	標本抽出のデザインとデータ収集 (13・14章)
	9	6月23日(金)	9:00~10:25	坂井 志麻	研究データの質と分析 (18・22章)
	10	6月23日(金)	10:35~12:00	坂井 志麻	エビデンスの高い研究の理解 (ガイドライン作成過程を参考)
	11	7月14日(金)	10:35~12:00	田中美恵子	質的研究の特質、研究プロセスにおける最初の段階と倫理的問題 (教科書第1,2章)
	12	7月28日(金)	9:00~10:25	長江 弘子	事例研究・量的研究・質的研究における論文のクリティーク、研究計画の書き方
	13	7月28日(金)	10:35~12:00	田中美恵子	面接 (第5章)、参加観察 (第6章)
	14	9月1日(金)	9:30~10:25	加藤 京里	実験研究の方法
	15	9月1日(金)	10:35~12:00	加藤 京里	生理学的基盤をもつ看護研究の展望と課題
	16	9月8日(金)	9:00~10:25	田中美恵子	記述民俗学 (第9章)
	17	9月8日(金)	10:35~12:00	田中美恵子	グランデッド・セオリー (第10章)
	18	9月22日(金)	9:00~10:35	田中美恵子	現象学 (第11章)
	19	9月22日(金)	10:35~12:00	田中美恵子	アクションリサーチ、ナラティブリサーチ (第12,13章)
	20	9月29日(金)	9:30~12:30	長江 弘子 加藤 京里	エビデンスに基づいた実践のためのクリティーク 量的研究 (疫学研究・実験研究)
	21	10月13日(金)	10:35~12:00	長江 弘子 田中美恵子	エビデンスに基づいた実践のためのクリティーク 質的研究 (グランデッド・セオリー、現象学など)
22	10月20日(金)	9:00~10:25	長江 弘子 田中美恵子	エビデンスに基づいた実践のためのクリティーク 文献研究・事例研究	

科目名 看護倫理

(2単位 15コマ)

科目担当者	○鶴若 麻理、佐藤 紀子、田中美恵子				
講義概要	本科目「看護倫理」では、倫理的な看護実践をするために、基盤となるような考え方や概念を学び、患者や家族の人権擁護、知る権利、QOLの向上などの側面から、看護実践における倫理とは何かを探究することを目的とする。具体的には、原則に基づくアプローチ、系統的な手順に基づくアプローチ、ナラティブ・アプローチについて、具体的な事案をもとに学んでいく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護と倫理の関係性について理解する。</li> <li>2. 倫理への接近法として、原則に基づくアプローチ、系統的なアプローチ、ナラティブ・アプローチを理解する。</li> <li>3. 倫理的看護実践について理解し、考えることができる</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義及びディスカッション。ケーススタディをしながら、倫理へのアプローチを考えていく。受講生からの話題提供も含む。				
参考文献	鶴若麻理・麻原きよみ編著「ナラティブでみる看護倫理」南江堂、2013年。				
	鶴若麻理・倉岡有美子編著「臨床のジレンマを解決に導く看護管理と倫理のアプローチ」学研メディカル秀潤社、2014。				
	トム・L・ビーチャム, ジェイムズ・F・チルドレス「生命医学倫理」麗澤大学出版会、2009。				
	ドロレス・ドゥーリー他 「看護倫理1、2、3、」2006, みすず書房。				
成績評価の方法	E・バンドマン他, 木村利人(監訳) 鶴若麻理・仙波由加里(訳) 「ケーススタディいのちと向き合う看護と倫理ー受精から終末期まで」 2010, 人間と歴史社。				
講義日程	レポート70%、出席・参加度 30%とし、総合的に評価する				
	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	11月10日(金)	9:00~12:00	鶴若 麻理	医療においてなぜ倫理を考えるのか? : 原則に基づくアプローチ
	2				
	3	11月17日(金)	9:00~12:00		系統的な手続きに基づくアプローチ
	4				
	5	11月24日(金)	9:00~12:00		インフォームドコンセント再考およびナラティブアプローチ
	6				
	7	12月14日(木)	17:45~19:10		ダックス・コワートのケースから
	8	12月15日(金)	9:00~12:00		倫理的意思決定: AD, 代行判断、最善の利益判断
	9				
	10	1月12日(金)	9:00~12:00		看護実践で遭遇した倫理的問題の検討1 (ナラティブ・ライティングとワーク)
	11				
	12	1月19日(金)	9:00~12:00		看護実践で遭遇した倫理的問題の検討2 (ナラティブ・ライティングとワーク)
	13				
14	1月26日(金)	10:35~12:00	佐藤 紀子		研究における倫理の視点
15	2月2日(金)	10:35~12:00	田中美恵子		看護倫理への現象学的アプローチ

科目名 看護教育論

(2単位 15コマ)

科目担当者	○佐藤 紀子、守屋 治代、菊池 昭江				
講義概要	看護学の教育の特徴から看護教育に関する基本的知識・技術を理解する。また、看護学教育を生涯教育の観点からとらえ、さまざまな状況において教育的機能を発揮するための要件を考察する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護基礎教育と看護継続教育の概要、教育制度、認定制度等について理解する。</li> <li>2. 看護教育に関するさまざまなパラダイムを理解する。</li> <li>3. 看護職者のキャリアデベロップメントの必要性と看護継続教育の関連について理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	オムニバス方式で行う。講義の他、指定された文献等を講読し、院生がプレゼンテーションを行い、その内容の共有化を図りながら学習を深化・拡大する。				
参考文献	<p>杉森みどり・舟島なをみ著：看護教育学. 第5版. 医学書院. 2012.</p> <p>パトリシア・ベナー他著（早野ZITO真佐子訳）；ベナー ナースを育てる. 医学書院. 2011.</p> <p>E. オリビア・ベビス著（安酸史子監訳）：ケアリングカリキュラム - 看護教育の新しいパラダイム -、医学書院、1999.</p> <p>佐藤紀子著：看護師の臨床の『知』 - 看護職生涯発達学の視点から -、医学書院、2007.</p> <p>グレッグ美鈴・池西悦子著：看護教育学—看護を学ぶ自分と向き合う（看護学テキストNiCE）. 南江堂. 2009</p> <p>B. M. ドッシー他著（守田美奈子他訳）：ホリスティック・ナーシング、エルゼビア・ジャパン、2006.</p> <p>吉田敦彦著：ホリスティック教育論、日本評論社、1999.</p> <p>日本看護歴史学会：日本の看護のあゆみ—歴史をつくるあなたへ. 日本看護協会出版会、2014.</p> <p>小山真理子：看護教育講座2. 看護教育のカリキュラム. 医学書院. 2000</p> <p>その他、別途指示する</p>				
成績評価の方法	出席・参加度（プレゼンテーションの準備・発表内容、授業への参加度）100%。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	10月5日(木)	13:00～17:35	佐藤 紀子	ガイダンス、看護教育、キャリア形成
	4・5	10月12日(木)	13:00～16:00	菊池 昭江	エンパワメントと看護教育
	6・7	10月19日(木)	13:00～16:00	佐藤 紀子	看護基礎教育・継続教育の概要と展望
	8・9	10月26日(木)	13:00～16:00	佐藤 紀子	看護過程と臨床判断モデル
	10・11	11月9日(木)	13:00～16:00	守屋 治代	ホリスティック看護論と看護専門職
	12～15	1月6日(土)	9:00～16:00	佐藤 紀子 守屋 治代 菊池 昭江	生涯教育から考える看護基礎教育と継続教育

科目名 看護政策論

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理 (野村 陽子, 鈴木 美穂)				
講義概要	看護に関する政策決定とは、どのような過程で行われるのかを包括的に理解する。またその過程に関わる関連団体の力動的な相互関係についても管理的視点から分析することにより、看護師職能における社会的機能と貢献について学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護に対する社会の認識の推移と歴史的背景について概略を説明することができる。</li> <li>2. 看護職の社会的身分や教育・実践現場に影響を及ぼす法令や政策の概要を説明できる。</li> <li>3. 看護政策、および政策決定プロセスについて理解することができる。</li> <li>4. 政策によって看護実践にどのような影響をもたらされるかを考えることができる。</li> <li>5. 看護職者が政策過程に参画するための方策について考えることができる。</li> <li>6. 世界主要国の医療・看護政策の動向を検索し概要を説明することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義の他、基本的な資料を購読し、各自が選択したテーマのプレゼンテーションを基にディスカッションを行う。				
教科書	野村 陽子：看護制度と政策。法政大学出版局，2015。				
参考文献	<p>中西睦子編：看護管理学習テキスト第2版 第7巻 看護制度・政策論。日本看護協会出版会，2015。</p> <p>東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット：医療政策集中講義 ―医療を動かす戦略と実践―。医学書院，2015。</p> <p>広井 良典：創造的福祉社会 ―「成長」後の社会構想と人間・地域・価値―。ちくま新書，2011。</p> <p>日本看護協会編：日本看護協会の政策提言活動。日本看護協会出版会，2010。</p> <p>見藤 隆子・石田 昌宏他：看護職者のための政策過程入門 ―制度を変えると看護が変わる！―。看護協会出版会，2007。</p> <p>シオバン ネルソン・スーザン ゴードン編。井部俊子監修：ケアの複雑性 ―看護を再考する―。エルゼビア・ジャパン，2007。</p> <p>図書館所蔵、その他は講義で適時紹介する。</p>				
成績評価の方法	講義への参加状況40% 講義後のリフレクションレポート30%、プレゼンテーション30%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	10月3日(火)	9:00~12:00	池田 真理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・日本の看護制度の変遷</li> <li>・日本の看護政策の概観</li> </ul>
	3・4	10月17日(火)	9:00~12:00	池田 真理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策過程論：総論</li> <li>・政策過程の分析①：准看護師制度</li> </ul>
	5・6	10月30日(月)	9:00~12:00	野村 陽子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策過程の分析②：訪問看護制度</li> <li>・看護政策の特徴と推進</li> </ul>
	7・8	11月13日(月)	9:00~12:00	鈴木 美穂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国の医療・看護政策の概観</li> </ul>
	9・10	11月20日(月)	9:00~12:00	野村 陽子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護に影響を及ぼす政策</li> <li>・看護職の政策過程への参画</li> </ul>
	11・12	12月5日(火)	9:00~12:00	池田 真理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策遂行に必要なコンピテンシー</li> <li>・戦略立案</li> </ul>
	13・14	1月9日(火)	9:00~12:00	池田 真理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発表</li> <li>・看護政策に関するプレゼンテーション</li> </ul>
	15	1月23日(火)	9:00~10:25	池田 真理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> </ul>

科目名 コンサルテーション論

(2単位 15コマ)

科目担当者	○飯岡由紀子、江川 知子 (黒澤 亮子)				
講義概要	看護におけるコンサルテーションの基本的概念を理解し、コンサルテーションの実践を学習する。また、組織変革におけるコンサルタントとしての役割と機能について探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンサルテーションの基本的概念やコンサルタントの役割機能について説明できる。</li> <li>2. 事例分析や模擬コンサルテーションを通してコンサルタントの実践的能力を探求する。</li> <li>3. 組織におけるコンサルテーションの現状と課題を整理することで、組織変革の方向性を検討することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーションと討議、演習				
参考文献	Ann B. Hamric, Charlene M. Hanson : Advanced Practice Nursing An Integrative Approach, 2013				
	Patricia R. Underwood, 勝原裕美子訳(1995) : コンサルテーションの概要—コンサルタントの立場からインターナショナルナーシングレビュー, 18(5):4-12.				
	Schein Edgar H., 稲葉元吉他訳(1999) : プロセス・コンサルテーション, 白桃書房.				
	Lippitt G. & Lippitt K. (1986) : The Consulting Process in Action. La Jolla, CA University Association, California.				
	野末聖香編(2004) : リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために, 医歯薬出版.				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容 (40%)、討議や模擬コンサルテーションへの参加度 (30%)、レポート内容 (30%)				
レポート課題	<p>【コンサルテーションにおいて重視すべきことと自己の課題】を文献を用いて論述しなさい。                  A4用紙にて2000字程度にまとめる。表紙を付けてください。                  提出期限 : 2018年2月2日 (金) 17時まで、学務課前レポートボックス</p>				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	11月16日(木)	13:00~16:00	飯岡由紀子	コンサルテーションの基本的概念 コンサルテーションのタイプとプロセス
	3・4	11月30日(木)		飯岡由紀子	APN : コンサルテーション
	5・6	12月7日(木)		黒澤 亮子	コンサルテーションの実際
	7・8	12月14日(木)		飯岡由紀子	困難事例分析
	9・10	12月21日(木)		飯岡由紀子	困難事例分析
	11・12	1月11日(木)		江川 知子	組織変革におけるコンサルテーション
	13・14	1月18日(木)		飯岡由紀子	模擬コンサルテーション
15	1月25日(木)	13:00~14:25	飯岡由紀子	まとめ (コンサルタントの役割に関するプレゼンテーション)	

## 科目名 看護管理論

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理 (武村 雪絵、孫 大輔)				
講義概要	組織論および組織行動論などの学習を通して、看護管理の可能性と展望についての理解を深める。また、看護実践・看護管理・看護研究の連携の重要性を認識し、実践場面における変革につながる戦略的思考について学修を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理学の基盤となる組織論・組織行動論について理解する。</li> <li>2. 看護管理学における研究について理解する。</li> <li>3. 看護管理者と専門看護師・多職種との連携・協働について理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義の他、指定された文献等を講読し、院生がプレゼンテーションを行い、その内容の共有化を図りながら学習を深化・拡大する。				
参考文献	武村雪絵編集:看護管理に活かすコンピテンシー. メヂカルフレンド社, 2014.				
	中西睦子編集:看護サービス管理. 第4版 医学書院, 2013.				
	Sullivan EJ: Effective Leadership and Management in Nursing (8th Edition), Prentice Hall, 2012.				
	ステファン.P.ロビンス:(高木晴夫監訳)新版. 組織行動のマネジメントー入門から実践へ. ダイヤモンド社, 2009.				
	野中郁次郎:知識創造企業. 東洋経済新報社, 1996.				
成績評価の方法	出席・参加度 50%、講義後のリフレクションレポート 20% 最終レポート 30%				
レポート課題	「看護管理論における学び」 <b>平成29年9月30日(土) 13時までにメール提出</b>				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月11日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・ガイダンス
	2	4月18日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・変革理論
	3	4月25日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・組織開発の理論と実際①
	4	5月2日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・組織開発の理論と実際②
	5	5月9日(火)	9:00~10:25	武村 雪絵	・経営論
	6	5月16日(火)	9:00~10:25	武村 雪絵	・リーダーシップ
	7	5月23日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・プレゼンテーションと討議① (看護管理における研究と実践)
	8	5月30日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・プレゼンテーションと討議② (看護管理における研究と実践)
	9	6月6日(火)	9:00~10:25	孫 大輔	・チーム医療, 多職種連携
	10	6月27日(火)	9:00~10:25	孫 大輔	・医療職と患者とのヘルスコミュニケーション
	11	7月4日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・医療安全
	12	7月11日(火)	9:00~10:25	武村 雪絵	・看護管理の実践
	13	9月5日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・プレゼンテーションと討議① (知識創造と看護)
	14	9月12日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・プレゼンテーションと討議② (知識創造と看護)
15	9月19日(火)	9:00~10:25	池田 真理	・まとめ	

科目名 家族論

(2単位 15コマ)

科目担当者	○泉 真由子				
講義概要	現代社会における家族の実像に迫ることができるよう基礎的な視点について学習する。児童虐待、夫婦間暴力、子どもの非行・いじめなど、現代家族が直面している心理面の諸問題および、看護の領域で生じる具体的な問題を取りあげ、それらを家族システム理論の立場から考える。				
到達目標	家族システム理論の基本的知識を習得し、実際に社会で起こっている現象をその立場からも理解できるようになる。				
講義のすすめ方	講義と各テーマに沿った討論による。				
参考文献	特に指示しない。必要に応じて推薦する。				
成績評価の方法	出席・討論への参加度70%、レポート30%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	10月14日(土)	9:00~10:25	泉 真由子	家族の心理的構造・心理過程
	2		10:25~12:00		夫婦関係の心理
	3		13:00~14:25		親子関係の心理
	4		14:35~16:00		きょうだい関係の心理
	5		16:10~17:35		親子孫-多世代関係の心理
	6	11月11日(土)	9:00~10:25		恋愛と配偶者選択
	7		10:25~12:00		父性・母性
	8		13:00~14:25		児童虐待
	9		14:35~16:00		ドメスティック・バイオレンス
	10		16:10~17:35		子どもの問題(家庭内暴力・自殺・神経症等)
	11	12月9日(土)	9:00~10:25		老年期の問題(老年夫婦の心理的危機・介護問題等)
	12		10:25~12:00		総合まとめ
	13		13:00~14:25		報告と討議(1)
	14		14:35~16:00		報告と討議(2)
15	16:10~17:35		報告と討議(3)		

## 科目名 社会学

(2単位 15コマ)

科目担当者	○諏訪 茂樹				
講義概要	今年度も昨年度に引き続き、臨床の場でのコミュニケーションにテーマを絞る。各種コミュニケーション・アプローチの理論と実際を学習するとともに、コミュニケーションを切り口にして今日の医療現場での人間関係や集団・組織についても考えて行く。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの視点から医療や職場のあり方を理解し、改善・変革していくことができる。</li> <li>2. 各種コミュニケーション・アプローチを理解し、実践できる。</li> <li>3. 各種コミュニケーション・アプローチを相手や場面に応じて使い分けることができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義および演習（体験学習）				
教科書	諏訪茂樹著『看護にいかすリーダーシップ 第2版 -ティーチングとコーチング、場面对応の体験学習』医学書院、2011.				
参考文献	諏訪茂樹著『対人援助とコミュニケーション -主体的に学び、感性を磨く 第2版』中央法規出版、2010.				
	諏訪茂樹著『対人援助のためのコーチング -利用者の自己決定とやる気をサポート』中央法規出版、2007				
	ジョン・ウットモア著、清川幸美訳『はじめのコーチング』ソフトバンククリエイティブ、2003.				
	トリシャ・グリーンハル他編著、斉藤清二他訳『ナラティブ・ベイスト・メディスン -臨床における物語と対話』金剛出版、2001.				
	野口裕二著『ナラティブ・アプローチ』勁草書房、2009.				
成績評価の方法	出席率50%、提出された実践レポート50%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月10日(月)	9:00~10:25	諏訪 茂樹	オリエンテーション
	2	4月10日(月)	10:35~12:00		コミュニケーション-人間関係-集団・組織
	3	4月17日(月)	9:00~10:25		コミュニケーションの理論
	4	4月17日(月)	10:35~12:00		コミュニケーションの実際（演習）
	5	4月24日(月)	9:00~10:25		リーダーシップの理論
	6	4月24日(月)	10:35~12:00		リーダーシップの実際（演習）
	7	5月8日(月)	9:00~10:25		ティーチングの理論
	8	5月8日(月)	10:35~12:00		ティーチングの実際（演習）
	9	5月15日(月)	9:00~10:25		コーチングの理論 I
	10	5月15日(月)	10:35~12:00		コーチングの実際（演習） I
	11	5月22日(月)	9:00~10:25		コーチングの理論 II
	12	5月22日(月)	10:35~12:00		コーチングの実際（演習） II
	13	5月29日(月)	9:00~10:25		ナラティブ・アプローチの理論
	14	5月29日(月)	10:35~12:00		ナラティブ・アプローチの実際（演習）
15	6月5日(月)	9:00~10:25	まとめ、レポート提出		

科目名 人間学

(2単位 15コマ)

科目担当者	○足立 智孝				
講義概要	医療・看護・福祉領域が、総合的で全体的な人間観を要請するようになり、人間をめぐる基本的問題、すなわち人間とは何か、人間はどのように理解されるべきか、人間の抱える苦悩とは何か、人間らしい看護のあり方とは何か、生と死をめぐる諸問題への正しい答えはあるのか等、具体的な問いに改めて取り組む「臨床人間学」の試みが期待されている。この講義では、「ナラティブ・アプローチ」による人間の理解について修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療ナラティブについて説明できる。</li> <li>2. 病者の抱える苦痛ならびに諸問題について人間学的に理解することができる。</li> <li>3. 看護者としての自己を人間学的に省察できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	教科書、講義資料、視聴覚資料を用いてすすめる。				
教科書	柳澤桂子『認められぬ病』 多田富雄『寡黙なる巨人』 V. E. フランクル『夜と霧』 トルストイ『イワン・イリイチの死』 岸本英夫『死を見つめる心』				
参考文献	アーサー・クライマン『病の語り』 ジョイス・トラベルビー『人間対人間の看護』 野口裕二『物語としてのケア』 神谷美恵子『こころの旅』				
成績評価の方法	レポート70%（中間30%、学期末40%）、出席・議論への貢献度30%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月21日(金)	9:00~10:25	足立 智孝	イントロダクション
	2	4月21日(金)	10:35~12:00		ナラティブ・アプローチ
	3	5月12日(金)	9:00~10:25		メディカル・ナラティブ
	4	5月12日(金)	10:35~12:00		病者になること1（柳澤桂子の場合）
	5	6月2日(金)	9:00~10:25		病者になること2（多田富雄の場合）
	6	6月2日(金)	10:35~12:00		病者になること3（鶴見和子の場合）
	7	6月16日(金)	9:00~10:25		ケース・プレゼンテーション1
	8	6月16日(金)	10:35~12:00		ケース・プレゼンテーション2
	9	6月30日(金)	9:00~10:25		苦悩について1（福島智の場合）
	10	6月30日(金)	10:35~12:00		苦悩について2（フランクルの場合）
	11	7月7日(金)	9:00~10:25		死について1（トルストイの場合）
	12	7月7日(金)	10:35~12:00		死について2（キューブラー＝ロスの場合）
	13	7月14日(金)	9:00~10:25		死について3（岸本英夫の場合）
	14	7月21日(金)	9:00~10:25		期末レポート発表1
15	7月21日(金)	10:35~12:00	期末レポート発表2		

科目名 保健統計学

(2単位 30コマ)

科目担当者	○坂田 成輝				
講義概要	実証研究の一環として調査法を中心にデータが収集されることが多くなり、データ解析を進めていく上で統計学は欠かすことができないものとなっている。本講義では、統計学とはいかなるものかを実際のデータを解析していく中で学習してもらおう。具体的には、今までに実施された幾つかの調査のデータを用いて授業中に解析を進めていき、解析結果の解釈まで踏み込みながら統計学の手法を習得してもらおう。また一般的なデータ解析の統計ソフトの使い方も習得してもらおう。修士論文作成に当たって、調査法によるデータ収集をするのであれば必要不可欠な科目となる。なお授業では、パーソナリティ特性に関する調査、ストレスに関する調査で実際に得られたデータを用いることにする。				
到達目標	データ解析の意義を理解する。				
講義のすすめ方	パソコンの画面をスクリーンに映しながら、実際の調査で得られたデータを解析ソフトを用いて解析していき、統計学、さらにはデータ解析のテクニックを習得してもらおう。				
参考文献	鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤順編著『心理学マニュアル質問紙法』北大路書房、1998年 古谷野亘・長田久雄著『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング、1992年				
成績評価の方法	出席状況30%、授業中の課題遂行70%で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月20日(木)	16:10~17:35	坂田 成輝	オリエンテーション
	2	4月27日(木)	16:10~17:35		実証研究とその手順
	3	5月11日(木)	16:10~17:35		調査法の特徴
	4	5月18日(木)	16:10~17:35		調査法の手続き①
	5	5月25日(木)	16:10~17:35		調査法の手続き②
	6	6月1日(木)	16:10~17:35		調査法の手続き③
	7	6月8日(木)	16:10~17:35		調査法の手続き④
	8	6月15日(木)	16:10~17:35		調査データⅠ(パーソナリティ特性)の解析①
	9	6月22日(木)	16:10~17:35		調査データⅠ(パーソナリティ特性)の解析②
	10	6月29日(木)	16:10~17:35		調査データⅠ(パーソナリティ特性)の解析③
	11	7月6日(木)	16:10~17:35		調査データⅠ(パーソナリティ特性)の解析④
	12	7月13日(木)	16:10~17:35		調査データⅠ(パーソナリティ特性)の解析⑤
	13	9月7日(木)	16:10~17:35		調査データⅡ(ストレス)の解析①
	14	9月14日(木)	16:10~17:35		調査データⅡ(ストレス)の解析②
	15	9月21日(木)	16:10~17:35		調査データⅡ(ストレス)の解析③
	16	9月28日(木)	16:10~17:35		調査データⅡ(ストレス)の解析④
	17	10月5日(木)	16:10~17:35		調査データⅡ(ストレス)の解析⑤
	18	10月12日(木)	16:10~17:35		調査データⅡ(ストレス)の解析⑥
	19	10月19日(木)	16:10~17:35		調査データⅡ(ストレス)の解析⑦
	20	10月26日(木)	16:10~17:35		調査データⅡ(ストレス)の解析⑧
	21	11月2日(木)	16:10~17:35		調査データⅢ(ストレス)の解析①
	22	11月9日(木)	16:10~17:35		調査データⅢ(ストレス)の解析②
	23	11月16日(木)	16:10~17:35		調査データⅢ(ストレス)の解析③
	24	11月30日(木)	16:10~17:35		調査データⅢ(ストレス)の解析④
	25	12月7日(木)	16:10~17:35		調査データⅢ(ストレス)の解析⑤
	26	12月14日(木)	16:10~17:35		調査データⅢ(ストレス)の解析⑥
	27	12月21日(木)	16:10~17:35		調査データⅢ(ストレス)の解析⑦
	28	1月11日(木)	16:10~17:35		調査データⅢ(ストレス)の解析⑧
	29	1月18日(木)	16:10~17:35		まとめ
30	1月25日(木)	16:10~17:35	まとめ		

科目名 臨床心理学

(2単位 15コマ)

科目担当者	○松寄 英士				
講義概要	心に問題を抱える人たちに対して、あるいは健康な状態を維持するために臨床心理学とそれに関連する心理学の領域がどのような役割を担ってきているかについて、その歴史、基礎的な考え方、心理臨床におけるアセスメント、さまざまな立場の理論と実践的活動、また臨床心理学を取り囲む最近の幅広い心理学的視点の概要と受講者による講義に関連する自己学習内容の発表をもとにした演習を行う。				
到達目標	臨床心理学の基礎となるさまざまな考え方と臨床心理学を取り囲む最近の幅広い心理学的視点を理解できる。そして、そのさまざまなアプローチの特徴を理解し、看護実践への心理学的知見を応用することの可能性について言及できる。				
講義のすすめ方	前半は担当教員からの解説が中心となるが、後半からは関連するテーマに沿った受講者のプレゼンテーションを基に受講者全員で討論し、看護実践に臨床心理学、健康心理学などの心理学的知見と実践がどのように応用できるのかを考えていきたい。				
教科書	使用しない。授業時必要な資料は毎回配布する。				
参考文献	参考文献等については適時紹介していく。				
成績評価の方法	出席状況(20%)、議論への参加度(30%) プレゼンテーション(50%)で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	6月5日(月)	10:35~12:00	松寄 英士	心理学の歴史と臨床心理学
	2	6月12日(月)	9:00~10:25		臨床心理学の活動
	3	6月12日(月)	10:35~12:00		アセスメント(1:方法)
	4	6月19日(月)	9:00~10:25		アセスメント(2:異常心理学)
	5	6月19日(月)	10:35~12:00		アセスメント(3:発達臨床心理学)
	6	6月26日(月)	9:00~10:25		臨床心理学的介入とは(理論と技法)
	7	6月26日(月)	10:35~12:00		精神分析、分析心理学
	8	7月3日(月)	9:00~10:25		行動療法、認知行動療法
	9	7月3日(月)	10:35~12:00		クライアント中心療法、実存主義的アプローチ
	10	7月10日(月)	9:00~10:25		ナラティブアプローチ、コミュニティモデル
	11	7月10日(月)	10:35~12:00		健康問題への新たな心理学的知見
	12	9月4日(月)	9:00~10:25		プレゼンテーションと討論
	13	9月4日(月)	10:35~12:00		〃
	14	9月11日(月)	9:00~10:25		〃
15	9月11日(月)	10:35~12:00	〃		

\*一部講義日程が変更になる可能性があります。予めご了承ください。

科目名 研究方法（生体・生理学的研究）

(2単位 15コマ)

科目担当者	神山 暢夫、榊 建二郎				
講義概要	＊生理学的研究方法（神山） 英文論文を読み、研究の目的に必要であった方法に注目し、原理を理解する。 得られた結果から述べられている考察の妥当性を検討する。 ＊生化学的研究方法（榊） 英文論文を読み、研究の目的に必要であった方法に注目し、原理を理解する。 得られた結果から述べられている考察の妥当性を検討する。				
到達目標	1. 機能形態学および生化学的研究方法論の基本概念を理解する 2. 実験研究における英文論文の読解力を習得する 3. 実験研究を遂行するために必要な基礎的知識を習得する				
講義のすすめ方	ゼミ形式（日程は応相談）				
参考文献	適宜紹介する				
成績評価の方法	出席15%、レポート85%として評価する				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	8月1日(火)	13:00～14:25	神山 暢夫	研究方法論の概要
	2	8月2日(水)	13:00～14:25	榊 建二郎	英文論文抄読の意義
	3	8月2日(水)	14:35～16:00	榊 建二郎	論文抄読1
	4	8月3日(木)	10:35～12:00	榊 建二郎	論文抄読2
	5	8月3日(木)	13:00～14:25	榊 建二郎	論文抄読3
	6	8月8日(火)	13:00～14:25	榊 建二郎	論文抄読4
	7	8月8日(火)	14:35～16:00	榊 建二郎	論文抄読5
	8	8月9日(水)	10:35～12:00	榊 建二郎	まとめ
	9	8月9日(水)	13:00～14:25	神山 暢夫	論文抄読1
	10	8月10日(木)	13:00～14:25	神山 暢夫	論文抄読2
	11	8月10日(木)	14:35～16:00	神山 暢夫	論文抄読3
	12	8月15日(火)	13:00～14:25	神山 暢夫	論文抄読4
	13	8月15日(火)	14:35～16:00	神山 暢夫	実験研究の概念1
	14	8月16日(水)	13:00～14:25	神山 暢夫	実験研究の概念2
15	8月22日(火)	13:00～14:25	神山 暢夫	まとめ	

\*履修希望者は履修登録を行う前に神山 (kouyama.nobuo@twmu.ac.jp) までメールにて履修希望の旨連絡をしてください。□

\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがあります。

科目名 研究方法（臨床医学的研究）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○ 尾崎 恭子：外科学「周術期の止血機能と血栓予防：予防ガイドライン」 南家 由紀：内科学「核酸代謝と疾患」				
講義概要	(尾崎) 深部静脈血栓症, さらにそれに起因する静脈血栓塞栓症はいったん発生すると重篤な結果を引き起こすことがあり、予防が大切である。周術期の止血機能と血栓の病態について理解し、さらに周術期肺静脈血栓塞栓症の予防の実際について検討する。 (南家) 核酸代謝について理解し、その関連疾患について学ぶ				
到達目標	(尾崎) 「周術期の止血機能と血栓予防：予防ガイドライン」 1. 周術期の止血機能と血栓発生について理解する。 2. エビデンスに基づいたガイドラインについて理解し問題点を提示できる。 3. 周術期肺静脈血栓塞栓症の予防について説明ができる。 (南家) 「核酸代謝と疾患」 1. 核酸の構成成分とは 2. 核酸代謝とは 3. 核酸代謝と疾患の関連				
講義のすすめ方	(尾崎) 1. 周術期の止血機能と血栓の病態 2. 予防ガイドライン 3. 産科領域、整形外科領域における静脈血栓塞栓症の予防 (南家) 1. 核酸とは 2. 核酸代謝について 3. 核酸代謝と疾患の関連について				
参考文献	最新資料、文献を準備することから開始する。				
成績評価の方法	プレゼンテーションの準備40%、内容30%、レポート30%で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	10月13日(金)	17:45~19:10	尾崎 恭子 南家 由紀	オリエンテーション
	2	10月20日(金)	17:45~19:10		最新資料、文献検索の確認
	3	10月27日(金)	17:45~19:10		履修者と相談により内容を決定する。
	4	11月10日(金)	17:45~19:10		
	5	11月17日(金)	17:45~19:10		
	6	11月24日(金)	17:45~19:10		
	7	12月1日(金)	17:45~19:10		
	8	12月8日(金)	17:45~19:10		
	9	12月15日(金)	17:45~19:10		
	10	12月22日(金)	17:45~19:10		
	11	1月5日(金)	17:45~19:10		
	12	1月12日(金)	17:45~19:10		
	13	1月19日(金)	17:45~19:10		
	14	1月26日(金)	17:45~19:10		
15	2月2日(金)	17:45~19:10			

(注1) 教員・受講生との相談の上、上記日程を変更することがある。

(注2) 履修希望者は履修登録前に科目担当者と相談すること。

科目名 先端医療

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小泉 雅子、清水 達也、有賀 淳、村垣 善浩、正宗 賢、山本 俊至、松浦 勝久、岩田 隆紀、中山 正道、秋山 義勝、小林 純、関根 秀一、金井 信雄、武岡 真司、武田 直也				
講義概要	近年、工学的手法やテクノロジーを医学に持ち込み、従来できなかった最先端医療が次々に実現されることとなった。本科目は幅広いテクノロジーと医学の融合によって誕生する最先端医療について解説する。特に、再生医療の発展はめざましく、薬物治療とは異なる効果が期待でき、この治療法について移植法との相違について明確にしながら現状と将来について展望する。また遺伝子診断や画像監視下手術、ロボット手術についても最近の進歩を解説し、今後、大きく変わる最先端医療全体の流れと、診断、治療と手術の将来について講義する。				
到達目標	先端医療技術に関して具体的な例を挙げて説明できる。				
講義のすすめ方	コンピュータを利用したプレゼンテーションと討論により行う。				
参考文献	細胞の分子生物学(第5版) ブルース アルバーツ(ニュートンプレス) 再生医療生物学(現代生物科学入門7) 阿形清和他(岩波書店) バイオマテリアルの基礎 日本バイオマテリアル学会監修(日本医学館) ドラッグデリバリーシステムDDS技術の新たな展開とその活用法 田畑泰彦編(メディカルトゥ) 遺伝医学への招待(改訂第4版) 新川詔夫・阿部京子(南光堂) 細胞社会学 組織工学ライブラリーマイクロロボティクスとバイオの融合3 大和雅之(コロナ社)				
成績評価の方法	出席状況(60%)、学習成果レポート(40%)により評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	10月3日(火)	18:15~19:45	小泉 雅子	オリエンテーション
	2	10月10日(火)	18:15~19:45	清水 達也	再生医療総論、細胞シート工学総論
	3	10月17日(火)	18:15~19:45	秋山 義勝	バイオ界面の構造と機能
	4	10月24日(火)	18:15~19:45	小林 純	組織工学のためのバイオマテリアル
	5	10月31日(火)	18:15~19:45	中山 正道	DDS概論
	6	11月7日(火)	18:15~19:45	武岡 真司	バイオマテリアル:創傷被覆材・癒着防止材・薬物担体
	7	11月14日(火)	18:15~19:45	岩田 隆紀	歯科分野の再生治療
	8	11月21日(火)	18:15~19:45	金井 信雄	消化器領域の再生医療
	9	11月28日(火)	18:15~19:45	関根 秀一	循環器分野の再生医療、心筋再生治療
	10	12月12日(火)	18:15~19:45	松浦 勝久	体性幹細胞・ES細胞・iPS細胞
	11	12月19日(火)	18:15~19:45	正宗 賢	医療機器開発概論
	12	1月9日(火)	18:15~19:45	武田 直也	細胞工学への微細加工技術応用
	13	1月15日(月)	18:15~19:45	村垣 善浩	情報誘導手術、ロボット手術
	14	1月23日(火)	18:15~19:45	有賀 淳	がん免疫療法
	15	1月30日(火)	18:15~19:45	山本 俊至	遺伝子医療

## 科目名 国際コミュニケーション英語演習

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理 (木村みどり)				
講義概要	国際学会における英語による口頭発表の方法を理解し、その準備をする。 外国と日本の社会や文化を相対的にとらえて認識し(思考・判断)、同時に文化発信の能力並びに高いコミュニケーション能力(技能・表現)を備えた、国際社会において看護専門家として主体的かつ積極的に活躍する(態度・志向性)ことができるように学習を進める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語論文攻略のためのリーディング・スキルを身につける。</li> <li>2. 口頭発表のための英文アブストラクトを書くための、ライティング・スキルを身につける。</li> <li>3. 英語によるプレゼンテーション・スキル、コミュニケーション・スキルを身につける。</li> <li>4. 「東アジア看護学研究者フォーラム(EAFONS)」参加に向けて準備を進める。</li> </ol>				
講義のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業は全て英語で行う。</li> <li>2. 看護と英語の教師によるティーム・ティーチングによりキメの細かい指導を行う。</li> <li>3. 課題は授業前週の水曜日までに教員に提出する。</li> <li>4. 課題チェックは、eメールを中心とした指導に重点を置き、教室においては発表指導を中心に行う。</li> <li>5. やってきた課題をもとに、英語で発表したりディスカッションを行う。</li> <li>6. プレゼンテーションのスキルを向上させるために、必ず、同じ課題を2度発表する。(指導を受けた後に再プレゼンテーションを行うことによって、自分の弱点を克服しスキルを向上させることができる。)</li> </ol>				
教科書	「看護英語読解の15のポイント」 メジカルビュー社, 2005.				
参考文献	「看護論文を英語で書く」 医学書院, 2007. その他、必要に応じて随時紹介する。				
成績評価の方法	プレゼンテーションの準備50%、プレゼンテーション50%を成績として評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	5月15日(月)	16:10~19:10	池田 真理 木村みどり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語による自己紹介</li> <li>・オリエンテーション</li> <li>・講義、評価、課題について</li> </ul>
	3・4	5月29日(月)	16:10~19:10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 3 Abstractのプレゼンテーション・講評</li> <li>・プレゼンテーションの基本を学ぶ(DVD)</li> <li>・論文の決まり文句や表現を学ぶ(1)</li> </ul>
	5・6	6月12日(月)	16:10~19:10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 3 再プレゼンテーション・講評</li> <li>・Unit 5 Abstractプレゼン準備</li> <li>・論文の決まり文句や表現を学ぶ(2)</li> </ul>
	7・8	6月26日(月)	16:10~19:10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 5 プレゼンテーション・講評</li> <li>・論文の書き方の基本を学ぶ。(1)</li> </ul>
	9・10	7月10日(月)	16:10~19:10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 5 再プレゼンテーション・講評</li> <li>・論文の書き方の基本を学ぶ。(2)</li> <li>・Unit 8/10 プレゼンテーションの準備</li> </ul>
	11・12	7月24日(月)	16:10~19:10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 8/10 プレゼンテーション・講評</li> <li>・各自の専門の分野のテーマ(学会発表用)の準備</li> </ul>
	13・14	9月4日(月)	16:10~19:10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 8/10 再プレゼンテーション・講評</li> <li>・各自の専門の分野のテーマ(学会発表用)の練習</li> </ul>
	15	9月11日(月)	16:10~17:35		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自のテーマ再プレゼンテーション</li> </ul>

## 科目名 臨床薬理学☆

(2単位 15コマ)

科目担当者	○丸 義朗、尾崎 恭子、田中美恵子、日沼 千尋、中村 (平塚) 佐千枝、塚原富士子、中村 誓子、山本 郁生、深谷 寛、川辺桂太郎、平井 浩二、(小栗 智美)				
講義概要	対象者の健康問題に応じた薬物治療を薬力学的、薬物動態学的見地から理解した上で、専門看護師として、対象者の薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、最良の治療や症状緩和のケアの提供に参画するための知識、技術を習得する。				
到達目標	1. 病態に応じた薬物治療の概要を理解する。 2. 対象の年齢、個人、薬物による薬物動態の相違について理解する。 3. 対象が安全で効果的に薬物療法を継続出来るための専門看護師としての支援を理解する。				
講義のすすめ方	積極的に討論に参加すること 最終レポート課題：「薬剤調整、薬剤管理、指導、生活調整等が必要であった事例をあげ、専門看護師としての看護の可能性を考察しなさい」 提出期限：2018年2月15日(木) 提出方法：科目責任者日沼にメール添付で提出する。メールのタイトルは【臨床薬理学課題-氏名】とする。				
参考文献	今井 正,宮本 英七編(2012):標準薬理学 第7版. 医学書院				
成績評価の方法	レポート70% 授業への出席、参加度30%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	10月2日(月)	16:10~17:35	塚原富士子 日沼 千尋	オリエンテーション・臨床薬理学総論 薬物の作用機序
	2	10月16日(月)	16:10~17:35	塚原富士子	薬効の個人差と対象別(高齢者、妊婦、小児など)の薬物動態
	3	10月23日(月)	16:10~17:35	中村 誓子	抗菌化学療法 (感染症に対する薬物療法、PK-PD)
	4	10月30日(月)	16:10~17:35	山本 郁生	内分泌・代謝系作用薬(糖尿病治療薬)
	5	11月6日(月)	16:10~17:35	深谷 寛	呼吸器系作用薬(喘息・COPD)
	6	11月13日(月)	16:10~17:35	田中美恵子	神経作用薬1(向精神薬)
	7	11月13日(月)	17:45~19:10	田中美恵子	神経作用薬2 (向精神薬を服用する患者の薬物管理と生活調整)
	8	11月20日(月)	16:10~17:35	中村佐千枝	抗悪性腫瘍薬1 (悪性腫瘍に対する薬物療法・免疫抑制剤・免疫療法)
	9	11月20日(月)	17:45~19:10	中村佐千枝	抗悪性腫瘍薬2 (悪性腫瘍に対する薬物療法・免疫抑制剤・免疫療法)
	10	11月27日(月)	16:10~17:35	川辺桂太郎	消化器系作用薬 (便秘、下痢、悪心・嘔吐に対する薬物療法)
	11	12月18日(月)	16:10~17:35	尾崎 恭子	神経作用薬3(鎮痛薬・麻酔薬)
	12	1月15日(月)	16:10~17:35	尾崎 恭子	神経作用薬4(鎮痛薬・麻酔薬)
	13	1月22日(月)	16:10~17:35	平井 浩二	循環器作動薬1(降圧薬、抗不整脈薬)
	14	1月22日(月)	17:45~19:10	平井 浩二	循環器作動薬2(高脂血症治療、抗凝固薬)
15	1月29日(月)	14:35~16:00	三村 千弦	薬物療法を受ける高齢者の薬物管理と生活調整	

## 科目名 フィジカルアセスメント☆

(2単位 23コマ)

科目担当者	○原 三紀子、小泉 雅子、小山 達也、原 美鈴、原沢のぞみ、三浦美奈子、小林 礼実、飯塚あつ子、鈴木香緒理、峯川美弥子、那須美千代、河合 育世、齋藤 登、成宮 孝祐				
講義概要	複雑な健康問題をもった対象の身体・精神状況を診査し、臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィジカルアセスメントの概念・目的・方法・看護における必要性について説明できる。</li> <li>2. 対象者に必要なフィジカルイグザミネーションをシステム別を実施できる。「精神機能」「呼吸器系」「循環器系」「消化器系」「脳神経・運動感覚器系」</li> <li>3. 健康問題をもった対象の身体・精神状況について臨床判断するためにフィジカルアセスメントができる。</li> <li>4. 各専門領域におけるフィジカルアセスメントの応用について考えることができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	事前学習、プレゼンテーション、演習、ディスカッション、課題レポート				
参考文献	福井次矢、奈良信雄編：内科診断学、医学書院、2008年 Steven McGee: マクギーの身体診断学、診断と治療社、2009年 リン S. ビックリー. 他著: ベイツ診察法、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2008年 古川壽亮、神庭重信編集: 精神科診察診断学、医学書院、2003年 ナーシンググラフィカ17 ヘルスアセスメント、MCメディカ出版、2013年 小野田千枝子監修: 実践！フィジカル・アセスメント、金原出版、2001年 横山美樹編集: ヘルスアセスメント、ヌーヴェル ヒロカワ、2008年 Carolyn Jarvis, C.: Physical Examination & Health Assessment (5th Ed.). Saunders, 2008年 藤崎郁: フィジカルアセスメント完全ガイド第2版、Gakken、2012年 三上れつ: ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める、南江堂、2010年 Sharon Jensen: Nursing Health Assessment: A Best Practice Approach Wolters Kluwer / Lippincott Williams & Wilkins, 2011				
成績評価の方法	事前学習・講義・演習・ディスカッション参加状況80%、統合(ディスカッション・プレゼンテーション)10%、課題レポート10%から評価する。				
フィジカルアセスメントの統合について	課題	学習目標・課題と照らし合わせ【講義・演習を通して学んだこと】について共有する(詳細は別途参照)。			
課題レポート	【専門領域における自己の臨床判断能力の現状と今後の課題】 プレゼンテーションおよびディスカッションの内容をふまえ、各自の専門領域においてフィジカルアセスメントをCNSとしてどのように看護実践に活かすことができるか考察し、1500～2000字程度にまとめる(学籍番号、専攻、氏名を明記した表紙をつけること)。				
提出期限	2017年10月6日(金) 17時 提出先: 学務課前レポートボックス				
演習場所	看護学部実習室、スキルラボ室(医療系統合教育学習センター所管) *スキルラボ入室時は学生証を必ず持参すること スキルラボ利用について: 授業以外の利用は原則予約制です。施設・設備が空いていれば、比較的自由に使用でき、フィジカルアセスメントに必要な技術を繰り返し修得することができます。自己学習時の連絡先: 専任事務の鹿野朝秀さんまで ※連絡先TEL: 03-5269-7319 内線: 68170 使用可シミュレータ: ハートシム、セーブマン、SimMam 3G、SimBaby(以上全てACLSシミュレータ)、ベンチレータ、イチロー(心臓病診察シミュレータ)、ラング(呼吸音聴診シミュレータ)、フィジコなど				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	7月27日(木)	9:00～12:00	原 三紀子 鈴木香緒理 那須美千代	I. フィジカルアセスメント概論 【講義】1) フィジカルアセスメントの概念、目的、方法、看護における必要性 2) インタビューング: 面接技法(知識・技能・態度を含む)・健康歴・病歴聴取法 3) システムレビュー 【演習】問診・面接技法の実際
			13:00～14:25		【演習】問診・面接技法の実際
	4～6	7月28日(金)	10:35～12:00	小山 達也 飯塚あつ子	II. 精神機能の診査とアセスメント 【講義】精神機能とは 精神状態のアセスメント/日常生活のアセスメントと臨床判断 【演習】アセスメントの実際 シミュレーションによる技術演習(精神科診断面接)
			13:00～16:00		【演習】アセスメントの実際
	7～8	7月31日(月)	13:00～16:00	三浦美奈子 原 美鈴	III. VI. 消化器系の診査とアセスメント 【講義】消化器系の診査とアセスメントの基本 【演習】アセスメントの実際
	9～12	8月2日(水)	9:00～12:00	小林 礼実 峯川美弥子 小泉 雅子	IV. 呼吸器系/循環器系の診査とアセスメント 【講義】呼吸器系/循環器系の診査とアセスメントの基本 【演習】アセスメントの実際
			13:00～16:00		【演習】アセスメントの実際
	13～16	8月4日(金)	9:00～12:00	原沢のぞみ 河合育世 原 三紀子	V. 脳神経系・感覚器系・運動器系の診査とアセスメント 【講義】脳神経系・感覚器系・運動器系の診査とアセスメントの基本 【演習】アセスメントの実際
			13:00～16:00		【演習】アセスメントの実際
	17～18	8月22日(火)	13:00～16:00	齋藤登	VI. 診察および診断の実際① 【講義】臨床徴候の鑑別診断の進め方、システムレビューの実際 【演習】事例検討
	19～20	8月23日(水)	13:00～16:00	成宮 孝祐	VII. 診察および診断の実際② 【講義】腹痛を訴えた対象者のフィジカルアセスメントと臨床判断 【演習】統合的なアセスメントの実際
21～22	8月28日(月)	13:00～16:00	小泉 雅子 飯塚あつ子	VIII. CNSによるフィジカルアセスメントの実際 【講義】治療を必要とする対象者のフィジカルアセスメント 【演習】アセスメントの実際	
23	8月31日(木)	10:35～12:00	担当者全員 (医師除く)	IX. フィジカルアセスメントの統合 【プレゼンテーション・ディスカッション】 フィジカルアセスメントの学びの共有	

注意) 講義日程の一部が変更となる場合があります。予め、ご了承ください。

## 科目名 病態生理学☆

(2単位 15コマ)

科目担当者	○尾崎 恭子、南家 由紀、小泉 雅子 (荒井 純子)				
講義概要	身体が恒常性を維持する機能の基礎知識を理解した上で、症例をもとに異常をきたす原因、経過、主な症状、治療・処置について学び、今後専門看護師に求められる対象の病態生理学的変化を解釈、判断、実践するために必要な知識と技術について教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>それぞれの形態を理解し、基本的機能について述べることができる。</li> <li>機能異常をきたした疾患の病態生理学的変化を理解し、判断することができる。</li> <li>診断に必要な検査とその意味について知識をもとに説明することができる。</li> <li>それぞれの病態に対する治療並びに処置について説明し、実践に繋げることができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	演習・チュートリアル方式				
参考文献	超ビジュアル病態生理学 監訳 吉岡 俊正 2012年3月 メジカルビュー社				
成績評価の方法	演習・チュートリアルへの参加状況40%、貢献度30%、レポート30%によって評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	10月13日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子 小泉 雅子 南家 由紀	総論
	2	10月20日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子	呼吸障害の原因とメカニズム1)
	3	10月27日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子	呼吸障害の原因とメカニズム2)
	4	11月10日(金)	16:10~17:35	荒井 純子	循環障害の原因とメカニズム1)
	5	11月17日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子	循環障害の原因とメカニズム2)
	6	11月24日(金)	16:10~17:35	荒井 純子	消化・吸収機能障害の原因とメカニズム1)
	7	12月1日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子	代謝・調節機能障害の原因とメカニズム1)
	8	12月8日(金)	16:10~17:35	荒井 純子	消化・吸収機能障害の原因とメカニズム2)
	9	12月15日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子	代謝・調節機能障害の原因とメカニズム2)
	10	12月22日(金)	16:10~17:35	荒井 純子	腎機能障害の原因とメカニズム
	11	1月5日(金)	16:10~17:35	南家 由紀	免疫機能障害の原因とメカニズム
	12	1月12日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子	感覚器の機能障害の原因とメカニズム
	13	1月19日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子	脳・神経機能障害の原因とメカニズム1)
	14	1月26日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子	脳・神経機能障害の原因とメカニズム2)
15	2月2日(金)	16:10~17:35	尾崎 恭子 小泉 雅子	専門看護師に必要な病態生理学の判断と課題	

\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがあります。履修者は初回講義に必ず出席してください。

## 科目名 基礎看護学特論 I

(2単位 15コマ)

科目担当者	○守屋 治代、小宮山陽子				
講義概要	看護師の日々の実践を支える看護観の根底にある自然観と生命観について、掘り下げて省察する。それにより、看護に特有な生命へのアプローチの仕方を明らかにすると同時に、現代の看護が対峙している生命との関わり方の現状や課題について議論する。以上の検討を通じて、対人援助職のなかでも、現代の看護が示しうる独自性・生命への独自のスタンスについて探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然科学の歴史の変遷のなかの自然観を概観する。</li> <li>2. 近代医学の歴史の変遷のなかの生命観を概観する。</li> <li>3. 自然や生命の捉え方と看護との関係について、看護理論および実際の看護場面を通して検討する。</li> <li>4. 現代の看護が示しうる独自性・生命への独自のスタンスについて議論する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	文献講読、レポート				
教科書	特に指定しない				
参考文献	古川雄嗣：看護学生と考える教育学―「生きる意味」の援助のために、ナカニシヤ出版、2016 守屋治代：「看護人間学」を拓く ナイチンゲール看護論を再考して、看護の科学社、2016 澤瀉久敬：医学概論 第二部 生命について、創元社、1949 棚次正和：新人間論の冒険 いのち・いやし・いのり、昭和堂、2015 その他適宜提示する				
成績評価の方法	講義参加20%、レポート内容80%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1			守屋 治代 小宮山陽子	科目ガイダンス
	2・3			小宮山陽子	自然科学の歴史の変遷のなかの自然観
	4・5			小宮山陽子	近代医学の歴史の変遷のなかの生命観
	6・7			守屋 治代 小宮山陽子	自然や生命の捉え方と看護との関係 1 ―ナイチンゲール看護論の場合―
	8・9			守屋 治代 小宮山陽子	自然や生命の捉え方と看護との関係 2 ―看護理論を通して考える―
	10・11			守屋 治代 小宮山陽子	自然や生命の捉え方と看護との関係 2 ―実際の看護場面を通して考える―
	12・13			守屋 治代 小宮山陽子	現代の看護が示しうる独自性 1
14・15			守屋 治代 小宮山陽子	現代の看護が示しうる独自性 2	

## 科目名 基礎看護学特論Ⅱ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○守屋 治代、小宮山陽子、北條 由佳				
講義概要	看護の拠って立つ基盤をナイチンゲール看護論を中心に再考し、「看護人間学」の可能性について検討する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の看護学の到達点を概観する。</li> <li>2. ナイチンゲール看護論における自然と人間の関係を考察する。</li> <li>3. ナイチンゲール看護論における「看護者論」を考察する。</li> <li>4. ナイチンゲール看護論における認識方法を考察する。</li> <li>5. ナイチンゲール看護論から現代の看護実践に示唆していることを述べる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	文献講読、討議				
教科書	守屋治代：「看護人間学」を拓く ナイチンゲール看護論を再考して，看護の科学社，2016				
参考文献	適宜紹介する				
成績評価の方法	講義参加30%、レポート内容70%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1			守屋 治代	ガイダンス
	2・3			守屋 治代	ナイチンゲール看護論に関する先行研究
	4・5			守屋 治代	ナイチンゲール看護論の特質 1
	6・7			守屋 治代	ナイチンゲール看護論の特質 2
	8・9			守屋 治代 北條 由佳	「看護人間学」とはどういうことを目指すか
	10・11			守屋 治代	ナイチンゲール看護論における看護者論
	12・13			守屋 治代 北條 由佳	ナイチンゲール看護論における認識方法
14・15			守屋 治代 小宮山陽子 北條 由佳	ナイチンゲール看護論から現代の看護への継承	

## 科目名 基礎看護学特論Ⅲ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○見城 道子 加藤 京里				
講義概要	「看護覚え書」の講読と看護技術の分析を通して、看護技術の本質・特質・構造への理解を深め、看護技術の意味や価値を再考する。さらに、看護技術研究およびEBNの確立と普及について考察する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の本質・特質・構造への理解を深める。</li> <li>2. 「看護覚え書」の講読を通して日常生活を整える看護技術の意味と価値を説明できる。</li> <li>3. 「病人の観察」をする力および、看護技術の原理原則への理解を深める。</li> <li>4. 看護技術研究およびEBNの確立や普及の現状と課題を述べることができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、文献講読、レポート				
教科書	F. ナイチンゲール（訳/小林・竹内）：看護覚え書 対訳 うぶすな書院				
参考文献	F. ナイチンゲール（訳/湯楨・薄井・小玉他）：看護覚え書 第7版 現代社 F. ナイチンゲール（訳/小玉・尾田）：ノーツ・オン・ナーシング1859 日本看護協会出版会 F. ナイチンゲール（助川）：看護覚え書 決定版 医学書院 その他適宜紹介する				
成績評価の方法	講義参加30%、レポート内容70%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1			見城 道子	ガイダンス：「看護覚え書」の背景と看護学における看護技術
	2・3			見城 道子	看護技術の本質と特質： 安全・安楽・自立とケアサイエンス
	4・5			見城 道子	「看護覚え書」講読
	6・7			見城 道子	「看護覚え書」講読
	8・9			見城 道子	看護技術の構造 1 病人の観察：生活行為の動作分析
	10・11			見城 道子	看護技術の構造 2 看護技術の原理・原則
	12・13			見城 道子 加藤 京里	看護技術研究の文献講読
	14・15			見城 道子	看護技術におけるEBNの確立と普及

## 科目名 基礎看護学特論Ⅳ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○菊池 昭江				
講義概要	看護学教育の基本的課題を理解したうえで、看護教育の指導過程に焦点を当てて、教育・指導のプロセスを理論的に理解し、学習者への効果的な教育過程を探究する。				
到達目標	1. 看護・教育における様々な教育方法について理解を深める。 2. 看護活動における教育・指導プロセスと指導者の役割について理解を深める。 3. 事例に沿った教育計画案を作成し、教育・指導の効果的な方法について検討する。				
講義のすすめ方	講義、学生によるプレゼンテーション				
教科書	特に指定しない				
参考文献	その他適宜紹介する				
成績評価の方法	講義参加30%、レポート内容70%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1			菊池 昭江	ガイダンス
	2・3				看護・教育における教育方法の検討
	4～11				事例に対する効果的な教育・指導方法の立案
	12～15				ロールプレイによる教育・指導の実施，評価まとめ

## 科目名 基礎看護学演習 I

(2単位 30コマ)

科目担当者	○守屋 治代、菊池 昭江、見城 道子、加藤 京里、小宮山陽子、北條 由佳				
講義概要	看護実践における様々な研究的課題を取り上げ、各自の関心と研究課題に応じて、課題探究のプロセスを踏む。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心のある看護実践場面を研究素材化し、そこに内在している問題について、先行研究と解明すべき課題を説明する。</li> <li>2. 取り上げた課題に適した研究方法を探索する。</li> <li>3. 必要に応じて、フィールド調査に出向き、実践的課題の焦点化を行う。</li> </ol>				
講義のすすめ方	文献講読、討議、フィールド調査				
教科書	特に指定しない				
参考文献	適宜提示する				
成績評価の方法	討議内容30%、最終レポート内容70%による				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2			守屋 治代	ガイダンス
	3～5			守屋 治代	看護実践場面の素材化 1
	6～8			守屋 治代	看護実践場面の素材化 2
	9～11			守屋 治代 菊池 昭江 見城 道子 加藤 京里	先行研究調査と課題抽出 1
	12～14				先行研究調査と課題抽出 2
	15～17			小宮山陽子 北條 由佳	研究方法探索
	18～21			守屋 治代	フィールド調査 1
	22～25				フィールド調査 2
	26～28				フィールド調査 3
29・30			守屋 治代 菊池 昭江 見城 道子 加藤 京里 小宮山陽子 北條 由佳	プレゼンテーション・今後の展望	

## 科目名 基礎看護学演習Ⅱ

(2単位 30コマ)

科目担当者	○守屋 治代、菊池 昭江、見城 道子、加藤 京里、小宮山陽子、北條 由佳				
講義概要	看護教育における様々な教育的課題を取り上げ、各自の関心と研究課題に応じて、課題探究のプロセスを踏む。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心のある看護実践場면을研究素材化し、そこに内在している問題について、先行研究と解明すべき課題を説明する。</li> <li>2. 取り上げた課題に適した研究方法を探索する。</li> <li>3. 必要に応じて、フィールド調査に出向き、実践的課題の焦点化を行う。</li> </ol>				
講義のすすめ方	文献講読、討議、フィールド調査				
教科書	特に指定しない				
参考文献	適宜提示する				
成績評価の方法	討議内容30%、最終レポート内容70%による				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2			守屋 治代	ガイダンス
	3～5			守屋 治代	看護実践場面の素材化1
	6～8			守屋 治代	看護実践場面の素材化2
	9～11			守屋 治代 菊池 昭江 見城 道子 加藤 京里 小宮山 陽子 北條 由佳	先行研究調査と課題抽出1
	12～14				先行研究調査と課題抽出2
	15～17				研究方法探索
	18～21			守屋 治代	フィールド調査1
	22～25				フィールド調査2
	26～28				フィールド調査3
29・30			守屋 治代 菊池 昭江 見城 道子 加藤 京里 小宮山 陽子 北條 由佳	プレゼンテーション・今後の展望	

## 科目名 基礎看護学特別研究

(2単位 30コマ)

科目担当者	○守屋 治代
講義概要	学生個々の研究テーマに沿って具体的な方法論および研究内容に関する討議を通して、個々の研究テーマを極める。その過程を通して、自立して研究論文を作成し公表できる能力を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.現在の研究動向を見極め、意義のある研究テーマを設定する。</li> <li>2.研究テーマに基づき、論理的に一貫性のある研究計画を作成する。</li> <li>3.研究計画書を倫理委員会に申請し承認を得る。</li> <li>4.研究計画書に基づき研究を実施し、適切な研究データの収集・分析を行う。</li> <li>5.分析結果を意義深く、論理的かつ説得力のある論文として記述する。</li> <li>6.研究成果の公表の準備を整える。</li> </ol>
講義のすすめ方	プレゼンテーション、ディスカッション等
参考文献	そのつど提示する
成績評価の方法	研究過程、到達度
指導日程	教員により別途指示する。

## 科目名 看護管理学特論 I

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理				
講義概要	看護管理学の基盤となる基本的な概念枠組みと主要理論を学ぶ。組織と其中で仕事をする人間の行動についての理論（組織論・経営論）を活用しながら分析できる能力を身につけ、人を管理する上で学ぶべき知識やパースペクティブを涵養する。				
到達目標	看護管理学の基本となる諸理論や管理プロセスを自己の看護経験と関連させて理解し、明確に述べることができる。 看護管理学のトピックスに関する関連文献の検討に基づき、理論的で分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。				
講義のすすめ方	学生主体の参加型授業をおこなう。看護管理学の基本となる学習テーマごとに担当を決めて関連する文献検討を行い発表をおこなう。担当テーマのコマを参加者全員にとっての学びとなるように授業準備を行い、主体的に運営する。				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	中西睦子編集：看護サービス管理. 第4版 医学書院, 2013. Patricia S. Yoder-Wise : Leading and Managing in Nursing Fifth Edition. Elsevier, 2011. 金井壽宏：リーダーシップ入門. 日本経済新聞出版社, 2005. 佐々木司：ルールがわかれば変わる 看護師の交代制勤務. 看護の科学社, 2011.				
成績評価の方法	毎回の授業への積極的な参加と貢献を評価する。具体的には授業への参加状況（出席20%、発表・発言・リフレクションレポート30%）、担当テーマでの発表内容(30%)、授業準備と運営(20%)				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	4月11日(火)	13:00~16:00	池田 真理	ガイダンス
	3・4	5月9日(火)			看護管理学概論
	5・6	5月23日(火)			組織論
	7・8	6月13日(火)			リーダーシップとマネジメント
	9	7月11日(火)	16:10~17:35		サービスマネジメントと看護
	10・11	7月25日(火)	13:00~16:00		看護における情報管理
	12・13	9月5日(火)			看護提供体制・交代制勤務
	14・15	9月19日(火)			看護専門職と看護コンサルテーション
		看護と医療保険制度・介護保険制度 多職種連携・IPW			

## 科目名 看護管理学特論Ⅱ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理				
講義概要	日本における看護管理、看護制度・政策を多角的に取り上げ、看護と社会システムの関係について探索する。また看護組織の経営および組織プロセスのあり方について探求する。				
到達目標	日本の看護制度・政策の状況について学び、看護の課題について自己の意見を記述することができる。				
	看護組織における人材育成の課題を考え、自己の経験と関連付けて記述することができる。				
	看護職の職場環境の文化、組織文化について洞察し、自分の言葉で記述することができる。				
	社会における看護の位置づけについて高い感度を持ち、看護の課題について自己の考えを記述できる。				
講義のすすめ方	日本における看護管理、看護制度・政策のテーマを多角的に取り上げる。具体的には、学生は各回の授業テーマに関する参考文献をあらかじめ読み、授業に臨み、グループワークや全体討論を通して自身の経験と関連させて学びを深める。 テーマによっては、看護管理や看護政策のテーマに関する第一人者を招いて、視野を広げる講義をおこなう。				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	中西睦子編：看護管理学習テキスト第2版 第7巻 看護制度・政策論。日本看護協会出版会，2015。				
	Thomas Bodenheimer・Kevin Grumbach：Understanding Health Policy. A Clinical Approach, 6th edition, McGraw-Hill Medical, 2012.				
成績評価の方法	毎回の授業への積極的な参加と貢献を評価する。具体的には授業への参加状況（出席25%、発表・発言・リフレクションレポート25%）、最終レポート(50%)				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	4月18日(火)	13:00～16:00	池田 真理	ガイダンス
					看護管理・政策のトピックス
	3・4	5月16日(火)			診療報酬と介護報酬の政策過程
	5・6	5月30日(火)			戦略的組織経営と組織分析
	7・8	6月27日(火)			看護管理における倫理
	9・10	7月18日(火)			組織変革の事例検討
	11・12	8月29日(火)			看護の質と医療安全
	13・14	9月12日(火)			看護における人材育成
15	9月26日(火)	13:00～14:25		まとめ	

## 科目名 看護管理学特論Ⅲ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理				
講義概要	保健医療福祉における制度の仕組みと看護実践の場との関係について焦点を当てて考え、戦略的看護サービスを実践するための看護管理者の役割と課題、将来展望について探求する。				
到達目標	看護管理者に求められる能力についての関連文献を精読し、自分の考えを明確に記述することができる。 学生自身の看護管理能力を、自分自身の経験を省察することを通してアセスメントし、さらに向上しているための課題を明確にすることができる。				
講義のすすめ方	授業テーマについての学生のプレゼンテーションを中心にゼミ形式で行う。				
教科書	ライル・M・スペンサー&シグネ・M・スペンサー (2011) . コンピテンシー・マネジメントの展開 完訳版. 生産性出版.				
参考文献	ステファン.P.ロビンス：(高木晴夫監訳) 新版. 組織行動のマネジメントー入門から実践へ. ダイヤモンド社, 2009.				
	Sullivan EJ: Effective Leadership and Management in Nursing (8th Edition), Prentice Hall, 2012. Jim Collins : Good to Great: Why Some Companies Make the Leap...And Others Don't HarperBusiness, 2001.				
成績評価の方法	授業への参加度(30%)、プレゼンテーション資料(30%)、授業後のリフレクションレポート(10%)、最終レポート(30%)				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	10月10日(火)	13:00～16:00	池田 真理	ガイダンス 看護管理者に求められる能力
	3・4	10月24日(火)			コンピテンシーとは コンピテンシー群 「達成とアクション」
	5・6	11月7日(火)			コンピテンシー群 「支援と人的サービス」
	7・8	11月21日(火)			コンピテンシー群 「インパクトと影響力」
	9・10	12月5日(火)			コンピテンシー群 「マネジメント・コンピテンシー」
	11・12	12月19日(火)			コンピテンシー群 「認知コンピテンシー」
	13・14	1月16日(火)			コンピテンシー群 「個人の効果性」
	15	1月23日(火)			13:00～14:25

## 科目名 看護管理学演習 I

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理				
講義概要	看護管理の先駆的な実践について、既習の理論を活用しながら、その現象を分析できる能力を養う。自らが選択した臨床疑問を看護管理の研究課題へと導き、研究計画立案へとつなげる。				
到達目標	看護管理学における研究課題を設定し、文献検討を行って、課題をより明確に記述することができる。				
	研究課題について、フィールドワークを行うことで、課題に関する理解を深め記述することができる。				
	課題に関する考察を行い、報告書としてまとめることができる。				
講義のすすめ方	履修生の研究課題や関心領域に基づき、演習方法を相談する。				
参考文献	別途提示する。				
成績評価の方法	課題設定(10%)、文献検討(10%)、フィールドワーク(40%)、報告書(40%)				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	9月15日(金)	13:00～16:00	池田 真理	演習課題の設定:研究課題について、トピックス、研究動機、意義、背景、演習方法をまとめる。
	3・4	9月29日(金)			演習課題の設定:上記の文献検討の結果を加筆し、精錬させる。
	5・6	10月20日(金)			演習計画立案:フィールドワーク計画書を作成する。
	7・8	11月17日(金)			演習計画立案:上記を精錬させる。
	9・10	12月15日(金)			フィールドワーク
	11・12	1月12日(金)			フィールドワーク
	13・14	1月26日(金)			フィールドワーク
	15	2月2日(金)	13:00～14:25		フィールドワークの成果発表

## 科目名 看護管理学演習Ⅱ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理				
講義概要	看護管理学関連分野の国内外の先行研究の文献検討を通して、研究領域、研究アプローチとその理論的背景、また研究方法について学ぶ（観察研究、介入研究、質的研究、アクションリサーチ等）。				
到達目標	看護管理学分野を中心に、研究領域、研究アプローチとその理論的背景を知る。				
	看護管理学分野の最近の関心・課題・トピックスを知る。				
	看護管理学の視点から研究課題を明確にする。				
	進行中の研究について批判的に吟味する。				
講義のすすめ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生による発表と討議を中心に進める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究トピックス紹介</li> <li>・文献抄読</li> <li>・各自の研究課題についてのディスカッション</li> </ul> </li> <li>●講義への参加方法 <p>発表者（文献抄読担当者）：発表1週間前までに紹介する論文を参加者全員にメールで送付。「フォーマットに沿って資料を作成。発表当日は文献20分、クリティーク10分程度で発表。</p> <p>発表者（研究報告担当者）：発表の前日までに作成資料を参加者全員にメールで送付（資料はPDF化する）。発表当日は15分程度で発表。</p> <p>参加者：発表当日までに送付された資料を読み、質問を考え、当日は、積極的に発言する。</p> </li> </ul>				
参考文献	ジュディス・ガラード，安部陽子訳：看護研究のための文献レビュー マトリックス方式 医学書院，2012.				
	佐藤郁哉：社会調査の考え方 上・下 東京大学出版会，2015.				
	ロバート K.イン（近藤公彦訳）：ケーススタディの方法. 千倉書房，2014.				
	北素子・谷津裕子：質的研究の実践と評価のためのサブストラクション. 医学書院，2009.				
成績評価の方法	出席・参加度（発表の準備、討議への参加）100%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月15日(土)	10:35~12:00	池田 真理	毎回の3つのトピックスで進める ・文献抄読 ・研究方法の学習会 ・各自の研究課題についてのディスカッション
	2	5月13日(土)	10:35~12:00		
	3・4	6月10日(土)	10:35~14:25		
	5・6	7月8日(土)			
	7・8	9月9日(土)			
	9・10	10月14日(土)			
	11・12	11月11日(土)			
	13・14	12月9日(土)	10:35~12:00		
15	1月20日(土)				

## 科目名 看護管理学特別研究

(2単位 15コマ)

科目担当者	○池田 真理
講義概要	看護管理学特論および演習で学んだことに基に、看護管理学領域における自己の問題意識を研究の問いを立て、方法論的吟味を行い、一連の研究プロセスを踏むことを通して、臨床実践や看護管理教育に貢献できる研究能力の基礎を養う。
到達目標	関心のある領域について自己の考えを理論的に記述し、先行研究のレビューを行い、リサーチクエスチョンを立てることができる。
	研究トピックスを決定し、研究の問いの命題を図式化し、研究デザインの選定をすることができる。
	研究トピックスに適した研究方法を決定し、研究計画を立案し、研究を遂行することができる。
研究のすすめ方	研究結果を修士論文にまとめ、発表（プレゼンテーション）することができる。
	定期的話し合いながら、以下の内容について進めていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の問いの設定</li> <li>・文献レビュー</li> <li>・リサーチ・デザインの策定（理論的枠組み, 仮説, 概念, 変数, 研究方法, 分析単位）</li> <li>・倫理的配慮について</li> <li>・研究計画書の作成、発表</li> <li>・サンプリング・事例選択</li> <li>・データ収集</li> <li>・データ処理・データ分析</li> <li>・論文執筆</li> <li>・修士論文審査会発表準備</li> </ul>
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の方法	修士論文作成過程における到達目標の達成度70%、修士論文審査の評価30%
指導日程	土曜日の10:30～12:00（毎月2回）を原則とするが、内容によって調整する。

## 科目名 看護職生涯発達学特論 I (看護職の生涯発達)

(2単位 15コマ)

科目担当者	○佐藤 紀子、草柳かほる、山口 紀子、多久和善子				
講義概要	実践科学である看護学の特徴を踏まえ、自分と他者とが関与する場において「聴くこと」「語ること」「対話すること」「省察すること」などを通して、その過程で創造される『知』について、理論的かつ実践的に探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「聴くこと」「話すこと」「対話すること」「省察すること」を哲学的な立場から理解する。</li> <li>「聴くこと」「話すこと」「対話すること」「省察すること」をとおして、実践科学である看護学における『知 knowledgeの創造』について理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。必要によって講義形式をとる。				
参考文献	鷺田清一 「聴くことのかー臨床哲学試論」 阪急コミュニケーションズ 1999				
	野口裕二 「物語としてのケア」 医学書院 2002				
	ドナルド・ショーン著 柳沢昌一監訳 「省察的实践とは何か」 鳳書房 2007				
	ドナルド・ショーン著 佐藤学訳 「専門家の知恵」 ゆみ出版 2001				
成績評価の方法	出席・参加度(発表の準備度、討議への参加) 50% レポート 50%				
	「聴くこと、語ること、省察すること」 締切 平成29年9月29日				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	4月10日(月)	13:00～17:35	佐藤 紀子 草柳かほる 山口 紀子 多久和善子	看護職の生涯発達①②看護職と生涯発達
	4・5	5月8日(月)	13:00～16:00		看護職の生涯発達③④聴くこと/語ること
	6・7	5月15日(月)			看護職の生涯発達⑤⑥聴くこと/語ること
	8・9	5月29日(月)			看護職の生涯発達⑦⑧聴くこと/語ること
	10・11	6月19日(月)			看護職の生涯発達⑨⑩省察すること
	12・13	6月26日(月)			看護職の生涯発達⑪⑫省察すること
	14・15	9月25日(月)			看護職の生涯発達⑬⑭⑮省察すること 『知』の創造

## 科目名 看護職生涯発達学特論Ⅱ（看護職生涯発達支援の教育論）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○佐藤 紀子、草柳かほる、松寄 英士、原 美鈴				
講義概要	質の高いケアの提供者を育成するという看護学の観点から、看護基礎教育と継続教育の有機かつ相補的統合を視野に入れながら、学びに関する理論を基盤にして「成人教育（アンドラゴジー）」「教育課程」「教育方法」「教育評価」「教育研究」に関する理論を学修し、さらに新規で独創的な教育計画の開発・実施・評価の方法を探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護基礎教育ならびに看護継続教育の基盤となる学びに関する理論について理解する。</li> <li>2. 看護基礎教育と看護継続教育の有機かつ相補的な統合の意義と可能性について理解する。</li> <li>3. 看護基礎教育ならびに看護継続教育における新規で独創的な教育計画の開発・実施・評価の方法を探究する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。必要によって講義形式をとる。				
参考文献	<p>鷺田清一「聴くことのカー臨床哲学試論」 阪急コミュニケーションズ 1999</p> <p>Malcolm S. Knowles著、堀薫夫訳 「成人教育の現実的実践－ペタゴジーからアンドラゴジーへ」 鳳書房 2002</p> <p>Patricia Cranton著、入江直子訳 「おとなの学びを拓く」 鳳書房 2002</p> <p>ジーン・レイブ著、佐伯胖訳 「状況に埋め込まれた学習－正統的周辺参加－」 産業図書 1993</p> <p>マリー・ミラー著、深谷計子訳 「看護にいかすクリティカルシンキング」 医学書院 2002</p> <p>杉森みど里、舟島なをみ著 「看護教育学（第5版）」 医学書院 2012</p> <p>小山真理子編集 「看護教育のカリキュラム」 医学書院 2000</p> <p>藤岡完治、沢本和子著 「授業で成長する教師（シリーズ・新しい授業を創る）」 ぎょうせい 1999</p> <p>金井壽宏、楠見孝編 「実践知－エキスパートの知性」 有斐閣 2012</p> <p>中井 俊樹 著 「看護現場で使える教育学の理論と技法」 メディカ出版 2014</p> <p>松尾睦著 「「経験学習」入門」 ダイアモンド社 2011</p> <p>Joseph Jaworski著、金井壽宏監修「源泉－知を創造するリーダーシップ」 英治出版 2013</p>				
成績評価の方法	出席・参加度（発表の準備度・内容、討議への参加）100%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	4月17日(月)	13:00～17:35	佐藤 紀子 草柳かほる	看護職生涯発達支援の教育論①②③
	4・5	4月24日(月)	13:00～16:00	原 美鈴	看護職生涯発達支援の教育論④⑤ 新人教育
	6・7	5月26日(金)		原 美鈴	看護職生涯発達支援の教育論⑥⑦ 新人教育
	8・9	6月2日(金)		松寄 英士	看護職生涯発達支援の教育論⑧⑨
	10・11	6月16日(金)		松寄 英士	看護職生涯発達支援の教育論⑩⑪
	12・13	6月30日(金)		松寄 英士	看護職生涯発達支援の教育論⑫⑬
	14・15	9月15日(金)		松寄 英士	看護職生涯発達支援の教育論⑭⑮

## 科目名 看護職生涯発達学特論Ⅲ（個としての看護職と組織）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○佐藤 紀子、草柳かほる、原 三紀子、(平林 明美)				
講義概要	生涯発達理論を基盤とした個々の看護師の生涯発達を軸とし、「組織論」「変革理論」「キャリアデザイン/キャリアカウンセリング」等に関する理論の学修を通し、人を育てる組織の創造とその活用方法について探求する。さらに、看護職生涯発達学研究の方向性と方法について探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「組織論」「変革理論」「キャリアデザイン/キャリアカウンセリング」等の理論について理解する。</li> <li>2. 「安全管理」に関する理論を学修し、そのうえで事故に遭遇した看護師の支援について理解する。</li> <li>3. 人を育てる組織の創造とその活用方法について探求する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。必要によって講義形式をとる。 一部外部特別講師による講義を含む。				
参考文献	P.Benner著、井部俊子監訳：ベナー看護論新訳版、医学書院、2005				
	P.Benner著、難波卓志訳：現象学的人間論と看護、医学書院、1999				
	P.Benner著、井上智子監訳：看護ケアの臨床知、医学書院、2005				
	高橋伸夫著、虚妄の成果主義、日経BP社、2004				
	佐藤紀子：変革期の婦長学、医学書院、1998				
	岡本祐子：アイデンティティ 生涯発達の射程、ミネルバ書房、2002				
	エドガー シャイン著、二村敏子訳：キャリアダイナミックス、白桃書房、1999				
	ステファン.P.ロビンズ（高木晴夫監訳）新版．組織行動のマネジメント～入門から実践へ、ダイヤモンド社、2009				
	ユーリア・エンゲストローム著、山住勝広他訳、拡張による学習、新曜社、2007				
	宮城まり子著、キャリアカウンセリング、駿河台出版社、2002				
渡辺美枝子著：新版キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ、2007					
成績評価の方法	授業への参加度100%（プレゼンテーションの準備度・内容、討議への参加度）				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	6月5日(月)	13:00～17:35	佐藤 紀子	個としての看護職と組織①②③
	4・5	6月12日(月)	13:00～16:00	草柳かほる	個としての看護職と組織④⑤
	6・7	9月4日(月)	13:00～16:00	原 三紀子	個としての看護職と組織⑥⑦
	8・9	9月6日(水)	13:00～16:00	原 三紀子	個としての看護職と組織⑧⑨
	10・11	9月22日(金)	13:00～16:00	草柳かほる	個としての看護職と組織⑩⑪
	12・13	9月29日(金)	13:00～16:00	平林 明美	個としての看護職と組織⑫⑬
	14・15	10月6日(金)	13:00～16:00	平林 明美	個としての看護職と組織⑭⑮

## 科目名 看護職生涯発達学演習 I (『知』の創造)

(3単位 45コマ)

科目担当者	○佐藤 紀子、草柳 かほる、原 三紀子、香川 秀太 (石川 照子、佐藤 円)				
講義概要	学内での演習を通して「聴くこと」「語ること」「省察すること」「パフォーマンスと知識創造」「異文化の理解」を学修し、その後学生が選択したフィールドにおいて、インタビューを通して看護の『知』の創造のプロセスを実践的に探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>自身の課題に添って協力者を募り、「聴くこと」「語ること」「省察すること」を実践的に理解する。</li> <li>「聴くこと」の力、「語ること」によって形成される固有の世界を実践的に理解する。</li> <li>知識創造論と活動理論について理解する。</li> <li>異文化の理解について比較文化学の研究から理解する。</li> <li>フィールドワーク</li> </ol>				
講義のすすめ方	学内演習およびフィールドワーク、プレゼンテーション				
参考文献	別途提示する				
成績評価の方法	授業への参加度100% (プレゼンテーションの準備度・内容、討議への参加度) 出席・参加度 (演習への参加度、フィールドワークの成果とプレゼンテーション) 60% レポート40% 「知の創造－演習を通しての学び－」 締切 平成29年9月30日(木)				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～4	5月31日(水)	9:00～16:00	佐藤 紀子 草柳かほる	学内演習「聴くこと」「語ること」「省察すること」
	5～8	6月14日(水)	9:00～16:00		学内演習「聴くこと」「語ること」「省察すること」
	9～12	6月21日(水)	9:00～16:00	原 三紀子	「聴く」ことに焦点をおいた看護継続教育プログラム
	13～16	6月28日(水)	9:00～16:00	佐藤 紀子 草柳かほる	学内演習「聴くこと」「語ること」「省察すること」
	17～20	7月5日(水)	9:00～16:00		学生の課題に基づいたフィールドワーク
	21～23	7月12日(水)	9:00～16:00		学生の課題に基づいたフィールドワーク
	24～26	7月14日(金)	13:00～17:35	香川秀太	パフォーマンスと知識創造
	27～30	7月21日(金)	13:00～17:35	香川秀太	パフォーマンスと知識創造
	31～34	9月13日(水)	9:00～16:00	佐藤 紀子 草柳かほる	学生の課題に基づいたフィールドワーク
	35～37	9月20日(水)	13:00～17:35		学生の課題に基づいたフィールドワーク
	38～41	9月27日(水)	9:00～16:00		プレゼンテーションと討議
	42～43	10月20日(金)	13:00～16:00	石川 照子	異なる性の共生の可能性
44～45	10月27日(金)	13:00～16:00	佐藤 円	異なる人種・民族の共生の可能性	

## 科目名 看護職生涯発達学演習Ⅱ（看護職生涯発達支援プログラムの開発）

(3単位 45コマ)

科目担当者	○佐藤 紀子、草柳かほる (小川 美咲、水谷 桂子、鈴木真由美、杉浦 光枝、遠藤 敏子、高柴 律子、古都 昌子)				
講義概要	学生が同僚性の中で支援可能な看護職者に焦点を当てた看護職生涯発達支援プログラムを作成し、実施、評価の過程を学修するとともに、看護職生涯発達学における質的研究手法について学修する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定の状況にあると考えられる看護職者に焦点を当て、看護職生涯発達支援プログラムを作成することができる。</li> <li>2. 作成したプログラムに基づき、研修を実践し評価することができる。</li> <li>3. 以上の演習を通して「看護職の生涯発達支援プログラム」についてその可能性を述べることができる。</li> <li>4. 看護職生涯発達学における質的研究について実践的に理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学内演習およびフィールドワーク				
参考文献	別途提示する				
成績評価の方法	出席・参加度（演習への参加度、フィールドワークの成果とプレゼンテーション）100%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～4	10月4日(水)	9:00～16:00	佐藤 紀子 草柳かほる	看護職生涯発達支援プログラムの作成
	5～8	10月11日(水)	9:00～16:00		看護職生涯発達支援プログラムの作成
	9～12	10月18日(水)	9:00～16:00		看護職生涯発達支援プログラムの作成
	13～16	10月25日(水)	9:00～16:00		フィールドワーク①
	17・18	11月1日(水)	13:00～16:00	新井麻紀子 佐久間和幸	看護職生涯発達学における質的研究①
	19・20	11月8日(水)	9:00～12:00	小川 美咲 門田 容子	看護職生涯発達学における質的研究②
	21・22	11月29日(水)	13:00～16:00	古都 昌子	看護職生涯発達学における質的研究③
	23・24	12月6日(水)	13:00～16:00	佐藤 紀子 草柳かほる	フィールドワーク②
	25～29	12月13日(水)	9:00～17:35		フィールドワーク③
	30～33	12月20日(水)	9:00～16:00		フィールドワーク④
	34～37	1月17日(水)	9:00～16:00		フィールドワーク⑤
	38～41	1月24日(水)	9:00～16:00		フィールドワーク⑥
42～45	2月21日(水)	9:00～16:00	プレゼンテーションと討議		

## 科目名 看護職生涯発達学特別研究

(8単位)

科目担当者	○佐藤 紀子				
講義概要	看護職生涯発達学特論および演習で学修した知見から特定のテーマを選択し、その研究過程を通して看護職生涯発達学に寄与する基礎的研究能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心のある領域について自身の考えを論理的に記述し、先行研究をクリティークし、研究テーマを焦点化することができる。</li> <li>2. 研究目的を記述し、目的を達成するための方法論を選択し、その根拠を記述することができる。</li> <li>3. 研究計画書を書式に添い作成し、倫理委員会ならびに研究科委員会に提出し、審査を受ける。</li> <li>4. 研究計画書に添い実施データ収集し、分析し、結果・考察を論理的に記述し、論文を完成させる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	定期的なゼミおよび個人面接によって進める				
参考文献	指定せず。				
成績評価の方法	研究の過程での取り組みの状況および特別研究の達成度 100%				
日程	1年次	毎週火曜日	I限	9:00～10:25	(1コマ) 通年
	2年次	毎週火曜日	III～V限	13:00～17:35	(3コマ) 通年

科目名 クリティカルケア看護学特論 I (危機とストレスに関する科目)

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小泉 雅子				
講義概要	クリティカルケア状況下にある患者・家族を理解し、看護ケアを行うための基盤となる概念・理論を探求する。				
到達目標	クリティカルケア状況下にある患者・家族を理解し、看護ケアを行うための基盤となる概念・理論を概説し、臨床での適用について説明できる。				
講義のすすめ方	プレゼンテーション、討議				
参考文献	寺町優子, 井上智子, 深谷智恵子編: クリティカルケア看護—理論と臨床への応用 日本看護協会出版会, 2010.				
	小島操子・佐藤禮子編集: 危機状況にある患者・家族の危機の分析と看護介入 (事例集) フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の危機モデルより, 金芳堂, 2011.				
	ドナ・C.アギユラ著: 小松源助, 荒川義子訳: 危機介入の理論と実際/医療・看護・福祉のために, 東京, 川島書店, 1997.				
	Karen Carlson (ed) AACN Advanced Critical Care Nursing: 1ed, Elsevier, 2009.				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容 (35%)、討議への参加度 (30%)、レポート内容 (35%)				
レポート課題	【クリティカルケアにおける理論とその適用】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	4月11日(火)	13:00~16:00	小泉 雅子	クリティカルケア看護学概要 (☆)
	3・4	4月18日(火)			クリティカル状況下にある患者・家族の心理 (☆)
	5・6	4月25日(火)			ストレスコーピング (☆)
	7・8	5月9日(火)			危機理論 (☆)
	9・10	5月16日(火)			トータルペイン、症状マネジメント (☆)
	11・12	5月23日(火)			チーム医療 (☆)
	13・14	5月30日(火)			家族看護 (☆)
15	6月6日(火)	13:00~14:25		まとめ (☆)	

(☆) がん看護学特論 I との合同講義

科目名 クリティカルケア看護学特論Ⅱ (代謝病態生理学に関する科目)

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小泉 雅子、小川 洋司、志賀 剛、鈴木 豪、相野田祐介、川俣 貴一、土谷 健、貞廣 智仁、有泉 俊一、久保 豊、小川 朝生 (小谷 透、井上 信明)				
講義概要	クリティカル状況下にある患者の病態および身体侵襲に対する生体反応を学習し、クリティカルケア看護のための基礎的知識を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカル状況下にある患者の循環器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、消化器疾患、多臓器不全の病態を理解し、説明できる。</li> <li>2. クリティカル状況下にある患者の身体侵襲における代謝系・内分泌系の生体反応および治療管理を理解し、説明できる。</li> <li>3. 手術または外傷による身体侵襲における生体反応、治癒過程および治療管理を理解し、説明できる。</li> <li>4. クリティカル状況下にある小児および高齢者の特徴的な病態を理解し、説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーションなど				
参考文献	別途提示				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容 (30%)、講義・討議への参加度 (35%)、レポート内容 (35%)				
レポート課題	【特論Ⅱで学んだ代謝病態生理の知識を活用し、クリティカル状況下にある患者の過去の事例を使用したアセスメント】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月13日(木)	13:00~14:25	小谷 透	急性呼吸不全の病態生理
	2	4月20日(木)	13:00~14:25	志賀 剛/ 鈴木豪	ショックの病態生理
	3	4月27日(木)	13:00~14:25	山口 淳一	急性循環不全・急性冠症候群の病態生理
	4	5月11日(木)	13:00~14:25	志賀 剛/ 鈴木豪	全身性炎症反応症候群 (SIRS) ・多臓器不全の病態生理
	5	5月18日(木)	13:00~14:25	相野田祐介	クリティカルケア領域における感染の病態生理
	6	5月25日(木)	13:00~14:25	川俣 貴一	脳血管障害の病態生理
	7	6月1日(木)	13:00~14:25	土谷 健	急性腎不全の病態生理
	8・9	6月8日(木)	13:00~16:00	貞廣 智仁	手術または外傷による身体侵襲に対する生体反応および治癒過程と治療管理
	10	6月15日(木)	13:00~14:25	有泉 俊一	消化器系疾患(肝不全、膵炎汎発性腹膜炎)の病態生理
	11	6月22日(木)	13:00~14:25	貞廣 智仁	急性薬物中毒の病態生理と治療管理
	12	7月6日(木)	13:00~14:25	久保 豊	クリティカル状況下にある高齢者の病態生理
	13	7月13日(木)	13:00~14:25	小川 朝生	急性脳機能不全(せん妄)・認知症・うつ病の病態生理
	14	11月24日(金)	13:00~14:25	井上 信明	クリティカル状況下にある小児の病態生理 (★)
	15	11月29日(水)	13:00~14:25	小泉 雅子	まとめ (課題)

(★) 小児看護学演習Ⅲと合同講義

科目名 クリティカルケア看護学特論Ⅲ(治療管理に関する科目)

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小泉 雅子、山口 淳一、芹澤 直紀、南 雄一郎、相野田祐介、川俣 貴一、土谷 健、貞廣 智仁、谷澤 武久、山田 卓司、久保 豊、小川 朝生、(井上 信明、小谷 透)				
講義概要	クリティカル状況下にある患者に対する治療内容を理解し、患者・家族を中心とした看護を行うための基礎的知識を学ぶ。				
到達目標	1. クリティカル状況下にある患者の循環管理、呼吸管理、脳組織循環管理、体液・栄養管理、感染管理を説明できる。 2. クリティカル状況下にある小児および高齢者の治療管理を説明できる。				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーションなど				
参考文献	別途提示				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容(30%)、講義・討議への参加度(35%)、レポート内容(35%)				
レポート課題	【患者を中心とした治療管理に対する考察】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月13日(木)	14:35~16:00	小谷 透	急性呼吸不全の治療管理
	2	4月20日(木)	14:35~16:00	芹澤 直紀/ 南 雄一郎	ショックの治療管理
	3	4月27日(木)	14:35~16:00	山口 淳一	急性循環不全・急性冠症候群の治療管理
	4	5月11日(木)	14:35~16:00	芹澤 直紀/ 南 雄一郎	全身性炎症反応症候群(SIRS)・免疫不全・多臓器不全の治療管理
	5	5月18日(木)	14:35~16:00	相野田 祐介	クリティカルケア領域における感染管理
	6	5月25日(木)	14:35~16:00	川俣 貴一	脳血管障害の治療管理
	7	6月1日(木)	14:35~16:00	土谷 健	急性腎不全の治療管理
	8	6月15日(木)	14:35~16:00	谷澤 武久	消化器系疾患(肝不全、膵炎、汎発性腹膜炎)の治療管理
	9	6月22日(木)	14:35~16:00	山田 卓司	輸液管理の基礎知識
	10・11	6月29日(木)	13:00~16:00	山田 卓司	クリティカル状況下にある患者の輸液管理・栄養管理
	12	7月6日(木)	14:35~16:00	久保 豊	クリティカル状況下にある高齢者の治療管理
	13	7月13日(木)	14:35~16:00	小川 朝生	急性脳機能不全(せん妄)・認知症・うつ病の治療管理
	14	11月24日(金)	14:35~16:00	井上 信明	クリティカル状況下にある小児の治療管理(★)
	15	11月29日(水)	14:35~16:00	小泉 雅子	まとめ(課題)

(★) 小児看護学演習Ⅲと合同講義

科目名 クリティカルケア看護学特論Ⅳ(看護援助に関する科目Ⅲ)

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小泉 雅子、佐藤 憲明、 (小谷 透、白川 睦美、櫻井 裕之、花田 正子、中村 香代、堀部 達也)				
講義概要	クリティカルケア期における患者の全人的な苦痛を理解し、人間としての尊厳を保持し、チームによる心理的・社会的支援を行うための看護ケアについて学ぶ。				
到達目標	1. クリティカルケアにおける重要な看護モデルを説明できる。 2. クリティカル状況下における患者の苦痛を包括的に理解し、身体的・心理的・社会的な支援を行うための看護ケアを説明できる。				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーションなど				
参考文献	別途提示				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容(30%)、講義・討議への参加度(35%)、レポート内容(35%)				
レポート課題	【クリティカル状況下の患者に対する包括的ケアとは】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	6月13日(火)	13:00~16:00	小泉 雅子	クリティカルケア領域における看護モデル(Synagy modelなど)
	3・4	6月20日(火)	13:00~16:00	小谷 透	人工呼吸器管理(人工呼吸器関連イベント、離脱など)
	5・6	6月27日(火)	13:00~16:00	白川 睦美	熱傷患者の看護
	7・8	7月4日(火)	13:00~16:00	佐藤 憲明	低体温・循環管理
	9	7月11日(火)	13:00~14:25	櫻井 裕之	クリティカルケア領域における創傷治療・管理
	10	7月11日(火)	14:35~16:00	花田 正子	クリティカルケア領域における創傷看護
	11・12	7月18日(火)	13:00~16:00	中村 香代	災害看護
	13・14	7月25日(火)	13:00~16:00	堀部 達也	クリティカルケア領域におけるリハビリテーション(PICS/ICU-AW)
	15	7月27日(木)	13:00~14:25	小泉 雅子	まとめ

科目名 クリティカルケア看護学特論Ⅴ(看護援助に関する科目Ⅱ)

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小泉 雅子、小林 礼実、岡部 祥、山崎 千草、山中 源治、遠藤奈津美、(始関千加子、松石 和也)				
講義概要	クリティカルな状況で治療を受ける患者およびその家族の治療の選択と自由の問題について、価値観の相違による葛藤状況を適切に認識し、患者および家族の人権擁護の立場で倫理的問題解決ができるための理論的基礎を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルな状況にある患者に対する専門看護師の倫理調整の役割について述べることができる。</li> <li>2. 日本の法律および判例からみた患者の権利について理解し、よりよいインフォームド・コンセントのあり方について考察することができる。</li> <li>3. 自己決定困難な患者における倫理的問題について説明できる。</li> <li>4. 移植医療をめぐる倫理的課題と、倫理調整について説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーションなど				
参考文献	伏木信次他：生命倫理と医療倫理，改訂3版，金芳堂，2014.				
	シリーズ生命倫理学編集委員会編：シリーズ生命倫理学3 脳死・移植医療，丸善，2012.				
	シリーズ生命倫理学編集委員会編：シリーズ生命倫理学12 先端医療，丸善，2012.				
	若杉長英，白倉良太他：コーディネーターのための臓器移植概説，日本医学館，2007.				
	寺町優子，井上智子，深谷智恵子編：クリティカルケア看護—理論と臨床への応用，日本看護協会出版会，2010.				
	その他、別途提示				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容(30%)、講義・討議への参加度(35%)、レポート内容(35%)				
レポート課題	【クリティカルな状況にある患者の倫理調整(過去の事例を用いて)】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	9月7日(金)	13:00~14:25	小泉 雅子	医療倫理・クリティカルケア看護における倫理
	2	9月7日(金)	14:35~16:00	岡部 祥	生体腎移植における倫理的問題、移植コーディネーターの実践事例
	3・4	10月6日(金)	13:00~16:00	松石 和也	法律および判例からみた患者の権利とインフォームド・コンセント(*)
	5・6	9月21日(金)	13:00~16:00	山崎 千草	専門看護師の倫理調整の役割と実践事例/救急医療における倫理的問題
	7・8	9月28日(金)	13:00~16:00	始関千加子	終末期における倫理的問題、倫理調整/安楽死と尊厳死
	9・10	10月6日(金)	13:00~16:00	小林 礼実	自己決定困難な患者における倫理的問題
	11・12	10月13日(金)	13:00~16:00	山中 源治	移植医療サービス・補助人工心臓装着における倫理的問題と専門看護師の役割
	13・14	10月19日(木)	9:00~12:00	遠藤奈津美	脳死判定・心臓移植における倫理的問題と移植コーディネーターの機能・役割(★)
	15	10月20日(金)	13:00~14:25	小泉 雅子	クリティカルな状況にある患者に対する専門看護師の倫理調整の役割および事例検討

(\*) 小児看護学特論Ⅲ・がん看護学と合同講義

(★) 小児看護学演習Ⅱと合同講義

科目名 クリティカルケア看護学演習I (フィジカルアセスメント)

(2単位 25コマ)

科目担当者	○小泉 雅子、峯川美弥子、日沼 千尋、関森みゆき、櫻田 章子、佐藤 憲明、山中源治、(始関千加子)				
講義概要	クリティカルケア期における生理学的変化を理解し、フィジカルアセスメントの方法を学び、臓器の機能不全がある患者の状態および生活行動・機能回復の状況を、事例を通してアセスメントする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルケア領域におけるフィジカルアセスメントについて説明できる。</li> <li>2. 栄養状態が及ぼす全身状態への影響を理解し、アセスメントすることができる。</li> <li>3. 呼吸不全のある患者、循環不全のある患者、多臓器不全状態・ショック状態ある患者、脳血管障害のある患者、クリティカル状況下にある小児および高齢者のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションについて説明・実施できる。</li> <li>4. クリティカル状況下にある患者のフィジカルアセスメント及び臨床判断が実施できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーション、演習、事例検討など				
参考文献	別途提示				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容 (35%)、講義・討議・演習への参加度 (35%)、レポート内容 (30%)				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	5月11日(木)	9:00~12:00	日沼 千尋	小児のフィジカルアセスメントの視点 (事前学習) (★)
	3~5	5月17日(水)	13:00~17:35	日沼 千尋	小児のフィジカルアセスメントの視点 (報告) (★)
	6~8	6月21日(水)	13:00~17:35	関森みゆき 櫻田 章子	急性状況にある子どものアセスメント1 (病棟実習) (★)
	9・10	6月28日(水)	13:00~16:00	関森みゆき 櫻田 章子	急性状況にある子どものアセスメント2 (報告) (★)
	11・12	9月5日(火)	13:00~16:00	佐藤 憲明	脳血管障害のアセスメント
	13・14	9月12日(火)	13:00~16:00	佐藤 憲明	外傷のアセスメント
	15・16	9月19日(火)	13:00~16:00	小泉 雅子	呼吸不全にある患者のアセスメント
	17・18	9月26日(火)	13:00~16:00	山中 源治	循環不全にある患者のアセスメント
	19・20	10月4日(水)	13:00~16:00	始関千加子	多臓器不全・ショック状態の患者のアセスメントと患者ケア
	21・22	10月11日(水)	13:00~16:00	小泉 雅子	事例を用いた臨床判断 (☆)
	23	10月18日(水)	13:00~14:25	小泉 雅子 峯川美弥子	呼吸不全または循環不全のある患者のアセスメントと患者ケア (演習)
	24	10月18日(水)	14:35~16:00	小泉 雅子 峯川美弥子	呼吸不全または循環不全のある患者のアセスメントと患者ケア (演習)
25	10月25日(水)	13:00~14:25	小泉 雅子	まとめ：クリティカル状況下にある患者のアセスメント、臨床判断と患者ケア	

(★) 小児看護学演習 I と合同講義

(☆) がん看護学演習 III と合同講義

科目名 クリティカルケア看護学演習Ⅱ(看護援助に関する科目Ⅰ)

(2単位 24コマ)

科目担当者	○小泉 雅子、小林 礼実、(中村由美子、白川 睦美、藤井 淳子)				
講義概要	クリティカル状況下にある患者およびその家族を心身統一体として捉え、ケアとキュアを融合した看護介入の方法を学ぶ。				
到達目標	1. クリティカル状況下にある患者・家族の全人的苦痛について説明できる。 2. クリティカル状況下にある緩和ケアについて説明できる。 3. ペインコントロール、鎮静・せん妄時のケア、代替補完治療について説明できる。				
講義のすすめ方	講義、グループワークなど				
参考文献	別途提示				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容(35%)、講義・討議・演習への参加度(30%)、レポート内容(35%)				
レポート課題	【クリティカルケアにおける緩和ケア】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1~5	7月8日(土)	9:00~17:35	中村由美子	子どもと家族のアセスメントと支援(家族への介入と評価) (★)
	6・7	10月27日(金)	13:00~16:00		緩和ケアの歴史と現状、全人的苦痛 (☆)
	8・9	11月10日(金)	13:00~16:00	白川 睦美	クリティカル状況下における緩和ケア
	10・11	11月17日(金)	13:00~16:00	白川 睦美	クリティカル状況下におけるペインコントロール
	12・13	11月24日(金)	13:00~16:00	小林 礼実	クリティカル状況下におけるComfort理論
	14・15	12月1日(金)	13:00~16:00	藤井 淳子	家族看護学
	16・17	12月8日(金)	13:00~16:00	藤井 淳子	クリティカルケア領域における家族看護の実際
	18・19	12月15日(金)	13:00~16:00	小泉 雅子	鎮静、せん妄ケア
	20・21	12月22日(金)	13:00~16:00	小泉 雅子	事例を用いたEnd of Life Care、遺族ケア (☆)
	22・23	1月12日(金)	13:00~16:00	小泉 雅子	クリティカルケアにおける困難事例分析 (☆)
24	2月2日(金)	13:00~14:25	小泉 雅子	まとめ (☆)	

(★) 小児看護学演習Ⅰと合同講義

(☆) がん看護学演習Ⅲと合同講義

科目名 クリティカルケア看護学演習Ⅲ(看護援助に関する科目Ⅳ) ☆

(2単位 23コマ)

科目担当者	○小泉 雅子、小林 礼実、峯川美弥子、山中 源治、山崎 千草、山内 典子、大友 陽子、(長縄 拓哉、藤井 淳子、藤野 智子)				
講義概要	生命の危機にある患者とその家族に対する身体的・心理的状況を把握し、専門看護師として実践する力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカル状況下にある患者・家族への看護管理および看護ケアにおける近年の動向と課題について説明できる。</li> <li>2. クリティカルケアにおけるCNSの役割について説明できる。</li> <li>3. クリティカルケアの環境を理解し、治療環境のコーディネート、専門看護師間の協働について説明できる。</li> <li>4. クリティカルケアにおける効果的なチーム医療のあり方について説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーション、演習など				
参考文献	別途提示				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容(30%)、講義・討議・演習への参加度(40%)、レポート内容(30%)				
レポート課題	【クリティカルケアにおける専門看護師の役割とチーム医療】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	10月12日(木)	9:00~12:00	大友 陽子	小児看護における感染対策と専門職種間の協働(★)
	3	11月8日(水)	13:00~14:25	小泉 雅子	クリティカルケアにおけるCNSの役割
	4・5	11月15日(水)	13:00~16:00	藤野 智子	クリティカルケアにおける専門看護師の教育的活動
	6	11月22日(水)	13:00~14:25	長縄 拓哉	クリティカルケアにおける歯科・口腔のアセスメントと治療・ケア
	7	11月22日(水)	14:25~16:00	小泉 雅子	呼吸不全にある患者へのアセスメントと看護ケア
	8	12月6日(水)	13:00~14:25	山中 源治	循環不全にある患者へのアセスメントと看護ケア
	9	12月6日(水)	14:35~16:00	藤井 淳子	クリティカルケアにおける家族のアセスメントと看護ケア
	10・11	12月13日(水)	13:00~16:00	山崎 千草	最新の救急医療、救急処置、救急患者の看護管理および看護ケア
	12・13	12月20日(水)	13:00~16:00	藤野 智子	クリティカルケアにおける協働(コラボレーション)
	14・15	12月27日(水)	13:00~16:00	山内 典子	クリティカルケアにおけるリエゾン精神看護専門看護師との連携
	16・17	1月19日(金)	14:35~17:35	小泉 雅子 峯川美弥子	サブスペシャリティ領域におけるチーム医療(演習)
	18・19	1月26日(金)	13:00~16:00	小泉 雅子 峯川美弥子	サブスペシャリティ領域におけるチーム医療(演習)
	20・21	2月9日(金)	13:00~16:00	小泉 雅子 小林 礼実 峯川美弥子	EBNに基づく看護介入(文献検討)(☆)
22・23	2月16日(金)	13:00~16:00	小泉 雅子 小林 礼実 峯川美弥子	EBNに基づく看護介入(文献検討)(☆)	

(★) 小児看護学演習Ⅱと合同講義

(☆) がん看護学演習Ⅴと合同講義

科目名 クリティカルケア看護学実習Ⅰ ☆

(1単位)

科目担当者	○小泉 雅子、小林 礼実、峯川美弥子
実習概要	急性・重症患者看護専門看護師として活動するために必要な【ケアとキュアを融合した高度な看護実践】について、実習を通して探求する。
到達目標	1. 急性・重症患者看護専門看護師の役割や実際の活動を見学することを通して、専門看護師の役割を理解する。 2. クリティカルケア看護学実習Ⅱ・Ⅲに向けた自己の課題を明確にできる。
実習場所	東京女子医科大学病院
実習内容	1. 急性・重症患者看護専門看護師に同行し、急性・重症患者看護専門看護師としての諸活動が行われている場への主体的な参加を通し、その役割と機能を理解する。 2. 急性・重症患者看護専門看護師に必要な知識・技術・態度について見学・体験を通して学習する。 3. 実習終了時、急性・重症患者看護専門看護師とカンファレンスを行い、1)・2)の内容について検討し、課題を見出す。
記録	【急性・重症患者看護専門看護師の役割と機能と、それに向けた自己の課題】（実習後） *実習後レポートは、文献を用いて考察すること。
成績評価の方法	実習への参加状況・態度20%、課題の達成度とレポート80%を総合的に評価する。
実習日程	2018年3月4日（月）～3月9日（金）の5日間 1限～4限

科目名 クリティカルケア看護学実習Ⅱ

(6単位)

科目担当者	○小泉 雅子、小林 礼実、峯川美弥子、山崎 千草、山中 源治	
実習概要	クリティカルケア看護学領域における専門看護師としての看護活動を展開するために必要な能力を習得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカル状況下にある患者に対して的確な知識と技術で身体的状態についてアセスメントし、危機的状況を回避する看護介入が実践できる。</li> <li>2. 患者の心身の苦痛のアセスメントと、それを緩和するための適切なケアが実践できる。</li> <li>3. 看護スタッフから相談を受け、治療環境を総合的に評価し、クリティカルケアの質向上のための指導を行うことができる。</li> <li>4. クリティカル期にある患者とその家族の尊厳を守り、倫理的問題に対処することができる。</li> </ol>	
実習場所	東京女子医科大学病院	
実習内容	実践	クリティカル状況下にある患者を少なくとも2名入院から退院まで受け持ち、患者・家族に対してケアとキューアを融合した高度な看護を実践する。
	相談	実践を行う中で、看護スタッフからのコンサルテーションを受ける場面を意図的に持ち、既習の理論を用いその内容を分析し、可能な範囲でのコンサルテーションを行う。
	調整	受持ちの患者のケアが円滑に提供されるために、医師・薬剤師・看護スタッフなどの保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーションについて考究する。
	教育	教育的機能を果たすために、看護スタッフに実践のモデルを提示する。また、実践した看護について発表し、看護スタッフに分析のモデルを提示する。さらに看護スタッフに対して勉強会等を開催する。
	倫理調整	倫理的な感受性を高め、倫理的葛藤が生じている場面について、その調整方法について考える。可能であれば指導者とともその場の倫理調整を行う。
	研究	専門的知識・技術の向上や開発、ケアシステムの改善を図るために、実践の場における課題を見出し、クリティカルケア領域で必要とされる臨床研究について考究する。
レポート	受け持ち患者に関するケースレポート：2例 実践・相談・教育・調整・倫理調整の場面のレポート2例程度 (「CNS認定の手引き 看護実績報告書作成・提出」に準じてレポートを作成する)	
レポート課題	【急性・重症患者看護専門看護師の役割とチーム医療に関する考察と今後の課題】	
成績評価の方法	実習への参加状況・態度20%、課題の達成度とレポート80%を総合的に評価する。	
実習日程	2018年6月中旬～ 10月下旬まで(6週間) 1限～4限	

科目名 クリティカルケア看護学実習Ⅲ☆

(3単位)

科目担当者	○小泉 雅子、小林 礼実、峯川美弥子、山崎 千草、山中 源治、佐藤 憲明 (白川 睦美)
実習概要	自身が今後専門として深めていきたいサブスペシャリティー（救命、ICUなど）において、急性・重症患者看護専門看護師が果たすべき役割を理解・実践する。
到達目標	1. クリティカル状況下にある患者・家族の全人的な苦痛を緩和するために、ケアとキュアを融合した高度な看護実践を提供することができる。 2. 急性・重症患者専門看護師とともに相談、調整、教育、研究、倫理調整などの専門看護師としての役割を実践することができる。
実習場所	東京女子医科大学病院、日本医科大学付属病院のいずれか
実習内容	1. サブスペシャリティー(救命、ICUなど)において、複雑な看護問題を有する患者を受け持ち、エビデンスに基づき、ケアとキュアを融合した高度な看護を実践する。 2. 急性・重症患者専門看護師とともに、相談、調整、教育、研究、倫理調整などの専門看護師としての役割を実践する。
記録	クリティカルケアケースレポート クリティカル状況下にある患者とその家族の対応を必要とした問題を挙げ、問題の経過、ケアとキュアを融合した高度な看護実践、分析、評価について述べる。
成績評価の方法	実習への参加状況・態度20%、課題の達成度とレポート80%を総合的に評価する
実習日程	2018年5月中旬～（3週間） 1限～4限

科目名 クリティカルケア看護学課題研究

(2単位)

科目担当者	
講義概要	講義、演習、実習で学習した知識と技術をもとに、研究的視点からクリティカルケア看護におけるテーマを見出し、系統的な文献検討を行うことで、実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.自ら取り組むべき課題研究テーマを見出すことができる。</li> <li>2.必要な文献を系統的に収集し、テーマに関する研究動向を把握できる。</li> <li>3.収集した文献をクリティークし、エビデンスを把握し、総説論文としてまとめることができる。</li> <li>4.看護への示唆を導き、臨床適用について検討できる。</li> <li>5.課題研究における研究の限界を認識し、自己評価できる。</li> <li>6.論文の作成・発表を通して、自らの課題研究結果を伝え、看護上の提言ができる。</li> </ol>
研究のすすめ方	ゼミ形式と個人面接による。
参考文献	適宜提示する。
成績評価の方法	課題への取り組み方および論文内容により総合的に判断する。
指導日程	毎週水曜日 3限 (13:00~14:25) (1コマ) 通年 以上を原則とするが、進捗状況および内容によって調整する。
指導概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検討とは、その方法について。</li> <li>・研究課題の探求と設定、研究意義の明確化。</li> <li>・系統的文献収集とクリティーク。</li> <li>・結果の記述、論理的考察、論文作成。</li> <li>・論文発表。</li> </ul>

科目名 クリティカルケア看護学特別研究

(8単位)

科目担当者	
講義概要	クリティカルケア看護学特論および演習で得た知見をもとに、クリティカルケア看護学領域における課題を追求し研究テーマを見出す。研究のプロセスを通してクリティカルケア看護実践やクリティカルケア看護教育の発展に寄与する基礎的研究能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.クリティカルケア看護研究の動向と今後の課題について概説できる。</li> <li>2.自ら取り組むべき研究テーマを見出し、研究計画書を作成できる。</li> <li>3.対象者への倫理的配慮に基づいたデータ収集を行う。</li> <li>4.収集したデータを適切に分析できる。</li> <li>5.信頼性と妥当性のある結果を導くことができる。</li> <li>6.論理的で一貫性のある考察ができる。</li> <li>7.看護への示唆を導き、臨床適用について検討できる。</li> <li>8.特別研究における研究の限界を認識し、自己評価できる。</li> <li>9.論文の作成・発表を通して、自らの研究内容を伝え看護・教育上の提言ができる。</li> </ol>
研究のすすめ方	研究活動に対するグループ討議、および個人面接によって進める。
参考文献	適宜提示する。
成績評価の方法	取り組みの過程と研究達成度
指導日程	毎週水曜日 3・4限 (13:00～16:00) 2コマ 通年 毎週土曜日 1・2限 (9:00～12:00) 2コマ 通年

科目名 **がん看護学特論Ⅰ（基礎的概念と理論）**

(2単位 15コマ)

科目担当者					
講義概要	がん看護の基盤となる主要理論・概念ならびにその活用について探求する。				
到達目標	がん患者とその家族を理解し、看護ケアを行うための基盤となる概念・理論を概説し、臨床での適用について説明できる。				
講義のすすめ方	プレゼンテーション、討論				
参考文献	Joanne K. Itano, Karen N. Taoka Ed. / 小島操子, 佐藤禮子監訳：がん看護コアカリキュラム, 医学書院, 2008.				
	アルバート・バンデューラ / 本明寛, 野口京子監訳：激動社会の中の自己効力, 金子書房, 1997.				
	ドナ・C. アギュララ / 小松源助, 荒川義子訳：危機介入の理論と実際 医療・看護・福祉のために, 川島書店, 1997.				
	小島操子, 佐藤禮子編：危機状況にある患者・家族の危機の分析と看護介入一事例集 フィンク / コーン / アグイレラ / ムース / 家族の危機モデルより, 金芳堂, 2011.				
	小杉正太郎編著：ストレス心理学, 川島書店, 2005.				
	リチャード S. ラザルス, スーザン・フォルクマン / 本明寛, 春木豊, 織田正美監訳：ストレスの心理学—認知的評価と対処の研究, 実務教育出版, 2004.				
	Connie Henke Yarbrow, Margaret Hansen Frogge, Michelle Goodman Eds. : CANCER SYMPTOM MANAGEMENT Third Edition, CHAPTER1, p.3-14, Jones and Bartlett, 2004.				
	田村由美編著：新しいチーム医療, 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門, 看護の科学社, 2012.				
	細田満和子：「チーム医療」とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ, 日本看護協会出版会, 2012.				
	その他、別途提示する。				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容（40%）、討議への参加度（30%）、レポート内容（30%）				
レポート課題	【がん看護における理論とその適用】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2				がん看護学概論（☆）
	3・4				がんと共に生きる患者・家族の心理
	5・6				ストレスコーピング（☆）
	7・8				危機理論（☆）
	9・10				トータルペイン、症状マネジメント（☆）
	11・12				チーム医療（☆）
	13・14				家族看護（☆）
	15				まとめ：がん看護の基盤となる主要理念・概念およびその活用（☆）

(☆) クリティカルケア看護学特論Ⅰとの合同講義

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学特論Ⅱ（病態生理と診断・治療）**

(2単位 15コマ)

科目担当者					
講義概要	がんに関する分子生物学、遺伝子学を含む病態生理学を学び、診断・治療に関する基礎的知識を習得し、がん看護に関連した専門的知識を探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 癌の病理学的概念、発癌のメカニズム、発癌リスクと予防、がんの疫学等について概説できる。</li> <li>2. 各種がんの病態生理について理解し、診断と治療過程の概要について説明できる。</li> <li>3. がんを取り巻く免疫環境について理解し、診断と治療への応用について説明できる。</li> <li>4. がん治療に関する基礎的知識を基に、診断・治療過程における看護師の役割について考察できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、討議				
参考文献	佐藤隆美, 藤原康弘, 古瀬純司他編：What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド, 南山堂, 2009.				
	笹野公伸他編：シンプル病理学 改訂6版, 南江堂, 2010.				
	Ian F. Tannock and Richard P, Hill著：がんのベーシックサイエンス 4版（日本語版3版）, メディカルサイエンスインターナショナル, 2006.				
	その他、別途提示する。				
成績評価の方法	講義・討議への参加度（50%）、レポート内容（50%）				
レポート課題	【がんの診断・治療過程におけるがん看護専門看護師の役割】学務課前レポートボックス				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2				がんの疫学、発がんリスクと予防
	3・4				呼吸器系腫瘍の病態生理と診断・治療
	5・6				造血器腫瘍の病態生理と診断・治療
	7・8				脳神経系腫瘍の病態生理と診断・治療
	9・10				ヒト悪性腫瘍の免疫環境と診断・治療
	11・12				乳腺/内分泌系腫瘍の病態生理と診断・治療
	13・14				事前課題
	15				まとめ（治療経過におけるCNSの役割）

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学特論Ⅲ（治療過程・症状緩和のための援助論）**

(2単位 15コマ)

科目担当者					
講義概要	治療過程における意思決定支援のための知識・技術を習得する。 苦痛緩和・症状マネジメントのための知識・技術を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診断および治療過程における患者および家族の権利を踏まえた意思決定の支援について説明できる。</li> <li>2. 苦痛緩和・症状マネジメントについて説明できる。</li> <li>3. がんと共に生きる人の苦痛・苦悩について説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーション、討論、演習				
参考文献	<p>中山和弘，岩本貴編：患者中心の意思決定支援—納得して決めるためのケア，中央法規，2012.</p> <p>田村恵子編：がん患者の症状マネジメント，Gakken，2002.</p> <p>日本癌治療学会編：制吐薬適正使用ガイドライン2010年5月【第1版】，金原出版，2011.</p> <p>日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会編：がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン2011年版，金原出版，2011.</p> <p>日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会編：がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン2011年版，金原出版，2011.</p> <p>その他、別途提示する。</p>				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容（30%）、講義・討議・演習の状況（35%）、レポート内容（35%）				
レポート課題	【がんと共に生きる人への看護における現状と課題】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2				病名診断、治療選択、病状説明、予後告知における患者・家族への看護
	3・4				治療過程におけるがん患者および家族の意思決定支援
	5・6				身体症状緩和のためのマネジメント 疼痛・呼吸困難他
	7・8				身体症状緩和のためのマネジメント 悪心・嘔吐、便秘他
	9・10				がんの診断、治療選択、がんと共に生きる人の理解（演習）
	11・12				がんの診断、治療選択、がんと共に生きる人の理解（演習）
	13・14				法律および判例からみた患者の権利とインフォームドコンセント*
15				まとめ：演習の発表	

\*小児看護学特論Ⅲ、クリティカルケア看護学特論Ⅴと合同講義

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学特論Ⅳ（がんリハビリテーション看護）**

(2単位 15コマ)

科目担当者					
講義概要	がん治療によってもたらされる身体の器質的・機能的な変化に対して、身体・心理・社会的な働きかけ、生活の再構築およびQOLを促進する援助を探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がんリハビリテーションの概念と必要な支援を説明できる。</li> <li>2. 治療や病状の変化に伴って生じる障害とその影響（ボディイメージの障害やセクシュアリティなど）について説明できる。</li> <li>3. 生活の再構築に向けたセルフケア能力向上のための援助が説明できる。</li> <li>4. がんサバイバーについて理解し、必要な支援について説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーション、討論				
参考文献	アメリカがん協会編／高橋都，針間克己訳：がん患者の〈幸せな性〉－あなたとパートナーのために，春秋社，2002.				
	長谷川まりこ：がん患者のセックス，光文社，2010.				
	近藤まゆみ，嶺岸秀子編著：がんサバイバーシップ がんとともに生きる人びとへの看護ケア，医歯薬出版，2006.				
	辻哲也編：がんのリハビリテーションマニュアル，医学書院，2011.				
	その他、別途提示する。				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容（30％）、講義・討議への参加度（35％）、レポート内容（35％）				
レポート課題	【がん患者の生活の再構築に向けた援助の現状と課題】学務課前レポートボックス				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2				がんリハビリテーションについてセルフケアの概念と理論の活用
	3・4				がんサバイバーへの支援（社会復帰支援、経済的問題への対処も含め）
	5・6				生活の再構築に向けた、がん患者への心理的支援
	7・8				ボディイメージ・自己概念の変容および生活の再構築を支える援助
	9・10				セクシュアリティに関する課題と援助
	11・12				シームレス医療における退院調整部門の看護師の役割と課題
	13・14				在宅療養するがん患者のQOL向上を促す援助
15				まとめ：生活の再構築に向けたセルフケア能力を高めるための支援	

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学特論Ⅴ（がん予防・早期発見）**

(2単位 15コマ)

科目担当者					
講義概要	がんおよびがん再発の予防・早期発見における支援・教育方法のための知識・技術を習得する。 がん患者および家族の心理・社会的課題に対する支援のための知識を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がんおよびがん再発の予防・早期発見のための支援・教育に関して説明できる。</li> <li>2. がん患者および家族の心理・社会的課題に対する支援に関して説明できる。</li> <li>3. 批判的な思考に基づき、エビデンスの高い看護介入を検討することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーション、討議、演習				
参考文献	フランシス・S・コリンズ／矢野真千子：遺伝子医療革命，NHK出版，2011. 中村清吾編著：遺伝性乳がん・卵巣がんの基礎と臨床，篠原出版新社，2012. 中込弥助：絵でわかる ゲノム遺伝子DNA，講談社，2011. 千代豪昭監修：遺伝カウンセラーのために臨床遺伝学講義ノート，オーム社，2010. その他、別途提示する。				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容（35％）、講義・討議・演習への参加度（35％）、レポート内容（30％）				
レポート課題	【がん医療における看護の現状と課題（社会情勢、政策などをふまえて）】 学務課前レポートボックス				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2				がん予防・社会的支援の文献的検討
	3・4				自治体におけるがん予防・早期発見に向けた取り組み（演習）
	5・6				がん相談、がん看護外来の現状と課題
	7・8				がん医療における家族看護
	9・10				がん医療における遺伝看護
	11・12				EBNに基づく看護介入（文献検討）（☆）
	13・14				EBNに基づく看護介入（文献検討）（☆）
	15				まとめ：がん患者および家族の心理社会的課題への支援

（☆）クリティカルケア看護学演習Ⅲと合同講義

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学演習Ⅰ（がん薬物療法看護）**

(2単位 23コマ)

科目担当者					
講義概要	がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行い、治療の継続および治療中の生活の質を高めるために必要な看護を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん薬物療法における薬物動態と薬理作用について概説できる。</li> <li>2. 薬物療法における有害事象の発生機序、予防と対処について説明できる。</li> <li>3. がん薬物療法を行う患者および家族への支援について説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーション、演習				
参考文献	アメリカがん協会編：抗がん剤ガイド，ブレーン出版，2005.				
	濱口恵子他編：がん患者の在宅療養サポートブック，日本看護協会出版会，2007.				
	大西和子他編：がん看護学-がんの治療と看護，ヌーベルヒロカワ，2011.				
	日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会編：苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン2010年版，金原出版，2010.				
	日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会編：終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン2013年版，金原出版，2013.				
	日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会編：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン2014年版，金原出版，2014.				
	その他、別途提示する。				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容（30%）、講義・討議・演習の状況（40%）、レポート内容（30%）				
レポート課題	【がん薬物療法を受けている患者および家族への看護】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2				がん薬物療法における看護
	3・4				外来における化学療法看護
	5・6				がん薬物療法における薬物動態と薬理作用の基礎
	7・8				抗がん剤の有害事象のアセスメントとケア
	9・10				疼痛緩和の薬物動態と薬理作用 副作用予防・緩和のためのアプローチ
	11・12				ペインコントロール
	13・14				事例を用いたがん薬物療法看護
	15・16				ペインコントロールの現状と課題（演習）
	17・18				ペインコントロールの現状と課題（演習）
	19・20				外来における化学療法看護 外来薬剤部との連携、抗がん剤の取り扱い（演習）
	21・22				演習の発表（事例検討）
23				まとめ：がん薬物療法看護	

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学演習Ⅱ（緩和ケア）**

(2単位 23コマ)

科目担当者					
講義概要	がん患者および家族の苦痛・苦悩を包括的に理解し、緩和ケアやEnd of Life Careやグリーフケアを基盤とした包括的な看護を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん患者および家族の苦痛・苦悩の包括的な理解について説明できる。</li> <li>2. 緩和ケアにおけるチーム医療について説明できる。</li> <li>3. 緩和ケアにおける倫理調整について説明できる。</li> <li>4. End of Life Care、グリーフケアを概説できる。</li> <li>5. End of Life Careにおいて、その人らしく生きるための看護について説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義、プレゼンテーション、討論				
参考文献	バリー・R・キャシレス／浅田仁子，長谷川淳史訳：代替医療ガイドブック，春秋社，2005.				
	東原正明，近藤まゆみ：緩和ケア，医学書院，2003.				
	恒藤暁：最新緩和医療学，最新医学社，2007.				
	その他、別途提示する。				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容（35%）、講義・討議・演習への参加度（30%）、レポート内容（35%）				
レポート課題	【がん患者および家族への緩和ケアの現状と課題】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2				緩和ケアの歴史と現状、全人的苦痛（☆）
	3・4				緩和医療の現状（緩和ケアチームの役割と機能）
	5・6				緩和ケアチームにおけるCNSの役割と機能
	7・8				がん看護におけるリエゾン精神専門看護師との連携
	9・10				漢方医学各論（がん治療における漢方の取り組み、漢方の視点による緩和ケア）
	11・12				代替補完治療、リラクゼーション、統合医療、免疫療法などに関する文献検討（☆）
	13・14				緩和ケアにおける倫理調整
	15・16				事例を用いた倫理調整（☆）
	17・18				End of Life Care、遺族ケア
	19・20				事例を用いたEnd of Life Care、遺族ケア（☆）
21・22				困難事例分析（☆）	
23				まとめ（☆）	

(☆) クリティカルケア看護学演習Ⅱと合同講義

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学演習Ⅲ（がん看護におけるアセスメント（臨床推論））☆**

(2単位 23コマ)

科目担当者					
講義概要	がん治療過程で特有な身体症状および精神心理的苦痛に関する専門的知識を深め、エビデンスに基づく的確な臨床判断を探求し、その知識と技術を習得する。				
到達目標	1. がん治療過程で特有な身体症状および精神心理的苦痛についてエビデンスをもとに説明できる。 2. 身体・精神症状および精神心理的苦痛を全人的視点からアセスメントし、臨床判断できる。				
講義のすすめ方	講義、討論、演習				
参考文献	Holland J.C., Breitbart W.S., Jacobsen P.B., Lederberg M.S., Loscalzo M.J., McCorkle R., Eds, Psycho-Oncology, 2ed., Oxford University Press, New York, 2010.				
	Chochinov H.M. & Breitbart W. (Eds), Handbook of Psychiatry in Palliative Medicine, Oxford University Press, New York, 236-264.				
	明智龍男：がんとこころのケア，サイコオンコロジーの実践から，NHKブックス，2003.				
	日本サイコオンコロジー学会教育委員会監修：緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門，医薬ジャーナル社，2010.				
	内富庸介，小川朝生編：精神腫瘍学，医学書院，2011.				
	内富庸介，小川朝生，大西秀樹編：サイコオンコロジーを学びたいあなたへーがん患者の心のケア こんなときどうする？一歩進んだケアにつながる16事例，文光堂，2011.				
	野口善令，福原俊一：誰も教えてくれなかった診断学 患者の言葉から診断仮説をどう作るか，医学書院，2009.				
	石松伸一監修：実践につよくなる看護の臨床推論 ケアを決めるプロセスと根拠，学研，2014.				
成績評価の方法	プレゼンテーション資料・発表内容（30％）、講義・討議・演習の状況（40％）、レポート内容（30％）				
レポート課題	【がん看護専門看護師としての臨床判断能力の現状と課題】				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2				がん医療における画像診断（XP、CT、MRIなど）
	3～5				1. 精神心理・社会的問題とがん罹患・生存率に関する疫学 2. 精神腫瘍学の研究、ガイドライン 3. がんに関連する医療倫理と法・制度 精神腫瘍学と連携システム・教育・研修の現状 4. がん患者にみられる精神症状と病態、治療の判断と効果的介入：不眠、適応障害、うつ病、せん妄、認知症、自殺念慮
	6～8				薬剤による精神神経症状の理解とケア：抗精神病薬、ステロイド、オピオイド、ベンゾジアゼピン系抗不安薬・睡眠薬による精神神経症状、cancer brain終末期における全人的支援・鎮静
	9・10				身体症状の発現機序とフィジカルアセスメント（消化器症状、骨転移）
	11・12				身体症状の発現機序とフィジカルアセスメント（呼吸器症状）
	13・14				特定の身体症状の発現機序とフィジカルアセスメント（病棟演習）
	15・16				特定の身体症状の発現機序とフィジカルアセスメント（病棟演習）
	17・18				外来診療における臨床判断（外来演習）
	19・20				外来診療における臨床判断（外来演習）
	21・22				事例を用いた臨床判断（☆）
23				まとめ：がん看護における臨床判断	

(☆) クリティカルケア看護学演習Ⅰと合同講義

科目名                   がん看護学実習Ⅰ

(1単位)

科目担当者	
実習概要	がん看護専門看護師の諸活動が実践されている場への主体的な参加を通し、がん看護専門看護師としての役割や機能を発揮するために必要な知識・技術・態度について体験的に学習する。
目的	がん看護専門看護師としての役割や機能を発揮するために必要な知識、技術、態度について体験的に学習し、専門看護師の役割を担うための自己の今後の課題を明らかにする。
到達目標	1. がん看護専門看護師に求められている役割と機能の概要について説明できる。 2. 専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にできる。
実習内容	1. がん看護専門看護師に同行し、がん看護専門看護師としての諸活動が行われている場への主体的な参加を通し、その役割と機能を理解する。 2. がん看護専門看護師に必要な知識・技術・態度について見学・体験を通して学習する。 3. がん看護専門看護師とカンファレンスを行い、1・2の内容について検討し、自己の課題を見いだす。
実習日程	5日間 1限～4限
実習場所と指導者	がん研有明病院（CNS花出正美）など
レポート課題	【がん看護専門看護師の役割と機能と、それに向けた自己の課題】（実習後） *実習後レポートは、文献を用いて考察すること。
成績評価の方法	実習の参加度・態度20%、課題の達成度とレポート80%を総合的に評価する。

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学実習Ⅱ**

(5単位)

科目担当者		
実習概要	がん看護専門看護師に必要とされている「実践」「教育」「相談」「調整」「研究」「倫理調整」の役割の基礎を果たせるように実践を通して修得し、自己の課題を明確にする。また、他職種とのチーム医療の中で専門看護師の役割開発や、医療チームのあり方について学ぶ。	
目的	がん看護専門看護師に必要とされている「実践」「教育」「相談」「調整」「研究」「倫理調整」の役割の基礎を果たせるように実践を通して修得し、自己の課題を明確にする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習病棟のシステムや医療職者間のダイナミックスを把握し、医療職者との協力的援助関係を築くことができる。</li> <li>2. 臨床において、「実践」「相談」「教育」「調整」「倫理調整」「研究」を行い、実践的基礎能力を習得する。</li> <li>3. 病棟と在宅療養の連携のための在宅支援推進室の役割や医療チームのあり方やについて説明できる。</li> <li>4. 実践的基礎能力の評価を基に、自己の課題を明確にできる。</li> </ol>	
実習内容	実践	がん専門分野の中のサブスペシャリティの領域において、最低2名の患者を受け持ち、個人・家族または集団に対して高度な看護を実践する。特に、医学的治療介入に関する特定の医行為については、医師の指導のもとに臨床判断やスキルを磨く。
	相談	がん専門分野において実践を行う中で、看護チームのメンバーからのコンサルテーションを受ける場面を意図的に持ち、既習の理論を用いその内容を分析し、可能な範囲でのコンサルテーションを行う。
	調整	がん専門分野において、特に受け持ち患者のケアが円滑に提供されるために、医師・薬剤師・看護メンバーなどの保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションについて考究する。
	教育	がん専門分野における教育的機能を果たすために、がん専門分野のサブスペシャリティの領域において受け持った患者について、病棟実習中は可能な限り看護師に実践のモデルを提示する。また、患者のケースをまとめ、行った看護について発表する機会を持ち、看護師に分析のモデルを提示し省察の機会を提供する。機会があればサブスペシャリティについて看護師とともに勉強会等を開催する。
	研究	がん専門分野において、専門的知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における課題を見だし、がん看護分野で必要とされる臨床研究について考究する。また、病棟が取り組んでいる実践報告・症例報告および研究に対して、可能な範囲で助言・アドバイスを行い、研究遂行に貢献する。
	倫理調整	がん専門分野において倫理的な感受性を高め、倫理的葛藤が生じている場面について、その調整方法について考える。可能であれば指導者と共にその場の倫理調整を行う。
実習日程	25日間 1限～4限	
実習場所と指導者	東京女子医科大学病院（飯岡由紀子、CNS三村直美、化学療法・緩和ケア科診療部長 林和彦医師） 東京都立駒込病院（CNS新井敏子）など	
レポート課題	受け持ち患者に関するケースレポート：2例 実践・相談・教育・調整・倫理調整の場面のレポート2例 （「CNS認定の手引き 看護実績報告書作成・提出」に準じてレポートを作成する） 【がん看護専門看護師の役割とチーム医療に関する考察と今後の課題】	
成績評価の方法	実習への参加状況・態度20%、課題の達成度とレポート80%を総合的に評価する。	

※今年度は開講いたしません。

科目名 **がん看護学実習Ⅲ（緩和ケア病棟）**

(2単位)

科目担当者	渡邊 直美 CNS
実習概要	症状緩和を必要としている患者・家族に対して、緩和ケア病棟においてトータルペインの視点から包括的なケアを実践する能力を習得する。また、リソースを活用して看護を展開する能力を修得する。更に、End of Life Careやグリーフケアの実践を学ぶ。
目的	症状緩和を必要としている患者・家族に対して、緩和ケア病棟においてトータルペインの視点から包括的なケアを実践する能力を習得する。また、リソースを活用して看護を展開する能力を修得する。更に、End of Life Careやグリーフワークの実践を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 苦痛症状や苦悩をトータルペインの視点から包括的に理解することができる。</li> <li>2. 症状緩和を必要としている患者・家族に対して、トータルペインの視点から包括的なケアを実践することができる。</li> <li>3. 最期の時をその人らしく生きるための支援や遺族ケアを実践することができる。</li> </ol>
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある対象者あるいは緩和ケアを必要としている対象者を受け持ち、トータルペインの視点から包括的なケアを実践する。</li> <li>2. 多職種や緩和ケアチームとの連携やチーム医療におけるメンバーの役割を担う。</li> <li>3. 機会があればデスカンファレンスや遺族へのグリーフケアの実際について学ぶ。</li> </ol>
実習日程	10日間 1限～4限
実習場所と指導者	緩和ケア病棟
レポート課題	担当したケースレポート 1例 【緩和ケアにおける高度な実践能力と、それに対する自己の課題】
成績評価の方法	実習への参加状況・態度20%、課題の達成度とレポート80%を総合的に評価する。

科目名 **がん看護学実習Ⅳ（在宅訪問看護実習）☆**

(2単位)

科目担当者	
実習概要	在宅療養中のがん患者・家族に適切な看護を実践する。また、医療チームとの連携のあり方や医療連携を推進することのできる地域医療コーディネーターとしての役割について学ぶ。更に、実習を通して在宅がん看護実践における自己の課題を明確にする。
目的	在宅療養中のがん患者・家族に適切な看護を実践する。また、医療チームとの連携のあり方や医療連携を推進することのできる地域医療コーディネーターとしての役割について学ぶ。更に、実習を通して在宅がん看護実践における自己の課題を明確にする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養中のがん患者・家族の生活を理解し、適切な看護を実践する。</li> <li>2. 在宅ホスピスにおける生活を理解し、適切な看護を実践する。</li> <li>3. 医療連携チームの一員として、がん看護専門看護師としての役割や課題を明確にできる。</li> <li>4. 地域あるいは行政に対する訪問看護ステーションの提言を通して、地域におけるがん看護専門看護師としての役割を認識できる。</li> </ol>
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護への同行および実践を通して、療養中のがん患者・家族への看護を追求する。</li> <li>2. 在宅ホスピスにおける看護実践を通して、ホスピスのあり方やがん看護専門看護師として果たすべき役割について追求する。</li> <li>3. 地域連携・医療連携の場における他職種との連携について学ぶ。</li> <li>4. 訪問看護ステーション主催のシンポジウムや勉強会への参画を通して、地域におけるがん看護専門看護師の役割と機能を検討する。</li> <li>5. 在宅療養中のがん患者・家族への看護における自己の課題を明確にする。</li> </ol>
実習日程	2週間（10日間）1限～4限
実習場所と指導者	株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション など 服部絵美（市ヶ谷）、中島朋子（東久留米）
レポート課題	訪問看護事例のケースレポート 1例 【在宅療養におけるがん患者・家族への高度な看護実践と自己の課題】
成績評価の方法	実習への参加状況・態度20%、課題の達成度とレポート80%を総合的に評価する。
注意事項	服装: 白衣は必要ありません。療養の場であるご家庭を訪問するのでジーンズ・スカートは不可、訪問にふさわしい動きやすい服装、靴下着用のこと。聴診器と血圧計持参。

科目名 **がん看護学特別研究**

(8単位)

科目担当者	
概要	がん看護学特論および演習で得た知見をもとに、がん看護学領域における課題を追求し研究テーマを見出す。研究のプロセスを通してがん看護実践やがん看護教育の発展に寄与する基礎的研究能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん看護研究の動向と今後の課題について概説できる。</li> <li>2. 自ら取り組むべき研究テーマを見出し、研究計画書を作成できる。</li> <li>3. 対象者への倫理的配慮に基づいたデータ収集を行う。</li> <li>4. 収集したデータを適切に分析できる。</li> <li>5. 信頼性と妥当性のある結果を導くことができる。</li> <li>6. 論理的で一貫性のある考察ができる。</li> <li>7. 看護への示唆を導き、臨床適用について検討できる。</li> <li>8. 特別研究における研究の限界を認識し、自己評価できる。</li> <li>9. 論文の作成・発表を通して、自らの研究内容を伝え看護・教育上の提言ができる。</li> </ol>
研究のすすめ方	ゼミ形式と個人面接による。
参考文献	適宜提示する。
成績評価の方法	研究への取り組み方および論文内容により総合的に判断する。
指導日程	<p>毎週水曜日 3・4限（13:00～16:00）（2コマ）通年</p> <p>毎週木曜日 1・2限（9:00～12:00）（2コマ）通年</p> <p>以上を原則とするが、進捗状況や内容により調整する。</p>
指導概要	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> がん看護研究の動向と課題</li> <li><input type="checkbox"/> 文献検討、研究テーマの探求と設定</li> <li><input type="checkbox"/> 研究計画書の作成、倫理審査申請</li> <li><input type="checkbox"/> データ収集と分析</li> <li><input type="checkbox"/> 結果の記述、論理的考察、論文作成</li> <li><input type="checkbox"/> 論文発表</li> </ul>

科目名      がん看護学課題研究

(2単位)

科目担当者	
概要	講義、演習、実習で学習した知識と技術をもとに、研究的視点からがん看護におけるテーマを見出し、系統的な文献検討を行うことで、実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組むべき課題研究テーマを見出すことができる。</li> <li>2. 必要な文献を系統的に収集し、テーマに関する研究動向を把握できる。</li> <li>3. 収集した文献をクリティークし、エビデンスを把握し、総説論文としてまとめることができる。</li> <li>4. 看護への示唆を導き、臨床適用について検討できる。</li> <li>5. 課題研究における研究の限界を認識し、自己評価できる。</li> <li>6. 論文の作成・発表を通して、自らの課題研究結果を伝え、看護上の提言ができる。</li> </ol>
研究のすすめ方	ゼミ形式と個人面接による。
参考文献	適宜提示する。
成績評価の方法	課題への取り組み方および論文内容により総合的に判断する。
指導日程	<p>毎週水曜日    3限（13:00～14:25）（1コマ）通年</p> <p>以上を原則とするが、進捗状況および内容によって調整する。</p>
指導概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検討とは、その方法について</li> <li>・研究課題の探求と設定、研究意義の明確化</li> <li>・系統的文献収集とクリティーク</li> <li>・結果の記述、論理的考察、論文作成</li> <li>・論文発表</li> </ul>

科目名 ウーマンズヘルス特論Ⅰ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小川久貴子（松峯 寿美、白井 千晶、田村 知子、大金 美和）				
講義概要	出生前の発生・生理の状態から始まり、出生後はライフステージ各段階にある女性 特有のホルモンを中心とした身体と精神の変化やその対応策、なりやすい病気の予防などについて、データに基づいて女性のライフステージ各段階のヘルスケアについて基礎を修得する。				
到達目標	1.女性のライフサイクルの各段階における健康問題についての理解を深める。 2.ライフサイクルを通じての健康の重要性が理解できる。				
講義のすすめ方	レポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの学習を通じて深める。				
参考文献	久米美代子、飯島治之編「ウーマンズヘルス」、医歯薬出版.				
成績評価の方法	レポート70%、出席・参加度30%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	4月12日(水)	9:00～12:00	小川久貴子	機能形態学的な視点からみた女性の特徴
	3・4	4月19日(水)	9:00～12:00	小川久貴子	女性のライフステージとその特徴[課題学習]
	5・6	9月13日(水)	9:00～12:00	田村 知子	月経困難症等の女性の支援
	7	10月10日(火)	9:00～10:25	小川久貴子	若年妊娠・出産の現状と課題およびヘルスケア
	8・9	10月19日(木)	13:00～16:00	松峯 寿美	高年妊娠・出産の現状と課題およびヘルスケア
	10・11	10月20日(金)	13:00～16:00	大金 美和	性感染症、HIV/AIDSの女性の支援
	12・13	10月25日(水)	13:00～16:00	白井 千晶	不妊症の女性の支援
14・15	11月20日(月)	9:00～12:00	小川久貴子	女性のライフステージとその特徴[発表]	

科目名           ウーマンズヘルス特論Ⅱ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小川久貴子				
講義概要	世界的視野から女性のヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダーの視点から女性特有の健康問題を探求する。				
到達目標	1.助産の意思決定における知識の役割を説明できる。 2.根拠を意思決定に活かすことを説明できる。 3.意思決定のモデルを説明できる。 4.臨床意思決定のプロセスを説明できる。 5.倫理的な意思決定を説明できる。 6.女性のための意思決定援助を説明できる。				
講義のすすめ方	課題に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。				
参考文献	モーリーン・D・レイノ一他, 堀内成子監修, 「助産師の意思決定」, エルゼビア・ジャパン 助産師基礎教育テキスト, 第1版「助産概論」, 山本あい子, 日本看護協会出版会				
成績評価の方法	レポート70%、出席・参加度30%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～4	4月12日(水)	13:00～19:10	小川久貴子	助産の役割と意思決定の関連を学ぶ。課題提示
	5～8	2月6日(火)	13:00～19:10		助産師として、根拠を意思決定に活かすことについて理解する。
	9～11	2月14日(水)	13:00～17:35		助産における意思決定のモデルと臨床意思決定のプロセスについて理解する。
	12	2月20日(火)	13:00～14:25		助産における倫理的な意思決定について理解する。
	13～15	2月26日(月)	13:00～17:35		専門職として、女性のための意思決定援助について理解する。

科目名      ウーマンズヘルス特論Ⅲ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小川久貴子、川嶋 朗、横田 仁子、岡野 浩哉（周 燕飛、平原 真紀）				
講義概要	女性のライフサイクルの各段階での生き方や健康問題について探求し、女性を対象にした看護介入を行うための技法に関する基礎を学ぶ。				
到達目標	1.女性を対象とした自然医療が理解でき看護介入を考えられる 2.女性の各ライフステージにおこる心の問題を理解でき看護介入を考えられる 3.女性を対象とした看護介入方法を学ぶ				
講義のすすめ方	1.女性の健康問題に対しての実際を学ぶ。 2.学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。				
参考文献	周 燕飛 著：母子世帯のワーク・ライフと経済的自立，労働政策研究所．適宜提示する。				
成績評価の方法	レポート70%、出席・参加度30%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	10月16日(月)	13:00～16:00	周 燕飛	母子世帯のワーク・ライフと経済的自立
	3～5	11月7日(火)	13:00～17:35	横田 仁子	ウーマンズヘルスについて
	6～8	11月14日(火)	13:00～17:35	川嶋 朗	自然医療（講義）
	9・10	11月16日(木)	14:35～17:35	岡野 浩哉	各ライフステージにおけるこころの問題
	11～13	11月21日(火)	13:00～17:35	川嶋 朗	自然医療（演習）
	14・15	11月28日(火)	13:00～16:00	平原 真紀	NICU退院後の児の訪問看護の現状と課題

科目名 ウーマンズヘルス特論Ⅳ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小川久貴子、杉下 智彦、(野口真貴子)				
講義概要	国内外のウーマンズヘルスについて理解を深めるとともに発展途上国での援助活動等へ貢献できる基礎的能力を修得する。				
到達目標	1.グローバルヘルスにおける女性の健康について理解できる 2.国際保健に関わる諸機関（国際機関・NGO等）の役割が理解できる 3.開発途上国のウーマンズヘルスを中心とした課題をあげ、支援計画の立案ができる				
講義のすすめ方	1.国際保健と国際開発、国際政策、NGOについて学習する。 2.世界の女性の健康問題を分析し、その健康問題に対してのプロジェクトを立案する。 3.学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。				
参考文献	デビッド・ワーナー他著、「いのち・開発・NGO」、信評社 日本国際保健医療学会編、「第2版 国際保健医療学」、杏林社 開発教育推進セミナー編、「改訂新版 新しい開発教育のすすめ方」、古今書院 梅内拓生監修、「バッシュ 国際保健学講座」、じほう				
成績評価の方法	レポート70%、出席・参加度30%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	9月5日(火)	9:00～10:25	小川久貴子	オリエンテーション
	2～5	9月7日(木)	9:00～16:00	小川久貴子	国際保健対策・国際保健医療（課題学習）
	6・7	9月14日(木)	13:00～16:00	小川久貴子	国際保健対策・国際保健医療（課題学習）
	8・9	9月15日(金)	9:00～10:25 13:00～14:25	野口真貴子	特別講義：国連ミレニアム開発目標 開発国のウーマンズヘルス問題 (プレゼン・ディスカッション)
	10・11	10月6日(金)	13:00～16:00	杉下 智彦	世界の母子保健（課題学習）
	12・13	10月13日(金)	13:00～16:00		世界の母子保健（講義・ディスカッション）
	14・15	10月27日(金)	13:00～16:00	小川久貴子	まとめ

科目名 ウーマンズヘルス演習Ⅰ

(2単位 30コマ)

科目担当者	○小川久貴子、楠田 聡、平澤 恭子、関森みゆき、大友 陽子、富川由美子				
講義概要	女性看護学領域の研究の動向（国内・外）と健康に対する課題を理解し、各自の研究課題をみだし、研究的アプローチを修得する。				
到達目標	1.女性看護学領域の学会に参加し、研究の動向と健康に対する課題を記述できる。 2.ハイリスク新生児と乳幼児の現状を含めた課題を理解する。 3.母子保健領域の倫理的問題や感染症対策などの現状と課題を理解する 4.論理的、効果的にプレゼンテーション・ディスカッションができる。				
講義のすすめ方	1.第13回東京女子医科大学看護学会学術集会に参加する。 2.学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。				
参考文献	適宜提示する。				
成績評価の方法	レポート70%、出席・参加度30%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	10月2日(月)	9:00～12:00	小川久貴子	オリエンテーション
	3・4	10月4日(水)	9:00～12:00	関森みゆき	新生児・未熟児医療における倫理的諸課題と対応*
	5～10	10月7日(土)	9:00～19:10	小川久貴子	第13回東京女子医科大学看護学会学術集会への参加
	11～16	10月11日(水)	9:00～19:10	小川久貴子	第13回東京女子医科大学看護学会学術集会での「ウーマンズヘルスについて学んだこと」を課題レポート
	17・18	10月12日(木)	9:00～12:00	大友 陽子	母子看護における感染症対策と専門職種間の協働**
	19・20	10月26日(木)	9:00～12:00	富川由美子	社会資源の活用と医療相談活動（虐待）**
	21・22	11月9日(木)	9:00～12:00	小川久貴子	ハイリスク新生児の現状と課題（課題学習）
	23・24	11月9日(木)	13:00～16:00	平澤 恭子	乳幼児の成長発達と予防接種の現状と課題
	25・26	11月15日(水)	13:00～16:00	楠田 聡	ハイリスク新生児の現状と課題
27～30	11月22日(水)	13:00～19:10	小川久貴子	女性看護学領域の研究動向や健康に対する課題をふまえ、プレゼンテーション	

\*小児看護学特論Ⅲ、\*\*小児看護学演習Ⅱと合同講義

科目名 ウーマンズヘルス演習Ⅱ

(2単位 30コマ)

科目担当者	○小川久貴子、土江田奈留美、抜田 博子					
講義概要	女性の生涯の健康を視野に入れ、性と生殖に関する健康教育援助技術を検証し、科学的根拠に基づくよりよい専門的な援助技術の開発に向けた研究的思考過程を学ぶ。さらに、女性の意思や希望を最大限に尊重した支援を実施する能力を修得する。					
到達目標	1.ウーマンズヘルスにかかわる既存の研究の検討を通して、各自の研究課題を深められる 2.論理的、効果的にプレゼンテーション、ディスカッションができる 3.書式、表現、論理構成などが的確なレポートを作成できる					
講義のすすめ方	1.ウーマンズヘルスに関わる国内外の質の高い研究論文を講読する。 2.学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。					
参考文献	課題ごとに別途提示する。					
成績評価の方法	レポート70%、出席・参加度30%とし、総合的に評価する。					
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要	
	1・2	5月17日(水)	13:00～16:00	小川 久貴子 土江田奈留美 抜田 博子	オリエンテーション 論文の読み方、ディスカッションの仕方（講義）	
	3・4	5月25日(木)				
	5・6	10月2日(月)				
	7・8	10月16日(月)	9:00～12:00		課題学習	
	9・10	10月23日(月)	13:00～16:00			
	11・12	11月6日(月)	13:00～16:00			
	13・14	11月13日(月)	9:00～12:00			
	15・16	11月20日(月)	13:00～16:00			
	17・18	11月24日(金)	13:00～16:00			
	19・20	11月27日(月)	13:00～16:00			
	21・22	11月29日(水)	13:00～16:00			
	23・24	2月8日(木)	13:00～16:00			研究計画書のプレゼンテーション、ディスカッション
	25・26	2月15日(木)	13:00～16:00			
27・28	2月22日(木)	13:00～16:00				
29・30	3月6日(火)	13:00～16:00				

科目名           ウーマンズヘルス実習

(6単位 8週)

科目担当者	○土江田奈留美、抜田 博子、潮田千寿子
実習概要	妊婦・産婦・褥婦・新生児に関する水準の高い助産診断・技術の実践を行う。さらに、ハイリスク事例のケアを実践する。また、実践者に必要な役割としての教育と相談および調整能力を培い、さらに地域における助産ケアの構築について、医療連携を踏まえて実践する能力を獲得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の的確な助産診断と介助及びケアの実践力を高める。</li> <li>2. 妊娠期から産後1ヶ月まで継続して個人指導を行うことで、教育・相談・調整能力を高められる。</li> <li>3. ハイリスク新生児のケアの実践ができる。</li> <li>4. 地域における医療連携を包括したウーマンズヘルスの視点から、よりよい助産のあり方を構築する。</li> </ol>
成績評価の方法	実習記録・レポート70%、出席・参加度30%とし、総合的に評価する。
実習期間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.助産所実習：2017年11月27日（月）～2018年1月20日（土）</li> <li>2.病院実習：2017年3月下旬～2017年9月8日（金）</li> </ol>
実習方法	実習要項参照

科目名           ウーマンズヘルス課題研究

(2単位)

科目担当者	○小川久貴子、土江田奈留美
講義概要	特論及び演習で学び得た知識と技術を基に、直接的看護介入や助産診断技術に関する研究テーマを導き出し、一連の研究プロセスを通じた、専門的看護・助産援助の質の向上に寄与する臨床研究能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の研究テーマを見出し、文献検討のための方法を立案し、テーマに関する研究動向等を把握する。</li> <li>2. 一連の研究プロセスを通して臨床研究能力を獲得する。</li> <li>3. 研究成果を考察して新しい知見を見出し、学位論文を作成できる。</li> <li>4. 研究成果を的確に制限時間内にプレゼンテーションすることができる。</li> </ol>
参考文献	課題研究ごとに、別途提示する。
成績評価の方法	修士論文審査に準ずる
指導日程	実施曜日：毎週土曜日  通年  1コマ
	時間帯    ：2限（10:35～12:00）

科目名           ウーマンズヘルス特別研究

(8単位)

科目担当者	○小川久貴子、土江田奈留美
講義概要	特論及び演習で学び得た知識を基に、ウーマンズヘルス領域における各自のテーマを導き出し、一連の研究プロセスを通してウーマンズヘルスに寄与する基礎的研究能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択する。</li> <li>2. 倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成できる。</li> <li>3. 研究計画書にそって具体的に調査活動を行う。</li> <li>4. 得られた成果を考察して新しい知見を見出し、学位論文を作成できる。</li> <li>5. 研究成果を的確に制限時間内にプレゼンテーションすることができる。</li> </ol>
参考文献	研究ごとに、別途提示する。
成績評価の方法	修士論文審査に準ずる
指導日程	実施曜日：金曜日、土曜日 各2コマ 通年
	時間帯    : 金曜日 4・5限（14:35～17:35）、土曜日 3・4限（13:00～16:00）

科目名 老年看護学特論Ⅰ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○長江 弘子（石原ゆきえ）					
講義概要	老年看護で用いる理論、概念について学ぶとともに、老年看護における倫理的課題について探究し、高齢者とその家族を対象にした看護を実践するための理論的基盤を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護学における重要概念を説明できる。</li> <li>2. 老年看護学において有効と考えられる理論を説明できる。</li> <li>3. 老年看護実践における倫理的課題について説明できる。</li> <li>4. 老人専門看護師の役割と機能について説明できる。</li> </ol>					
講義のすすめ方	文献講読、院生によるプレゼンテーションと討論によって授業を進める。					
参考文献	驚田清一（2004）：老いの空白,弘文堂					
	六車由美（2012）：驚きの介護民俗学,医学書院.					
	天田城介（2004）：老い衰えてゆく自己の/と自由-高齢者ケアの社会的実践.当事者論-,ハーベスト社					
	南博文他(1995):老いることの意味:中年・老年期（講座 生涯発達心理学）、金子書房					
	ポールトウルニエ（1975）：老いの意味 うるわしい老年のために、ヨルダン社					
	伊藤光晴(1986):老いのパラダイム、岩波書店					
	E. O. コックス他（1994）：高齢者のエンパワーメントの基礎、相川書房					
	小田謙三・杉本敏夫・久田則夫編著（1999）：エンパワ-メント実践の理論と技法-これからの福祉サービスの具体的指針-,中央法規出版					
	和気純子（1998）：高齢者を介護する家族エンハ-ワ-アップ-アプローチの展開に向けて、東京、川島書房					
	藤田綾子（2009）:高齢者と適応、ナカニシヤ出版					
	E. H. エリクソン(1997):老年期生き生きしたかわりあい、みすず書房					
	E. H. エリクソン・J.M.エリクソン(2001), 村瀬孝雄・近藤邦夫訳：ライフサイクル、その完結,増補版,みすず書房					
	R.J.ハヴィガースト,児玉憲典、飯塚裕子訳（1997）：ハヴィガーストの発達課題と教育,川島書店.					
Ebersole, P. & Hess P.(2004): Toward Health Aging: Human Needs and Nursing Rspnse, 7th edition, Mosby						
成績評価の方法	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で評価する。					
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要	
	1	4月13日(木)	13:00~14:25	長江 弘子	オリエンテーション	
	2・3	4月20日(木)	13:00~16:00		老いを生きる人の理解を深め、高齢者観と看護実践への関連を探究する。	
	4・5	4月27日(木)	13:00~16:00			
	6・7	5月11日(木)	13:00~16:00			
	8・9	5月18日(木)	13:00~16:00			高齢者にとっての健康などについてグローバルな視点から文献を読み討論する。高齢者の発達課題、エンパワーメント、ストレングスモデル等を用いて検討する。
	10・11	5月25日(木)	13:00~16:00			老年看護学で用いられている看護理論の一つを選び、その有効性と範囲、理論枠組みなどを、具体例を通して理解する。
	12・13	6月1日(木)	13:00~16:00			老年看護実践において遭遇する倫理的問題について理解し、アドボケートすることを探究する。老年差別や虐待、身体拘束、自己決定、公平性の問題等について取り上げる。
	14・15	6月8日(木)	13:00~16:00			石原ゆきえ

科目名 老年看護学特論Ⅱ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○長江 弘子、尾崎 恭子、坂井 志麻、松村美由起、待井 典子				
講義概要	高齢者の加齢に伴う変化や健康生活上のニーズを知るために、高齢者の健康・家族・環境等を包括的に理解する評価方法について探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の総合的機能評価の考え方について説明できる。</li> <li>2. 高齢者の行動、感覚の機能評価について説明できる。</li> <li>3. 高齢者の身体的、精神的機能評価について説明できる。</li> <li>4. 高齢者の摂食・嚥下機能および栄養状態の評価について説明できる。</li> <li>5. 高齢者の生活行動や心理に影響を与える地域環境等の人的・物理的環境について、諸理論を用いて説明できる。</li> <li>6. 高齢者とともに生活する家族を援助するための家族機能評価について、家族看護に関する諸理論を踏まえて説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	アセスメントの中心概念、目的、有効性、注意点、限界、課題などについて学生がプレゼンテーションし、それに基づき討論する。				
参考文献	才藤栄一・植田耕一郎監修（2016）：摂食嚥下リハビリテーション第3版，医歯薬出版。				
	遠藤英俊（2011）：「かかりつけ医」のための認知症診断ガイド，医療ジャーナル社				
	その他、必要に応じて紹介する。				
成績評価の方法	事前準備20%、プレゼンテーション50%、討論の内容30%で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	6月15日(木)	9:00～12:00	長江 弘子	高齢者の健康生活評価の特徴について。高齢者の総合的機能評価 (CGA)、QOLと評価、国際生活機能分類 (ICF) の考え方について学ぶ。
	3	6月20日(火)	13:00～14:25	尾崎 恭子	高齢者の慢性疼痛のアセスメントの方法や注意点、援助について (1)
	4	6月22日(木)	13:00～14:25	尾崎 恭子	高齢者の慢性疼痛のアセスメントの方法や注意点、援助について (2)
	5・6	6月27日(火)	14:35～17:35	坂井 志麻 待井 典子	高齢者の摂食・嚥下機能のアセスメント方法と評価の実際について学修する。
	7	7月6日(木)	13:00～14:25	坂井 志麻	高齢者に関する栄養評価の方法とリスクについて理解できる。
	8・9	7月11日(火)	13:00～16:00	松村美由起	認知機能のアセスメントの方法と評価の実際について学修する。
	10・11	7月13日(木)	13:00～16:00	長江 弘子	高齢者の認知機能の評価と支援方法を学修する。
	12・13	7月27日(木)	9:00～12:00	長江 弘子	家族に関連する諸理論を踏まえ、家族が問題対処能力を高めながら、問題解決できるように援助するためのアセスメント方法を学修する。
14・15	7月27日(木)	13:00～16:00	長江 弘子	これまでの看護実践から複雑な事例を対象として挙げ、継続看護マネジメントの視点をふまえて討論を行うことにより、アセスメントと看護判断の力を深める。	

科目名 老年看護学特論Ⅲ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○長江 弘子、尾崎 恭子、原沢のぞみ、三村 千弦 (我妻 雪子、石原ゆきえ、川崎千鶴子、西村かおる、保田 淳子、山下 由香)				
講義概要	高齢者の健康レベルに応じた生活の質を維持、向上するための看護について探求すると共に高齢者に多く見られる健康事象について現状を分析し、高齢者とその家族を含めた看護の開発や評価の方法を探る。				
到達目標	1. 高齢者とその家族に特徴的な看護ニーズについて最近の研究や実践動向を踏まえて説明できる。 2. 高齢者に特徴的な看護について理論を用いて説明できる。 3. 高齢者とその家族への看護介入の評価方法を説明できる。				
講義のすすめ方	講義の他に理論・介入方法・評価・課題等についてプレゼンテーションし討議する。 エキスパートナースと共に援助場面に実際に参加し、方法、課題を理解する。				
参考文献	西村かおる (2009) : コンチネンスケアに強くなる排泄ケアブック, 学研.				
	西村かおる (2008) : アセスメントに基づく排便ケア, 中央法規出版.				
	日本看護協会編集 (2016) : 認知症ケアガイドブック, 照林社.				
	Mildred O. Hogstel(ed.) (2001) : Gerontology: nursing care of the older adult(1st.), Chapter 15 care issues, pp289-316, Delmar, Albany.				
	Charlotte Eliopoulos(ed.)(2013): Gerontological nursing(8th), Lippincott, Philadelphia.				
	Patricia A. Williams(2016) : Basic Geriatric Nursing(6th), Mosby.				
成績評価の方法	事前学習20%、プレゼンテーション40%、討論の内容30%、レポート10%で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	8月31日(木)	13:00~16:00	山下 由香	高齢者とその家族に特徴的にみられる看護ニーズ(転倒)について、理論、介入、評価方法等を最近の研究から理解する。
	3~5	9月6日(水)	9:00~14:25	長江 弘子 西村かおる	高齢者とその家族に特徴的にみられる看護ニーズ(排泄)へのアセスメント、介入、評価について実際の看護介入場面に参加しながら体験的に理解する。
	6・7	9月7日(木)	13:00~16:00	原沢のぞみ	高齢者とその家族に特徴的にみられる看護ニーズ(認知機能障害・せん妄・老年期うつ)に関する理論と実際を最新の研究結果を踏まえ探求する。
	8	9月14日(木)	13:00~14:25	我妻 雪子	事例検討により、認知機能障害・せん妄・老年期うつを生じている高齢者とその家族への看護と評価を探求する。
	9・10	9月21日(木)	13:00~14:25	尾崎 恭子	急性期における高齢者の健康状態の評価と治療、麻酔の効果や影響について探求する。
	11	9月28日(木)	13:00~16:00	保田 淳子	高齢者の潜在能力をいかした日常生活動作のアセスメントと介入方法について、人的・物的環境調整をふまえて探求する。
	12・13	10月5日(木)	13:00~16:00	川崎千鶴子	高齢者とその家族に特徴的にみられる看護ニーズ(感染と管理)について、理論、介入、評価方法等を最近の研究から理解する。
	14	10月12日(木)	10:35~12:00	石原ゆきえ	事例検討により、複合的な症状を有する高齢者とその家族への看護と評価を探求する。
15	10月19日(木)	10:35~12:00	三村 千弦	事例検討により、複合的な症状を有する高齢者とその家族への看護と評価を探求する。	

科目名 老年看護学特論Ⅳ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○長江 弘子、坂井 志麻（鈴木 美穂、川添 高志）				
講義概要	個人に最適なサービス調整や他職種との連携を促進し、健康から終末期に至るまでのサポートの在り方について理解し、切れ目のない支援を行うための展開能力を養う。 さらに高齢者への保健医療福祉政策やサポート構築のプロセスを学び、ケアシステム開発能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健福祉政策の現状をグローバルな視点から分析し、今後の方向性を提案できる。</li> <li>2. サポートシステムやケアマネジメントの理論と方法を理解し、活用と発展について事実に基づいて提案できる。</li> <li>3. 国内外の高度実践看護師の機能と役割、課題について理解し、ケアシステムの構築や改善を推進する施策について具体的に述べることができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義とプレゼンテーション				
参考文献	開講時に紹介する				
成績評価の方法	事前学習20%、プレゼンテーション50%、討論の内容30%で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	10月26日(木)	9:00～12:00	長江 弘子	老人福祉法・老人保健法・介護保険等を含む老年保健医療福祉政策を理解し、その特徴を明確にする。
	3	11月2日(木)	13:00～14:25		老人医療政策の理解から老年保健医療福祉政策を理解し、その特徴を明確にする。
	4	11月2日(木)	14:35～16:00		老年保健医療福祉政策について看護の視点から課題と今後の方向性について探求する。
	5・6	11月9日(木)	9:00～12:00		サポートシステムの理論と方法を理解し、その活用と発展方法について探求する。
	7	11月16日(木)	9:00～10:25	坂井 志麻	ケアマネジメントの理論と方法を理解し、その活用と発展方法について探求する。
	8・9	11月22日(水)	13:00～16:00	坂井 志麻	ケアの継続性と退院計画の展開方法を理解する。
	10・11	11月13日(月)	9:00～12:00	鈴木 美穂	世界の保健医療福祉政策と制度・ケアシステム、特にアメリカの医療政策とNPの役割・機能について理解する。グローバルな視点から看護者として、日本における政策やケアシステムの今後について探求する。
	12・13	12月7日(木)	9:00～12:00	川添 高志	高齢者の健康的な生活を維持・継続するための取り組みとして、「ワンコイン検診」から24時間365日対応の訪問看護ステーション拡大に向けた活動を例に、地域における革新的な支援事業創設と支援システム展開のプロセスについて理解する。
	14・15	12月14日(木)	9:00～12:00	長江 弘子	ケアシステムの構築や改善を推進するプロセスを学び、ケア改善への提案を実際に行うことを通して、開発能力を養う。

科目名 老年看護学特論Ⅴ（看護病態学）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○長江 弘子、久保 豊、坂井 志麻、原沢のぞみ				
講義概要	老年期に多くみられる症候について、フィジカルアセスメントや検査方法を学び、ハイリスク状況を査定する能力を修得することによって、高齢者にとってより安全、安心な生活を継続するためのケアとケアを融合した看護を実践する能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期に多くみられる症候についてリスクの程度を判断し、適切な対応について説明できる。</li> <li>2. リスクアセスメントに必要な検査・治療方法ならびその判断ができる</li> <li>3. 急変時・症状出現時における初期対応を説明できる。</li> <li>4. 生活を整える視点から治療方法の妥当性を判断し、生活を整える方法を説明できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義と身体のアセスメント、検査技術の演習を組み合わせる。6～13コマは、各日ケースレポート作成。初期診断に必要なアセスメントの視点、診断過程、ケア方針（生活を整える視点を含む）について記述する。				
参考文献	<p>大内 尉義（編集）（2010）：新老年学 第3版、東京大学出版会</p> <p>Lynn S. Bickley（訳：山内豊明）（2015）：ベイツ診察法ポケットガイド第3版、メディカル・サイエンス・インターナショナル。</p> <p>Janet S. Fulton(2014): Foundations of Clinical Nurse Specialist Practice (2nd),Springer Publishing.</p> <p>Janet G, and Suzanne S (2012) : Advanced Practice Nursing of Adults in Acute Care (1st), F.A. Davis.</p> <p>E. Capezuti, D. Zwicker, M. Mezey, &amp; T. Fulmer (2012): Evidence-Based Geriatric Nursing Protocols for Best Practice 4th ed., NY: Springer Publishing</p>				
成績評価の方法	事前学習20%、討論への参加度40%、レポート40%で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	10月18日(水)	10:35～12:00	長江 弘子 坂井 志麻 原沢のぞみ	オリエンテーション 高齢者におけるフィジカルアセスメントの視点、問診、病歴聴取
	2・3	10月25日(水)	9:00～12:00	久保 豊	高齢者における病態と一般的な特徴： 生理的加齢変化、感染症、悪性腫瘍、腎・泌尿器疾患、骨疾患など高齢者に多い疾患・症候
	4・5	11月1日(水)	9:00～12:00	久保 豊	高齢者の薬物療法： 老年者の薬物動態と薬物力学、処方上の留意点、薬効評価、服薬と指導
	6・7	11月8日(水)	9:00～12:00	医師 外来見学	高齢者の皮膚疾患： 帯状疱疹、薬疹、掻痒症、他
	8・9	11月15日(水)	9:00～12:00	医師 外来見学	感覚器の機能障害の原因とメカニズム： 味覚・視覚・聴覚障害
	10・11	11月22日(水)	9:00～12:00	医師 外来見学	高齢者の精神機能への対応： 認知症の評価と治療、老年期うつ病の評価と治療、向精神薬の使用
	12・13	11月29日(水)	9:00～12:00	医師 外来見学	高齢者のリハビリテーションと治療： 高齢者の運動機能評価 機能回復訓練
	14・15	12月13日(水)	9:00～12:00	長江 弘子 坂井 志麻 原沢のぞみ	ケースレポート報告・全体のまとめ： リスクアセスメントの知識を活用した看護展開を考える。

科目名 老年看護学演習Ⅰ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○長江 弘子、原沢のぞみ、渡邊 賢治				
講義概要	身体的治療を要して入院した急性期にある認知症高齢者への質の高いアセスメントと看護について再考し、高齢者に安心、安全で円滑な治療と入院生活を提供するための看護実践を探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>急性期疾患を有する認知症高齢者とその家族への包括的なアセスメントに基づいた看護援助の方法を理解する。</li> <li>急性期疾患のため治療を受ける高齢者にとっての治療および入院生活上のリスクを予測し、高齢者の安心につながる看護について理解する。</li> <li>急性期疾患を有する認知症高齢者の看護について、人権尊重という視点から省察し、高齢者の権利を尊重した看護について探究する。</li> <li>高齢者とその家族に対する看護について看護理論を用いて考察し、老年看護における専門性について探究する。</li> </ol>				
演習のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>各自の臨床経験から入院中の認知症高齢者の典型または困難な事例の検討を行う。</li> <li>高齢者高度専門医療施設での2日間の研修において、各自の関心テーマについて探究する。</li> <li>治療の継続が困難な事例や意思決定に援助が必要な事例など、高度な看護実践能力が必要とされる認知症高齢者に指導者とともに関わり、直接的ケアおよび参加観察や患者・家族との対話を通して、認知症高齢者への看護について検討する。</li> <li>学生が担当した事例の看護について、理論を用いて整理、内省、考察して、レポートを提出する。</li> </ol>				
学内演習担当者	長江 弘子、原沢のぞみ、渡邊 賢治				
病棟実習担当者	長江 弘子、原沢のぞみ、渡邊 賢治				
実習病棟	東京都健康長寿医療センター				
参考文献	適宜紹介する。				
成績評価の方法	事前学習30%、演習への参加度30%、レポート40%で評価する。				
演習日程	コマ数	日程	時間	担当者	演習概要
	1	6月14日(水)	9:00~10:25	長江 弘子 原沢のぞみ 渡邊 賢治	オリエンテーション 認知症高齢者が急性期疾患を有して入院することについて当事者の視点から探究すると共に、認知症高齢者の治療におけるリスクの理解に基づいて、最新の治療や卓越した看護を文献等から探究する。
	2・3	6月21日(水)	9:00~12:00		学内演習：急性期病院における高齢者の看護事例をもとに、高齢者が安心し、円滑で安全な治療を受けるための方法や課題について探究する。
	4・5	6月28日(水)	13:00~16:00		病棟研修：病棟において、医師、看護師と共に直接的ケアを行い、患者や家族とのコミュニケーションを通じて再度、看護場面で生じる認知症への対応、急性期に生じやすい出来事を系統的に整理し、高齢者の人権を尊重した、専門職としての看護実践を振り返る機会とする。
	6~9	7月19日(水)	9:00~16:00		
	10~13	7月20日(木)	9:00~16:00		
14・15	7月26日(水)	9:00~12:00	病棟研修での看護実践場面を看護理論を用いて振り返り、学生間で討議する。そして、老年看護における専門性について自己の考えを明確にする。		

科目名 老年看護学演習Ⅱ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○長江 弘子、坂井 志麻、小池 愛弓				
演習概要	在宅で療養する複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族が、質の高い生活を送ることができるよう、適切な看護判断と看護実践を展開する能力を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な問題や多様なニーズをもつ在宅で療養している高齢者を包括的にアセスメントできる。</li> <li>2. 在宅で療養生活を送っている高齢者、特に終末期や退院直後の患者等、複雑な看護ニーズを有する患者やその家族に対し、看護師がどのようにアセスメント、介入しているのか理解することを通して、QOLの高い生活を継続するための援助について説明できる。</li> <li>3. 在宅における高齢者の保健医療福祉政策を踏まえ、チームアプローチの中で果たすべき看護の専門性について説明できる。</li> <li>4. 在宅で療養する高齢者の倫理的課題に関心をもち、尊厳ある生活に向けた看護援助の方策について述べることができる。</li> </ol>				
演習のすすめ方	在宅ケアに関連する内容について文献講読、討論を行う。訪問看護ステーションで演習を行い、各自のテーマに基づき高齢者を対象とした在宅ケアの実際について、事例検討をする。				
参考文献	適宜紹介する。				
成績評価の方法	事前学習10%、プレゼンテーション20%、演習への参加度30%、レポート40%により評価する。				
演習日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	8月30日(水)	9:00～10:25	長江 弘子 坂井 志麻	在宅療養高齢者への終末期ケアに関する研究の動向
	2・3	9月7日(木)	9:00～12:00	坂井 志麻 小池 愛弓	在宅療養高齢者への退院調整に関する研究の動向
	4・5	9月13日(水)	9:00～12:00		在宅療養高齢者のケアに関わる倫理的問題
	6・7	9月20日(水)	9:00～12:00		在宅終末期の高齢者等のケアについて (1)
	8・9	9月20日(水)	13:00～16:00		在宅終末期の高齢者等のケアについて (2)
	10・11	9月27日(水)	9:00～12:00		複雑な問題を抱える事例について (1) 退院事例
	12・13	9月27日(水)	13:00～16:00		複雑な問題を抱える事例について (2) 退院事例
	14・15	10月4日(水)	9:00～12:00		長江 弘子 坂井 志麻

科目名 老年看護学実習Ⅰ

(6単位 6週)

科目担当者	○長江 弘子、坂井 志麻、原沢のぞみ、渡邊 賢治、小池 愛弓
実習概要	急性期医療機関で治療中および在宅で療養中の複雑な健康問題を有する高齢者に対して、研究的視点を持ちながら最新の知識と技術を用いて質の高い看護を行うための実践能力を修得する。また、看護職員への相談・教育能力や、患者を取り巻く医療チームとの調整能力を開発し、現場の改革者としての独自の行動を発展させる能力を修得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な看護ニーズをもつ高齢者とその家族について、身体・精神・生活等を総合的に評価する能力を高め、ケアとキヤアを統合した看護が実践できる。</li> <li>2. 高齢者にとつての病態、検査・治療・薬物の影響を査定することができる。</li> <li>3. 高齢者とその家族に対する的確な看護判断に基づき、最新の知識・技術を用いて看護援助を実施し、評価することができる。</li> <li>4. 看護スタッフおよび他の機関や保健医療福祉関係者との連携を図ることができる。</li> <li>5. 十分な情報提供と説明を行い、高齢者自身の適切な意思決定を援助することができる。</li> <li>6. 高度実践看護師としての教育・相談・調整・倫理調整についての機能を説明できる。</li> <li>7. 老年看護の理論や質の高い最新の研究を理解して実践に活用できる。</li> <li>8. 実施した看護を踏まえ老年看護についての専門的な知識と技術を体系的に整理できる。</li> </ol>
実習の展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院実習と訪問看護ステーションの2つの施設での実習を行う。合計6週間以上の実習であるが、学生自身のテーマによって病院での高度実践看護に比重をおくか、または訪問看護における高度実践看護に比重をおくかを選択する。</li> <li>2. 実習前準備として教員の指導のもと、学生自らが実習目標を達成するための実習計画を立案し、実習施設の臨床指導者と実習目的、実習計画、実習病棟、受け持ち患者、実習日程、カンファレンス日程等々の打ち合わせを行う。</li> <li>3. 実習中は、老人看護専門師および臨床指導者による教育・相談・調整の実際を見学（体験的に理解）するとともに、複雑な問題を抱えている患者を受け持ち、患者の全体像を捉え、的確な看護判断に基づき、看護計画を立案して、看護師のみならず多職種チームと連携を図りながら看護援助を実施する。</li> <li>4. 実施した看護を臨床指導者、指導教員とともに検討し、考察して、ケースレポートにまとめる。なお、一事例2週間から4週間受け持ち、合計2~4事例受け持つ。</li> </ol>
実習場所 (臨床指導者)	1.急性期医療機関：東京女子医科大学病院（三村 千弦）、昭和大学江東豊洲病院（石原 ゆきえ） 2.在宅ケア施設：白十字訪問看護ステーション（秋山 正子、服部 絵美）
指導教員	1.病院実習：長江 弘子、原沢のぞみ、渡邊 賢治 2.訪問看護実習：長江 弘子、坂井 志麻、小池 愛弓
指導項目	実習計画立案指導、実習調整、カンファレンスへの参加、ケースレポート指導など
成績評価の方法	事前学習10%、実習内容60%、レポート30%で評価する。

病院実習

<b>1週目～3週目 平成30年5月7日（月）～5月25日（金）（15日間）9:00～16:00（I限～IV限）（主に施設内）</b>	
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟管理者よりオリエンテーションを受け、病院見学などを通して、施設の概要を知る。</li> <li>2. スタッフと共に援助を行う。複雑な健康問題を抱え、高度な看護実践能力を必要とする高齢者を、入院から退院まで受け持ち、質の高い看護を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体治療を目的とした認知症高齢者の健康障害について、検査・治療・薬物の影響を査定し、統合的に看護ニーズを評価する</li> <li>・ 高齢者の意思決定を援助する。</li> <li>・ 高齢者の持っている力を発揮できるように援助する。</li> <li>・ 医療チームの一員として連携して援助する。</li> </ul> </li> <li>3. 看護計画を立案し、病棟指導者の指導を受ける。</li> <li>4. 自己の看護実践を病棟指導者や指導教員と共に検討する。</li> </ol>
<b>2週目～3週目 平成30年5月14日（月）～5月25日（金）（10日間）9:00～16:00（I限～IV限）（主に施設内）</b>	
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門看護師の機能や実践方法などの実際について説明を受ける。</li> <li>2. 専門看護師と共に、実践をおこなう。</li> <li>3. 専門看護師の教育、相談、調整場面に参加する。</li> </ol>
臨床指導者	東京女子医科大学病院：三村 千弦、昭和大学江東豊洲病院：石原 ゆきえ
<b>4週目 平成30年5月28日（月）～6月1日（金）（5日間）9:00～16:00（I限～IV限）（主に学内）</b>	
内容	（まとめ）自己の看護実践や専門看護師の実践を考察する。（担当教員と共に検討する）
指導教員	長江 弘子、原沢のぞみ、渡邊 賢治

訪問看護ステーション実習

<b>1週目～3週目 平成30年2月26日（月）～3月16日（金）（15日間）9:00～16:00（I限～IV限）（主にステーション内）</b>	
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理者よりオリエンテーションを受け施設の概要を知る。</li> <li>2. スタッフと共に援助を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅で療養している複雑な看護問題を持つ老高齢者（終末期、退院直後等）とその家族を受け持ち、スタッフと共に援助する。</li> <li>・ 倫理的問題について検討する。</li> <li>・ ケアマネジメントや他職種との調整をスタッフと共におこなう。</li> </ul> </li> <li>3. 看護計画を立案しステーションの指導者と教員の指導を受ける。</li> <li>4. 自己の看護実践をカンファレンスや指導教員と共に検討する。</li> </ol>
<b>2週目 平成30年3月5日（月）～3月9日（金）（5日間）9:00～16:00（I限～IV限）（主にステーション内）</b>	
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設管理者から管理実践の実際や、専門看護師としての実践について説明を受ける。</li> <li>2. 専門看護師、管理者と共に、専門看護師役割実践をおこなう。</li> <li>3. スタッフの相談・教育場面に参加する。</li> </ol>
臨床指導者	秋山 正子、服部 絵美
<b>4週目 平成30年3月19日（火）～3月23日（金）（4日間）9:00～16:00（I限～IV限）（主に学内）</b>	
内容	（まとめ）自己の看護実践や専門看護師としての活動の検討（担当教員と共に検討）
指導教員	長江 弘子、坂井 志麻、小池 愛弓

科目名 老年看護学実習Ⅱ

(4単位 4週)

科目担当者	○坂井 志麻、原沢のぞみ、(木下 朋雄)		
実習概要	施設や在宅および病院等いずれの場においても、共通して高齢者に生じやすい症状や治療に予測的に対応できるようにするために、病態生理、薬物療法を踏まえ、フィジカルアセスメントによりリスクの程度を判断し、ケアとケアを統合した看護実践を導くための能力を修得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師の診察から高齢者に必要な診察技術、診断技術を理解する。</li> <li>2. リスクの程度を判断し、対処方法、治療・検査上注意することを理解し、看護を導くことができる。</li> </ol>		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習前準備として教員の指導のもと、学生自らが実習目標を達成するための実習計画を立案し、臨床指導者との打ち合わせを行う。</li> <li>2. 実習中は外来を訪れる高齢者と在宅療養高齢者に対する医師の診察、検査、診断治療の実際を見学する。高齢者や家族への面接を通じて、包括的にアセスメントを行い、症状に伴う生活上の課題を明らかにし、看護実践を通じてケースレビューを行う。</li> <li>3. 医師の指導のもと特定範囲内のフィジカルアセスメントや検査を実施し、処方内容について検討する。</li> <li>4. 病態、リスク、判断した内容と関連付けた看護アセスメント、対処についてケースレポートを3～5例、作成する。</li> </ol>		
実習場所・臨床指導者	コンフォガーデンクリニック (木下 朋雄 医師)		
実習の展開	日程	内容	備考
	平成30年 1月22日(月)～2月2日(金) (10日間) 9:00～16:00 (I限～IV限)	高齢者の初診時におけるフィジカルアセスメントと初期治療について理解する。(心血管系、脳血管系、呼吸器系、内分泌代謝系、骨・運動系) 認知症高齢者の評価と薬物療法について理解する。 高齢者の終末期医療と疼痛・緩和ケアについて理解する。	
	平成30年 2月5日(月)～23日(金) (うち10日間) 9:00～16:00 (I限～IV限)	疾患をもちながら地域で生活する高齢者のケアとケアを統合した看護実践について展開する。 主訴、フィジカルアセスメントをもとに薬剤調整の検討、生活指導の考案、生活環境の調整(家族支援、社会資源調整を含む)を検討する。	
	平成30年 2月13日(火)～16日(金) (4日間) 9:00～16:00 (I限～IV限)	高齢者の骨・運動系疾患、中枢・神経疾患、その他(自己免疫疾患・消化器疾患・内分泌代謝糖尿病疾患・心呼吸器疾患・緩和など)のリハビリテーションについて理解する。 在宅療養を支える社会福祉制度とケアマネジメント技術について事例を通して理解する。	
	平成30年 2月19日(月)～23日(金) (5日間) 9:00～16:00 (I限～IV限)	多職種とのケアカンファレンスを通して、高齢者への包括的アプローチについて理解する。 実習のまとめ：フィジカルアセスメントの知識と技術の看護実践への活用について討論する。 高齢者のケアとケアを統合した看護実践について討論する。	
成績評価の方法：提出物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習最終日に臨床指導者・担当教員とともに、まとめのカンファレンスを実施する。</li> <li>・ 3～5事例のケースレポートを提出する。 カンファレンス資料やケースレポートは、以下のポイントに留意して作成する。</li> <li>・ 対象者への初期アセスメントでは、フィジカルアセスメントやコミュニケーション力を活用して情報を集約し、必要な看護ニーズを導き出す。そして、対象者の今後の予後予測を踏まえたうえで、必要な治療と生活における質の維持・向上にむけたケアとのバランスを調整しながら、看護を実践する。それらアセスメントと看護実践について報告する。</li> <li>・ 事前学習20%、実習内容50%、レポート30%で評価する。</li> </ul>		

科目名 老年看護学課題研究

(2単位)

科目担当者	○長江 弘子
講義概要	高齢者やその家族に関する研究課題を設定し、文献研究または事例研究を行い論文を作成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者やその家族に関するアセスメント、ケアマネジメント、実践技術・評価などに関する文献研究や事例研究を行い論文を作成できる。</li> <li>2. 文献研究や事例研究のプロセスを学び、エビデンスの明確な研究とはどのようなものかについて説明できる。</li> <li>3. 質の高い文献、実践可能な文献とは何かについて討論により理解する。</li> <li>4. 研究結果の実践への応用について説明できる。</li> </ol>
講義のすすめ方	<p>定期的に話し合いながら以下の内容について検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究課題とテーマ</li> <li>・ 研究意義の明確化</li> <li>・ 文献の検討</li> <li>・ 研究方法と対象、範囲</li> <li>・ 結果</li> <li>・ 考察</li> <li>・ 論文作成</li> <li>・ 論文発表準備</li> <li>・ 研究スケジュール</li> </ul>
指導日程	隔週月曜日14:35～16:00 16:10～17:35の4・5限 2コマ 通年 以上を原則とするが、内容によって調整する。
成績評価の方法	論文作成100%で評価する。

科目名 老年看護学特別研究

(8単位)

科目担当者	○長江 弘子
講義概要	研究課題に基づき研究計画書を作成して研究を進め、修士学位論文を作成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護学における理論開発、アセスメント方法の開発、評価、実践方法に関する研究を行い、論文を作成する。</li> <li>2. 研究プロセスを学び、老年看護学における質の高い研究とはどのようなものかについて説明できる。</li> <li>3. 研究結果の実践への応用について説明できる。</li> </ol>
講義のすすめ方	<p>定期的に話し合いながら以下の内容について検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究課題とテーマ</li> <li>・ 文献検索の結果から研究の意義の明確化</li> <li>・ 研究デザインと方法</li> <li>・ 研究対象とフィールド依頼</li> <li>・ 倫理的配慮</li> <li>・ 計画書の作成（4月下旬まで）</li> <li>・ 倫理委員会案作成</li> <li>・ 計画発表会準備</li> <li>・ データ収集</li> <li>・ 結果分析</li> <li>・ 結果の表示</li> <li>・ 考察</li> <li>・ 論文作成</li> <li>・ 論文発表準備</li> <li>・ 研究スケジュール</li> </ul>
指導日程	<p>毎週火曜日14:35～16:00 16:10～17:35の4・5限 2コマ 通年                  毎週土曜日9:00～12:00の1・2限 2コマ 通年                  以上を原則とするが、内容によって調整する。</p>
成績評価の方法	論文作成100%で評価する。

科目名 精神看護学特論Ⅰ（歴史・法制度論）

（2単位 15コマ）

科目担当者	○田中 美恵子				
講義概要	精神保健医療・看護の歴史、法制度の変遷、国際的な動向などを、文献を通して踏まえ、現行の精神保健医療制度を批判的観点から把握するとともに、わが国における精神保健問題の現況を把握し、今後の精神保健医療において看護職が果たすべき役割について展望する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代精神医学の成立から現代の精神医学に至る精神医療史を学び、歴史に胚胎する諸問題を批判的観点から理解する。</li> <li>2. 古代から現代に至るまでの日本の精神医療史を学び、歴史に胚胎する諸問題を批判的観点から理解する。</li> <li>3. 現代日本の精神医療保健福祉制度について学び、今後に求められる制度と看護の役割についての見解を持つ。</li> <li>4. 世界の精神保健医療福祉制度の動向について学び、日本の諸制度の向かうべき方向性についての展望を獲得する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。一部外部特別講師による講義を含む。				
教科書	小俣和一郎：近代精神医学の成立、人文書院、2002				
	八木剛平・田辺英：日本精神病治療史、金原出版、2002				
参考文献	岡田靖雄：日本精神科医療史、医学書院、2002				
	他、適宜紹介				
成績評価の方法	プレゼンテーション準備度20%、出席・参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	4月13日(木)	9:00～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論①② 近代精神医学史
	3・4	4月20日(木)	9:00～12:00		歴史・法制度論③④ 病院精神医学の成立
	5・6	4月27日(木)	9:00～12:00		歴史・法制度論⑤⑥ 大学精神病院の成立
	7・8	5月11日(木)	9:00～12:00		歴史・法制度論⑦⑧ 戦争と精神医学
	9・10	5月18日(木)	9:00～12:00		歴史・法制度論⑨⑩ 古代日本精神医療史
	11・12	5月25日(木)	9:00～12:00		歴史・法制度論⑪⑫ 近代日本精神医療史
	13・14	6月8日(木)	9:00～12:00		歴史・法制度論⑬⑭ 精神保健医療福祉制度
15	6月15日(木)	10:35～12:00	歴史・法制度論⑮ 世界の精神保健福祉		

科目名 精神看護学特論Ⅱ（精神看護理論）

（2単位 15コマ）

科目担当者	○田中 美恵子				
講義概要	精神分析理論、精神病理学理論、対人関係論等、精神看護学を構成する基礎的理論を学び、対象をアセスメントし、関係を形成し、看護介入を行うための理論的基盤を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神分析の基礎理論について学び、重要概念を理解する。</li> <li>2. 対象関係論について学び、重要概念を理解する。</li> <li>3. 力動的精神医学について学び、DSMと精神分析概念を併用したアセスメント・介入技術について理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。一部外部特別講師による講義を含む。				
教科書	土居健郎：精神分析と精神病理、第2版、医学書院、1970				
	G.O.ギャバード：精神力動的精神医学①理論編、岩崎学術出版、1998				
参考文献	C.ブレナー：精神分析の理論、誠信書房、1986				
	G.O.ギャバード：精神力動的精神医学②臨床編：Ⅰ軸障害、岩崎出版、1998				
	G.O.ギャバード：精神力動的精神医学③臨床編：Ⅱ軸障害、岩崎学術出版、1998				
	小此木啓吾他編：精神分析セミナーⅠ～Ⅴ、岩崎学術出版社、1981～1988				
	小此木啓吾：精神分析の成り立ちと発展、弘文堂、1985				
	小此木啓吾：精神分析の基礎理論、弘文堂、1985				
前田重治：図説 臨床精神分析学 誠信書房、1985					
成績評価の方法	プレゼンテーション準備度20%、出席・参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	6月22日(木)	9:00～12:00	田中美恵子	精神看護理論①②精神分析理論（局在論）
	3・4	6月29日(木)	9:00～12:00		精神看護理論③④精神分析理論（構造論）
	5・6	7月6日(木)	9:00～12:00		精神看護理論⑤⑥精神分析理論（精神的発達）
	7・8	7月13日(木)	9:00～12:00		精神看護理論⑦⑧精神分析理論（防衛機制）
	9・10	7月20日(木)	9:00～12:00		精神看護理論⑨⑩対象関係論
	11・12	7月27日(木)	9:00～12:00		精神看護理論⑪⑫力動精神医学（Ⅰ軸障害）
	13・14	9月7日(木)	9:00～12:00		精神看護理論⑬⑭力動精神医学（Ⅱ軸障害）
15	9月14日(木)	10:35～12:00	精神看護理論⑮ 事例検討		

科目名 精神看護学特論Ⅲ（精神看護倫理・当事者論）

（2単位 15コマ）

科目担当者	○田中 美恵子、濱田 由紀、畠山 卓也				
講義概要	精神看護倫理の基礎理論、当事者論等学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリカバリーを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。さらに当事者の側から求められる精神保健医療・看護について、リカバリーモデルおよびストレングスモデルを基盤に洞察する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護倫理の基礎理論を学び、実践を倫理的観点からみるための基礎を養う。</li> <li>2. 国内外の当事者運動の歴史と動向を文献を通して理解する。</li> <li>3. 当事者の手記、当事者の視点に焦点を当てた研究等を読み、当事者体験を理解する。</li> <li>4. リカバリーモデル・ストレングスモデルなど、当事者中心のモデルについて理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。				
参考文献	別途指示する。				
成績評価の方法	プレゼンテーション準備度20%、出席・参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	5月11日(木)	13:00～16:00	田中美恵子	精神看護倫理①② 倫理理論の基礎
	3・4	5月18日(木)	13:00～16:00	田中美恵子	精神看護倫理③④ 臨床倫理
	5・6	5月25日(木)	13:00～16:00	畠山 卓也	精神看護倫理⑤⑥ 隔離拘束に伴う倫理
	7・8	6月8日(木)	13:00～16:00	畠山 卓也	精神看護倫理⑦⑧ 事例検討
	9・10	6月15日(木)	13:00～16:00	田中美恵子	精神看護倫理⑨⑩ 事例検討
	11・12	6月22日(木)	13:00～16:00	濱田 由紀	当事者論①②リカバリーモデル
	13・14	6月29日(木)	13:00～16:00	濱田 由紀	当事者論③④ストレングスモデル
	15	7月6日(木)	13:00～14:25	田中美恵子	当事者論⑤⑥当事者の手記・体験記

科目名 精神看護学特論Ⅳ（リエゾン精神看護理論）

（2単位 15コマ）

科目担当者	○田中 美恵子、尾崎 恭子、山内 典子 (Pamela Minarik)				
講義概要	心身一元論の立場より、ホリスティック・アプローチを基本とするリエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、活動の実際などについて、実践的レベルで探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学の一専門領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的・機能を理解する。</li> <li>2. 身体疾患をもつ患者の精神の特徴およびアセスメントの方法について理解する。</li> <li>3. せん妄、抑うつ、不安の3つの精神状態について説明できる。</li> <li>4. 直接ケアおよびコンサルテーションのプロセスや方法、役割について説明できる。</li> <li>5. 看護師のメンタルヘルスの特徴およびリエゾン精神専門看護師が行う支援について理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。				
教科書	野末聖香編著：リエゾン精神看護－患者ケアをナース支援のために、医歯薬出版				
参考文献	適宜紹介				
成績評価の方法	出席・参加度30%、レポート70%とし、総合的に評価する。発表の準備度・内容、討議への参加度、レポート				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～4	6月5日(月)	9:00～16:00	Minarik 田中美恵子	リエゾン精神看護①, ②, ③, ④ (概論：目的・機能、コンサルテーションのタイプ)
	5～8	6月6日(火)	9:00～16:00	Minarik 田中美恵子	リエゾン精神看護⑤,⑥,⑦,⑧ (各論：せん妄・抑うつ・不安とアセスメント)
	9～10	9月7日(木)	13:00～16:00	山内 典子	リエゾン精神看護⑨,⑩ (ケースコンサルテーション)
	11・12	9月14日(木)	13:00～16:00	山内 典子	リエゾン精神看護⑪,⑫ (看護師への支援)
	13・14	9月21日(木)	13:00～16:00	山内 典子	リエゾン精神看護⑬,⑭ (管理的コンサルテーション)
	15	9月29日(金)	10:35～12:00	尾崎 恭子	リエゾン精神看護⑮ (術後せん妄)

科目名 精神看護学特論Ⅴ（精神科薬物療法）☆

(2単位 15コマ)

科目担当者	○田中 美恵子、異儀田はづき、稲田 健、高橋 一志、嵐 弘美、濱田 由紀				
講義概要	精神科薬物治療論について学び、診断と処方の理論的関連を理解するとともに、精神科薬物療法の効果（作用・副作用）をアセスメントし、看護援助につなげる能力を養う。また、身体疾患治療薬の精神症状への作用について学び、リエゾン領域での薬物治療における精神症状のアセスメント能力を養う。さらに、服薬心理教育等、薬物療法を受けている患者への看護援助について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科薬物治療の基礎理論について理解する。</li> <li>2. 外来診断面接見学とディスカッションを通して、医師による診断と処方の理論的根拠を理解する。</li> <li>3. 精神科薬物療法の効果（作用・副作用）をアセスメントできる能力を養う。</li> <li>4. 服薬心理教育の方法を理解し、実践するための基礎能力を養う。</li> <li>5. 身体疾患治療薬の精神機能への作用について理解する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義形式をとる。内容によって演習形式を行う。				
教科書	後日指定する。				
参考文献	適宜紹介。				
成績評価の方法	出席・参加度30%、レポート70%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	8月1日(火)	15:00～18:00	稲田 健	精神科薬物治療総論(1)統合失調症の薬物治療
	3・4	8月3日(木)	15:00～18:00	高橋 一志	精神科薬物治療総論(2)感情障害の薬物治療
	5～8	8月15日(火)	9:00～16:00	稲田 健	外来診断面接見学実習：診断と処方の実際
	9～12	8月17日(木)	9:00～16:00	高橋 一志	外来診断面接見学実習：診断と処方の実際
	13・14	9月6日(水)	13:00～14:25	嵐 弘美	身体疾患治療薬と精神症状
	15・16	11月29日(水)	13:00～16:00	濱田 由紀 異儀田はづき	服薬心理教育
	17・18	12月13日(水)	9:00～12:00	田中美恵子	薬物の作用・副作用のアセスメントと看護援助
	19	12月20日(水)	9:00～12:00	田中美恵子	薬物の作用・副作用のアセスメントと看護援助

科目名 精神看護学演習Ⅰ（対象理解と自己理解）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○田中美恵子、小山 達也、飯塚あつ子、山内 典子、（遠山 梓）				
講義概要	精神状態のアセスメントならびに個対個の関係の展開、集団における関係について、実践的な演習を通して学習し、対象理解と自己理解を深め、看護介入の基本となる精神状態のアセスメントの技術と対人関係の技術を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神状態のアセスメントのための理論を学び、実践への応用のための技術を習得する。</li> <li>2. 子どもの精神状態をアセスメントするための理論と技術を習得する。</li> <li>3. 治療的な対人関係を形成するための理論を学び、実践へ応用するための技術を習得する。</li> <li>4. 集団力動理論を理解し、集団特有の心理を理解し、集団療法的介入を行うための技術の基礎を学ぶ。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に、演習やロールプレイを加え、演習形式で進める。				
教科書	別途指示する。				
参考文献	土居健郎：方法としての面接、医学書院、1977				
	神田橋條治：追補 精神科診断面接のコツ、岩崎学術出版、1990				
	神田橋條治：精神療法面接のコツ、岩崎学術出版、1990				
	土居健郎：精神療法と精神分析、金子書房、1961				
	G.W.スチュアートほか：新臨床看護学大系、精神看護学Ⅰ、医学書院、1986				
成績評価の方法	出席・参加度30%、レポート70%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	5月10日(水)	13:00～17:35	田中美恵子	精神状態のアセスメント① (MSE)
	4～6	5月17日(水)		田中美恵子	精神状態のアセスメント② (MSE)
	7～9	5月24日(水)		田中美恵子	精神状態のアセスメント③ (診断面接技術)
	10～12	6月7日(水)		遠山 梓	子どもの精神障害①
	13～15	6月14日(水)		遠山 梓	子どもの精神障害②
	16～18	6月21日(水)		山内 典子	精神状態のアセスメント④ (器質性精神障害)
	19～21	6月28日(水)		小山 達也 飯塚あつ子	対人関係の技法① (対人関係理論)
	22～24	7月5日(水)		小山 達也 飯塚あつ子	対人関係の技法② (対人関係演習)
	25～27	7月12日(水)		飯塚あつ子	アサーショントレーニング
	28～30	7月19日(水)		田中美恵子	集団精神療法 (集団療法演習)

科目名 精神看護学演習Ⅱ（精神科治療技法）

（2単位 30コマ）

科目担当者	○田中美恵子、小山 達也、濱田 由紀、嵐 弘美 （石川 博康、岡田 佳詠、北野 進、田上美千佳）				
講義概要	心理教育・家族心理教育、認知行動療法など精神看護における教育治療的介入技法を演習を通して学習するとともに、自殺予防、早期介入、PTSDへの介入、家族ケア、退院促進、訪問看護、身体表現性障害の看護など、精神看護の多様な実践について焦点化して学び、専門看護師の役割・機能に統合する方法について探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理教育、家族心理教育の理論を学び、専門看護師として実践に応用するための基礎を培う。</li> <li>2. 認知行動療法の理論を学び、専門看護師として実践に応用するための基礎を培う。</li> <li>3. 自殺予防、早期介入、PTSDへの介入、家族ケア、退院促進、訪問看護、身体表現性障害の看護など、精神看護の多様な実践における介入技術について学ぶ。</li> <li>4. 専門看護師の役割・機能について学び、さまざまな治療的介入技術の統合について探求する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	ビデオ教材を用いた演習やロールプレイを加え、演習形式で進める。内容によって講義形式をとる。一部特別講師の講義を含む。				
教科書	特に指定せず。				
参考文献	適宜紹介				
成績評価の方法	出席・参加度30%、レポート70%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	10月4日(水)	13:00～17:35	濱田 由紀	心理教育・家族心理教育
	4～6	10月11日(水)		小山 達也	自殺予防の看護援助
	7～9	10月18日(水)		小山 達也	惨事ストレス・PTSDへの介入
	10～12	10月25日(水)		田上美千佳	家族ケア
	13～15	11月8日(水)		北野 進	統合失調症の認知行動療法
	16～18	11月15日(水)		石川 博康	早期介入
	19～21	11月22日(水)		田中美恵子	退院促進・訪問看護
	22～24	11月29日(水)		嵐 弘美	身体表現性障害の看護
	25～27	12月6日(水)		岡田 佳詠	うつ病の認知行動療法
28～30	12月13日(水)	田中美恵子		治療的介入技術とCNSの役割	

科目名 精神看護学演習Ⅲ（精神看護援助方法）

（2単位 30コマ）

科目担当者	○田中美恵子、小山 達也、異儀田はづき、飯塚あつ子				
講義概要	特定の精神保健問題について、さらに専門的な知識と技術を獲得するために、学生は以下の領域からいずれかを選択し、その領域の看護援助方法論について、文献学習とフィールドワークを通して探求する。 （領域）救急・急性期看護、慢性・長期入院看護、薬物依存症看護、児童・思春期看護、うつ病看護、身体合併症看護、精神訪問看護・地域精神看護、リエゾン精神看護				
到達目標	1. 精神看護の実践の中で、学生個々が関心領域を選択する。 2. 各自の関心領域について文献学習を行い、その領域における実践上の課題を探求する。 3. 各自の関心領域に沿って、フィールドを選択し、フィールドワークを行いながら、その領域における看護援助方法の特徴と課題を探求する。				
講義のすすめ方	文献学習とフィールドワークによって行う。フィールドワークの進めかたの詳細については個別に相談する。また、フィールドワークの経過および結果について個別に面談をする。				
教科書	特に指定せず。				
参考文献	適宜紹介				
成績評価の方法	文献学習の達成度30%、レポート70%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	12月6日(水)	9:00～12:00	田中美恵子 小山 達也 異儀田はづき 飯塚あつ子	学内演習① 関心テーマの発表
	3・4	12月20日(水)	13:00～16:00	田中美恵子 小山 達也 異儀田はづき 飯塚あつ子	学内演習② 関心テーマの発表
	5・6	1月17日(水)	9:00～12:00	田中美恵子	フィールドワークと個別面談①
	7～11	1月24日(水)	9:00～17:35	田中美恵子	フィールドワークと個別面談②
	12～16	1月31日(水)	9:00～17:35	田中美恵子	フィールドワークと個別面談③
	17～21	2月7日(水)	9:00～17:35	田中美恵子	フィールドワークと個別面談④
	22～26	2月14日(水)	9:00～17:35	田中美恵子	フィールドワークと個別面談⑤
27～30	2月21日(水)	9:00～16:00	田中美恵子	フィールドワークと個別面談⑥	

科目名 精神看護学実習Ⅰ（高度実践看護役割機能の実習）

（2単位：1年次、2週×1回）

科目担当者	○田中美恵子、小山 達也、異儀田はづき、飯塚あつ子
実習概要	<p>【実習目的】                      基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNSの役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。</p> <p>【到達目標】                      (1)精神科医療施設におけるCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。                      (2)各自の関心テーマに基づいて、独自に実習の焦点を定め、それに基づいて実習中に参加観察を行う。（(1)(2)と併用しても可）</p>
実習のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. CNSの役割と機能について、病院CNSからオリエンテーションを受け、CNSの活動に同行し、相談・調整・教育などのCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。</li> <li>2. 1日の終わりに、CNSとカンファレンスを実施し、その活動の意図について検討する。</li> <li>3. 最終カンファレンスにおいて、CNSの役割と機能について学習したところを発表し、ディスカッションを通して、学びを共有する。その際、学生は交代で司会を実施する。その他、各自の実習の焦点に合わせ、学びを発表し、実習全体の学びを相互に共有する。</li> </ol>
実習場所	医療法人社団碧水会長谷川病院
実習期間	2018年2月26日（月）～3月9日（金）まで（8日間） 1限～4限 *但し、水曜日を除く。
成績評価の方法 提出物	出席・実習参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目名 精神看護学実習Ⅱ（直接ケア実習）

（4単位：2年次、4週×1回）

科目担当者	○田中 美恵子
実習概要	<p>【実習目的】 実習Ⅰに同じ。</p> <p>【到達目標】 精神科医療施設において、直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。</p>
実習のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者を2名程度受け持ち、精神症状の査定、精神力動の査定、精神療法的関係づくりを通して、直接的看護介入を実施する。</li> <li>2. 病棟において定期的にカンファレンスを実施し、病棟スタッフからケアに対する評価を得るとともに、看護チーム、医療チームとの調整・連携を行う。</li> <li>3. 提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者（CNS）からスーパービジョンを受け、看護介入の意味を精神療法的な観点を踏まえ考察する。</li> <li>4. 実習病棟または病院において参加観察を行い、病棟内力動を査定しながら、病棟カンファレンス等の場を通して病棟内力動に介入する。</li> <li>5. 学内において、事例のケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。その際、学生は交代で司会を実施し、事例検討の進行について体験的に学習する。</li> </ol>
実習場所	東京都立松沢病院
実習期間	原則として、4月～5月の間の4週間（4日/週×4週間：16日間）1限～4限 *各学生の必要に応じて実習期間を設定する。
成績評価の方法 提出物	出席・実習参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目名 精神看護学実習Ⅲ☆（サブスペシャリティ実習）

（2単位：2年次、2週×1回）

科目担当者	○田中美恵子、畠山 卓也
実習概要	<p>【実習目的】 実習Ⅰに同じ。</p> <p>【到達目標】 学生各自が選択する、救急急性期、慢性期、依存症、リエゾン等の精神看護の専門領域において直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。 *なお、リエゾン領域の実習を希望する者は次ページのリエゾン実習の要項を参照のこと。</p>
実習のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者を2名程度受け持ち、精神症状の査定、精神力動の査定、精神療法的関係づくりを通して、直接的看護介入を実施する。</li> <li>2. 病棟において定期的にカンファレンスを実施し、病棟スタッフからケアに対する評価を得るとともに、看護チーム、医療チームとの調整・連携を行う。</li> <li>3. 提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者（CNS）からスーパービジョンを受け、看護介入の意味を精神療法的な観点を踏まえ考察する。</li> <li>4. 学内において、事例のケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。その際、学生は交代で司会を実施し、事例検討の進行について体験的に学習する。</li> </ol>
実習場所	<p>学生は自分の関心領域に応じて、以下の実習施設から臨床実習の場を選ぶことができる。 東京女子医科大学病院、青溪会駒木野病院、東京都立松沢病院、財団法人井の頭病院</p>
実習期間	<p>原則として、6月の2週間（4日/週×2週間：8日間）1限～4限 *各学生の必要に応じて実習期間を設定する。</p>
成績評価の方法 提出物	<p>出席・実習参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。</p>

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目名 精神看護学実習Ⅲ☆  
（サブスペシャリティ実習：リエゾン精神看護学実習）

（2単位：2年次、2週×1回）

科目担当者	○田中美恵子、山内 典子、安田 妙子
実習概要	<p><b>【実習目的】</b> 実習Ⅰに同じ。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リエゾン領域のCNSの活動について参加観察を通して、リエゾン精神看護における対象および場の特徴、CNSの役割と機能を学習する。</li> <li>2. コンサルテーションのケースに対して、スーパービジョンを受けながらケース理解を深め、看護介入方法等について検討し、さらに活動の評価を行うことを通して、より専門的な看護実践能力を習得する。</li> </ol>
実習のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リエゾン精神看護の実際について、リエゾン領域のCNSの活動に同行し、リエゾン精神看護における対象および場の特徴を理解するとともに、実践・コンサルテーション・調整・倫理調整・教育などのCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。また、1日の終わりに、CNSおよび担当教員とカンファレンスを実施し、その活動の意図や方法について検討する。</li> <li>2. コンサルテーションのケースに対して、専門的知識を用いてケース理解を深めるとともに、対応を必要とする課題・課題へのアプローチ方法および方略等について検討し、CNSおよび担当教員からスーパービジョンを受ける。CNSのコンサルテーションの実施場面を参加観察し、コンサルタントの反応も聞きながら活動の評価を行う。</li> </ol>
実習場所	東京女子医科大学病院
実習期間	原則として、9月の2週間（4日/週×2週間：8日間）1限～4限 *各学生の必要に応じて実習期間を設定する。
成績評価の方法 提出物	出席・実習参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目名 精神看護学実習Ⅳ☆（間接ケア実習）

（2単位：2年次、2週×1回）

科目担当者	○田中美恵子、山内 典子、安田 妙子、畠山 卓也
実習概要	<p><b>【実習目的】</b>                      基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、施設内において相談・調整・倫理調整などの間接ケアを実際に体験し、専門看護師としての間接ケア能力を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療施設において、CNSの実施している相談・調整・倫理調整などの場面に同行し、その実際について学習する。</li> <li>2. 医療施設において、相談・調整・倫理調整などについて、CNSの指導を受けながら、実施し、スーパービジョンを受ける。</li> </ol>
実習の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. CNSの指導を受けながら、相談・調整・倫理調整を実際に行い、教員および臨床指導者（CNS）よりスーパービジョンを受ける。相談（コンサルテーション）については、2例程度を目標とする。</li> <li>2. 学内カンファレンスにおいて、自分が行った間接ケアについて発表し、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。</li> </ol>
実習場所	学生は、以下の実習施設から臨床実習の場を選ぶことができる。 東京女子医科大学病院、財団法人井の頭病院
実習期間	原則として、10月～12月の間の2週間（3日/週、学内1日×2週間） ＊各学生の必要に応じて実習期間を設定する。
成績評価の方法 提出物	出席・実習参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目名 精神看護学課題研究

(2単位 30コマ)

科目担当者	○田中 美恵子
講義概要	精神看護学特論および演習で得た知識と技術をもとに、精神看護における直接的看護介入ならびに間接的看護介入に関する問題群の中から、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献の検討を行うことで、精神看護学の実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。
到達目標	1. 各自のテーマを発見し、系統的な文献検討を行い、テーマに関する研究動向を把握する。 2. 関心テーマにおける研究的なエビデンスを把握し、総説論文としてまとめる。
講義の進め方	各自の文献検討と個人面接によって進める。
参考文献	指定せず。
成績評価の方法	出席・実習参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。
指導日程	毎週木曜日 6限（17:45～19:10） 1コマ 通年

科目名 精神看護学特別研究

（8単位 120コマ）

科目担当者	○田中 美恵子
講義概要	精神看護学特論および演習で得た知見をもとに、精神看護領域における各自の問題意識を精錬し、研究テーマを発見するとともに方法論的吟味を行い、一連の研究プロセスを通して精神看護学の学的発展に寄与する基礎的研究能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の研究テーマを発見し、文献検討を行い、テーマに関する最新の研究動向を把握する。</li> <li>2. 研究課題に適した方法を決定し、その方法論について理解を深める。</li> <li>3. 倫理的配慮の伴った研究計画を立案し、一連の研究プロセスを通して、基礎的研究能力を獲得する。</li> </ol>
講義の進め方	フィールドワークを通じた研究活動と個人面接によって進める。
参考文献	指定せず。
成績評価の方法	研究の進め方、特別研究の達成度。
指導日程	毎週木曜日 4・5限（14:35～17:35） 2コマ 通年 毎週土曜日 3・4限（13:00～16:00） 2コマ 通年

科目名 地域看護学特論 I（地域看護の各分野における専門性の追求）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○清水 洋子、中田 晴美、池戸 啓子、吉澤 裕世、高 紋子、（中村由美子）				
講義概要	地域看護学の各分野における看護専門職として、個人と家族への専門的な看護ケア、及び集団に対する看護ケアの主要な概念を理解する。さらに、介入方法の変遷と近年の動向、ケアの質の管理、運営方法等の開発に関わる専門的能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行政看護（公衆衛生看護）・産業看護・在宅看護の各分野における専門的な看護ケアの概要について説明することができる。</li> <li>2. 個人及び家族の健康と生活のアセスメントに関わる諸理論を理解し、アセスメントの視点を述べることができる。</li> <li>3. 看護専門職としてのケアの質の管理方法、運営方法および評価方式を挙げるすることができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	地域看護の各領域における看護の専門性、個人と家族への支援方法、及び最近の動向について、講義と討論、学生によるプレゼンテーション、討議を中心に進める。				
参考文献	Porche,D: Public & Community Health Nursing Practice,Sage,2004				
	Rice, R.: Home Care Nursing Practice: Concepts and Application, 4th ed., Mosby, 2005				
	その他、適宜紹介する。				
成績評価の方法	出席、参加態度、課題プレゼンテーションで総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月13日(木)	13:00～14:25	清水 洋子	地域看護学の専門性と最近の動向
	2		14:35～16:00	清水 洋子	家族のケア理論とヘルスアセスメント
	3	4月20日(木)	13:00～14:25	中田 晴美	行政看護の専門性と最近の動向
	4		14:35～16:00	中田 晴美	地方自治体の保健福祉政策と看護の戦略
	5	4月25日(火)	13:00～14:25	池戸 啓子	地方自治体の保健システムと看護の役割
	6		14:35～16:00	池戸 啓子	地域保健事業計画と看護技術①
	7		16:10～17:35	池戸 啓子	地域保健事業計画と看護技術②
	8	5月9日(火)	13:00～14:25	吉澤 裕世	産業保健看護の専門性と最近の動向
	9		14:35～16:00	高 紋子	認知症の在宅ケアの実際と課題
	10	7月8日(土)	9:00～10:25	中村由美子	子どもと家族のアセスメントと支援（家族への介入と評価）①*
	11		10:35～12:00	中村由美子	子どもと家族のアセスメントと支援（家族への介入と評価）②*
	12		13:00～14:25	中村由美子	子どもと家族のアセスメントと支援（家族への介入と評価）③*
	13		14:35～16:00	中村由美子	子どもと家族のアセスメントと支援（家族への介入と評価）④*
	14		16:10～17:35	中村由美子	子どもと家族のアセスメントと支援（家族への介入と評価）⑤*
15	7月11日(火)	16:10～17:35	清水 洋子	総合討議及びまとめ	

\*：クリティカルケア看護学演習Ⅱ、及び小児看護学演習Ⅰとの合同講義  
 中村由美子先生 子どもと家族のアセスメントと支援（家族への介入と評価）①～⑤\*

科目名 地域看護学特論Ⅱ（地域看護政策論）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○清水 洋子、中田 晴美、犬飼かおり、吉澤 裕世、北島 勉				
講義概要	コミュニティとしての組織・集団の成員における生涯健康とQOLの向上をめざし、地域看護領域で広く用いられている保健政策の技法を修得する。特に、行政保健看護活動の事業化および政策化のプロセス、および地域と職域を結んだ関連機関とのネットワーク等を構築する能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政策論的思考をどのように地域看護活動に応用すればよいのか説明できる。</li> <li>2. 地域看護活動を対象別に捉え、政策論的手法を導入する際の応用および注意点を説明できる。</li> <li>3. 地域を結ぶネットワークおよびマネジメントを看護職者の視点で提示することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義と文献講読を基にディスカッションを繰り返し、地域・職域における看護活動の政策化について明らかにし、その結果をプレゼンテーションする。				
参考文献	Mason, D.J., et al.: Policy & Politics in Nursing and Health Care, 6th ed., Saunders, 2011				
	Harris, M: Handbook of home Health Care Administration, 5ed., Jones & Bartlett Learning, 2009				
	その他、適宜紹介する。				
成績評価の方法	出席、参加態度、課題プレゼンテーションで総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	5月16日(火)	13:00～14:25	清水 洋子	オリエンテーション
	2		14:35～16:00	清水 洋子	地域看護管理政策論に関する概要
	3	5月23日(火)	13:00～14:25	中田 晴美	コミュニティ政策論の系譜①
	4	5月23日(火)	14:35～16:00	中田 晴美	コミュニティ政策論の系譜②
	5	5月30日(火)	13:00～14:25	清水 洋子	母子保健政策の現代的課題
	6		14:35～16:00	清水 洋子	母子保健政策のプレゼンテーションと討議
	7	7月11日(火)	13:00～14:25	犬飼かおり	障害者保健政策の現代的課題
	8		14:35～16:00	犬飼かおり	障害者保健政策のプレゼンテーションと討議
	9	7月18日(火)	13:00～14:25	北島 勉	保健医療政策の動向と課題
	10		14:35～16:00	北島 勉	保健行政における政策形成プロセスにおける政策形成と評価
	11	7月25日(火)	13:00～14:25	中田 晴美	高齢者保健政策の現代的課題
	12		14:35～16:00	中田 晴美	高齢者保健政策のプレゼンテーションと討議
	13	9月5日(火)	13:00～14:25	吉澤 裕世	高齢者支援のためのネットワークと評価①
	14		14:35～16:00	吉澤 裕世	高齢者支援のためのネットワークと評価②
15	9月19日(火)	13:00～14:25	清水 洋子	まとめ	

科目名 地域看護学特論Ⅲ (ヘルスプロモーション・健康教育論)

(2単位 15コマ)

科目担当者	○清水 洋子、中田 晴美、犬飼かおり、吉澤 裕世、北島 勉、(坂井理映子)				
講義概要	地域・職域で生活を共有する人々の健康およびQOLの向上のための主要な活動であるヘルスプロモーション・健康教育について、その理論とケアモデル、および効果的な健康教育プログラムの開発方法を修得し、それに基づいた地域看護実践方法を探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスプロモーション・健康教育についての理念や理論を理解し、述べることができる。</li> <li>国内外や地域・職域看護領域におけるヘルスプロモーション活動の実践活動を理解し、述べるができる。</li> <li>ヘルスプロモーションの理念にもとづく健康教育の具体的なプログラムの開発、実施と評価の過程を理解し、それに基づいた地域看護実践方法を提言することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義と討論、学生によるプレゼンテーション、討議を中心に進める。				
参考文献	Fertman, C.I., et al.: Health Promotion Programs: From Theory to Practice, Jossey-Bass,2010				
	Doyle, E.I., et al.: Process of Community health Education and Promotion, 2nd ed., Waveland Pr Inc, 2009				
	日本健康教育士養成機構編:新しい健康教育, 保健同人社, 2011				
	その他、適宜紹介する。				
成績評価の方法	出席、参加態度、課題プレゼンテーションで総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	10月2日(月)	13:00~14:25	清水 洋子	ヘルスプロモーションと健康教育①
	2		14:35~16:00	清水 洋子	ヘルスプロモーションと健康教育②
	3	10月16日(月)	13:00~14:25	清水 洋子	ヘルスプロモーションと健康教育③
	4		14:35~16:00	清水 洋子	ヘルスプロモーションと健康教育④
	5	10月23日(月)	13:00~14:25	中田 晴美	ヘルスプロモーションと地域看護活動①
	6		14:35~16:00	中田 晴美	ヘルスプロモーションと地域看護活動②
	7	11月6日(月)	13:00~14:25	吉澤 裕世	産業保健とヘルスプロモーション活動①
	8		14:35~16:00	吉澤 裕世	産業保健とヘルスプロモーション活動②
	9	11月13日(月)	13:00~14:25	坂井理映子	予防医学の最前線と効果的な保健指導
	10		14:35~16:00	坂井理映子	予防医学の最前線と効果的な保健指導
	11	11月20日(月)	13:00~14:25	犬飼かおり	地域看護におけるヘルスプロモーション活動①
	12		14:35~16:00	犬飼かおり	地域看護におけるヘルスプロモーション活動②
	13	11月27日(月)	13:00~14:25	北島 勉	国際保健とヘルスプロモーション活動①
	14		14:35~16:00	北島 勉	国際保健とヘルスプロモーション活動②
15	12月4日(月)	13:00~14:25	清水 洋子	プレゼンテーションと総合討議	

科目名 地域看護学特論Ⅳ（在宅ケアシステムと在宅ケア看護学の専門性）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○清水 洋子、犬飼かおり、高 紋子、秋山 正子				
講義概要	地域ケアシステムの構成要素および構築プロセスを分析する。 また地域における各種ケアシステムおよび社会資源の現状と課題をアセスメントし、その発展の方向性を探求する。 さらに、在宅ケアシステムの構成要素と構築プロセスを分析し、現状と課題の査定、発展の方向性を探求し、効果的なケアシステム開発の能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域ケアシステムを構築していく段階を説明することができる。</li> <li>2. 効果的な在宅ケアマネジメント技術の方法を修得できる。</li> <li>3. 社会資源の活用と新たな資源の開発の方向性を提言することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義と討論、学生によるプレゼンテーション、討議を中心に進める。				
参考文献	適宜紹介する				
成績評価の方法	出席、参加態度、課題プレゼンテーションで総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	10月3日(火)	13:00～14:25	清水 洋子	地域ケアシステムと在宅看護
	2		14:35～16:00		地域ケアシステムとその評価
	3	10月10日(火)	13:00～14:25	清水 洋子	在宅ケアの質評価と利用者アウトカム、QOL
	4		14:35～16:00		在宅ケアの質評価と質改善アプローチ
	5	10月17日(火)	13:00～14:25	清水 洋子	在宅ケアの社会資源の現状と課題（プレゼンテーション）
	6		14:35～16:00		在宅ケアの質評価（討議）
	7	10月24日(火)	13:00～14:25	犬飼かおり	訪問看護と保健・医療の連携—退院時の調整①
	8		14:35～16:00		訪問看護と保健・医療の連携—退院時の調整②
	9	10月24日(火)	16:10～17:35	高 紋子	認知症の在宅ケアの実際と課題
	10	11月7日(火)	13:00～14:25	秋山 正子	地域医療システムの訪問看護サポート体制①
	11		14:35～16:00		地域医療システムの訪問看護サポート体制②
	12	11月14日(火)	13:00～14:25	秋山 正子	終末期を支える専門看護師の役割-ケアの実際①
	13		14:35～16:00		終末期を支える専門看護師の役割-ケアの実際②
	14		16:10～17:35		秋山 正子
15	11月28日(火)	14:35～16:00	清水 洋子	地域ケアシステムに関する総合討議と提言	

科目名 地域看護学特論Ⅴ（地域看護学研究法）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○清水 洋子、中田 晴美、（柴田 健雄）				
講義概要	地域看護学をめぐる最新の課題を明確にし、活動を発展させ貢献しうる量的・質的研究方法論の実際を学ぶ。その中で、データ収集技法、面接技法、調査と測定の方法、および介入研究の方法を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護学領域における研究の動向を説明できる。</li> <li>2. 地域看護学領域における研究方法の種類とプロセスの概要を説明できる。</li> <li>3. 各自の研究テーマに結びつく課題と研究方法を明確にできる。</li> <li>4. 各自の研究テーマに関連する内容のプレゼンテーションを主体的に行うことができ、自らの研究を推進していく基礎能力を習得できる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	前半では講義を通し、地域における各研究手法を学び、その後、学生がそれぞれの研究手法を用いた研究のレビューを発表する。また、後半においては、研究計画書作成のための準備として、自分の研究において中心となる概念やモデルのレビューや研究手法の検討を行った後、各自研究計画書を作成し、プレゼンテーションを行う。				
参考文献	適宜紹介する。				
成績評価の方法	出席、参加態度、課題プレゼンテーションで総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	12月12日(火)	13:00～14:25	清水 洋子	オリエンテーション
	2	12月12日(火)	14:35～16:00	清水 洋子	地域ケアにおける質改善のための実践的研究①
	3		16:10～17:35	清水 洋子	地域ケアにおける質改善のための実践的研究②
	4	12月19日(火)	13:00～14:25	中田 晴美	地域ケアにおける疫学的研究法①
	5		14:35～16:00	中田 晴美	地域ケアにおける疫学的研究法②
	6	1月9日(火)	13:00～14:25	中田 晴美	地域ケアにおける介入研究と準実験研究①
	7		14:35～16:00	中田 晴美	地域ケアにおける介入研究と準実験研究②
	8	1月15日(月)	13:00～14:25	清水 洋子	地域ケアにおける調査研究法①
	9		14:35～16:00	清水 洋子	地域ケアにおける調査研究法②
	10		16:10～17:35	清水 洋子	地域ケアにおける調査研究法③
	11	1月22日(月)	13:00～14:25	清水 洋子	地域ケアにおける調査研究法④
	12		14:35～16:00	柴田 健雄	地域ケア研究に活用する階層分析法①
	13		16:10～17:35	柴田 健雄	地域ケア研究に活用する階層分析法②
	14	1月30日(火)	13:00～14:25	清水 洋子	質的研究と量的研究のエビデンスの統合
15	14:35～16:00		清水 洋子	まとめ	

科目名 地域看護学特論VI（疫学・実践保健統計学）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○清水 洋子、中田 晴美				
講義概要	保健師活動における地域アセスメントおよび地域看護診断の基礎となる疫学・高度保健統計学的手法を習得し、地域ケアにおける情報リテラシー、すなわち体験やメディアを通じて得られる大量の情報の中から必要なものを探し出し、地域の健康課題に即して加工し、意思決定を下したり、アウトカムを記述しエビデンスを得るための知識と技能を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域ケアに関する課題に関して問題設定と文献検索を通して批判的吟味ができる。</li> <li>2. 疫学の基本知識を用いて、問題の設定とその解明の過程を説明することができる。</li> <li>3. 研究プロトコールの立案を提示することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義とグループワークおよびディスカッションを通して、配布された演習用マテリアルに提供される課題を明確にし、その結果を深化させる形式で行う。				
参考文献	Atman, DG: 医学研究における実用統計学、サイエンス社、1999				
	縣俊彦編: EBMのための臨床疫学、中外医学社、2003				
	Rothman, KJ: ロスマンの疫学、篠原出版、2004				
成績評価の方法	出席、参加態度、課題プレゼンテーションで総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1			清水 洋子	ガイダンス
	2			清水 洋子	地域アウトカム評価に用いる統計的手法①
	3			清水 洋子	地域アウトカム評価に用いる統計的手法②
	4			清水 洋子	地域アウトカム評価に用いる統計的手法③
	5			清水 洋子	地域アウトカム評価に用いる統計的手法④
	6			中田 晴美	地域情報リテラシーの現状
	7			中田 晴美	地域情報リテラシーの課題
	8			清水 洋子	系統的レビューとメタアナリシス
	9			清水 洋子	地域のアウトカム評価の現状
	10			清水 洋子	地域のアウトカム評価の課題
	11			清水 洋子	社会疫学と社会経済的因子の取り扱い
	12			清水 洋子	内生性を考慮した因果関係の推論
	13			中田 晴美	住民由来アウトカム・QOL 尺度を用いた臨床評価
	14			中田 晴美	地域のアウトカム評価の予防保健活動への活用
15			清水 洋子	まとめ	

※今年度は開講いたしません。

科目名 地域看護学演習 I（地域看護の各分野における実践企画演習）

(2単位 30コマ)

科目担当者	○中田 晴美、清水 洋子、犬飼かおり、渡辺 昌子、高 紋子、吉澤 裕世、池戸 啓子				
講義概要	地域看護分野において、関心のあるトピックスを選択し、コミュニティヘルスアセスメントの理論に基づいた現状のアセスメント、課題の明確化、その課題を解決するための活動計画の立案、コミュニティの人々や他職種、他機関との協働、活動マネジメント方略と看護の果たすべき役割について検討する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスプロモーション、コミュニティヘルスアセスメントの理論に基づき、地域の現状をアセスメントし、課題を明確化することができる。</li> <li>課題解決のための具体的な活動計画（企画・実施・評価および評価指標の選定）を立案することができる。</li> <li>コミュニティの人々や他職種、他機関との協働の促進、質の高い活動を維持していくためのマネジメント方略と、看護が果たすべき役割について提案することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>文献等でヘルスプロモーション、コミュニティヘルスアセスメントに関する理論について検討し、プレゼンテーションを行う。また、理論について実践への適応可能性と課題についてディスカッションを行う。</li> <li>行政・産業・在宅の各分野において、関心のあるトピックスを選択し、トピックスに関連する文献検討、結果発表およびディスカッションを行う。</li> <li>選択したトピックスに関する活動を行っているフィールドの見学および看護職からの活動の現状についてインタビューを行う。</li> <li>理論に基づき、統計資料の収集、現地調査、インタビュー調査の計画および実施、アセスメントに基づく課題の明確化を行う。</li> <li>課題解決のための活動計画（企画・実施・評価および評価指標の選定）の立案、コミュニティの人々や他職種、他機関との協働、活動マネジメント方略と看護の果たすべき役割について考察し、レポートにまとめる。</li> <li>演習内容に関するプレゼンテーションおよびディスカッションを行うことで、活動計画の再考を行う。</li> </ol>				
参考文献	必要に応じて紹介する。				
成績評価の方法	出席状況・参加態度・課題プレゼンテーション・レポートについて総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	4月12日(水)	10:35～14:25	中田 晴美 清水 洋子 犬飼かおり 渡辺 昌子 高 紋子 吉澤 裕世 池戸 啓子	コミュニティヘルスアセスメントの理論とそのプロセス①：コミュニティヘルスアセスメントの方法、情報収集
	3・4	4月19日(水)	14:35～17:35		コミュニティヘルスアセスメントの理論とそのプロセス②：情報の分析、実施、評価
	5・6	4月26日(水)	10:35～14:25		選択したトピックスに関する文献検討
	7・8	5月10日(水)	14:35～17:35		選択したトピックスに関する文献検討結果の発表およびディスカッションによる検討
	9～13	5月17日(水)	10:35～17:35		選択したトピックスに関する活動を行っているフィールドの見学および、実践の看護職から活動の現状についてインタビュー調査
		5月24日(水)	10:35～12:00		
	14～18	5月31日(水)	13:00～17:35		理論に基づき、統計資料の収集、現地調査、インタビュー調査の計画および実施
		6月7日(水)	10:35～14:25		
	19・20	6月14日(水)	14:35～17:35		アセスメントに基づく課題の明確化
21～26	6月21日(水)	9:00～17:35	課題解決のための活動計画（企画・実施・評価および評価指標の選定）の立案、コミュニティの人々や他職種、他機関との協働、活動マネジメント方略と看護の果たすべき役割についての検討		
27～30	6月28日(水)	10:35～17:35	プレゼンテーションと総合討議		

\*担当者は学生の選択領域に応じ、適時、専門分野の教員が担当するものとする。

科目名 地域看護学演習Ⅱ

(2単位 30コマ)

科目担当者	○清水 洋子、中田 晴美、犬飼かおり、渡辺 昌子、高 紋子、吉澤 裕世				
講義概要	行政看護分野において、実際の活動の評価を行うことを通し、行政看護専門看護師に求められる管理運営機能を明確にする。具体的には、行政看護のフィールドにおける活動全般について見学し、対象集団の包括的な健康状態、行政保健組織の位置づけ、既存の研究成果から学修を深める。行政看護実践者と関連職種者とのディスカッションを通して活動全般の批判的評価と提言を試みる。諸活動の成果と専門看護師に求められる管理運営機能との関連を考察し、将来的に質の高い実践力をつけるために必要な専門的能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門看護師に求められる6つの能力を実際の行政看護活動の中で具体化していく方法について説明することができる。</li> <li>2. 今後の活動の具体的な展開方法について提案することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	行政看護分野のフィールドにおける活動全般について見学し、対象集団の心身の健康状態、行政保健組織の位置づけ、既存の研究成果などから学びを深め、行政看護実践者やその関連職者とのディスカッションを通して活動全般の批判的評価を試みる。 諸活動の成果と専門看護師に求められる機能との関連を考察し、将来的に質の高い実践力をつけるために必要な専門的能力についてディスカッションする。 これらを踏まえて、今後の活動の展開方法について各自レポートにまとめ、プレゼンテーションと総合討議を行う。				
参考文献	必要に応じて提示する。				
成績評価の方法	出席・参加態度・課題発表・レポート				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～4				行政看護活動のフィールドにおける組織的活動の進め方や研究成果について、集団の健康度を高める働きかけの観点から理解を深め、活動全般の批判的評価を試みる
	5～8				行政看護活動のフィールドにおける総括管理活動（事業・業務管理、組織運営管理、予算管理、人材育成・人事管理、情報管理を含む）の成果の検討 実践家を交えたプレゼンテーションと討議
	9～12				行政看護活動のフィールドにおける事例管理・地区管理活動の成果の検討、及び政策評価（実践家を交えたプレゼンテーションと討議）
	13～16				行政看護活動のフィールドにおける健康づくり・健康教育活動の成果の検討と政策評価（実践家を交えたプレゼンテーションと討議）
	17～20				行政看護活動のフィールドにおける健康危機管理活動の成果の検討と政策評価（実践家を交えたプレゼンテーションと討議）
	21～24				包括的リスクアセスメントとリスクマネジメント活動の成果の検討の検討と政策評価（実践家を交えたプレゼンテーションと討議）
	25～28				行政看護活動のフィールドにおける活動全体の成果のCNSの機能との関連での再評価（実践家を交えたプレゼンテーションと討議）
29～30				行政看護活動全体にCNSの機能を活用した具体的な展開方法論についての検討。これまで演習してきた専門看護師が果たすべき管理機能の各構成要素の相互関連性を検討して、その経験年数や職位との関連を含めた構造化を図る（プレゼンテーションと総合討議）	

※今年度は開講いたしません。

科目名 地域看護学実習Ⅰ

（4単位 4週×1回）

科目担当者	○清水 洋子
実習概要 (目的)	行政看護分野における専門看護師の役割を認識し、対象者（個人・家族・集団）に対する卓越した看護実践、相談、連携調整、教育、研究、倫理的問題の調整を行う能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行政看護分野における専門看護師としての役割を認識しながら実践することができる。</li> <li>2. 選択した地域におけるコミュニティヘルスアセスメントを行い、対象者に対する看護活動計画の立案、実施、評価の一連の過程について卓越した実践を行うことができる。</li> <li>3. 対象者の状況に応じたケアマネジメント、相談および教育的支援を提供することができる。</li> <li>4. 行政看護活動に関わる保健・医療・福祉組織並びにその関連職種との連携・調整能力を強化することができる。</li> <li>5. 倫理的問題を生じている事例に対する調整およびスタッフへの教育・支援を行うことができる。</li> </ol>
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設指導者が実際に果たしているリーダーシップと業務の運営・管理、卓越した看護実践、相談、連携調整、教育、研究、倫理的問題の調整について、実践に参加しながら観察する。</li> <li>2. 観察した各役割場面は、フィールドノートに記載し、目的、方法、課題等について考察し、実習施設指導者からのフィードバックを受け、さらに深める。</li> <li>3. 選択した地域についてコミュニティヘルスアセスメントを行い、地域特性を把握する。</li> <li>4. 複合的な問題を持つ個人および家族のアセスメントを行い、支援方法の計画、実施、評価を行う。さらに、対象者の状況に応じてケアマネジメント、相談および教育的支援を提供する。実践の際には、これまでの公衆衛生エビデンスの知見を基に行う。</li> <li>5. コミュニティヘルスアセスメントで明確化された健康課題に関する集団への健康教育の企画、実施、評価を行う。</li> <li>6. 倫理的問題を生じている事例を取り上げ、事例検討会を企画し、指導者やスタッフと検討する。</li> <li>7. 実習内容2. ～6. について実習レポートおよびケースレポートを作成する。</li> </ol>
実習指導方法	実習施設指導者と担当教員から週1回指導を受ける。加えて実習施設指導者から、実習状況に応じて適宜指導を受ける（実習にあたっては、実習の前後および実習期間を通して実習施設指導者と担当教員は密に連絡をとり、話し合いの機会を持つ。
実習日程	特別区保健所・保健センター、市町村保健センターにて4週間（1週5日間、計20日間）の実習を行う。但し、上記の設定時間数に限らず、専門看護師となるに必要な実践能力を高め、看護活動を創意工夫して変革でき社会組織的に発展させる能力が養われていると確認される時点まで、実習期間の延長を行うものとする
成績評価の方法	出席状況、実習内容、実習レポートおよびケースレポートについて実習施設指導者と担当教員が確認し、総合的に評価する。

科目名 地域看護学実習Ⅱ

（2単位 2週×1回）

科目担当者	○清水 洋子
実習概要 （目的）	産業看護の場における直接的な看護活動を通して、その専門性を学ぶとともに、地域専門看護師としての産業看護分野との連携調整を実践により理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業看護活動の対象者に対する看護活動計画の立案、実施、評価の一連の過程について卓越した実践を行うことができる。</li> <li>2. 職場条件に応じた産業保健看護展開のためのシステム形成、施策形成、ケアマネジメントについて実践することができる。</li> <li>3. 地域専門看護師として、産業看護活動に関わる保健・医療・福祉組織並びにその関連職種との連携・調整能力を強化することができる。</li> </ol>
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設の特性による保健師活動の特徴を理解する。</li> <li>2. 実習施設のコミュニティヘルスアセスメントを行い、特性を把握する。</li> <li>3. 地域の関連職種との連携調整が必要とされる健康課題もしくは事例を選択し、対象者や職場の状況に応じた支援計画の立案、実施、評価を行う。</li> <li>4. 安全衛生委員会等、産業看護業務の運営や管理に関する会議に参加し、関連職種との連携や職員へのコンサルテーション等教育的支援を行う。</li> <li>5. 実習内容1.～4. について実習レポートおよびケースレポートを作成する。</li> </ol>
実習指導方法	実習施設指導者と担当者から週1回指導を受ける。加えて実習施設指導者から、実習状況に応じて適宜指導を受ける（実習にあたっては、実習前後および実習期間を通して実習施設指導者と担当教員は密に連絡をとり、話し合いの機会を持つ。
実習日程	企業にて2週間（1週5日間、計10日間）の実習を行う。但し、上記の設定時間数に限らず、専門看護師となるに必要な実践能力を高め、看護活動を創意工夫して変革でき社会組織的に発展させうる能力が養われていると確認される時点まで、実習期間の延長を行うものとする。
成績評価の方法	出席状況、実習内容、実習レポートおよびケースレポートについて実習施設指導者と担当教員が確認し、総合的に評価する。

科目名 地域看護学実習Ⅲ

（4単位 4週×1回）

科目担当者	○清水 洋子
実習概要 （目的）	Population-centered approach を基盤として、行政看護分野において、地域住民および他職種との協働による事業化のプロセスの実際を実践的に学習する。さらに、地域特性と新しい公衆衛生エビデンスの知見を踏まえて、行政看護事業のアウトカムの評価と改善の方法を実践的に学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における政策体系について理解することができる。</li> <li>2. 実習地域における政策や基本理念に基づいた、新たな事業計画の企画、立案を実施することができる。</li> <li>3. 地域住民および、他職種との協働による事業化のプロセスについて実践することができる。</li> <li>4. 地域特性のアセスメントと公衆衛生エビデンスの知見を取り入れ、研究的に追求し行政看護事業のアウトカム評価を実践することができる。</li> </ol>
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習地域における保健・医療・福祉に関連する政策、施策、事業体系、基本理念、組織等について把握する。</li> <li>2. 現在行われている事業について、研究的視点に基づきアウトカム評価を実施する。</li> <li>3. コミュニティヘルスアセスメントで明確化された健康課題の1つを取り上げ、研究的に追求し、新たな事業計画の企画、立案を行う。事業計画の企画・立案にあたっては、地域住民、関連職種と協働しながら行い、事業化のプロセスを学ぶ。</li> <li>4. 実習内容1.～3について実習レポートおよびケースレポートを作成する。</li> </ol>
実習指導方法	実習施設指導者と担当教員から週1回指導を受ける。加えて実習施設指導者から、実習状況に応じて適宜指導を受ける（実習にあたっては、実習の前後および実習期間を通して実習施設指導者と担当教員は密に連絡をとり、話し合いの機会を持つ）。
実習日程	特別区保健所・保健センターにて4週間（1週5日間、計20日間）の実習を行う。但し、上記の設定時間数に限らず、専門看護師となるに必要な実践能力を高め、看護活動を創意工夫して変革でき社会組織的に発展させうる能力が養われていると確認される時点まで、実習期間の延長を行うものとする。
成績評価の方法	出席状況、実習内容、実習レポートおよびケースレポートについて実習施設指導者と担当教員が確認し、総合的に評価する。

科目名 地域看護学課題研究

(2単位)

科目担当者	○清水 洋子、中田 晴美
講義概要	地域看護学特論および演習で得られた知見をもとに、地域看護領域の実践的課題を発見し、課題研究論文を作成する。課題研究論文の作成指導の内容は、研究課題の設定の妥当性・意義、研究方法についての比較考量、研究プロセスおよび論文作成技法についての指導である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊富な文献検討と演習および実習の経験に基づいて、課題研究テーマを自ら導き出すことができる。</li> <li>2. 研究課題に合致する対象者の選択と適切な方法論を説明することができ、研究実施計画書を作成・発表することができる。</li> <li>3. 課題研究を実施し、課題研究にふさわしい内容の研究論文を提出することができる。</li> <li>4. 課題研究論文の概要をプレゼンテーションすることができる。</li> <li>5. 研究に必要な倫理課題を説明でき、自らの成長を促すことができる。</li> </ol>
講義の進め方	フィールドワークを通じた研究活動および個人指導
参考文献	適宜紹介
成績評価の方法	研究の進め方、課題研究の達成度
指導日程	【前期】 4月から7月の期間中、7週の火曜日、3・4限（14:35～17:35）（2コマ）
	【後期】 10月から1月の期間中、8週の火曜日、3・4限（14:35～17:35）（2コマ）

科目名 地域看護学特別研究

（8単位）

科目担当者	○清水 洋子、中田 晴美
講義概要	地域看護学特論および演習で得られた知見をもとに、地域看護領域の課題を発見し、修士論文を作成する。修士論文の作成指導の内容は、研究課題の設定の妥当性・意義、研究方法についての比較考量、研究プロセスおよび論文作成技法についての指導である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊富な文献検討と演習および実習の経験に基づいて、特別研究テーマを自ら導き出すことができる。</li> <li>2. 研究課題に合致する対象者の選択と適切な方法論を説明することができ、研究実施計画書を作成・発表することができる。</li> <li>3. 特別研究を実施し、特別研究にふさわしい内容の研究論文を提出することができる。</li> <li>4. 特別研究論文の概要をプレゼンテーションすることができる。</li> <li>5. 研究に必要な倫理課題を説明でき、自らの成長を促すことができる。</li> </ol>
講義の進め方	フィールドワークを通じた研究活動および個人指導
参考文献	適宜紹介
成績評価の方法	研究の進め方、特別研究の達成度
指導日程	<p>【前期】 4月から7月の期間中、15週の水曜日、1～4限（9:00～16:00）（4コマ）</p> <p>【後期】 10月から1月の期間中、15週の水曜日、1～4限（9:00～16:00）（4コマ）</p>

科目名 小児看護学特論Ⅰ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○日沼 千尋、諏訪 茂樹、松寄 英士				
講義概要	小児看護の対象理解のため、親子を巡る現代社会の特徴を踏まえ、子どもと家族の成長・発達および援助理論について、心理・社会的な側面から理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における親子関係および家族の発達に関して、家族システム論の立場から考えを述べる事ができる。</li> <li>2. 発達心理学の理論を概観した上で、ポジティブ心理学の視点から子どもの理解について述べる事ができる。</li> <li>3. 子どもの心身のアセスメントの実際と、ストレスおよびコーピング理論について述べる事ができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義および学生のプレゼンテーションに関して、討議する。				
レポート課題	<p>各課題についてレポートを作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族のコミュニケーションについて (発表：4.5コマ)</li> <li>2. 発達理論の概要 (発表：8.9コマ) (発達の定義、発達の原則、主な愛着理論、自我の発達理論、認知発達理論、文化的営みとして発達理論など)</li> <li>3. 子どものストレスに関する理論および先行研究の概観 (発表：14.15コマ) (ストレス理論の概要、子どものストレス認知、反応、対処行動、小児看護におけるストレス研究)</li> </ol> <p>* 課題の詳細は担当教員の指示を受ける。</p>				
指定文献	随時紹介する				
参考文献	その他 随時紹介する				
成績評価の方法	レポート内容60%、プレゼンテーション20%、討議の参加20%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月14日(金)	13:00~14:25	日沼 千尋	オリエンテーション・課題提示
	2・3	4月18日(火)	14:35~17:35	諏訪 茂樹	家族システムと子どもの発達1
	4・5	4月25日(火)	14:35~17:35	諏訪 茂樹	家族システムと子どもの発達2 (発表)
	6・7	5月9日(火)	13:00~16:00	松寄 英士 日沼 千尋	発達心理学の基本1 (課題学習)
	8・9	5月16日(火)	13:00~16:00	松寄 英士	発達心理学の基本2 (発表)
	10・11	5月23日(火)	13:00~16:00	松寄 英士	発達心理学の基本3 (子どもの折れない心)
	12・13	6月6日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	子どものストレス・ストレスコーピング1 (課題学習)
14・15	7月4日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	子どものストレス・ストレスコーピング2 (発表)	

科目名 小児看護学特論Ⅱ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○日沼 千尋、関森 みゆき、榊原 みゆき				
講義概要	看護の対象である子どもの心身の発達を査定するために、発達診断と評価について、目的、意義、方法、看護への応用の理論や技法の理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>それぞれの発達段階における子どもの基本的な成長・発達について述べる事ができる。</li> <li>子どもの発達評価・発達診断の方法を述べる事ができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義および学生による発表と討議、見学、演習により進める。 10～15コマ（榊原）は参加観察および演習をおこなう。（看護衣を準備） ・事前に講師に連絡し集合場所について指示を受ける。 ・参加観察にあたっては、被検者のプライバシーを尊重する。				
レポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>発達検査及び診断の概要(さまざまな方法の目的・具体的方法・適応など) 提出：6月17日（金）までに担当教員（榊原）、発表（10・11コマ）</li> <li>「発達診断に関する学びと看護への活用」について 提出：最終講義の終了後1週間以内、提出先：科目責任者まで</li> </ol>				
参考文献 教科書	日本小児保健協会：DENVERⅡデンバー発達判定法、日本小児医事出版社2003。 その他 随時紹介する				
成績評価の方法	レポート内容60%、プレゼンテーション20%、討議の参加20%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月14日(金)	13:00～14:25	日沼 千尋	オリエンテーション・課題提示
	2・3	5月24日(水)	13:00～16:00	関森みゆき	新生児・乳児の成長・発達
	4・5	5月30日(火)	13:00～16:00	関森みゆき	幼児・学童の成長・発達
	6・7	6月13日(火)	13:00～16:00	関森みゆき	親子関係の発達・評価
	8・9	6月15日(木)	9:00～12:00	日沼 千尋	子どもの発達評価・診断1（課題学習）
	10・11	6月20日(火)	13:00～16:00	榊原みゆき	子どもの発達評価・診断2（発表）
	12・13	6月28日(水)	9:00～12:00	榊原みゆき	臨床における発達診断・家族診断1* (心理面接、遠城寺式、K式乳幼児発達検査他)
	14・15	6月29日(木)	9:00～12:00	榊原みゆき	臨床における発達診断・家族診断2* (心理面接、遠城寺式、K式乳幼児発達検査他)

科目名 小児看護学特論Ⅲ

(2単位 15コマ)

科目担当者	○日沼 千尋、関森みゆき、(松石 和也)				
講義概要	臨床において、子どもの最善の利益を保障するための倫理的判断に基づき、子どもと家族に適切に援助する能力を修得することを目的に、小児医療および小児看護において発生しやすい倫理的諸課題について、その現状と、状況に応じた対応について学習する。				
到達目標	1. 小児看護実践および研究において起こり得る倫理的諸課題について述べる事ができる。 2. 1. に基づいて子どもの人権を擁護する看護活動について検討し、述べる事ができる。				
講義のすすめ方	講義および学生による発表、討議を中心に進める。				
参考文献 教科書	田村正徳, 玉井真理子: 新生児医療現場の生命倫理, メディカ出版, 2005.				
	杉本健郎: 子どもの脳死・移植, クリエイツかもがわ, 2003				
	松田博雄: 子ども虐待 多職種専門家チームによる取組み. 学文社. 2008				
成績評価の方法	プレゼンテーション80%、討議の参加20%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	10月4日(水)	9:00~12:00	関森みゆき	新生児・未熟児医療における倫理的諸課題と対応(報告)**
	3・4	10月6日(金)	13:00~16:00	松石 和也	小児医療、小児看護における子どもの権利とその位置づけ、インフォームド・アセント、アドボケイト*
	5・6	11月7日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児看護実践における倫理的諸課題と対応—入院環境1(看護体制・面会・付き添い)
	7・8	11月14日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児看護実践における倫理的諸課題と対応—入院環境2(保育・教育)
	9・10	11月21日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児救急医療・臓器移植・虐待を巡る倫理的諸課題とその対応1。(虐待)
	11・12	11月28日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児救急医療・臓器移植・虐待を巡る倫理的諸課題とその対応2。(臓器移植)
	13	12月6日(水)	13:00~14:25	日沼 千尋	小児看護実践と研究における倫理1(看護実践)
14・15	12月12日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児看護実践と研究における倫理2(研究)	

\* クリティカルケア看護学特論Vと合同講義

\*\* ウーマンズヘルス看護学演習Iとの合同講義

科目名 小児看護学特論IV

(2単位 15コマ)

科目担当者	○日沼 千尋				
講義概要	子どもと家族を取り巻く小児保健・医療・福祉・教育制度に関して歴史と現状をふまえ、施設および地域における子どもと家族への具体的援助方法および制度の活用について理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児医療・保健、および小児看護の歴史について述べるができる。</li> <li>2. 母子保健制度・子育て支援策の現状と課題について述べるができる。</li> <li>3. 小児の医療保障制度の現状と課題について述べるができる。</li> <li>4. 小児医療、看護体制における課題—小児救急医療、入院環境、病児の保育・学習の保障、マンパワー—について述べるができる。</li> <li>5. 小児看護実践に活用できる小児保健、福祉制度、教育制度について述べるができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表、討議により進める。				
参考文献	随時紹介する。				
成績評価の方法	レポート内容60%、プレゼンテーション20%、討議の参加20%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	9月4日(月)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児保健・小児看護の歴史と専門性①
	3・4	9月12日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児保健・小児看護の歴史と専門性②
	5・6	9月19日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	母子保健制度・子育て支援策① 小児医療保健体制/育児支援/虐待防止の現状と課題
	7・8	9月26日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	母子保健制度・子育て支援策② 小児医療保健体制/育児支援/虐待防止の現状と課題
	9・10	10月10日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児の医療保障制度① 小児慢性疾患/難病/障害児の医療保障制度
	11・12	10月17日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児の医療保障制度② 小児慢性疾患/難病/障害児の医療保障制度
	13	10月24日(火)	13:00~14:25	日沼 千尋	小児医療・看護・福祉・教育制度における課題—医療的ケアが必要な子どもの学校における看護の現状と課題①
	14・15	10月31日(火)	13:00~16:00	日沼 千尋	小児医療・看護・福祉・教育制度における課題—医療的ケアが必要な子どもの学校における看護の現状と課題②

科目名 小児看護学演習Ⅰ

(2単位 30コマ)

科目担当者	○日沼 千尋、櫻田 章子、関森みゆき、奥野 順子、平澤 恭子（遠山 梓、中村由美子）				
講義概要	子どものフィジカルアセスメント（呼吸器系・循環器系・代謝系・脳神経系・感覚器系など）および子どもと家族の包括的なアセスメント方法を実践的に学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どものフィジカルアセスメントの視点を述べることができる。</li> <li>2. 精神症状がある子どものアセスメントの視点を述べることができる。</li> <li>3. 子どもと家族のアセスメントの視点を述べることができる。</li> <li>4. 子どものアセスメントの視점에添って、系統的・総合的なアセスメントができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	演習および見学、学生による発表、討議を中心に進める。 アセスメント実習は実習要項（別紙）を参照のこと。				
参考文献 教科書	随時紹介する。				
成績評価の方法	プレゼンテーション60%、演習の内容40%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月14日(金)	13:00～16:00	日沼 千尋	オリエンテーション
	2・3	5月11日(木)	9:00～12:00	日沼 千尋	小児のフィジカルアセスメントの視点（課題学習）*
	4～6	5月17日(水)	13:00～17:35	日沼 千尋	小児のフィジカルアセスメントの視点（報告）*
	7～9	6月7日(水)	13:00～17:35	日沼 千尋 遠山 梓	精神・神経症状のある子どものアセスメント1
	10～12	6月14日(水)	13:00～17:35	日沼 千尋 遠山 梓	精神・神経症状のある子どものアセスメント2
	13～15	6月21日(水)	13:00～17:35	櫻田 章子 関森みゆき	急性状況にある子どものアセスメント1 （病棟実習）*
	16・17	6月28日(水)	13:00～16:00	櫻田 章子 関森みゆき	急性状況にある子どものアセスメント2（報告）*
	18～20	6月30日(金)	13:00～17:35	奥野 順子	慢性状況にある子どものアセスメント1 （病棟実習）
	21～25	7月8日(土)	9:00～17:35	中村由美子	子どもと家族のアセスメントと支援（家族への介入と評価）*
	26～28	7月11日(火)	13:00～17:35	平澤 恭子	小児のフィジカルアセスメント （発達外来）（演習）
	29・30	7月12日(水)	13:00～16:00	奥野 順子	慢性状況にある子どものアセスメント2（報告）

\*クリティカルケア看護学演習Ⅰと合同講義

科目名 小児看護学演習Ⅱ

(2単位 30コマ)

科目担当者	○日沼 千尋、山田咲樹子、大友 陽子、遠藤奈津美、富川由美子、榊原みゆき				
講義概要	専門看護師の役割として、複雑な健康問題を抱える子どもと家族への看護実践、教育、コンサルテーション、関係機関の調整、他職種との協働、社会的資源の活用、患者会活動の支援の実際について理解を深める。				
到達目標	1. 小児看護実践において連携する多職種の活動の実際について述べる事ができる。 2. 子どもと家族を支える患者会活動の実際を経験し、小児看護における活動支援を考察することができる。 3. 自己の問題意識に関してフィールドワークを通して探求し、報告することができる。				
講義のすすめ方	フィールドワークおよび見学、学生による発表、討議を中心に進める。 子どもの主体性を育てる看護（プリパレーション・相談活動）は、外来または病棟においてプリパレーションの計画、実践、評価の一連の活動を主体的に行う。				
参考文献教科書	随時紹介する				
成績評価の方法	プレゼンテーション60%、演習の内容40%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	5月10日(水)	9:00～12:00	日沼 千尋	子どもと家族の主体性を育てる看護—プリパレーション1 (現状分析・課題の検討)
	3・4	5月18日(木)	9:00～12:00	日沼 千尋	子どもと家族の主体性を育てる看護—プリパレーション2 (指導案の作成-関係部署との調整)
	5・6	5月25日(木)	9:00～12:00	日沼 千尋	子どもと家族の主体性を育てる看護—プリパレーション3(外来・病棟における実践・評価)
	7～16	未定	9:00～16:00	日沼 千尋	健康障害を持つ子どもと家族の抱える諸問題とその支援① フィールドワーク (サマーキャンプ)
	17・18	6月24日(土)	9:00～11:00 (予定)	日沼 千尋	小児看護における医療安全
	19・20	9月7日(木)	9:00～12:00	日沼 千尋	障害を持つ子どもと家族の抱える諸問題とその支援② フィールドワーク報告・まとめ
	21・22	9月28日(木)	9:00～12:00	山田咲樹子	専門看護師の役割・機能について
	23・24	10月12日(木)	9:00～12:00	大友 陽子	小児看護における感染対策と専門職種間の協働*★
	25・26	10月19日(木)	9:00～12:00	遠藤奈津美	小児の臓器移植におけるコーディネート★★
	27・28	10月26日(木)	9:00～12:00	富川由美子	社会資源の活用と医療相談活動の実際 (虐待他) *
	29・30	5月6日(土) 7月1日(土) 9月2日(土) 12月2日(土)	14:00～16:00	榊原みゆき	健康障害を持つ子どもと家族の抱える諸問題とその支援③ —ひまわりの会

\*ウーマンズヘルス看護学演習Ⅰとの合同講義

★クリティカルケア看護学演習Ⅲとの合同講義

★★クリティカルケア看護学特論Ⅴとの合同講義

科目名 小児看護学演習Ⅲ☆

(2単位 30コマ)

科目担当者	○日沼 千尋、朴 仁三、永田 智、立川恵美子、石垣 景子、清谷知賀子、三浦健一郎、世川 修 (井上 信明)				
講義概要	小児期に多い疾病の病態、診断、治療について、講義・症例検討を通して学ぶ。				
到達目標	1. 小児期に多い疾患（急性状況・呼吸器・循環器・血液・内分泌・神経・消化器・腎泌尿器）の病態生理、診断、治療について説明できる。 2. 小児特有の疾患の症例検討を通して、子どもの病態生理と診断、治療について検討する。				
講義のすすめ方	事前に指定された疾患についてレポート作成して講義の3日前に提出する。 講義においては、提出されたレポートに関して担当教員からの質問、コメントを受けディスカッションする。				
参考文献教科書	随時紹介する				
成績評価の方法	プレゼンテーション60%、演習の内容40%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	4月14日(金)	13:00～16:00	日沼 千尋	オリエンテーション
	3	9月27日(水)	13:00～14:25 (予定)	朴 仁三	循環器疾患の病態生理と診断・治療 ①
	4・5		14:35～17:35	朴 仁三	循環器疾患の病態生理と診断・治療 ②
	6	10月4日(水)	13:00～14:25	永田 智	呼吸器疾患の病態生理と診断・治療 ①
	7・8		14:35～17:35	永田 智	呼吸器疾患の病態生理と診断・治療 ②
	9	10月11日(水)	13:00～14:25	永田 智	アレルギー疾患の病態生理と診断・治療 ①
	10・11		14:35～17:35	永田 智	アレルギー疾患の病態生理と診断・治療 ②
	12	10月18日(水)	13:00～14:25	立川恵美子	代謝・内分泌疾患の病態生理と診断・治療①
	13・14		14:35～17:35	立川恵美子	代謝・内分泌疾患の病態生理と診断・治療②
	15	10月25日(水)	13:00～14:25	石垣 景子	神経・筋疾患の病態生理と診断・治療 ①
	16・17		14:35～17:35	石垣 景子	神経・筋疾患の病態生理と診断・治療 ②
	18	11月1日(水)	13:00～14:25	清谷知賀子	血液・腫瘍疾患の病態生理と診断・治療 ①
	19・20		14:35～17:35	清谷知賀子	血液・腫瘍疾患の病態生理と診断・治療 ②
	21	11月17日(金)	13:00～14:25	三浦健一郎	腎・尿路系疾患の病態生理と診断・治療 ①
	22・23		14:35～17:35	三浦健一郎	腎・尿路系疾患の病態生理と診断・治療 ②
	24・25	11月24日(金)	13:00～16:00	井上 信明	急性状況にある子どもの病態生理と診断・治療 ★
26	11月29日(水)	13:00～14:25	世川 修	消化器疾患の病態生理と診断・治療 ①	
27・28		14:35～17:35	世川 修	消化器疾患の病態生理と診断・治療 ②	
29・30	12月7日(木)	9:00～12:00	日沼 千尋	看護実践への応用	

① は課題学習、②は担当教員との演習

★ クリティカルケア看護学特論Ⅱ、Ⅲとの合同講義

科目名 小児看護学実習Ⅰ☆

(2単位)

科目担当者	○日沼 千尋、関森 みゆき、奥野 順子、永田 智、杉原 茂孝
実習目的	小児の診断治療実習 小児期に特有な疾患の診断および治療方法を学び、健康障害のある子どもへの看護実践において必要な（医学的）臨床判断能力を修得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期に特有な疾患の病態生理と診断、治療方法について述べることができる。</li> <li>2. 診断のために必要な検査法および結果の判断について述べるができる。</li> <li>3. 小児の薬物治療法について述べるができる。</li> <li>4. 子どもの健康に関する履歴を系統的に聴取することができる。</li> <li>5. 小児に特有な疾患の診断治療過程を見学実習し、10例以上についてレポート報告ができる。</li> </ol>
実習方法	<p>実習期間：2年次 5月～6月</p> <p>実習日程 期間 平成30年5月7日(月)～5月31日(木)まで(この内約 14日間) 1限～5限 実習期間は、到達目標が達成するまで継続するものとする。</p> <p>実習施設:東京女子医科大学病院、八千代医療センター、東医療センター</p>
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主に外来診察室において、健康障害のある子どもへの医学診断および治療までの医学的アセスメント過程を見学し、10例以上についてレポート報告する。</li> <li>2. 子どもの年齢、疾患を考慮して、幅広い事例を選択して見学する。</li> <li>3. 医師や他職種との討議、カンファレンスに参加し、スーパービジョンを受ける。</li> <li>4. 上記の実習に関して実習の場、状況の開拓および計画は指導教員に指導を受け、自ら自律して行う。</li> </ol>
指導体制	<p>実習中は担当教員のスーパービジョンを週1回程度受ける。スーパービジョンは実習施設と大学内の両方で行われる。</p> <p>実習施設においては適宜カンファレンスを行い、実習指導者、小児看護専門看護師、小児看護師や他の医療専門職からの助言・フィードバックを積極的に受ける。</p>
評価	実習内容50%、レポート50%

詳細は別途提示する。

科目名 小児看護学実習Ⅱ☆

(2単位)

科目担当者	○日沼 千尋、関森 みゆき、奥野 順子
実習目的	特論Ⅰ～Ⅳ、演習Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえ、小児看護専門看護師の役割、機能に関して、実践的に理解を深める。
到達目標	1. 小児看護専門看護師の役割、機能について、述べることができる。 2. 小児看護専門看護師の役割機能に関する学びをレポートにまとめ、報告することができる。
実習方法	実習期間：2月～3月 実習日程 期間 平成30年1月29日(月)～2月23日(金)まで(この内、約14日間) 1限～5限 実習期間は、実習目標が達成するまで継続するものとする。  実習施設：神奈川県立こども医療センター、東京女子医科大学病院、八千代医療センター、東医療センター他
実習内容	1. 小児看護専門看護師が実施する複雑な状況や健康障害をもつ子どもと家族のアセスメント、各領域の専門性を考慮した看護援助の実践方法、評価までの過程を見学・参加実習をする。 2. 複雑な状況や健康障害のある子どもと家族への直接的ケアの実施および、子ども、家族、看護職、他の医療・福祉専門職間での連携や調整について、見学・参加実習をする。 3. 子ども、家族、小児看護の看護職に対して行った教育的関わりに関して、見学・参加実習をする。 4. 小児看護の看護職および小児看護領域に関わる専門職に行ったコンサルテーションに関して、見学・参加実習をする。 5. 上記の実習に関して実習の場、状況の開拓および計画は指導教員に指導を受け、自ら自律して行う。
指導体制	実習中は担当教員のスーパービジョンを週1回程度受ける。スーパービジョンは実習施設のベッドサイドと大学内の両方で行われる。 実習施設においては適宜カンファレンスを行い、小児看護専門看護師、実習指導者、小児看護師や他の医療専門職からの助言・フィードバックを積極的に受ける。
評価	実習内容50%、レポート50%

詳細は別途提示する。

科目名 小児看護学実習Ⅲ

(6単位)

科目担当者	○日沼 千尋、関森 みゆき、奥野 順子、高木 志帆、栗田直央子、山田咲樹子
実習目的	複雑な健康上の課題のある小児と家族に対して、より健康でQOLの高い生活を維持・増進できるように援助する小児看護専門看護師として、実践する能力を修得する。
到達目標	1. 複雑な健康上の課題を持つ小児と家族に対して、小児看護専門看護師の実践として「直接的ケア」を行い 5例以上についてレポート報告ができる。 2. 複雑な健康上の課題を持つ小児と家族に対して、小児看護専門看護師の役割・機能の「相談」・「調整」・「倫理調整」・「教育」に関して実践し、それぞれについて2事例以上をレポート報告ができる。
実習方法	実習期間：2年次 6月～8月 実習日程 期間 平成30年6月11日(月)～8月31日(金)まで(この内約40日間) 1限～5限 実習期間は、到達目標が達成するまで継続するものとする。 実習施設：神奈川県立こども医療センター、東京女子医科大学病院、八千代医療センター、東医療センター
実習内容	1. 複雑な状況や健康障害をもつ子どもと家族のアセスメントを行い、各領域の専門性を考慮して看護援助を実践し、評価をする。看護を実践した事例に関して5例以上をレポートとして報告する。 2. 子ども、家族、看護職、他の医療・福祉専門職種間での連携や調整を主体的に行った事例にして、その過程と調整の結果及び評価についてレポートを作成する。評価は調整に関わった他の職種からも受ける。 3. 子ども、家族、小児看護の看護職に対して行った <u>教育的関わり</u> に関して、その目的、方法、結果について評価しレポートを作成する。 4. 小児看護の看護職および小児看護領域に関わる専門職に行った <u>コンサルテーション</u> に関して、その経緯、内容、評価についてレポートを作成する。レポート作成の際は指定された項目に添って記述する。 5. 上記の4項目の実習とその評価に関して各2事例以上レポートにまとめる。事例数および、実習時間は各自の修得状況によって異なることがある。 6. 上記の実習に関して実習の場、状況の開拓および計画は指導教員に指導を受け、自ら自律して行う。
指導体制	実習中は担当教員のスーパービジョンを週1回程度受ける。スーパービジョンは実習施設のベッドサイドと大学内の両方で行われる。 実習施設においては適宜カンファレンスを行い、小児看護専門看護師、実習指導者、小児看護師や他の医療専門職からの助言・フィードバックを積極的に受ける。
評価	実習内容70%、レポート30%

詳細は教員の指導のもと、学生自身が実習計画を立案する。

科目名 小児看護学課題研究

(2単位 30コマ)

科目担当者	○日沼 千尋、関森 みゆき
講義概要	小児看護学特論および演習で習得した知識と技術、および小児看護学実習で得た看護実践に関する問題意識や知見を元に、文献検討を通して臨床での看護実践に関する研究課題について、知見を得る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の問題意識に基づき、小児看護実践に関する研究課題を設定し、十分な文献検討のうえで研究計画書を作成する事ができる。</li> <li>2. 研究計画を倫理委員会に提出し、倫理委員会の承認を得る事ができる。</li> <li>3. 研究計画に基づき、確実に研究を実施する事ができる。</li> <li>4. 研究結果を修士論文としてまとめ、提出する事ができる。</li> </ol>
講義のすすめ方	グループディスカッションおよび個人指導により進める。
成績評価の方法	課題研究の達成度100%
指導日程	原則として毎週木曜日の1・2限(9:00~12:00)または水曜日の3・4限(13:00~16:00)(通年)を研究指導に当てる

科目名 小児看護学特別研究

(8単位 120コマ)

科目担当者	○日沼 千尋、関森 みゆき
講義概要	小児看護学特論および演習で修得した知見や問題意識を元に、小児看護に関する研究課題について、研究的にとり組み研究論文を作成する。研究的プロセスを踏むことにより、研究能力を修得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の問題意識に基づき、小児看護に関する研究課題を設定し、十分な文献検討のうえで研究計画書を作成する事ができる。</li> <li>2. 研究計画を倫理委員会に提出し、倫理委員会の承認を得る事ができる。</li> <li>3. 研究計画に基づき、確実に研究を実施する事ができる。</li> <li>4. 研究結果を修士論文としてまとめ、提出する事ができる。</li> </ol>
講義のすすめ方	グループディスカッションおよび個人指導により進める。
成績評価の方法	課題研究の達成度100%
指導日程	原則として毎週木曜日の1・2限(9:00~12:00) および水曜日の3・4限(13:00~16:00)を研究指導に当てる

## 科目名 助産学特論Ⅰ（基礎助産学）

(4単位 30コマ)

科目担当者	○小川久貴子、正岡 直樹、尾崎 恭子、中林 章、平澤 恭子、土江田奈留美、竹内 道子、潮田千寿子				
講義概要	助産学の基礎となる概念および理論をふまえ、周産期の女性と胎児・新生児のwell-beingおよび成長・発達を診断するために必要な解剖・生理学の基礎を学ぶ。さらに、性と生殖に関する基礎的知識・健康問題に関する基礎的能力を修得する。				
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥の各期における助産診断に必要な解剖・生理学の基礎的知識を学ぶ。 2. 胎児・新生児のwell-beingおよび成長・発達を診断するために必要な解剖・生理学の基礎を学ぶ 3. 事例に基づき、周産期の女性と胎児・新生児のwell-beingおよび成長・発達の助産診断を行なえる。				
講義のすすめ方	学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。				
テキスト	助産師基礎教育テキスト,第1巻「助産概論」,山本あい子,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第2巻「女性の健康とケア」,吉沢豊予子,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第3巻「周産期における医療の質と安全」,成田伸,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第4巻「妊娠期の診断とケア」,森恵美,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第6巻「産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」,横尾京子,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第7巻「ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」,遠藤俊子,日本看護協会出版				
参考文献	北川眞理子編集,生田克夫医学監修,「今日の助産 改訂第3版」,南江堂. 産婦人科診療ガイドラインー産科編2014				
成績評価の方法	試験50%、事例レポート30%、出席・参加度20%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月11日(火)	13:00~14:25	小川久貴子	授業オリエンテーション、助産の定義
	2	4月11日(火)	14:35~16:00	土江田奈留美	助産とは 歴史・文化・助産史
	3	4月13日(木)	9:00~10:25	潮田千寿子	助産活動、職能団体
	4	4月13日(木)	10:35~12:00	潮田千寿子	助産教育
	5	4月13日(木)	13:00~14:25	土江田奈留美	母性看護学復習試験(産褥期)
	6	4月13日(木)	14:35~16:00	土江田奈留美	母子相互作用、親役割獲得過程など助産学で用いられる理論
	7	4月14日(金)	13:00~14:25	土江田奈留美	母性看護学復習試験(分娩期)
	8	4月14日(金)	14:35~16:00	土江田奈留美	母性看護学復習
	9	4月17日(月)	13:00~14:25	土江田奈留美	根拠に基づいた助産ケア、EBM
	10	4月17日(月)	14:35~16:00	土江田奈留美	根拠に基づいた助産ケア、EBM
	11	4月18日(火)	13:00~14:25	竹内 道子	母性看護学復習(妊娠期)
	12	4月18日(火)	14:35~16:00	竹内 道子	妊婦と胎児の生理的経過
	13	4月18日(火)	16:10~17:35	竹内 道子	妊婦と胎児の生理的経過
	14	4月19日(水)	13:00~14:25	中林 章	発生学、性ホルモン、月経調節機能も含む、生殖器の機能
	15	4月19日(水)	14:35~16:00	中林 章	妊娠の成立、維持
	16	4月20日(木)	9:00~10:25	土江田奈留美	分娩に関わる解剖生理・3要素
	17	4月20日(木)	10:35~12:00	土江田奈留美	正常分娩の管理
	18	4月21日(金)	13:00~14:25	尾崎 恭子	無痛分娩
	19	4月26日(水)	9:00~10:25	竹内 道子	妊娠の心理・社会的経過
	20	4月26日(水)	10:35~12:00	竹内 道子	妊娠期の管理(妊娠の異常)
	21	4月26日(水)	13:00~14:25	正岡 直樹	妊娠期の正常・異常
	22	4月26日(水)	14:35~16:00	正岡 直樹	妊娠期の正常・異常
	23	5月10日(水)	13:00~14:25	正岡 直樹	異常分娩(3要素の異常、分娩時の母体損傷、異常出血)
	24	5月10日(水)	14:35~16:00	正岡 直樹	異常分娩の管理(合併症妊娠)
	25	5月19日(金)	13:00~14:25	尾崎 恭子	帝王切開、産科手術
	26	5月24日(水)	13:00~14:25	正岡 直樹	分娩監視モニタリング
	27	5月24日(水)	14:35~16:00	正岡 直樹	分娩監視モニタリング
	28	6月21日(水)	10:35~12:00	竹内 道子	試験
	29	6月28日(水)	13:00~14:25	平澤 恭子	乳幼児の健康診査~各時期の健康診査の要点
30	6月28日(水)	14:35~16:00	平澤 恭子	乳幼児の発育と発達	

## 科目名 助産学特論Ⅱ（助産診断・技術学）

(11単位 12週)

科目担当者	○土江田奈留美、松井 英雄、竹内 道子、抜田 博子、潮田千寿子、田幡 純子、大原 明子				
講義概要	助産過程の展開に必要な診断の技法及び助産実践に必要な基本的な技術を学ぶ。さらに、性と生殖の健康問題について相談・教育・援助活動ができる基礎的能力を修得する。				
到達目標	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における助産診断および助産過程が習得できる。 2. 各期の助産診断に基づき、健康教育案や助産ケアを立案できる。				
講義のすすめ方	各期の事例学習に関する助産診断をレポートしてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して主体的に学習を深める。				
テキスト	助産師基礎教育テキスト,第4巻「妊娠期の診断とケア」,森恵美,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第5巻「分娩期の診断とケア」,町浦美智子,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第6巻「産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」,横尾京子,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第7巻「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」,遠藤俊子,日本看護協会出版				
参考文献	北川眞理子編集,生田克夫医学監修,「今日の助産 改訂第3版」,南江堂,2013. 仁志田博司著,「新生児学入門」,第4版,医学書院,2012 母乳育児支援スタンダード第2版,日本ラクテーションコンサルタント協会,2015.				
成績評価の方法	試験50%、事例レポート30%、出席・参加度20%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月21日(金)	14:35~16:00	土江田奈留美	分娩開始の診断、分娩進行状態の予測診断
	2	4月21日(金)	17:45~19:10	土江田奈留美	分娩開始の診断、分娩進行状態の予測診断
	3	4月25日(火)	13:00~14:25	土江田奈留美	分娩時の母児へのケア（正常分娩の介助）
	4	4月25日(火)	14:35~16:00	土江田奈留美	分娩進行に伴う産婦と家族へのケア 分娩の想起、肯定的な出産体験への支援
	5	4月27日(木)	13:00~14:25	土江田奈留美	乳汁分泌の解剖と生理
	6	4月27日(木)	14:35~16:00	土江田奈留美	新生児の哺乳行動、栄養
	7	4月27日(木)	16:10~17:35	土江田奈留美	母乳育児支援の実際
	8	5月9日(火)	13:00~14:25	竹内 道子	妊婦の日常生活上のケア
	9	5月9日(火)	13:00~14:25	竹内 道子	妊娠期スクリーニングと診断
	10	5月10日(水)	10:25~12:00	大原 明子	糖尿病合併妊婦・産婦・褥婦のケア
	11	5月16日(火)	13:00~14:25	竹内 道子	妊娠期スクリーニングと診断
	12	5月16日(火)	14:35~16:00	竹内 道子	妊娠経過から分娩経過の予測とケア
	13	5月16日(火)	16:10~17:35	竹内 道子	妊娠期事例展開、ALオリ
	14	5月19日(金)	14:35~16:00	田幡 純子	帝王切開のケア
	15	5月19日(金)	16:10~17:35	田幡 純子	帝王切開のケア
	16	5月22日(月)	13:00~14:25	竹内 道子	妊娠期事例展開、AL
	17	5月22日(月)	14:35~16:00	竹内 道子	妊娠期事例展開、AL
	18	5月23日(火)	13:00~14:25	松井 英雄	婦人科疾患合併症（子宮頸がん含む）
	19	5月23日(火)	14:35~16:00	松井 英雄	婦人科疾患合併症（子宮頸がん含む）
	20	5月23日(火)	16:10~17:35	松井 英雄	頸がん検査、診断
	21	5月26日(金)	13:00~14:25	土江田奈留美	分娩時異常（前期破水、CPDなど）の診断とケア
	22	5月26日(金)	14:35~16:00	土江田奈留美	分娩時異常（遷延分娩、弛緩出血など）の診断とケア
	23	5月30日(火)	13:00~14:25	竹内 道子	妊娠期事例展開、AL
	24	5月30日(火)	14:35~16:00	竹内 道子	妊娠期事例展開、AL
	25	5月31日(水)	13:00~14:25	抜田 博子	新生児の定義、新生児の生理機能～呼吸、循環器など
	26	5月31日(水)	14:35~16:00	抜田 博子	新生児の生理機能～消化器系、新機能、神経系など
	27	6月8日(木)	9:00~10:25	抜田 博子	早期新生児の観察と診断
	28	6月8日(木)	10:35~12:00	抜田 博子	早期新生児のケア
	29	6月9日(金)	13:00~14:25	竹内 道子	妊娠期事例展開、AL
	30	6月9日(金)	14:35~16:00	竹内 道子	妊娠期事例展開、AL
	31	6月9日(金)	16:10~17:35	竹内 道子	事例まとめ
	32	6月15日(木)	14:35~16:00	土江田奈留美	褥婦フィジカルアセスメント
	33	6月15日(木)	16:10~17:35	土江田奈留美	褥婦コミュニケーション技術
	34	6月22日(木)	14:35~16:00	潮田千寿子	会陰部ケア（課題学習）
	35	6月29日(木)	9:00~10:25	抜田 博子	乳幼児の発育・発達評価
	36	6月29日(木)	10:35~12:00	抜田 博子	正常経過にある乳幼児～栄養・遊び・生活リズム
	37	6月29日(木)	13:00~14:25	抜田 博子	正常経過にある乳幼児～予防接種、口腔ケア
38	6月30日(金)	9:00~10:25	土江田、抜田	試験（分娩期・新生児/乳幼児）	

## 科目名 助産学特論Ⅲ（地域母子保健学）

(1単位 8コマ)

科目担当者	○小川久貴子（宮内 清子、野口真貴子）				
講義概要	地域の母子保健を推進するための基本的な理解と社会資源の活用や保健・医療・福祉機関との調整ができる能力を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域母子保健における助産師の役割が理解できる。</li> <li>2. 日本における地域母子保健の特徴を理解し、現行の地域母子保健事業について説明できる。</li> <li>3. 世界における地域母子保健の現状を理解し、地域母子保健のありかたについて考えられる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の地域母子保健事業について学習する。</li> <li>2. 地域母子保健に関する英語文献を講読する。</li> <li>3. 学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。</li> </ol>				
参考文献	助産学基礎教育テキスト, 第1巻「助産概論」, 山本あい子編集, 日本看護協会出版会				
	助産学基礎教育テキスト, 第3巻「周産期における医療の質と安全」, 成田伸編集, 日本看護協会出版会				
	The State of the World's Children 2009: Maternal and Newborn Health, UNICEF, 2008				
成績評価の方法	講義への出欠、レポート、プレゼンテーション、ディスカッションの内容から総合的に評価する				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	9月15日(金)	14:35~16:00	野口真貴子	公衆衛生と地域母子保健 (プレゼンテーション、ディスカッション)
	2	6月15日(木)	16:10~17:35	野口真貴子	
	3	1月29日(月)	13:00~14:25	宮内清子	日本の地域母子保健（課題学習、講義）
	4	1月29日(月)	14:35~16:00	宮内清子	
	5	2月5日(月)	13:00~14:25	宮内清子	
	6	2月5日(月)	14:35~16:00	宮内清子	
	7	2月13日(火)	13:00~14:25	宮内/小川	
8	2月13日(火)	14:35~16:00	宮内/小川	プレゼンテーション、ディスカッション	

## 科目名 助産学特論Ⅳ（助産管理）

(2単位 15コマ)

科目担当者	○小川久貴子、抜田 博子、潮田千寿子、馬木小夜子、内田 朋子（武田 智子）				
講義概要	専門職者としての助産所管理・運営能力や、施設・地域でのリーダーシップが発揮できるように、助産マネジメントの理論や知識を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院・助産所等における助産師の役割、法的な責務等が理解できる。</li> <li>2. 周産期における医療事故の実態から助産業務の安全とその改善点を理解できる。</li> <li>3. 助産所における開設方法や経営管理、および産科嘱託医と緊急搬送体制を理解し、助産業務の安全対策を考えられる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産業務や助産マネジメントの理論について学習する。</li> <li>2. 院内助産システム（助産師外来の運営や、母子の安全性・快適性を主題にした分娩・産褥管理のあり方など）や、そのシステム内での助産師の役割、法的な責務等が理解できる。</li> <li>3. 学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。</li> </ol>				
参考文献	助産師基礎教育テキスト, 第3巻「周産期における医療の質と安全」, 成田伸, 日本看護協会出版会. 看護六法、新日本法規 新版 助産師業務要覧 第2版 基礎編 日本看護協会 助産所業務ガイドライン 産婦人科診療ガイドラインー産科編2014 ICM助産師の国際倫理綱領				
成績評価の方法	課題レポート70%、出席・参加度30%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	9月26日(火)	13:00~14:25	小川久貴子	助産管理の考え方、病院の助産管理
	2	9月26日(火)	14:35~16:00	小川久貴子	
	3	10月3日(火)	13:00~14:25	武田 智子	助産所の助産業務管理、ICM倫理綱領
	4	10月3日(火)	14:35~16:00	武田 智子	
	5	10月4日(水)	13:00~14:25	抜田 博子	グリーフケアとその管理
	6	10月4日(水)	14:35~16:00	抜田 博子	グリーフケアとその管理
	7	10月10日(火)	13:00~14:25	内田 朋子	総合周産期母子医療センターの業務管理の実際
	8	10月17日(火)	13:00~14:25	馬木小夜子	地域周産期母子医療センター、NICUの管理実際
	9	10月17日(火)	14:35~16:00	潮田千寿子	災害時の助産管理
	10	10月17日(火)	16:10~17:35	潮田千寿子	
	11	10月24日(火)	14:35~16:00	小川久貴子	助産管理（助産所設営）
	12	10月24日(火)	16:10~17:35	小川久貴子	助産管理（プレゼン・ディスカッション）
	13	10月31日(火)	13:00~14:25	小川久貴子	助産管理（助産所設営）
	14	10月31日(火)	14:35~16:00	小川久貴子	助産管理（プレゼン・ディスカッション）
15	10月31日(火)	16:10~17:25	小川久貴子	助産管理（プレゼン・ディスカッション）	

## 科目名 助産学演習 I (基礎助産学)

(2単位 30コマ)

科目担当者	○土江田 奈留美、抜田 博子、潮田 千寿子、金野 潤、鈴木 志帆				
講義概要	妊娠・分娩・産褥・新生児の正常と異常についての基礎的能力を学ぶ。				
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の生理機能と異常の発生機序・症状・治療ケアについて学ぶ。 2. 妊娠・分娩・産褥の超音波診断の基礎を理解できる。 3. 会陰部の切開・縫合の基礎を理解できる。				
講義のすすめ方	1. 正常と異常な妊娠・分娩・産褥・新生児について学習する。 2. プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通して深める。				
テキスト	助産師基礎教育テキスト,第6巻「産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」,横尾京子,日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト,第7巻「ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」,遠藤俊子,日本看護協会出版 田村正徳監修,「新生児蘇生法テキスト」,メジカルビュー社,2011.				
参考文献	梁 栄治著,「助産師と研修医のための 産科超音波検査」,診断と治療社,2010. 櫻木範明監修,「産科手術、必須術式の完全マスター」,メジカルビュー社,2010. 池ノ内克乙,他編「New エッセンシャル産科学・婦人科学」,医歯薬出版,2004.				
成績評価の方法	試験50%、事例レポート30%、出席・参加度20%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義内容
	1	4月13日(木)	16:10~17:35	土江田奈留美	産褥期事例展開、AL、PBLオリ
	2	4月20日(木)	13:00~14:25	土江田奈留美	産褥期事例展開
	3	4月20日(木)	14:35~16:00	土江田奈留美	産褥期事例展開
	4	4月20日(木)	16:10~17:35	土江田奈留美	産褥期事例展開
	5	5月11日(木)	13:00~14:25	土江田奈留美	分娩期事例展開、AL
	6	5月11日(木)	14:35~16:00	土江田奈留美	分娩期事例展開、AL
	7	5月12日(金)	13:00~14:25	土江田奈留美	産褥期事例展開
	8	5月12日(金)	14:35~16:00	土江田奈留美	産褥期事例展開
	9	5月17日(水)	9:00~10:25	土江田奈留美	分娩期事例展開、AL
	10	5月17日(水)	10:35~12:00	土江田奈留美	分娩期事例展開、AL
	11	5月18日(木)	9:00~10:25	土江田奈留美	産褥期事例展開
	12	5月18日(木)	10:35~12:00	土江田奈留美	産褥期事例展開まとめ
	13	5月24日(水)	9:00~10:25	土江田奈留美	分娩期事例展開、AL
	14	5月24日(水)	10:35~12:00	土江田奈留美	分娩期事例展開、AL
	15	5月25日(木)	9:00~10:25	土江田奈留美	異常事例の展開 (分娩期から産褥期)
	16	5月25日(木)	10:35~12:00	土江田奈留美	異常事例の展開 (分娩期から産褥期)
	17	6月1日(木)	13:00~14:25	土江田奈留美	異常事例の展開 (分娩期から産褥期)
	18	6月1日(木)	14:35~16:00	土江田奈留美	異常事例の展開 (分娩期から産褥期)
	19	6月14日(水)	9:00~10:25	抜田、土江田	出生直後・早期新生児フィジカルアセスメント
	20	6月14日(水)	10:35~12:00	抜田、土江田	沐浴、実技練習
	21	6月16日(金)	13:00~14:25	抜田、土江田	新生児フィジカルアセスメント、沐浴テスト
	22	6月22日(木)	13:00~14:25	土江田奈留美	試験
	23	6月30日(金)	13:00~14:25	鈴木志帆	外陰部損傷と縫合術 (講義)
	24	6月30日(金)	14:35~16:00	鈴木志帆	会陰部の切開・縫合 (実技)
	25	11月13日(月)	13:00~14:25	金野潤	超音波断層撮影 (講義・演習)
	26	11月13日(月)	14:35~16:00	金野潤	超音波断層撮影 (講義・演習)
	27	12月2日(土)	13:00~14:25	潮田千寿子	新生児蘇生講習会
	28	12月2日(土)	14:35~16:00	潮田千寿子	新生児蘇生講習会
	29	12月2日(土)	16:10~17:35	潮田千寿子	新生児蘇生講習会
30	12月2日(土)	17:45~19:10	潮田千寿子	新生児蘇生講習会	

## 科目名 助産学演習Ⅱ（助産診断・技術学）

(3単位 45コマ)

科目担当者	○土江田奈留美、竹内 道子、抜田 博子、潮田千寿子、田幡 純子、鈴木小弥香、内田 朋子、神山 綾乃					
講義概要	助産学領域で実践されている特定の援助技術について、従来の研究成果を比較分析し、助産についてのエビデンスを検討する。さらに、周産期の女性と胎児・新生児のwell-being、分娩開始および進行の診断方法や分娩介助技法を学び、事例学習を通じて基礎的な助産過程を展開する。さらに、実習終了後に体験した事例の援助技術を検証し、よりよい助産援助技術の開発に向けた研究的思考過程を学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.分娩介助に関わる技法について最新の知見を文献で明らかにする。</li> <li>2.安全・安楽で主体性を尊重した正常分娩の介助を習得できる。</li> <li>3.出生直後の新生児の看護を習得できる。</li> <li>4.受胎調節を理解でき、学習できる。</li> <li>5.対象集団の必要な健康教育を理解し、企画と教材開発ができる。</li> </ol>					
講義のすすめ方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.分娩介助に関わる技術について学習し、演習によって習得する。</li> <li>2.健康教育の集団指導について学習する。</li> <li>3.受胎調節について学習する。</li> </ol>					
成績評価の方法	実技試験・課題レポート90%、出席・参加度10%とし、総合的に評価する。					
講義日程	年次	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1 年次	1	5月29日(月)	13:00~14:25	神山綾乃、土江田	妊娠期フィジカルアセスメント、妊婦健康診査
		2	5月29日(月)	14:35~16:00		
		3	6月2日(金)	13:00~14:25	内田、土江田、 抜田、潮田	分娩介助手順解説、分娩介助術デモンストラーション、分娩介助技術演習
		4	6月2日(金)	14:35~16:00		
		5	6月2日(金)	16:10~17:35		
		6	6月6日(火)	13:00~14:25	土江田奈留美	妊娠期・産褥期健康教育
		7	6月6日(火)	14:35~16:00	土江田、抜田、 潮田	分娩介助演習
		8	6月7日(水)	9:00~10:25		
		9	6月7日(水)	10:35~12:00	潮田千寿子	緩和ケア、リラクゼーション
		10	6月7日(水)	13:00~14:25		
		11	6月7日(水)	14:35~16:00	土江田、抜田、潮田	分娩介助演習
		12,13,14	6月8日(木)	13:00~17:35		
		15,16	6月12日(月)	13:00~16:00	土江田、抜田、潮田	分娩介助演習
		17	6月13日(火)	13:00~14:25	田幡純子	胎盤計測、分娩後2時間の母児へのケア、分娩時の家族への支援
		18	6月13日(火)	14:35~16:00		
		19	6月13日(火)	16:10~17:35		
		20,21	6月14日(水)	13:00~16:00	土江田、抜田、潮田	分娩介助演習
		22	6月15日(木)	9:00~10:25	竹内道子	フリースタイル分娩
		23	6月15日(木)	10:35~12:00		
		24	6月15日(木)	13:00~14:25		
		25,26,27	6月20日(火)	13:00~17:35	土江田、抜田、潮田	分娩介助演習
		28,29,30	6月21日(水)	13:00~17:35	土江田、抜田、潮田	分娩介助演習
		31	6月23日(金)	13:00~14:25	土江田、抜田、 潮田、竹内、田幡、 鈴木	分娩介助演習
		32	6月23日(金)	14:35~16:00		
	33	6月23日(金)	16:10~17:35			
	34	6月27日(火)	13:00~14:25	潮田千寿子	特別な配慮が必要になる分娩ケア	
	35	6月27日(火)	14:35~16:00			
	36	6月27日(火)	16:10~17:35			
	37	7月6日(木)	13:00~14:25	鈴木小弥香	受胎調節の基礎・指導	
	38	7月6日(木)	14:35~16:00			
	39	7月6日(木)	16:10~17:35			
	40	8月31日(木)	10:35~12:00	抜田博子	健康教育	
	41	8月31日(木)	13:00~14:25			
	42	8月31日(木)	14:35~16:00			
	43	9月1日(金)	10:35~12:00			
	44	9月1日(金)	13:00~14:25			
	45	9月1日(金)	14:35~16:00			

※健康教育は ウーマンズヘルス実習で実施する。

## 科目名 助産学実習

(11単位 12週)

科目担当者	○土江田奈留美、竹内 道子、抜田 博子、潮田千寿子、田幡 純子、鈴木小弥香
実習概要	Evidence-based Practice(EBP) の知識を生かして、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児のケアに必要な診断を行い健康教育や分娩介助を実践する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産婦の助産診断が行え、それに基づいて助産ケアが実践できる。</li> <li>2. 正常経過をたどる産婦の分娩介助ができる。</li> <li>3. 正常経過をたどる産婦の間接介助ができる。</li> <li>4. 異常分娩時の助産師の役割及び、救急処置及び産科手術の介補が理解できる。</li> <li>5. 褥婦の助産診断が行え、それに基づいた健康教育ができる。</li> <li>6. 新生児の助産診断が行え、それに基づいた健康教育が母親に対してできる。</li> <li>7. 実習を通して、女性のライフサイクルの視点からよりよい助産のあり方を探究できる。</li> </ol>
成績評価の方法	実習要項参照
実習期間	2017年7月10日～ 2017年9月1日まで (12週間の内、7週間が病院実習)
実習方法	実習要項参照

# 博士後期課程（博士）

## 7 平成29年度学事暦(博士後期課程)

	事項	日程
	オリエンテーション(1年次のみ) *大学院科目等履修生、博士前期課程合同	4月 7日(金)
	入学式	4月 8日(土)
	前期授業開始	4月 10日(月)
	履修願届提出	4月 21日(金) 17時まで
	博士後期課程学位論文の研究計画書の提出(1回目)	5月 17日(水) 13時まで
	審査委員会の構成委員の決定(研究計画書) (1回目)	6月 2日(金)
	研究科委員会による博士後期課程学位論文の 研究計画書の審査(1回目)	7月 7日(金)
	研究計画書発表会(1回目提出者)	7月 19日(水)
	大学院博士前期・後期課程入学試験(1期)	8月 4日(金)
	博士後期課程学位論文の研究計画書の提出 (2回目)	9月 13日(水) 13時まで
	履修願変更期間(後期に実施する科目のみ有効)	9月 25日(月)~29日(金) 17時まで
	前期授業終了	9月 30日(土)
後 期	後期授業開始	10月 2日(月)
	審査委員会の構成委員の決定(研究計画書) (2回目)	10月 6日(金)
	研究科委員会による博士後期課程学位論文の 研究計画書の審査(2回目)	11月 10日(金)
	博士後期課程学位論文の研究計画書の提出(3回目)	11月 15日(水) 13時まで
	審査委員会の構成委員の決定(研究計画書)(3回目)	12月 1日(金)
	研究科委員会による博士後期課程学位論文の 研究計画書の審査(3回目)	1月 5日(金)
	大学院博士前期・後期課程入学試験(2期)	1月 17日(水)
	学位申請書(博士学位論文)提出日	1月 25日(木) 13時まで
	審査委員会の構成委員の決定(博士学位論文)	2月 2日(金)
	審査委員会による論文審査と最終試験日	2月 13日(火)~19日(月) の期間中に実施する。
	学位論文主査による最終試験結果提出日	2月 26日(月)
	研究科委員会による学位授与の可否決定	3月 2日(金)
	学生への学位授与の可否通知	3月 5日(月)
	研究計画発表会(2・3回目提出者)	3月 15日(木)
	博士学位論文の発表会	3月 15日(木)
	学位授与式-修了式	3月 26日(月)

## 8 東京女子医科大学大学院看護学研究科博士後期課程の教育理念

### I. 設置の趣旨

東京女子医科大学は、吉岡彌生によって明治 33 年に創立され、「至誠」と「愛」の建学の精神を継承し、自由と進取な校風で医学、看護学の発展のために邁進してきた。

近年、高度情報化時代におけるわが国の保健医療情勢は、医学・医療が高度かつ急速に進歩し、高齢・少子化が進み、人々のインフォームドコンセントを求める気風も増し、複雑な様相を呈する段階に至った。それゆえ、本学大学院は、国民の多様な健康問題に対応できるための高度な能力、豊かな学識、および高度な研究能力を身につけた人材を育成することが急務であると考へ大学院看護学研究科博士後期課程の設置を目指した。すなわち、現代社会では、臓器移植、遺伝子医学および先端生殖医療などの進歩および高度な医療技術の発展、並びに脳死、尊厳死、安楽死や新たな方法による出産などから、複雑な人間関係のさまざまな葛藤が生じている。そのために看護の領域において、高度な学識および自立して看護を探究できる能力を有し、柔軟に問題を解決し国民の健康ニーズに貢献し、保健医療福祉の事象に先進的に対応できる卓越した看護領域の人材を必要としている。また、さまざまな形態の医療機関、ケア施設、臨地における看護の活動の場において、縦横かつ創造的に状況を変化させ得る高度な能力が必要とされている。また、看護の学問を着実に向上させ、現状を打開させるために、自立して研究活動ができる研究者の能力を必要としている。さらに、国際的な感覚を有し、学際的な研究や国際的な視野に立った研究を発展させ、看護学領域における学術・研究を飛躍的に進歩させ得る事が重要である。本大学院博士後期課程は、これらの社会からのニーズを高いレベルで満たすことができる人材を輩出し、新しい看護学の確立をめざそうとしている。

### II. 教育研究上の理念・目的

本大学院博士後期課程は、看護基礎科学（食看護学、看護管理学、看護職生涯発達学）および実践看護学（クリティカルケア看護学・がん看護学、ウーマンズヘルス、老年看護学、解釈的精神看護学、地域看護学、小児看護学）の 2 分野において、創立者の「至誠と愛」の理念に基づき、看護を深く探究し、人間性を高め、自立して看護を探究できる人材を育成する。また、高度な看護学の研究を自立して行うことができる研究者を育成する。さらに、国際感覚を身に付け、あらゆる人々の健康に関するニーズを視野に入れ、創造的な科学的理論および看護技術を提示できる研究者の育成を行うことをめざしている。

#### 教育目的

本大学院博士後期課程は、建学の精神にのっとり、看護学に関する高度な理論および実践学を研究し、その深奥を究めて、人々の健康に寄与すると共に、看護学を発展させ社会に貢献する卓越した人材を育成する。

#### 修了後の資格

所定の授業科目を履修して必要な単位を取得し、博士論文を提出して認定されたものには博士（看護学）の学位が与えられる。

## 9 看護学研究科博士後期課程 3つのポリシー

看護学研究科博士後期課程では、教育・研究上の理念の達成のため、以下のポリシーを定めている。

### 【アドミッションポリシー】

大学院看護学研究科では社会の保健・医療・看護・福祉に対する人々の多様なニーズを認識し、これらのニーズに対応できる高度な看護実践能力、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々のQOLを高められるように社会を変革する能力を有する人々の育成を目指しています。入学者は性・年齢を問わず、また仕事をもつ社会人も受け入れています。

博士後期課程では、以下のような学生を求めています。

1. 専門分野に関する旺盛な探究心と自立して研究に取り組む姿勢を有する人
2. 幅広い学問分野への高い関心を有し、国際的視野および倫理的感性を備えている人
3. 豊かな人間性を備え、看護学ならびに看護実践・教育の発展に貢献する意欲の高い人

### 【カリキュラムポリシー】

博士後期課程の教育目的は、建学の精神にのっとり、看護学に関わる学際的な理論および実践を研究し、その深奥を極めて人々の健康に寄与すると共に、看護学を発展させ社会に貢献する卓越した人材を育成することです。この目的達成のため、看護基礎科学および実践看護学の2つの分野の課程を設けております。

共通選択科目および看護基礎科学、実践看護学の2分野にそれぞれの専門科目を配置しており、共通選択科目と専門科目から専攻に合わせて、計6単位以上の履修を課しております。

自己の関心テーマに関して、研究計画から博士論文の作成、成果発表までを一貫性をもって自律して研究できる研究者を育成します。

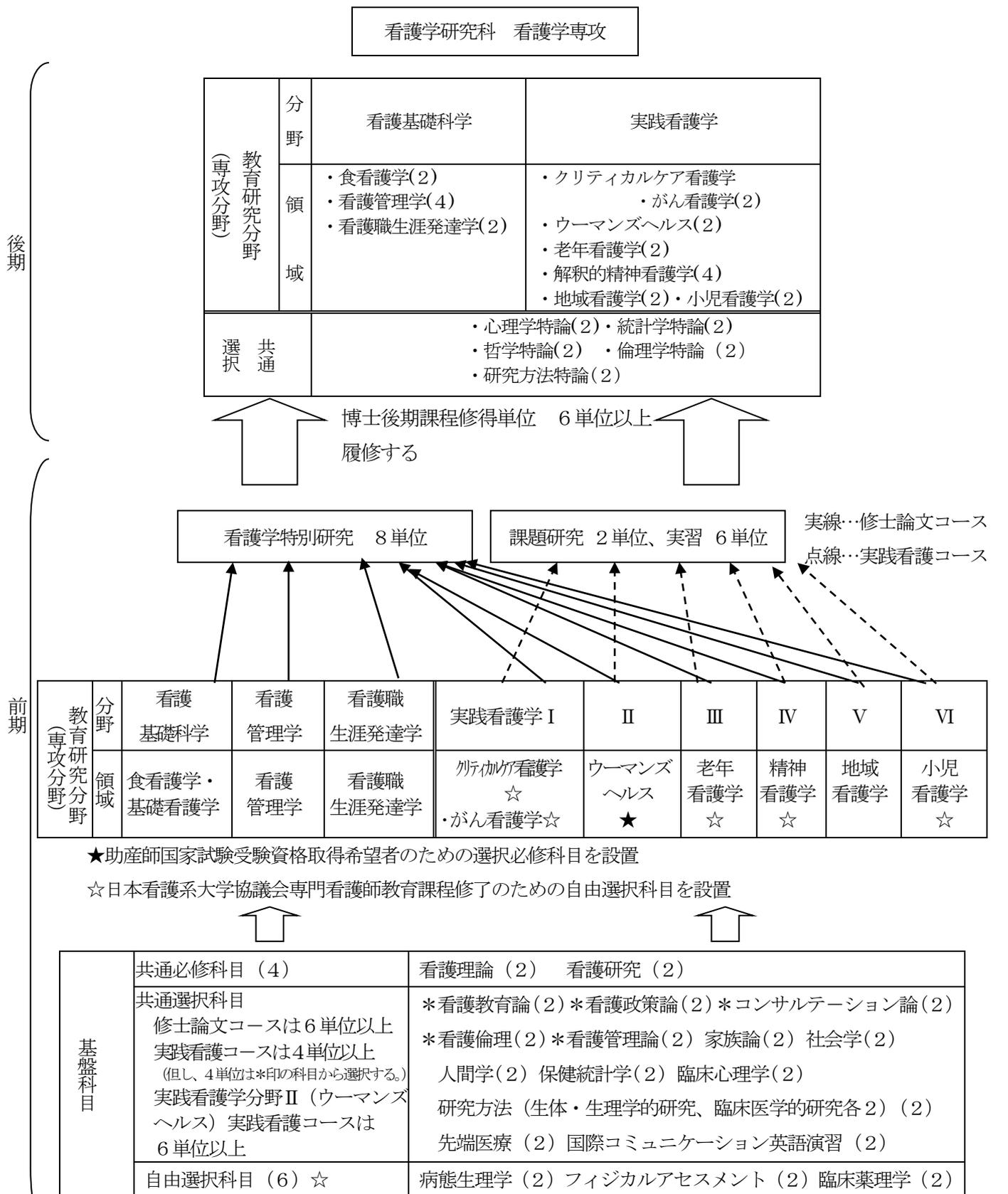
### 【ディプロマポリシー】

博士後期課程では、所定の単位を修め学位論文の審査に合格し、最終試験において以下の能力が認められたものには博士（看護学）の学位が授与されます。

1. 複雑な医療環境および看護実践の場で、人々に対する全人的、かつ包括的な看護を研究的に思考し、高いレベルで看護を探究できる卓越した能力を有する。
2. 看護学の学問的深奥を究め、看護学をより発展的させるために、豊かな学識を備え、自立して研究活動をする能力を有する。
3. 国際的な視野にたつて、看護を発展させる独自の看護を創造する能力を有する。

# 10 教育課程

## 1) 教育課程の構造 (博士後期課程)



( ) 内の数字は単位を表す

注) 博士前期課程の詳細については、教育課程の構造 (博士前期課程) のページを参照のこと。

## 2) 博士後期課程の流れ (概要)

### 【平成 28 年度以前 入学生】

#### 1. 1 年次～3 年次

所定の授業科目について 6 単位以上修得する。

#### 【履修の仕方】

(1)食看護学、看護職生涯発達学、クリティカルケア看護学・がん看護学、ウーマンズヘルス、老年看護学、地域看護学、小児看護学を専攻する場合：

共通選択科目、および専門領域科目の特論から 4 単位以上を選択履修し、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を 2 単位履修し、計 6 単位以上を修得する。

(2)看護管理学、解釈的精神看護学を専攻する場合：

共通選択科目、および専門領域科目の特論から 2 単位以上を選択履修し、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を 2 単位、演習を 2 単位履修し、計 6 単位以上を修得する。

#### 2. 2 年次～

(1)各自で研究テーマを絞り、指導教授等の指導を受けながら、研究計画書を作成する。

(2)本学倫理委員会に、研究計画に関わる倫理審査を申請する。

(3)1 年以上在学し、6 単位以上修得した者は、倫理委員会の審査で研究実施の承認を受けたのち、その通知書の写しを添付して、定められた提出書類とともに、研究計画書の審査を看護学研究科委員会に申請する (5 月、9 月、11 月)。

(4)研究計画書の審査を受け、合格した者は、研究計画発表会において発表し、研究を開始する。

#### 3. 3 年次～

(1)第 3 学年に在学し、6 単位以上修得し、研究計画審査に合格した後、研究に着手し、定期的に指導教授の指導を受け、研究を完成させた者は、博士後期課程学位論文ならびに定められた提出書類を提出し、学位を申請する (1 月)。

(2)提出書類により資格審査が行われ、学位申請の資格が認められた場合、論文が受理される。

(3)学位論文審査および最終試験を受ける。

(4)審査により合格した者には、学位：博士 (看護学) が授与され、研究発表会において発表する。

(5)倫理委員会に、研究終了の報告を提出する。

(6)学位取得後、1 年以内に公表された論文の別刷を看護学研究科委員会に提出する。

(7)公表された論文を、本学機関リポジトリに登録する。

\* 詳細は博士後期課程論文作成の過程を参照のこと。

## 【平成 29 年度以降 入学生】

### 1. 1 年次～3 年次

所定の授業科目について 6 単位以上修得する。

#### 【履修の仕方】

(1)食看護学、看護職生涯発達学、クリティカルケア看護学・がん看護学、ウーマンズヘルス、老年看護学、地域看護学、小児看護学を専攻する場合：

共通選択科目、および専門領域科目の特論から 4 単位以上を選択履修し、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を 2 単位履修し、計 6 単位以上を修得する。

(2)看護管理学、解釈的精神看護学を専攻する場合：

共通選択科目、および専門領域科目の特論から 2 単位以上を選択履修し、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を 2 単位、演習を 2 単位履修し、計 6 単位以上を修得する。

### 2. 2 年次～

(1)各自で研究テーマを絞り、指導教授等の指導を受けながら、研究計画書を作成する。

(2)1 年以上在学し、6 単位以上修得した者は、研究計画書の審査を看護学研究科委員会に申請する。

(3)研究計画書の審査を受け、合格した者は、本学倫理委員会に研究計画に関わる倫理審査を申請する。

(4)倫理委員会の審査で研究実施の承認を受けた者は、研究計画発表会において発表し、研究を開始する。

### 3. 3 年次～

(1)第 3 学年に在学し、6 単位以上修得し、研究計画審査に合格した後、研究に着手し、定期的に指導教授の指導を受け、研究を完成させた者は、博士後期課程学位論文ならびに定められた提出書類を提出し、学位を申請する（1 月）。

(2)提出書類により資格審査が行われ、学位申請の資格が認められた場合、論文が受理される。

(3)学位論文審査および最終試験を受ける。

(4)審査により合格した者には、学位：博士（看護学）が授与され、研究発表会において発表する。

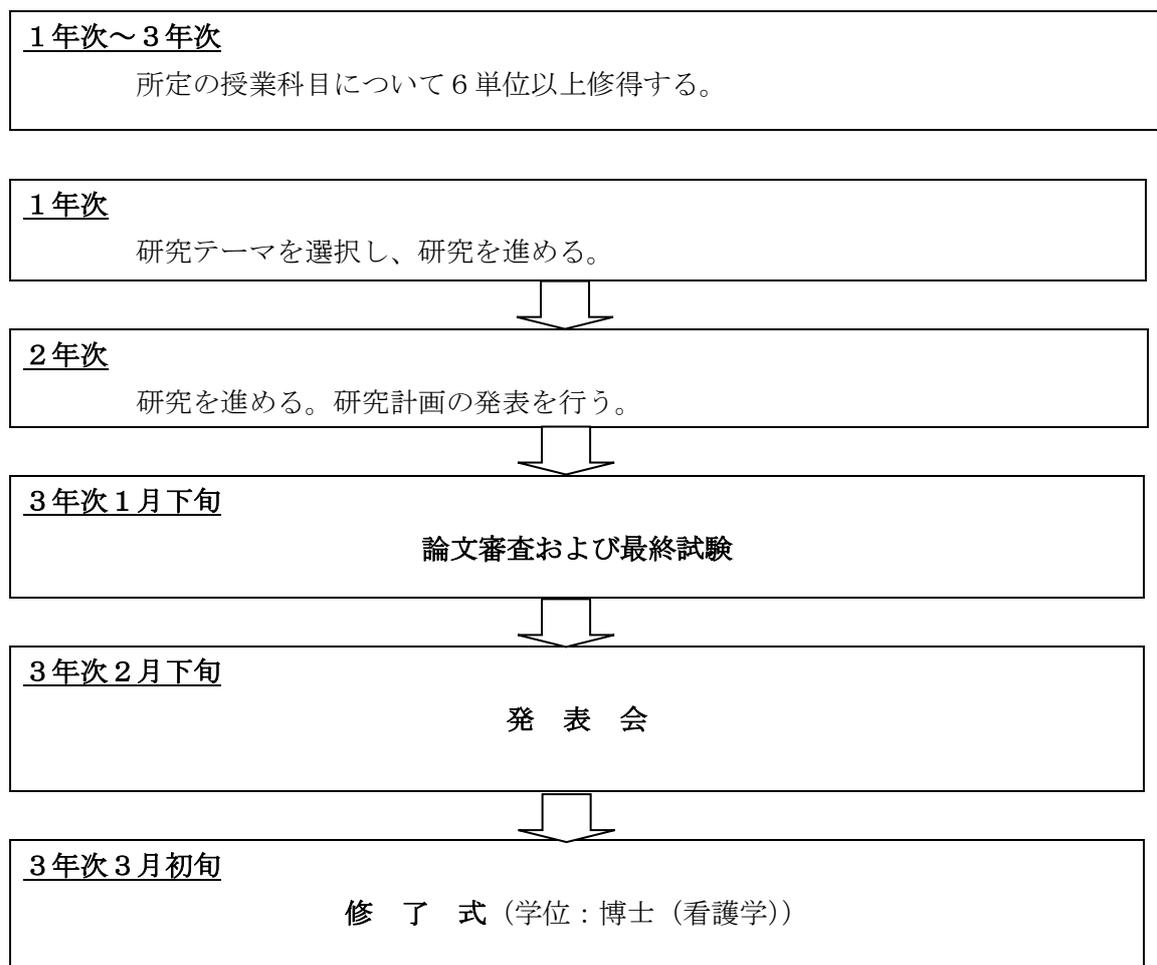
(5)倫理委員会に、研究終了の報告を提出する。

(6)学位取得後、1 年以内に公表された論文の別刷を看護学研究科委員会に提出する。

(7)公表された論文を、本学機関リポジトリに登録する。

\* 詳細は博士後期課程論文作成の過程を参照のこと。

### 3) 入学から修了までのプロセス



#### 修了の要件

- ・ 3年以上在学し、所定の授業科目について6単位以上を修得する。
- ・ 博士後期論文審査および最終試験に合格する。

#### 4) 大学院学則 8 条および 9 条関係「履修方法に関する内規」

1. 学生は入学後原則として、1 ヶ月以内に、研究指導教授の指導および承認を得て、学科目の選択を決定しなければならない。
2. 学生は、毎学年始め研究指導教授の指導および承認を得て、当該学年に履修しようとする学科目を定め、所定の様式により届け出なければならない。
3. 学科目の単位は、半年間 15 週を標準として、毎週時間数講義 1 時間、演習 2 時間、実習 3 時間が各々 1 単位に相当する。
4. 学科目、単位数については別表の通りとする。
5. 学生は下表に従って学科を履修しなければならない。

＜博士前期課程＞

《修士論文コース》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
看護学特別研究	8
修了最低修得単位数	計 30 単位

《実践看護コース》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	4
*但し、看護倫理、看護教育論、看護政策論、コンサルテーション論、看護管理論の中から 4 単位以上選択すること 自由選択科目 <sup>注)</sup>	(6)
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	14
*但し、うち 2 単位は、他の専攻分野でも特論に限り選択することができる。 自由選択科目 <sup>注)</sup>	(2)
実習	
選択必修科目	6
自由選択科目 <sup>注)</sup>	(4)
課題研究	2
修了最低修得単位数	計 30 単位
日本看護系大学協議会専門看護師教育課程 (38 単位) 修了のための自由選択科目	12
	計 42 単位

注) 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程 (38 単位) 修了を希望する者は、自由選択科目を履修することとする。

《実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）修士論文コース 選択者》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
看護学特別研究	8
修了最低修得単位数	計 30 単位
助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目	28
	計 58 単位

《実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）実践看護コース 選択者》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
実習	
選択必修科目	6
課題研究	2
修了最低修得単位数	計 30 単位
助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目	28
	計 58 単位

< 博士後期課程 >

科 目	修了最低修得単位数
専攻主領域の科目	2 単位 但し、看護管理学、解釈的精神看護学は4単位とする。
共通選択科目または他の専攻領域の科目	4 単位 但し、看護管理学、解釈的精神看護学は2単位とする。
修了最低修得単位数	計 6 単位

- 1) 学科目の内容は、年度始めに発行される博士前期課程講義要項ならびに博士後期課程講義要項に示されている。各科目の内容は、看護学研究科委員会の議を経て変更することができる。
- 2) 博士前期課程の各開講区分中、共通必修科目、共通選択科目、選択必修科目、看護学課題研究および看護学特別研究を置く。
- 3) 2) のほかに、助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程(38単位)修了のための自由選択科目を置く。ただし、これらの科目は本研究科の履修単位として認定されるが、修了要件となる共通必修科目、共通選択科目および選択必修科目として読み替えることはできない。
- 4) 博士後期課程の各開講区分中、共通選択科目および専攻主分野の科目を置く。
- 5) 博士前期課程においては主分野以外、博士後期課程においては主領域以外の特論を選択するときには、研究指導教授の許可を得て、希望する専攻分野あるいは主領域の教授に所定の様式による依頼書を提出し、その許可を得て、当該科目の教員の指導・評価を受けるものとする。但し、実践看護学分野Ⅱ(ウーマンズヘルス)選択者は除くものとする。
- 6) 4項に示した科目は、看護学研究科委員会の承認を得た後、定員枠内で大学院学生以外の看護師等の受講を有料で認める。料金はその都度決める。
6. 修士論文、課題研究論文および博士論文について、研究指導教授以外の大学教員から研究の指導を希望する学生は、研究指導教授の許可を得て、指導を希望する大学院教員に所定の様式の依頼書を提出し、その許可を得て指導を受けるものとする。
7. 学位論文の審査及び試験方法については、別に定める「学位規程」及び細則による。

附則 この内規は、平成24年 4月 1日より施行する。

## 5) 博士後期課程 授業科目、単位数および学年配置

授業科目名			単位数	配当年次				
				1 年 次	2 年 次	3 年 次		
看護学 専攻	共通 選択 科目	心理学特論	2	○				
		統計学特論	2	○				
		哲学特論	2	○				
		倫理学特論	2	○				
		研究方法特論	2	○				
	専門 領域 科目	看護 基礎 科学	食看護学特論	2	○	○	○	
			看護管理学	看護管理学特論	2	○	○	○
				看護管理学演習	2	○	○	○
			看護職生涯発達学特論	2	○	○	○	
		実践 看護 学	クリティカルケア看護学・がん看護学特論		2	○	○	○
			ウーマンズヘルス特論		2	○	○	○
			老年看護学特論		2	○	○	○
			解釈的精神看護学	解釈的精神看護学特論	2	○	○	○
				解釈的精神看護学演習	2	○	○	○
			地域看護学特論		2	○	○	○
			小児看護学特論		2	○	○	○

【修了要件】

食看護学、看護職生涯発達学、クリティカルケア看護学・がん看護学、ウーマンズヘルス、老年看護学、地域看護学、小児看護学では、共通選択科目、および専門領域科目の特論から4単位以上を選択履修、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を2単位とする計6単位以上を修得する。

また看護管理学、解釈的精神看護学では、共通選択科目、および専門領域科目の特論から2単位以上を選択履修、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を2単位、演習を2単位とする計6単位以上を修得する。さらに、それぞれ学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

6) 授業科目及び履修例

	授業科目の名称	単 位 数	看護基礎科学			実践看護学							
			食看護学	看護管理学	看護職 生涯発達学	クリティカル看護学 ・がん看護学	ウーマンズヘルス	老年看護学	解釈的 精神看護学	地域看護学	小児看護学		
共通選択科目	心理学特論	2				○							
	統計学特論	2	○	○			○		○			○	
	哲学特論	2			○				○				
	倫理学特論	2	○										
	研究方法特論	2				○						○	
	食看護学特論	2	○										
専門領域科目	看護管理学	特論		○									
		演習		○									
	看護職生涯発達学特論	2						○					
	クリティカルケア看護学 ・がん看護学特論	2				○							
	ウーマンズヘルス特論	2					○						
	老年看護学特論	2							○				
	解釈的精神看護学	特論	2								○		
		演習	2								○		
	地域看護学特論	2										○	
	小児看護学特論	2										○	

## 7) 講義要目

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
共 通 選 択 科 目	心理学特論	心理学的諸理論に基づく対象（個人、家族、集団、地域など）に関する確かなアセスメント能力の体系的な学習ならびに看護実践、とくに対象の心理的側面への効果的介入（カウンセリングや心理療法を含む）に必要な高度なレベルの諸技法の習得を目指す。	
	統計学特論	看護研究を行う上で有用な統計手法について、理論的背景と具体的な活用方法、結果の解釈の仕方と注意点等について、具体的な研究例を通して学修する。 具体的講義内容：多変量解析の概要と基礎的考え方 重回帰分析・パス解析・共分散分析・ロジスティック回帰分析統計的決定理論 主成分分析と因子分析・尺度開発時に用いる統計と考え方	
	哲学特論	近代哲学および現代哲学における主要な理論や基本概念について学び、近代から現代に至る認識観、人間観の変遷について探求する。またそれをもって人間存在のあり方や他者関係の捉え方について考えを深め、看護実践、看護研究を展開するうえでの哲学的基盤を養う。	
	倫理学特論	代表的な倫理理論および基本倫理原則について学び、医療、看護における具体的な事案に関し、基本倫理原則に照らして検討する。特に、パーソン論、SOL（生命の神聖さ）とQOL（生の質）との概念的対立が、周産期医療、終末期医療、安楽死といった事項における倫理議論の推論にどのような影響を与え得るかについて検討する。	
	研究方法特論	人間の成長発達に応じた身体の変化や動作、人間の生体反応等について、基本理論や、測定・分析方法を最近の研究の動向を踏まえて探求する。	
専 門 領 域 科 目	看護基礎科学	食看護学特論	「食」がもたらす事象を追究する研究方法の開発を新たな課題とし、現代社会が抱える「食」に関するあらゆる問題に対応できるように研究を創造的に発展させることをねらいとする。食看護学が全ての人々の食を基盤とする営みのQOLの向上に積極的に貢献する事を基本とする。
		看護管理学特論	さまざまな専門領域から構成されているヘルスケアサービス提供機関において、資源活用を効率的・効果的に行なうための理論や、組織体制および組織行動に関する研究方法について探究する。
		看護管理学演習	ヘルスケアサービスの提供の結果であるアウトカム評価に関して、その方法論を批判的に分析し、また研究開発方法について探究する。
		看護職生涯発達学特論	「人間生涯発達」「キャリア開発」「組織論」「看護管理学」「専門看護師等の上級看護師の教育」「継続教育」等の学問領域で蓄積された理論を基に、看護職の生涯発達の有り様や可能性について探求する。この科目は、オムニバス方式で実施する。
実践看護学	実践看護学	クリティカルケア看護学・がん看護学特論	クリティカルケア看護学・がん看護学領域の看護理論および実践を研究的に探求し、文献レビューを通じ、多様な研究論文の特徴、特異性を理解し、具体的な研究方法を学び、独立して研究を行う能力を獲得する。
		ウーマンズヘルス特論	ウーマンズヘルスとは何か、女性の病気の原因には何があるのか、男性と異なるどのような要因が介在しているか、またはその予防は何かなどを学び、ウーマンズヘルス領域に関連する看護を研究的に探求し、生涯を通じたウーマンズヘルスを目的とした研究を自立して行える能力を養う。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専 門 領 域 科 目	実 践 看 護 学	老年看護学特論	老年看護学における理論や最近の研究の動向を学び、多様な研究デザインの研究論文のクリティークを通して、クリティークの能力を養うと共に、老年看護における課題を明確にし、変化する社会情勢の中で、看護活動の質の向上に寄与しうる看護の方向性を探求し、その研究方法について学ぶ。
		解釈的精神看護学特論	看護は「生・老・病・死」という人間の体験と深く関与しつつ、人々との相互作用を通して実践されるものであり、看護現象の本質には、常に心、並びに心身関連の問題が内在している。本科目では、看護現象における心、並びに心身関連の問題を解釈的スタンスから探求する方法について学び、精神看護学領域の問題について、解釈的スタンスから自立して研究を行える基礎的能力を養うことを主眼とする。
		解釈的精神看護学演習	解釈的 <b>approach</b> に基づく質的研究データの収集方法（面接法、参加観察法）、分析／解釈の方法（ <b>narrative approach, grounded theory approach</b> ）、発表方法（論文、口頭）の基礎を習得し、精神看護学領域の研究に応用する手法を演習する。
		地域看護学特論	地域保健領域に関連する看護を研究的に探求し、個人・家族・集団のヘルスプロモーションを目的とした研究方法について学ぶ。
		小児看護学特論	小児看護学領域における多様な課題に関する理論と研究成果を基盤として、小児看護実践の質の向上に寄与しうる研究課題および方法について探求する。

## 8) 【平成 28 年度以前 入学生】 博士後期課程学位論文作成の過程

ここでは、博士後期課程学位論文の研究計画書の申請および審査、博士後期課程学位論文の申請および最終試験等の手続きについて説明する。

### 1. 博士後期課程学位論文の研究計画書の申請および審査

#### (1) 研究計画書の申請資格

博士後期課程に1年以上在学し、6単位以上を修得した者は、博士学位論文の研究計画書の審査を看護学研究科委員会に申請することができる。

#### (2) 計画書の提出期限（期限厳守）

原則として毎年7月、9月、11月（学事暦参照）

注）上記の期限を過ぎた提出についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。

#### (3) 提出書類

① 博士後期課程学位論文研究計画書審査申請書〔様式博士1〕 1部

② 博士後期課程学位論文研究計画書 14部

\*A4版、横書き、ワードプロセッサ印刷、クリップ止め

③ 東京女子医科大学倫理委員会審査結果通知書写し 14部

\*人を対象とする研究の場合は、計画書の提出前に、東京女子医科大学研究倫理委員会の審査を受け、研究実施に対する承認を得ておくものとする。

\*動物を対象とする場合も、上に準じて、東京女子医科大学動物実験倫理委員会の審査を受け、研究実施に対する承認を得ておくものとする。

#### (4) 提出先 看護学部学務課

#### (5) 研究計画書の審査

研究計画書を提出した者は、看護学研究科委員会の審査を受けるものとする。研究計画書の審査に合格した者は、博士後期課程学位論文のための研究に着手することができる。研究計画書の審査は、別に定める「博士後期課程学位論文研究計画書審査内規」による。

#### (6) 研究計画発表会

研究計画書の審査に合格した者は、研究計画発表会において計画を発表するものとする。

## 2. 博士後期課程学位論文研究計画書作成要領

### (1) 研究計画書作成様式

#### ① 用紙サイズ

A4 判

#### ② 書き方

- ・縦置き横書き
- ・10.5 ポイント
- ・幅 210mm×長さ 297mm
- ・行数 36
- ・行送り 18pt

\* 研究にかかる費用は個人負担とする

### (2) 研究計画書の構成

1. 研究課題名
2. 問題の背景
3. 研究の目的
4. 本研究の意義
5. 文献検討
6. 研究の対象と方法
  - (1) 研究デザイン
  - (2) 対象
    - ① 条件
    - ② データ収集施設
  - (3) データ収集方法
    - ① データ収集開始までの手続き
      - a. データ収集施設への依頼
      - b. 対象者の選定
      - c. 対象者の決定
    - ② データ収集
      - a. 期間
      - b. データ収集方法
  - (4) データ分析方法  
(信頼性・妥当性を含む)
7. 倫理的配慮  
人を対象とする研究の場合は、計画書提出前に東京女子医科大学倫理委員会の審査を受け、許可を得た資料を添付する。動物を対象とする場合は、東京女子医科大学動物実験倫理委員会の審査を受け、許可を得た資料を添付する。
8. 引用文献

### 3. 学位（博士）の申請および審査

#### (1) 学位（博士）の申請資格

博士後期課程の第3学年に在学し、6単位以上を修得し、博士後期課程学位論文の研究計画書の審査に合格した後、研究に着手した者は、博士後期課程学位論文を提出し、看護学研究科委員会に博士（看護学）の学位を申請することができる。

#### (2) 博士学位論文および学位申請の提出期限（期限厳守）

原則として毎年1月下旬（学事暦参照）

注）上記の期限を過ぎた提出についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。

#### (3) 提出書類等

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 学位（博士）申請書〔様式博士2〕   | 1部  |
| ② 博士後期課程学位論文         | 1部  |
| ③ 博士学位論文要旨（和文および英文）  | 各1部 |
| * A4版、横書き、ワードプロセッサ印刷 |     |
| * なお、この論文要旨は印刷公表される。 |     |
| ④ 単位認定書              | 1部  |
| ⑤ 履歴書（書式自由）          | 1部  |
| ⑥ 論文目録               | 1部  |
| ⑦ 参考論文のある場合          | 各5部 |
| ⑧ 審査手数料              | 5万円 |

#### (4) 提出先

看護学部学務課

なお、学務課で受け取った後は受領証を発行する。

#### (5) 学位審査

学位の審査および最終試験の方法、その他学位に関する必要な事項は、別に定める「学位規程」および「学位審査内規」に別に定める。

#### (6) 博士学位論文の発表

看護学研究会員会において、学位（博士）論文の審査および最終試験に合格した者は、博士（看護学）の学位を授与される。論文審査ならびに最終試験の合格の発表の後に、研究発表会で発表を行うものとする。

#### (7) 博士学位論文の公表

博士の学位を授与された者は、博士の学位を授与された日から、1年以内に、その論文を印刷公表するものとする。但し、学位の授与を受ける前に、すでに印刷公表した時はこの限りではない。

## 4. 博士後期課程学位論文作成要領

### (1) 論文作成様式

#### ① 用紙サイズ

A4 判

#### ② 書き方

・縦置き横書き

・10.5 ポイント

・36字 × 40行

・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

※原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。

※外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。

#### ③ 論文形態

左綴じの片面印刷とし、指定の表紙を貼付する。

### (2) 論文の構成

#### ① 構成概要

表紙

和文要旨（4頁：4000字程度）

英文要旨（250words程度）

目次

表目次

図目次

本文（原則として以下の内容を含むものとする。）

第1章 序論

第2章 文献の検討

第3章 研究の方法と対象

第4章 結果

第5章 考察

第6章 結論

謝辞

引用文献

付録・資料

#### ② 頁と見出し

i. 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より1ページとし、引用文献の最後のページを最終ページとする。

ii. 付録・資料の頁は、下中央につける。本文と区別するために i ii iii とつける。

iii. 見出しのつけ方（原則として）

I.

1.

1)

(1)

①

③図、表及び写真

- i. 図、表及び写真は、それぞれに図1、表1、写真1などの一連番号を付し、表題をつける。
- ii. 図、表及び写真は、本文の該当する箇所に（図1）と明示する。
- iii. 本文中に挿入する図、表及び写真を本文と別頁にする場合はページ番号をつけずに本文の該当する頁のあとにつづる。

④文献の記載様式

文献の記載方法は下記に従う。

- i. 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。
- ii. 文献は著者名のアルファベット順に列記する。外国人名は姓名の順とする。  
但し、共著名は3名まで表記する。
- iii. 記載方法は下記の例示のごとくにする。
  - i) 雑誌掲載論文の場合・・・著者名（発行年次）：論文の表題，掲載雑誌名，号もしくは巻（号），最初のページ数－最後のページ数.
  - ii) 単行本の場合・・・①著者名（発行年次）：書名（版数），出版社名，発行地  
②著者名（発行年次）：論文の表題，編者名，書名（版数），  
ページ数，出版社名，発行数
  - iii) 翻訳書の場合・・・原著者名（原書の発行年次）/訳者名（翻訳書の発行年次）：  
翻訳書の書名（版数），出版社名，発行地.

2017年度 東京女子医科大学大学院 看護学研究科

博士後期課程学位論文

タイトル

学籍番号

氏名

提出日 年 月 日

↑

3cm

↓

1 2 ポイント

東京女子医科大学大学院看護学研究科

博士後期課程学位論文要旨

字体 明朝体

サイズ 10.5 ポイント

一頁 24 行

一行 35 文字

文字数 4000 字程度

1 1 ポイント

東京女子医科大学大学院

看護学研究科看護学専攻

河田 若子

## I. はじめに

[Redacted text block]

←3.2cm→

←3.2cm→

## II. 方法

### 1. 調査対象

[Redacted text block]

### 2. 調査内容

[Redacted text block]

↑

3cm

↓



様式博士1

## 博士後期課程学位論文研究計画書審査申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて博士後期課程学位論文研究計画書の審査を申請いたします。

必要書類

研究計画書 14 部

## 学位(博士)申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて学位(博士)論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

学位(博士)申請書 [様式博士 2]	1 部
博士後期課程学位論文	1 部
学位論文の要旨(和文および英文)	各 1 部
単位認定書	1 部
履歴書(書式自由)	1 部
論文目録	1 部
参考論文のある場合	各 5 部
審査手数料	5 万円

## 9) 【平成 29 年度以降 入学生】 博士後期課程学位論文作成の過程

ここでは、博士後期課程学位論文の研究計画書の申請および審査、博士後期課程学位論文の申請および最終試験等の手続きについて説明する。

### 1. 博士後期課程学位論文の研究計画書の申請および審査

#### (1) 研究計画書の申請資格

博士後期課程に1年以上在学し、6単位以上を修得した者は、博士学位論文の研究計画書の審査を看護学研究科委員会に申請することができる。

#### (2) 計画書の提出期限

提出期限は、審査月前月の20日（休日にあたる場合はその前日）までとする。

#### (3) 提出書類

- |                               |     |
|-------------------------------|-----|
| ① 博士後期課程学位論文研究計画書審査申請書〔様式博士1〕 | 1部  |
| ② 博士後期課程学位論文研究計画書             | 14部 |

\*A4版、横書き、ワードプロセッサ印刷、クリップ止め

#### (4) 提出先 看護学部学務課

#### (5) 研究計画書の審査

研究計画書を提出した者は、看護学研究科委員会の審査を受けるものとする。審査は、原則として毎年6月、10月、12月に行う。

研究計画書の審査に合格した者は、倫理委員会審査を申請することができる。倫理委員会審査の承認を受けた者は、博士後期課程学位論文のための研究に着手することができる。

研究計画書の審査は、別に定める「博士後期課程学位論文研究計画書審査内規」による。

#### (6) 倫理委員会審査

\*人を対象とする研究の場合は、計画書審査合格後に、東京女子医科大学倫理委員会または病院倫理委員会の審査を受け、研究実施に対する承認を得るものとする。

\*動物を対象とする場合も、上に準じて、東京女子医科大学動物実験倫理委員会の審査を受け、研究実施に対する承認を得るものとする。

\*倫理委員会から承認を得た後、東京女子医科大学倫理委員会審査結果通知書写しを学務課に提出する。

#### (7) 研究計画発表会

研究計画書の審査に合格した者は、研究計画発表会において研究計画を発表するものとする。

## 2. 博士後期課程学位論文研究計画書作成要領

### (1) 研究計画書作成様式

#### ① 用紙サイズ

A4 判

#### ② 書き方

- ・縦置き横書き
- ・10.5 ポイント
- ・幅 210mm×長さ 297mm
- ・行数 36
- ・行送り 18pt

\* 研究にかかる費用は個人負担とする

### (2) 研究計画書の構成

1. 研究課題名
2. 問題の背景
3. 研究の目的
4. 本研究の意義
5. 文献検討
6. 研究の対象と方法
  - (1) 研究デザイン
  - (2) 対象
    - ① 条件
    - ② データ収集施設
  - (3) データ収集方法
    - ① データ収集開始までの手続き
      - a. データ収集施設への依頼
      - b. 対象者の選定
      - c. 対象者の決定
    - ② データ収集
      - a. 期間
      - b. データ収集方法
  - (4) データ分析方法  
(信頼性・妥当性を含む)
7. 倫理的配慮  
人を対象とする研究の場合は、計画書提出前に東京女子医科大学倫理委員会の審査を受け、許可を得た資料を添付する。動物を対象とする場合は、東京女子医科大学動物実験倫理委員会の審査を受け、許可を得た資料を添付する。
8. 引用文献

### 3. 学位（博士）の申請および審査

#### (1) 学位（博士）の申請資格

博士後期課程の第3学年に在学し、6単位以上を修得し、博士後期課程学位論文の研究計画書の審査に合格した後、研究に着手した者は、博士後期課程学位論文を提出し、看護学研究科委員会に博士（看護学）の学位を申請することができる。

#### (2) 博士学位論文および学位申請の提出期限（期限厳守）

原則として毎年1月下旬（学事暦参照）

注）上記の期限を過ぎた提出についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。

#### (3) 提出書類等

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 学位（博士）申請書〔様式博士2〕   | 1部  |
| ② 博士後期課程学位論文         | 1部  |
| ③ 博士学位論文要旨（和文および英文）  | 各1部 |
| * A4版、横書き、ワードプロセッサ印刷 |     |
| * なお、この論文要旨は印刷公表される。 |     |
| ④ 単位認定書              | 1部  |
| ⑤ 履歴書（書式自由）          | 1部  |
| ⑥ 論文目録               | 1部  |
| ⑦ 参考論文のある場合          | 各5部 |
| ⑧ 審査手数料              | 5万円 |

#### (4) 提出先

看護学部学務課

なお、学務課で受け取った後は受領証を発行する。

#### (5) 学位審査

学位の審査および最終試験の方法、その他学位に関する必要な事項は、別に定める「学位規程」および「学位審査内規」に別に定める。

#### (6) 博士学位論文の発表

看護学研究会員会において、学位（博士）論文の審査および最終試験に合格した者は、博士（看護学）の学位を授与される。論文審査ならびに最終試験の合格の発表の後に、研究発表会で発表を行うものとする。

#### (7) 博士学位論文の公表

博士の学位を授与された者は、博士の学位を授与された日から、1年以内に、その論文を印刷公表するものとする。但し、学位の授与を受ける前に、すでに印刷公表した時はこの限りではない。

## 4. 博士後期課程学位論文作成要領

### (1) 論文作成様式

#### ① 用紙サイズ

A4 判

#### ② 書き方

・縦置き横書き

・10.5 ポイント

・36字 × 40行

・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

※原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。

※外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。

#### ③ 論文形態

左綴じの片面印刷とし、指定の表紙を貼付する。

### (2) 論文の構成

#### ① 構成概要

表紙

和文要旨（4頁：4000字程度）

英文要旨（250words程度）

目次

表目次

図目次

本文（原則として以下の内容を含むものとする。）

第1章 序論

第2章 文献の検討

第3章 研究の方法と対象

第4章 結果

第5章 考察

第6章 結論

謝辞

引用文献

付録・資料

#### ② 頁と見出し

i. 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より1ページとし、引用文献の最後のページを最終ページとする。

ii. 付録・資料の頁は、下中央につける。本文と区別するために i ii iii とつける。

iii. 見出しのつけ方（原則として）

I.

1.

1)

(1)

①

③図、表及び写真

- i. 図、表及び写真は、それぞれに図1、表1、写真1などの一連番号を付し、表題をつける。
- ii. 図、表及び写真は、本文の該当する箇所に（図1）と明示する。
- iii. 本文中に挿入する図、表及び写真を本文と別頁にする場合はページ番号をつけずに本文の該当する頁のあとにつづる。

④文献の記載様式

文献の記載方法は下記に従う。

- i. 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。
- ii. 文献は著者名のアルファベット順に列記する。外国人名は姓名の順とする。  
但し、共著名は3名まで表記する。
- iii. 記載方法は下記の例示のごとくにする。
  - i) 雑誌掲載論文の場合・・・著者名（発行年次）：論文の表題，掲載雑誌名，号もしくは巻（号），最初のページ数－最後のページ数.
  - ii) 単行本の場合・・・①著者名（発行年次）：書名（版数），出版社名，発行地  
②著者名（発行年次）：論文の表題，編者名，書名（版数），  
ページ数，出版社名，発行数
  - iii) 翻訳書の場合・・・原著者名（原書の発行年次）/訳者名（翻訳書の発行年次）：  
翻訳書の書名（版数），出版社名，発行地.

2017年度 東京女子医科大学大学院 看護学研究科

博士後期課程学位論文

タイトル

学籍番号

氏名

提出日 年 月 日

↑  
3cm  
↓

1 2 ポイント

東京女子医科大学大学院看護学研究科  
博士後期課程学位論文要旨

字体	明朝体
サイズ	10.5 ポイント
一頁	24 行
一行	35 文字
文字数	4000 字程度

1 1 ポイント



東京女子医科大学大学院  
看護学研究科看護学専攻  
河田 若子

## I. はじめに



←3.2cm→

←3.2cm→

## II. 方法

### 1. 調査対象



### 2. 調査内容



↑  
3cm  
↓



様式博士1

## 博士後期課程学位論文研究計画書審査申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて博士後期課程学位論文研究計画書の審査を申請いたします。

必要書類

研究計画書 14 部

## 学位(博士)申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて学位(博士)論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

学位(博士)申請書 [様式博士 2]	1 部
博士後期課程学位論文	1 部
学位論文の要旨(和文および英文)	各 1 部
単位認定書	1 部
履歴書(書式自由)	1 部
論文目録	1 部
参考論文のある場合	各 5 部
審査手数料	5 万円

## 10) 授業科目および教員一覧、論文指導教員一覧

### 1. 授業科目および教員一覧

授 業 科 目 名		科 目 担 当 者
共通選択科目	心理学特論	岡部 大介
	統計学特論	坂田 成輝
	哲学特論	丹木 博一
	倫理学特論	鶴若 麻理
	研究方法特論	榎 建二郎、神山 暢夫
看護基礎科学	食看護学特論	*今年度開講なし
	看護管理学特論	池田 真理
	看護管理学演習	池田 真理
	看護職生涯発達学特論	佐藤 紀子、宮子あずさ
実践看護学	クリティカルケア看護学 ・がん看護学特論	
	ウーマンズヘルスト論	小川久貴子
	老年看護学特論	長江 弘子、坂井 志麻、原沢のぞみ
	解釈的精神看護学特論	田中美恵子
	解釈的精神看護学演習	田中美恵子
	地域看護学特論	清水 洋子、中田 晴美
	小児看護学特論	日沼 千尋、関森みゆき

### 2. 論文指導教員一覧

分野名	担当教員
看護基礎科学	池田 真理、佐藤 紀子
実践看護学	小川久貴子、長江 弘子、田中美恵子、 清水 洋子、日沼 千尋

## 1 1) 教員一覧 専任教員、非常勤講師

### 専任教員

氏名	職名	科目名
池田 真理	教授	看護管理学特論、看護管理学演習
佐藤 紀子	教授	看護職生涯発達学特論
小川 久貴子	教授	ウーマンズヘルス特論
長江 弘子	教授	老年看護学特論
田中 美恵子	教授	解釈的精神看護学特論、解釈的精神看護学演習
清水 洋子	教授	地域看護学特論
日沼 千尋	教授	小児看護学特論
中田 晴美	准教授	地域看護学特論
関森 みゆき	准教授	小児看護学特論
榊 建二郎	准教授	研究方法特論
神山 暢夫	准教授	研究方法特論
坂井 志麻	講師	老年看護学特論
原沢のぞみ	講師	老年看護学特論

### 非常勤講師

氏名	科目名
宮子 あずさ	看護職生涯発達学特論
北島 勉	地域看護学特論
岡部 大介	心理学特論
坂田 成輝	統計学特論
丹木 博一	哲学特論
鶴若 麻理	倫理学特論

1 2 平成29年度 満期退学後2ヶ年以内の者による学位申請（甲）・  
論文提出による学位申請（乙） 学事暦

	事項	日程
前期	学位論文申請のための語学試験（乙申請者のみ）	5月 13日（土）
	学位申請書提出日（1回目）	6月 26日（月） 13時まで
	資格審査と論文の受理ならびに審査委員会の構成委員の決定	7月 7日（金）
	審査委員会による論文審査と最終試験日	～8月 26日（土）までに実施する。
	学位論文主査による最終試験結果提出日	8月 28日（月）
	研究科委員会による学位授与の可否決定	9月 1日（金）
	学生への学位授与の可否通知	9月 4日（月）
	学位記授与	10月発行予定
	発表会（博士学位論文の発表会と同様）	3月 15日（木）
後期	学位申請書提出日（2回目）	1月 25日（木） 13時まで
	資格審査と論文の受理ならびに審査委員会の構成委員の決定	2月 2日（金）
	審査委員会による論文審査と最終試験日	2月 13日（火）～19日（月）の期間中に実施する。
	学位論文主査による最終試験結果提出日	2月 26日（月）
	研究科委員会による学位授与の可否決定	3月 2日（金）
	学生への学位授与の可否通知	3月 5日（月）
	学位記授与	3月発行予定
	発表会（博士学位論文の発表会と同様）	3月 15日（木）

- ・満期退学後2ヶ年以内の者による学位申請（甲）は、平成27年度入学生までが対象です。
- ・平成28年度入学生から、休学による学費減免制度が適応されます。

満期退学後 2 ヶ年以内の者による  
学位申請（甲）  
論文提出による学位申請（乙）

## 1 3 論文提出による学位申請について

ここでは、論文提出による学位申請について説明する。

### 1. 学位申請の資格

論文提出により、博士（看護学）の学位を申請することのできる者は、次のいずれかに該当するものとする。

(1)看護学研究科博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得して退学した者。

(2)語学試験に合格し、看護学において5年以上の研究歴のある者。

語学試験の期日及び試験方法については、別に定める「学位論文提出のための語学試験内規」による。

(注) 前項の研究歴と年数は次に該当するものをいう。

#### 1-1 研究歴

(1)大学の専任職員として研究に従事した期間

(2)大学院（博士前期課程及び博士後期課程）を中途退学した者の場合は大学院（博士前期課程及び博士後期課程）に在学した期間

(3)権威ある研究施設において専任職員として研究に従事した期間。なお、権威ある研究施設とは次のものとする。

①国公立の看護系大学及びその付置研究施設

②看護学に関係ある国公立の研究所、研究施設等の研究機関

③財団法人若しくは社団法人組織による看護学に関係のある研究所

④その他看護学研究科委員会において前各号に準ずると認めた施設

(4)大学が、前記各号と同等以上と認める方法により研究に従事した期間

#### 1-2 研究歴年数

(1)前項の研究歴年数は、看護学の課程を修了した者に適用され、外国において看護学の課程を修了した者にも同様に適用されるが、この場合は、看護学研究科委員会の審議を経なければならない。

なお、看護学の課程を修了しない者が提出する場合は下記の年数とする。

①大学院博士前期課程（修士課程）修了者は6年以上

②大学卒業者は8年以上

③短期大学及び専門学校卒業者は10年以上

④大学、短期大学及び専門学校未修了者は12年以上

#### 1-3 外国人の学位申請の資格要件

(1)申請者が所属している、またはしていた研究施設が、注の1-1の(3)に該当するかどうかを看護学研究科委員会が判断できる資料（研究施設の規模、研究活動等の概要を示したもの等）を提出すること

(2)本学の研究生として1年以上在籍すること

## 2. 論文の提出

提出する論文（学位申請論文）は印刷公表されたものを原則とする。また申請者単独の著作であることを原則とする。ただし、共著の場合、提出者は第一著者とし、共著者数は、原則として提出者を含め 5 名以内とする。共著者は次の事項を記した同意書を提出するものとする。

- (1) 提出者がその研究で主な役割をつとめていること
- (2) 提出者がその論文で学位を申請することに異議がないこと
- (3) 提出者以外がその論文で学位を申請することはないこと

本学以外で研究に従事した者は参考論文（印刷公表されたもの）を 3 編以上併せて提出するものとする。

## 3. 提出書類

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| (1) 論文博士学位申請書   | 1 部                   |
| (2) 履歴書   | 14 部                  |
| (3) 卒業証明書   | 1 部                   |
| (4) 大学院単位修得者はその証明書  | 1 部                   |
| (5) 研究歴証明書  | 1 部                   |
| (6) 論文目録  | 14 部                  |
| (7) 学位申請論文  | 14 部                  |
| (8) 学位申請論文和文要旨(1200 字以内)・英文要旨(250words 程度)  | 各 14 部                |
| (9) 参考論文（印刷公表されたもの）がある場合  | 各 14 部（最高 10 編まで・写し可） |
| (10) 学外提出の場合、本学看護学研究科教授の紹介状   | 1 部                   |
| (11) 語学試験合格証明書（但し、1. 学位申請の資格の（2）に該当する場合）  |                       |
| (12) 審査手数料 [学内提出者は 15 万円、学外提出者は 30 万円とする。本学に在籍した者で辞職（教職員）、研修修了（医療練士、研修生）又は退室（研究生）後 2 年以内に提出する場合は学内提出扱いとする。] |                       |

## 4. 提出期限（期限厳守）

原則として毎年 6 月末日、1 月下旬（学事歴による）

注）上記の期限を過ぎた提出についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。

## 5. 資格審査と論文の受理

論文提出により博士（看護学）の学位の申請があった場合には、看護学研究科委員会において、提出書類（履歴・研究歴・学位申請論文要旨等）により資格審査を行う。資格審査の方法については、「学位審査内規」に別に定める。

## 6. 提出先

看護学部学務課

## 7. 学位審査

学位審査および最終試験の方法、その他学位に必要な事項は、「学位規程」および「学位審査内規」に別に定める。

## 8. 博士学位論文の発表

看護学研究科委員会において、学位（博士）論文の審査および最終試験に合格した者は、博士（看護学）の学位を授与される。論文審査ならびに最終試験の合格の後に、研究発表会で発表を行うものとする。

様式博士2-2(乙)

## 論文博士学位申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長 殿

氏名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ 年 月 日 生

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて論文博士学位論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

論文博士学位申請書[様式 2-2]	1 部
履歴書	14 部
卒業証明書	1 部
大学院単位修得者はその証明書	1 部
研究歴証明書	1 部
論文目録	14 部
学位申請論文	14 部
学位申請論文和文要旨(1200 字以内)・英文要旨(250words 程度)	各 14 部
参考論文がある場合	各 14 部(最高 10 編まで・写し可)
学外提出の場合、本学看護学研究科教授の紹介状	1 部
語学試験合格証明書(学位申請の資格の(2)に該当する場合)	
審査手数料 [学内提出者は 15 万円、学外提出者は 30 万円]	

# 博士後期課程 講義概要

科目名 心理学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	岡部 大介				
講義概要	人間は、自分たちがこれまでつくりあげ、また、日々つくり続けている「文化」の中で生きている。本講義では「文化を包含する心理学」をどのように用いるかについて、あわせて、そのための研究手法について議論する。				
到達目標	心理学の世界において、文化心理学がどのような領域の学問とネットワークを構築しながら生じたのか、その歴史的変遷を理解する。文化心理学において重視される研究手法のひとつであるエスノグラフィについて理解する。				
講義のすすめ方	上記の使用文献の書籍について、分担してレジュメを作成し、議論する。				
使用文献	『生活世界の構造』（アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン著） 『現実の社会的構成—知識社会学論考』（ピーター・L・バーガー、トーマス・ルックマン著）				
参考文献	『デザインド・リアリティ：集合的達成の心理学』（有元典文・岡部大介著）				
成績評価の方法	レジュメの内容と、講義中のディスカッションへの貢献度から総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	6月9日(金)	14:35～16:00	岡部 大介	イントロダクション
	2	6月16日(金)	14:35～16:00		『生活世界の構造』第1章前半
	3	6月16日(金)	16:10～17:35		『生活世界の構造』第1章後半
	4	6月23日(金)	14:35～16:00		『生活世界の構造』第2章前半
	5	6月23日(金)	16:10～17:35		『生活世界の構造』第2章後半
	6	6月30日(金)	14:35～16:00		『生活世界の構造』第3章前半
	7	6月30日(金)	16:10～17:35		『生活世界の構造』第3章後半
	8	7月7日(金)	14:35～16:00		『生活世界の構造』第4章前半
	9	7月7日(金)	16:10～17:35		『生活世界の構造』第4章後半
	10	7月14日(金)	14:35～16:00		『現実の社会的構成—知識社会学論考』1部前半
	11	7月14日(金)	16:10～17:35		『現実の社会的構成—知識社会学論考』1部後半
	12	7月21日(金)	14:35～16:00		『現実の社会的構成—知識社会学論考』2部前半
	13	7月21日(金)	16:10～17:35		『現実の社会的構成—知識社会学論考』2部後半
	14	7月28日(金)	14:35～16:00		『現実の社会的構成—知識社会学論考』3部前半
15	7月28日(金)	16:10～17:35	『現実の社会的構成—知識社会学論考』3部後半		

\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがありますので履修者は初回講義に必ず出席してください。また、講義場所が変更となることもありますので掲示板にて確認してください。

科目名 統計学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	坂田 成輝				
講義概要	看護研究を進めていく上で有益となるデータ解析法と統計手法について、具体的な活用例を挙げながら習得し、加えて解析結果についての解釈や論文へのまとめ方などについてもレベルをあげる。				
到達目標	データ解析の意義について理解を深める。				
講義のすすめ方	これまで各自が試みたデータ解析を振り返り、各自の問題点や能力レベルを確認する。その上で論文作成を念頭に、各自、データを収集し、その解析、結果の解釈を進めていきながら、研究能力の向上をめざす。				
参考文献	鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤順編著『心理学マニュアル質問紙法』北大路書房, 1998年 古谷野亘・長田久雄著『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング, 1992年				
成績評価の方法	出席状況30%, 授業中の課題遂行70%で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月20日(木)	14:35~16:00	坂田 成輝	データ解析の基礎①
	2	4月27日(木)	14:35~16:00		データ解析の基礎②
	3	5月11日(木)	14:35~16:00		データ解析の基礎③
	4	5月18日(木)	14:35~16:00		データ解析の基礎④
	5	5月25日(木)	14:35~16:00		多変量解析①
	6	6月1日(木)	14:35~16:00		多変量解析②
	7	6月8日(木)	14:35~16:00		多変量解析③
	8	6月15日(木)	14:35~16:00		多変量解析④
	9	6月22日(木)	14:35~16:00		データ収集の計画①
	10	6月29日(木)	14:35~16:00		データ収集の計画②
	11	7月6日(木)	14:35~16:00		データ収集の計画③
	12	7月13日(木)	14:35~16:00		データ収集の計画④
	13	9月7日(木)	14:35~16:00		データ収集と入力①
	14	9月14日(木)	14:35~16:00		データ収集と入力②
	15	9月21日(木)	14:35~16:00		データ収集と入力③
	16	9月28日(木)	14:35~16:00		データ解析の実践：基礎編①
	17	10月5日(木)	14:35~16:00		データ解析の実践：基礎編②
	18	10月12日(木)	14:35~16:00		データ解析の実践：基礎編③
	19	10月19日(木)	14:35~16:00		データ解析の実践：基礎編④
	20	10月26日(木)	14:35~16:00		データ解析の実践：応用編①
	21	11月2日(木)	14:35~16:00		データ解析の実践：応用編②
	22	11月9日(木)	14:35~16:00		データ解析の実践：応用編③
	23	11月16日(木)	14:35~16:00		データ解析の実践：応用編④
	24	11月30日(木)	14:35~16:00		解析結果の解釈①
	25	12月7日(木)	14:35~16:00		解析結果の解釈②
	26	12月14日(木)	14:35~16:00		解析結果の解釈③
	27	12月21日(木)	14:35~16:00		論文へのまとめ①
	28	1月11日(木)	14:35~16:00		論文へのまとめ②
	29	1月18日(木)	14:35~16:00		論文へのまとめ③
30	1月25日(木)	14:35~16:00	論文へのまとめ④		

\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがありますので履修者は初回講義に必ず出席してください。また、講義場所が変更となることもありますので掲示板にて確認してください。

科目名 哲学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	丹木 博一				
講義概要	病態の意味とケアの条件を現象学的な人間理解に基づいて哲学的に考察する。西洋近代の人間観を批判的に吟味するところから出発し、人間の身体性に関する現象学的方法に親しみながら、レヴィナス『存在の彼方へ』のテキスト分析を行い、そこから看護ケアの条件とその可能性について考察を行う。講義に際しては、受講者が自らの看護研究の思想的基盤を見つめ直す機会となるようにしたい。				
到達目標	1. 西洋近代の人間観の基本を踏まえた上で、現象学が切り開いた新たな思惟の意味を理解する。 2. レヴィナスの人間観の基本的な特徴を把握する。 3. 現象学的方法を看護研究に活かすことができる。				
講義のすすめ方	最初は講義形式をとるが、中盤はゼミ形式の文献講読の形で授業を進め、最後に授業内容を踏まえた研究発表をしてもらい互いにディスカッションを行う。				
教科書	エマニュエル・レヴィナス『存在の彼方へ』（合田正人訳），講談社学術文庫，1999.				
参考文献	村上靖彦『レヴィナス—壊れものとしての人間』河出ブックス，2012. 丹木博一『いのちの生成とケアリング—ケアを考える』ナカニシヤ出版，2016.				
成績評価の方法	参加度30%、授業時のレポート30%、研究発表40%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月20日(木)	13:00~14:25	丹木 博一	哲学的思考の意義
	2	4月27日(木)	13:00~14:25		西洋近代の人間観:デカルトとパスカル
	3	5月11日(木)	13:00~14:25		現象学的人間観1:フッサールとハイデガー
	4	5月18日(木)	13:00~14:25		現象学的人間観1:メルロ=ポンティとレヴィナス
	5	5月25日(木)	13:00~14:25		『存在の彼方へ』の概要説明
	6	6月1日(木)	13:00~14:25		文献講読『存在の彼方へ』前置きと第一章
	7	6月8日(木)	13:00~14:25		文献講読『存在の彼方へ』第二章1~3
	8	6月15日(木)	13:00~14:25		文献講読『存在の彼方へ』第二章4と第三章1~2
	9	6月22日(木)	13:00~14:25		文献講読『存在の彼方へ』第三章3~6d
	10	6月29日(木)	13:00~14:25		文献講読『存在の彼方へ』第三章6e~fと第四章1~4
	11	7月6日(木)	13:00~14:25		文献講読『存在の彼方へ』第四章5~6と第五章1
	12	7月13日(木)	13:00~14:25		文献講読『存在の彼方へ』第五章2~4
	13	7月20日(木)	13:00~14:25		文献講読『存在の彼方へ』第五章5と第六章
	14	9月7日(木)	13:00~14:25		臨床の場で出会う問題を哲学的に検討する①
15	9月14日(木)	13:00~14:25	臨床の場で出会う問題を哲学的に検討する②		

\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがありますので履修者は初回講義に必ず出席してください。また、講義場所が変更となることもありますので掲示板にて確認してください。

科目名 倫理学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	○鶴若 麻理				
講義概要	本授業では、代表的な倫理学の理論および生命医学倫理の基本原則を学び、医療や看護における具体的な事案をそれらに照らし合わせつつ、生命にかかわる倫理について検討する。周産期医療、エンド・オブ・ライフケア、先端医療等に関連する現代的問題を取り上げる。				
到達目標	1. 倫理学の理論と倫理原則について理解する 2. 生命にかかわる倫理についての着眼力・分析力・展開力が深まりかつ広がること。				
講義のすすめ方	講義及びディスカッション、古典的事例やDVD教材を用いたケーススタディや履修者からの話題提供を含む。受講生の関心や希望をふまえて講義を行うため、一部内容の変更もある。				
参考文献	鶴若麻理・麻原きよみ編著：ナラティブでみる看護倫理、南江堂、2013 鶴若麻理・倉岡有美子編著：臨床のジレンマを解決に導く看護管理と倫理のアプローチ、学研メディカル秀潤社、2014。 トム・L・ピーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス：生命医学倫理、麗澤大学出版会、2009。 今井道夫・森下直貴：シリーズ生命倫理学 生命倫理学の基本構図、丸善出版、2012。 アルバート・R・ジョンセン、細見博志訳：生命倫理学の誕生、勁草書房、2009。				
成績評価の方法	レポート70%、出席・参加度30%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	11月10日(金)	13:00～14:25	鶴若 麻理	倫理学理論と倫理原則①
	2	11月10日(金)	14:35～16:00		倫理学理論と倫理原則②
	3	11月17日(金)	13:00～14:25		インフォームド・コンセント再考
	4	11月17日(金)	14:35～16:00		—看護師の役割を考える
	5	11月24日(金)	13:00～14:25		優生思想について考える
	6	11月24日(金)	14:35～16:00		—出生前検査を通して
	7	12月1日(金)	13:00～14:25		エンド・オブ・ライフケアと倫理
	8	12月1日(金)	14:35～16:00		—終末期患者の意思を支える
	9	12月15日(金)	13:00～14:25		生殖医療と倫理—身体から切り離された精子と卵子
	10	12月15日(金)	14:35～16:00		
	11	1月12日(金)	13:00～14:25		医療における事前指示の可能性
	12	1月12日(金)	14:35～16:00		老年看護と倫理:高齢者の意思決定支援
	13	1月19日(金)	13:00～14:25		
	14	1月19日(金)	14:35～16:00		受講生からの話題提供とディスカッション
15	1月26日(金)	13:00～14:25			

\*スケジュールは暫定的であり、受講生が決定した段階であらかじめ相談の上で決定し、できるだけ出席できるよう配慮します。

科目名 研究方法特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	榑 建二郎、神山 暢夫				
講義概要	学生自身が興味をもった事象から仮説を構築し、それを解明する、証明するための科学的データを得る実験方法の原理や手技を学ぶ。さらに、得られたデータを客観的に分析することによって、科学者としての研究能力を身につける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究対象の事象に対する仮説を明確に述べられる。</li> <li>2. 文献検索により、みずからの研究に対応する必要な文献が得られる。</li> <li>3. 科学的データを得るための実験方法の原理を明確に記述できる。</li> <li>4. 仮説に基づいて得られると予測されるデータから、グラフや図を表記できる。</li> <li>5. 実際に得られた実験データを客観的に分析し、結論を導くことができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	ゼミ形式、実験室や総合研究所における演習				
参考文献	適宜紹介する。				
成績評価の方法	出席15%、レポート85%とし、評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	8月1日(火)	10:35~12:00	榑 建二郎	研究方法論の概要
	2	8月2日(水)	13:00~14:25	神山 暢夫	研究対象の事象から仮説の予測1
	3	8月2日(水)	14:35~16:00	神山 暢夫	研究対象の事象から仮説の予測2
	4	8月3日(木)	10:35~12:00	神山 暢夫	文献検索1
	5	8月3日(木)	13:00~14:25	神山 暢夫	文献検索2
	6	8月8日(火)	13:00~14:25	神山 暢夫	文献に基づく仮説の構築1
	7	8月8日(火)	14:35~16:00	神山 暢夫	文献に基づく仮説の構築2
	8	8月9日(水)	10:35~12:00	神山 暢夫	文献に基づく仮説の構築3
	9	8月9日(水)	13:00~14:25	榑 建二郎	仮説に基づき予測される図の作成
	10	8月10日(木)	13:00~14:25	榑 建二郎	実験方法の原理1
	11	8月10日(木)	14:35~16:00	榑 建二郎	実験方法の原理2
	12	8月17日(木)	10:35~12:00	榑 建二郎	測定1
	13	8月17日(木)	13:00~14:25	榑 建二郎	測定2
	14	8月18日(金)	10:35~12:00	榑 建二郎	データ分析
15	8月22日(火)	10:35~12:00	榑 建二郎 神山 暢夫	得られたデータの分析から得られた結論	

\*履修希望者は履修登録を行う前に榑 (sakaki,kenjiro@twmu.ac.jp) までメールにて履修希望の旨連絡をしてください。

\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがあります。

## 科目名 看護管理学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	池田 真理				
講義概要	看護管理学における理論や国内外の最近の研究動向を学び、多様な研究デザインの研究論文をクリティークし、研究の能力を養う。看護管理学における課題を明確にし、課題に適切な研究方法を選択し、その方法論の可能性を最大に引き出すとともに、改善、新たな研究方法をも開発することを学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理学に関連する研究の文献レビューから先行研究の動向を述べることができる。</li> <li>2. 看護管理学における研究課題を明確にすることができる。</li> <li>3. 研究課題に適切な研究方法を選択・検討し、その詳細について述べるができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。				
参考文献	<p>ステファン・P.ロビンス、高木晴夫監訳 新版：組織行動のマネジメントー入門から実践へ。ダイヤモンド社，2009.</p> <p>ジュディス・ガラード，安部陽子訳：看護研究のための文献レビュー マトリックス方式 医学書院，2012.</p> <p>Galvan, J.L.: Writing Literature Reviews: A Guide for Students of the Social and Behavioral Sciences. 5th ed, Pycszak Publishing, 2012.</p> <p>山崎あけみ：看護職が取り組む博士論文・計画段階での迷い方（前編）. Quality Nursing, 10(10): 951 - 957, 2004.</p> <p>山崎あけみ：看護職が取り組む博士論文・計画段階での迷い方（後編）. Quality Nursing, 10(11): 1055 - 1061, 2004.</p> <p>シオバン・ネルソン，スーザン・ゴードン編 井部俊子監修：ケアの複雑性 ー看護を再考するー。エルゼビア・ジャパン，2007.</p>				
成績評価の方法	授業への事前準備（20%）、授業への参加度（20%）、課題のプレゼンテーション（30%）を総合的に評価する。最終課題（30%）				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	4月28日(金)	13:00～16:00	池田 真理	オリエンテーション 看護管理学領域および関連領域の研究について、理論化を進め、自己の研究の問いを鍛える。
	3・4	6月2日(金)			
	5	7月14日(金)	16:10～17:35		
	6・7	9月8日(金)	13:00～16:00		看護管理学領域および関連領域の研究について、文献レビューを行い、概念、理論等を理解する。
	8・9	10月13日(金)			
	10・11	11月17日(金)			
	12・13	12月8日(金)			
	14・15	1月19日(金)			看護管理学領域の研究に必要な研究方法論について探求し理解を深める。

## 科目名 看護管理学演習

(2単位 30コマ)

科目担当者	池田 真理				
講義概要	看護管理の先駆的な実践について、既習の理論を活用しながら、その現象を分析できる能力を養う。自らが選択した臨床疑問を看護管理の研究計画立案へとつなげる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理学関連の文献検討から、各自の研究課題の位置づけを明確にすることができる。</li> <li>2. 進行中の研究課題について、明確にプレゼンテーションすることあでき、批判的に吟味することができる。</li> <li>3. 『学習する組織』を通読し、複雑さを増す今日の諸問題に、「未来から学ぶ」という斬新な視点を養い、人・組織・社会の「在り方」を鋭く深く問いかける姿勢を学ぶ。</li> </ol>				
講義のすすめ方	<p>●学生による発表と討議を中心に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献抄読</li> <li>・研究トピックス紹介または、各自の研究課題についてのディスカッション</li> <li>・『学習する組織』を通読し、人・組織・社会の「在り方」を鋭く問いかける姿勢を学ぶ。</li> </ul> <p>●講義への参加方法</p> <p>発表者（文献抄読担当者）：発表1週間前までに紹介する論文を参加者全員にメールで送付。」フォーマットに沿って資料を作成。発表当日は文献20分、クリティーク10分程度で発表。</p> <p>発表者（研究報告担当者）：発表の前日までに作成資料を参加者全員にメールで送付（資料はPDF化する）。発表は15分程度で行う。</p> <p>発表者（書籍各章の担当者）：発表の前日までに作成資料を参加者全員にメールで送付（資料はPDF化する）。発表は15分程度で行う</p> <p>参加者：発表当日までに送付された資料を読み、質問を考え、当日は、積極的に発言する。書籍については事前に読んで参加すること。</p>				
参考文献	<p>ジュディス ガラード 安部陽子（訳）：看護研究のための文献レビュー マトリックス方式、医学書院、2012.</p> <p>北素子・谷津裕子：質的研究の実践と評価のためのサブストラクション、医学書院、2009.</p> <p>ピーター M センゲ， 枝廣 淳子・小田 理一郎・中小路 佳代子（訳）：学習する組織 ―システム思考で未来を創造する、英治出版、2011.</p>				
成績評価の方法	出席・参加度（発表の準備、討議への参加）100%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	4月15日(土)	10:30～16:00	池田 真理	<p>毎回3つのトピックスで進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理学、看護教育学、看護政策関連の研究論文のクリティーク</li> <li>2. 各自の研究発表</li> <li>3. 書籍の輪読会</li> </ol>
	4～6	5月13日(土)			
	7～9	6月10日(土)			
	10～12	7月8日(土)			
	13～15	9月9日(土)			
	16～18	10月14日(土)			
	19～21	11月11日(土)			
	22～24	12月9日(土)			
	25～27	1月20日(土)			
	28～30	2月10日(土)			

## 科目名 看護職生涯発達学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	佐藤 紀子、宮子 あずさ (高橋 伸夫)				
講義概要	「人間生涯発達」「キャリア発達」「組織論」「看護管理学」「専門看護師等の上級看護師の教育」「継続教育」等の学問領域で蓄積された理論をもとに、看護職の生涯発達の有り様やその可能性について探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護職生涯発達学の基盤となる知識を体系的に理解する。</li> <li>2. 場の特徴を理解し、状況依存型の知について組織論の視点から理解する。</li> <li>3. あらゆる場で仕事をする看護職についての理解を深め、生涯を通じた支援について論究する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生の関心領域に関する理論・文献のクリティークを、学生のプレゼンテーションを軸としながら行う。				
テキスト	指定せず				
成績評価の方法	出席・参加度（プレゼンテーション内容、討論への参加状況）100%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2			佐藤 紀子 宮子あずさ	「生涯発達」に関連する著作・論文のクリティーク
	3・4				「生涯発達」に関連する著作・論文のクリティーク
	5・6				「生涯発達」に関連する著作・論文のクリティーク
	7・8				「身体性・熟練」に関連する著作・論文のクリティーク
	9・10				「身体性・熟練」に関連する著作・論文のクリティーク
	11・12			高橋 伸夫	「組織と個人」に関連する著作・論文のクリティーク
	13・14				「組織と個人」に関連する著作・論文のクリティーク
15			佐藤 紀子 宮子あずさ	「組織と個人」に関連する著作・論文のクリティーク	

## 科目名 クリティカルケア看護学・がん看護学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者					
講義概要	クリティカルケア看護学・がん看護学領域の看護理論および実践を研究的に探究し、文献レビューを通し、多様な研究論文の特徴、特異性を理解し、具体的な研究方法を学び、独立して研究を行う能力を獲得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概念分析の重要性や必要性を理解し、自らの研究に適用することができる。</li> <li>2. クリティカルケア・がん看護学領域の研究の動向を分析し、自らの研究の位置づけを明らかにし、研究テーマを考究することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	プレゼンテーション、ディスカッション				
参考文献	Lorraine Walker & Kay Avant : Strategies for theory construction in Nursing, 2005				
	Beth Rodgers & Kathleen Knafelz : Concept development in Nursing, 2000				
	Walker & Avant (中木高夫他訳) : 看護における理論構築の方法、医学書院、2008				
成績評価の方法	プレゼンテーションおよびディスカッション (70%)、レポート (30%)				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1				クリティカルケア看護学・がん看護学研究の動向
	2・3				クリティカルケア看護学・がん看護学研究のクリティーク
	4・5				クリティカルケア看護学・がん看護学研究のクリティーク
	6・7				クリティカルケア看護学・がん看護学に関する概念の分析
	8・9				クリティカルケア看護学・がん看護学に関する概念の分析
	10・11				クリティカルケア看護学・がん看護学に関する概念の分析
	12・13				クリティカルケア看護学・がん看護学に関する概念の分析
	14・15				クリティカルケア看護学・がん看護学に関する概念の分析

\*講義日程については、学生と相談のうえ決定する。

科目名 ウーマンズヘルスト論

(2単位 15コマ)

科目担当者	小川 久貴子				
講義概要	ウーマンズヘルストにおける理論や国内外の研究動向を学び、多様な研究方法を理解し生涯を通じた女性の健康に貢献できることを目的とした研究方法を開発することを学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意思決定のモデルを説明できる。</li> <li>2. 女性のための意思決定援助を説明できる。</li> <li>3. ウーマンズヘルスト関連の理論と研究を学ぶ。</li> <li>4. ウーマンズヘルストと援助理論をまなぶ。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義ならびにプレゼンテーション等にて行う。				
参考文献	久米美代子、飯島治之編「ウーマンズヘルスト」、医歯薬出版 モーリーン・D・レイノール他、堀内成子監修、「助産師の意思決定」、エルゼビア・ジャパン				
成績評価の方法	レポート80%、出席・参加度20%とし、総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～4			小川久貴子	助産師の意思決定のモデル
	5～8				助産師の意思決定のモデル
	9～11				臨床意思決定のプロセス
	12				女性のための意思決定支援
	13～15				女性のための意思決定支援

科目名 老年看護学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	長江 弘子、坂井 志麻、原沢のぞみ				
講義概要	老年看護学における理論や最近の研究動向を学び、多様な研究デザインの研究論文のクリティークを通して、研究の能力を養うと共に、老年看護における課題を明確にし、変化する社会情勢の中で、看護活動の質の向上に寄与しうる看護を探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護学に関連する概念、理論を説明できる。</li> <li>2. 老年看護における課題を明確にすることができる。</li> <li>3. 老年看護学における研究の動向について述べるができる。</li> <li>4. 先行研究の内容、研究デザイン、研究方法、結果等から論文のクリティークができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	院生のプレゼンテーション、講義など				
参考文献	適時紹介する。				
成績評価の方法	事前準備とプレゼンテーション50%、討論の内容50%で評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	4月13日(木)	9:00~10:25	長江 弘子	オリエンテーション 老年看護学に関連する概念、理論、モデル等を理解し、老年看護における課題とその解決方法を探求する。
	2・3	4月20日(木)	9:00~12:00		
	4・5	4月27日(木)			
	6・7	5月11日(木)			
	8・9	5月18日(木)		坂井 志麻	老年看護学研究の探求 ・老年看護学に関連した研究概念について理解し、看護実践に寄与しうる研究について探求する。 ・英語論文のクリティークを行い、質の高い論文の要件を理解する。 ・研究の方法論について理解を深める。
	10・11	5月25日(木)		原沢のぞみ	
	12・13	6月1日(木)	長江 弘子		
14・15	6月8日(木)				

\*上記講義日程については受講生と相談の上、決定する。

科目名 解釈的精神看護学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	田中 美恵子				
講義概要	本科目では、看護現象における諸課題を解釈的スタンスから探求する方法について学び、精神看護学領域の問題について、解釈的スタンスから自立して研究を行える能力を養うことを主眼とする。方法としては、ナラティブ・アプローチ（解釈学的方法、ライフストーリー法）、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、エスノグラフィーを扱う。				
到達目標	1. 精神看護学領域の問題について、解釈的スタンスから自立して研究を行える能力を養う。 2. 解釈的アプローチに基づく質的研究の方法論の哲学的基盤および理論について理解する。				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。				
教科書	特に指定せず。				
参考文献	中野卓他：ライフストーリーの社会学、弘文堂、1995.				
	ヒューバート・L. ドレイファス：世界内存在－『存在と時間』における日常性の解釈学、産業図書、2000.				
	アーサー・クライマン、江口重幸他訳：病いの語り、誠信書房、1996.				
	アーサー・W・フランク：傷ついた物語の語り手－身体、病い、倫理、ゆみる出版、2002.				
	Riessman, C. K.: Narrative Analysis, A Sage University Paper, 1993.				
	Spradley, J.P., 田中美恵子・麻原きよみ監訳：参加観察法入門、医学書院、2010.				
成績評価の方法	発表準備資料30%、出席・参加度20%、レポート50%として総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1・2	5月9日(火)	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ①
	3・4	5月16日(火)			解釈学的アプローチ②
	5・6	5月23日(火)			解釈学的アプローチ③
	7・8	5月30日(火)			解釈学的アプローチ④
	9・10	6月6日(火)			解釈学的アプローチ⑤
	11・12	6月13日(火)			解釈学的アプローチ⑥
	13・14	6月20日(火)			解釈学的アプローチ⑦
15	6月27日(火)	解釈学的アプローチ⑧			

科目名 解釈的精神看護学演習

(2単位 30コマ)

科目担当者	田中 美恵子				
講義概要	解釈的アプローチに基づく質的研究のデータ収集方法、分析／解釈の方法の基礎を習得し、精神看護学領域の研究に応用する手法を演習する。 方法としては、ナラティブ・アプローチ(解釈学的方法、ライフストーリー法)、グランデッド・セオリー・アプローチ、エスノグラフィを扱う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の研究テーマを煮詰め、方法論的吟味を行い、解釈的アプローチに基づく質的研究のデータ収集方法、分析／解釈の方法の中から1つを選択し、その方法の基礎を習得する。</li> <li>2. 選択した方法を用いて精神看護学領域の研究を行うための技術をデータ分析演習を通して獲得する。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。				
教科書	特に指定せず。				
参考文献	Riessman, C. K.: Narrative Analysis, A Sage University Paper, 1993.				
	Spradley, J.P. , 田中美恵子・麻原きよみ監訳:参加観察法入門、医学書院、2010.				
	Patricia Benner: Interpretive Phenomenology Embodiment, Caring, and Ethics in Health and Illness, Sage Publications,1994. (相良ローゼマイヤーみはる監訳、田中美恵子、丹木博一訳:ベナー解釈的現象学－健康と病気における身体性・ケアリング・倫理、医歯薬出版、2006.)				
	箕浦康子:フィールドワークの技法と実際、ミネルヴァ書房、1999.				
成績評価の方法	発表準備資料30%、出席・参加度20%、レポート50%として総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1～3	10月4日(火)	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学のアプローチ①
	4～6	10月11日(火)			解釈学のアプローチ②
	7～9	10月18日(火)			解釈学のアプローチ③
	10～12	10月25日(火)			解釈学のアプローチ④
	13～15	11月1日(火)			解釈学のアプローチ⑤
	16～18	11月8日(火)			解釈学のアプローチ⑥
	19～21	11月15日(火)			解釈学のアプローチ⑦
	22～24	11月22日(火)			解釈学のアプローチ⑧
	25～27	11月29日(火)			解釈学のアプローチ⑨
28～30	12月6日(火)	解釈学のアプローチ⑩			

科目名 地域看護学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	清水 洋子、中田 晴美、北島 勉				
講義概要	地域保健領域における看護活動を社会的条件とともに考察し、個人と家族・集団のヘルスプロモーションおよび多様な集団から構成されるコミュニティ全体をケアすることを目的とした研究方法を開発する能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護対象別に各レベルのヘルスプロモーションの展開方式を比較し説明することができる。</li> <li>2. ヘルスプロモーション活動の評価方式を挙げるができる。</li> <li>3. 地域ケアシステムの課題を提案することができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	講義および国内外の文献の講読を通し、地域保健領域においてヘルスプロモーションに資する看護研究の最近の動向を明らかにし、その成果をプレゼンテーションする。				
参考文献	講義ごとに必要とするものを提示する。				
成績評価の方法	出席・参加態度・課題のプレゼンテーションを総合的に評価する。				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1			清水 洋子	オリエンテーション
	2			清水 洋子	ヘルスケアニーズと地域看護活動
	3・4			中田 晴美	地域保健領域のヘルスプロモーションに関する看護理論と社会的成立条件
	5・6			中田 晴美	個人・家族・集団の継続的ヘルスプロモーションに資する研究方法
	7			清水 洋子	地域看護活動の展開方法
	8・9			清水 洋子	地域看護活動の評価方法
	10・11			北島 勉	Universal Health Coverage達成に向けて:ヘルスフィンランシングの視点から
	12・13			清水 洋子	ヘルスプロモーション研究の最近の動向(文献レビューおよびプレゼンテーション)
	14			清水 洋子	地域ケアシステムにおける課題、指標、評価法の動向と活用に向けた討議
15			清水 洋子	まとめ	

講義日程は学生と相談の上、決定します。

## 科目名 小児看護学特論

(2単位 15コマ)

科目担当者	日沼 千尋、関森 みゆき				
講義概要	小児看護と小児保健領域における多様な課題に関する理論と研究成果を基盤として、小児看護の質の向上に寄与する研究課題および方法について探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献の検討から小児看護、小児保健領域に関する研究課題を明確にすることができる。</li> <li>2. 研究課題に応じた研究方法に関して検討し、その詳細について述べることができる。</li> </ol>				
講義のすすめ方	学生の発表と討議を中心として、内容により講義形式とする。				
参考文献	随時紹介する				
成績評価の方法	プレゼンテーション50%、資料50%				
講義日程	コマ数	日程	時間	担当者	講義概要
	1	5月11日(木)	13:00～14:25	日沼 千尋 関森みゆき	オリエンテーション
	2	5月18日(木)	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護学の概念に関する研究
	3	5月18日(木)	14:35～16:00	日沼 千尋	
	4	6月1日(木)	13:00～14:25	関森みゆき	小児看護研究の方法と課題
	5	6月1日(木)	14:35～16:00	関森みゆき	
	6	6月15日(木)	13:00～14:25	関森みゆき	小児保健に関する研究
	7	6月15日(木)	14:35～16:00	関森みゆき	
	8	7月13日(木)	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護を取り巻く環境に関する研究
	9	7月13日(木)	14:35～16:00	日沼 千尋	
	10	7月27日(木)	13:00～14:25	関森みゆき	親子関係の発達に関する研究
	11	7月27日(木)	14:35～16:00	関森みゆき	
	12	9月7日(木)	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護実践に関する研究1
	13	9月7日(木)	14:35～16:00	日沼 千尋	
	14	9月14日(木)	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護実践に関する研究2
15	9月14日(木)	14:35～16:00	日沼 千尋		

## 科目名 論文指導

論文指導教員	池田 真理
講義概要	博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究トピックスの背景を述べることができ、文献レビューをまとめることができる。</li> <li>2. 研究目的に適した研究方法を説明することができる。</li> <li>3. 研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる。</li> <li>4. 研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる。</li> <li>5. 研究実施計画書を定められた形式で記述することができる。</li> <li>6. 指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる。</li> <li>7. 学位論文を作成することができる。</li> <li>8. 学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる。</li> </ol>
講義のすすめ方	受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究トピックスに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出し、学術的な論文構成に従って学位論文を作成する。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションすることができる。
参考文献	研究ごとに、別途提示する。
指導日程	論文指導は、通年30コマとする。 実施曜日：毎週金曜日 時間帯：V限（16:10～17:35）

## 科目名 論文指導

論文指導教員	佐藤 紀子
講義概要	博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。
到達目標	<p>研究テーマの背景を述べることができる</p> <p>研究目的に適した研究方法を説明することができる</p> <p>研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる</p> <p>研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる</p> <p>研究実施計画書を定められた形式で記述することができる</p> <p>指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる</p> <p>学位論文を作成することができる</p> <p>学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる</p>
講義のすすめ方	受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的な研究活動を計画し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出でき、学術的な論文構成に従って学位論文を作成できる。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションすることができる。
参考文献	研究課題ごとに別途提示する。
指導日程	論文指導は、通年30コマとする。 実施曜日：毎週木曜日 時間帯：4限（14:35～16:00）

## 科目名 論文指導

論文指導教員	小川 久貴子
講義概要	博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。
到達目標	<p>研究テーマの背景を述べることができる</p> <p>研究目的に適した研究方法を説明することができる</p> <p>研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる</p> <p>研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる</p> <p>研究実施計画書を定められた形式で記述することができる</p> <p>指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる</p> <p>学位論文を作成することができる</p> <p>学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる</p>
講義のすすめ方	受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出でき、学術的な論文構成に従って学位論文を作成できる。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションすることができる。
参考文献	研究分野ごとに別途提示する。
指導日程	論文指導は、通年30コマとする。（前期15コマ・後期15コマ） 実施曜日：隔週火曜日 時間帯：4限（14:35～16:00）または5限（16:10～17:35）

## 科目名 論文指導

論文指導教員	長江 弘子
講義概要	博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。
到達目標	<p>研究テーマの背景を述べることができる</p> <p>研究目的に適した研究方法を説明することができる</p> <p>研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる</p> <p>研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる</p> <p>研究実施計画書を定められた形式で記述することができる</p> <p>指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる</p> <p>学位論文を作成することができる</p> <p>学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる</p>
講義のすすめ方	受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出し、学術的な論文構成に従って学位論文を作成する。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションする。研究スケジュールを指導のもと作成する。
参考文献	研究分野ごとに、別途提示する。
指導日程	<p>論文指導は、通年30コマとする。</p> <p>毎週火曜日14:35～16:00 16:10～17:35の4・5限2コマ</p> <p>毎月第3土曜日9:00～12:00の1・2限2コマ</p> <p>以上を原則とするが、内容によって調整する。</p>

## 科目名 論文指導

論文指導教員	田中 美恵子
講義概要	博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。
到達目標	<p>研究テーマの背景を述べることができる</p> <p>研究目的に適した研究方法を説明することができる</p> <p>研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる</p> <p>研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる</p> <p>研究実施計画書を定められた形式で記述することができる</p> <p>指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる</p> <p>学位論文を作成することができる</p> <p>学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる</p>
講義のすすめ方	受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出し、学術的な論文構成に従って学位論文を作成する。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションする。
参考文献	研究分野ごとに、別途提示する。
指導日程	論文指導は、通年30コマとする。 実施曜日：毎週月曜日 時間帯：5限（16:10～17:35）

## 科目名 論文指導

論文指導教員	清水 洋子
講義概要	博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。
到達目標	<p>研究テーマの背景を述べることができる</p> <p>研究目的に適した研究方法を説明することができる</p> <p>研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる</p> <p>研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる</p> <p>研究実施計画書を定められた形式で記述することができる</p> <p>指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる</p> <p>学位論文を作成することができる</p> <p>学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる</p>
講義のすすめ方	受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出し、学術的な論文構成に従って学位論文を作成する。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションする。
参考文献	研究分野ごとに、別途提示する。
指導日程	<p>論文指導は、通年30コマとする。</p> <p>【前期】 2017年4月10日から2017年7月28日の期間中、15週の月曜日、16:10～17:35(1コマ)とする。</p> <p>【後期】 2017年10月2日から2018年1月26日の期間中、15週の月曜日、16:10～17:35(1コマ)とする。</p>

## 科目名 論文指導

論文指導教員	日沼 千尋
講義概要	博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。
到達目標	<p>研究テーマの背景を述べることができる</p> <p>研究目的に適した研究方法を説明することができる</p> <p>研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる</p> <p>研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる</p> <p>研究実施計画書を定められた形式で記述することができる</p> <p>指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる</p> <p>学位論文を作成することができる</p> <p>学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる</p>
講義のすすめ方	受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出し、学術的な論文構成に従って学位論文を作成する。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションする。
参考文献	研究分野ごとに、別途提示する。
指導日程	論文指導は、通年30コマとする。 実施曜日：毎週木曜日 時間帯：1. 2限 (9:00～12:00)

共通

## 1 4 学生生活の手引き

### 1) 学生証・諸届・諸手続等

みなさんの学生生活が円滑に行えるよう、学務部は教育にかかわる直接の事務を担当しております。学務部には大東事務室と学務課があり、学生の皆さんの窓口となっています。

窓口取扱時間

平 日	9:00～17:00
土曜日	9:00～13:00

#### 1) 学生証・定期券・学割

##### (1) 学生証

学生証は本学学生の身分を証明するものですから、学内では左胸に着用し、又常時所持すること。

- ① 学生割引証の請求、定期券を購入する際は学生証の提示が必要です。
- ② 学生証を紛失した場合は、速やかに再発行願を提出し、再交付を受けなければなりません。(学生証の再交付手数料 1,000 円)
- ③ 学生証は 1 年生の年度初めに交付します。

##### (2) 通学定期券の購入

通学定期券の区間は現住所の最寄り駅から大学までに限られています。最寄りの定期券発行所で、大学で発行する「通学証明書」(学生証裏面シール)に所定事項を記入し、学生証を添えて申し込んでください。バスで通学する場合も同様です。

##### (3) 学生割引証の交付

- ① JR で片道区間 100km をこえて旅行する場合、個人学生割引を利用すると、大人普通旅客運賃が 2 割引となります。  
この割引証交付にあたっては学務課の窓口で「学割申込用紙」に所定事項を記入し、学生証を添えて申し込むことが必要です。  
学生割引証は、年間 10 枚まで交付されます。その有効期限は交付後 3 ヶ月以内です。学生割引証裏面の注意事項を厳守してください。窓口の発行は 1 度に 2 枚までです。交付は翌日となりますので、必ず前日までに申し込んでください。
- ② 合宿や大会にクラブで参加する場合は、学務課の窓口にあるクラブ学割交付願に所定事項を記入して申し込んでください。交付は 1 週間後です。(年間 10 枚の交付には含まれません。)
- ③ 教職員が引率する学生 15 名以上の団体が発着駅および経路を同じくし、その全行程を同一人員で旅行する場合、団体学生割引(教職員は 3 割引、学生は 5 割引)を受けることができます。団体学生割引を利用しようとする時には、JR 駅にある団体旅行申込書に記入して、学務課に提出してください。証明は翌日になります。

#### 2) 各種証明書・諸届・願出

在学期間中に数多くの届や証明書の交付申請が必要となります。また卒業後も必要となる場合があります。次ページの表を参照してください。届出、願出書類によっては印鑑が必要な場合があります。

<各種証明書の申込方法>

1. 学務課窓口カウンターにある「証明書等交付願」に必要事項を記入する。

※申込日、提出先などの記入漏れがある場合は受付いたしません。

2. 記入後、学務課窓口へ提出し必要に応じて証明書代金を支払う。

3. 交付については下記のとおりになります。

※即日発行は原則いたしませんので余裕を持って申し込むこと。

受付曜日	発行日時
月曜日～木曜日	翌日の午後2時以降
金曜日～土曜日	翌週月曜日の午後2時以降

※祝日（年末年始を含む）の前日に申し込んだ場合は休み明けの午後2時以降となる。

項目	手数料 1通につき	備考
現住所変更届		
欠席届		
改姓・改名届		新戸籍抄本添付
保証人変更届		
遺失物・拾得物届		
休学願・復学願・退学願・満期退学願		
集会願・合宿願		
施設借用願		
掲示願		
学生証（IDカード） 紛失届ならびに再発行願	2,000円	1ヵ月後交付
証明書等交付願		
学生割引の発行		翌日午後2時交付、年間10枚まで
在学証明書の発行	200円	翌日午後2時交付
〃（英文）	500円	7日後交付（注）
修了証明書の発行	200円	翌日午後2時交付
〃（英文）	500円	7日後交付（注）
成績証明書の発行	200円	翌日午後2時交付
〃（英文）	500円	7日後交付（注）
修了見込証明書の発行	200円	翌日午後2時交付
調査書の発行	500円	7日後交付（注）
推薦書の発行		7日後交付（注）
通学証明書		翌日午後2時交付
追再試験受験願	2,000円	1科目につき
事故報告書		

（注）1ヶ月以上の期間を要することがあります。詳細は申込の際に確認してください。

### 3) 住所変更

在学中に本人または保証人が住所を変更した時は現住所変更届を速やかに学務課へ提出してください。

### 4) 学費

#### ・学費の納入

2学年以上の学費、諸会費は毎年度5月31日が納入期限になります。毎年度始めに経理部経理課より納入金額の明細と、送金先を学資負担者宛に通知いたします。

## 学生生活

### 1) 健康管理・健康相談

#### (1) 学生健康管理室について

学生健康管理室では、学生の心身の健康の保持増進を図り、有意義な学生生活を送れるように支援し、健康その他相談を行っている。学生生活の中で心身の健康に関する不安があれば学生健康管理室を受診することができる。

#### 学生健康管理室 ④

電話 ( ) (女子医大代表 プッシュ回線案内)

内線 (、 学生健康管理室)

(、 看護学部学務課)

次のような場合、学生健康管理室を利用することができる。

- ・学内で急に具合が悪くなり休みたい（休養するスペースがある）。
- ・発熱・下痢などがある。
- ・何となく調子が悪い
- ・食欲がない、逆に食べ過ぎてしまうなどの食事に関すること。
- ・対人関係で困っている。
- ・身体測定をしたい。（身長、体重、体脂肪率、視力、血圧など）
- ・応急処置に必要な救急絆創膏、湿布等がほしい。

#### (2) 定期健康診断に関して

年1回定期健康診断（胸部X線、耳鼻科、眼科）を実施する。実施時期は看護学部学生の健康診断日程と同様とする。

- ①費用に関しては、大学負担で実施する。
- ②定期健康診断は、希望者に実施する。各自医療機関を受診することや、社会人である学生は勤務先での健康診断を選択することも可能とする。学外で受診した場合は胸部X線検査結果についての診断書を提出すること。
- ③定期健康診断で実施する胸部X線は、過去3ヵ月以内に実施されている場合には、医師の診断書を以て有効とする。
- ④定期健康診断以外の検診項目や予防接種などが、学業との関連において必要な場合は、各自の責任において実施すること。

#### (3) 診療と診療費補助について

##### ①東京女子医大病院で受診を希望する場合

a. 学生証、b. 健康保険証を持参し、学生健康管理室に電話連絡〔03 - 3353-8112（内線41121・41122）〕し、受診科を相談のうえ紹介状を持参して受診する。なお、保険証、学生証を忘れると補助が受けられない。学生が本学付属病院を受診した場合、補助対象項目に限り、診療費自己負担額の一部を払い戻す制度がある。補助の申請は学務課にある「受診報告（届）」に必要事項を記入し、「領収書」を添えて当月末日までに提出する。

※1ヵ月分をまとめて記入すること。

診療費差額分の支払いは、受診報告（届）に記載されている振込先に翌月末に振り込まれる。

##### ②自宅外通学者への注意

病院等での治療の際、社会保険や国民健康保険の適用を受けるためには、「遠隔地被保険者証」

を必要とする。在学証明書を学務課から発行してもらい、扶養者（父母等）に送付し、「遠隔地被保険者証」の発行を依頼する。この発行は、扶養者が社会保険に加入している場合は、扶養者の勤務先で、国民健康保険の場合は、市・区・町・村の役所か出張所の国民健康保険証取り扱い窓口で行っている。

※「遠隔地被保険者証」はいつも手元に保持していることが必要であり、旅行や合宿に参加する場合にも必ず携帯すること。

(5) 救急箱：救急用品と多少の市販薬は備えてある。

・大東キャンパス →1階保健室

・河田町キャンパス →学務課

(6) 休養スペース

・大東キャンパス →1階保健室

・河田町キャンパス →学生健康管理センター（平日 8:30～17:30）

## 2) 就職相談（キャリアサポート）

就職についての相談を受けている。就職で困っていること分からないときは、就職担当者に、自由に相談も可能であるが、まずは研究の担当教員に相談のこと。

キャリアサポートの担当に相談を希望の場合は、直接メールをして時間の調整をすること。

## 3) 学生懇話会（オフィスアワー）

学生懇話会は、教職員と学生が懇談を通じて交流をはかり、教育および学生生活を一層充実させることを目的とする。

本懇話会の形態はオフィスアワーでの面談として行われ、担当は看護学部の全教員である。面談を希望する学生は、教員のメールアドレスに連絡し、事前に予約を取ること。

（詳細は掲示等にて通知する）

## 4) 掲示による連絡

授業担当の変更、休講、追再試験、その他学生への連絡は、所定の掲示板により連絡しますので、常時注意して見るように心がけること。

一旦掲示した事項は学生に周知されたものとみなし、これを見なかったことによって生じる不利益はすべて学生自身が負うものである。また、掲示物は公のものである。勝手に修正、持ち出し等手を加えないよう注意すること。

## 5) 教室等の使用

講義室および実習室等の使用については別に定める。

## 6) ロッカー

学生用個人ロッカールームがある。使用に際しては施錠、整理整頓等に心がけること。現金等貴重品は置かないように注意すること。

## 7) 紛失物、拾得物

紛失物・拾得物は直ちに届けること。拾得物は事務室で1週間掲示し、保管する。その後、大学保安課に届ける。

## 8) 河田町キャンパス食堂・売店

食堂は、佐藤記念館1階にあり業者に委託して販売している。

営業時間 平日 AM11:00～PM2:00

売店は、病院内の施設にある。

## 9) 国立美術館キャンパスメンバーズ

本学は国立美術館キャンパスメンバーズに加入しており、国立美術館（東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館）を利用するにあたり、特典を受けることができる。

### 施設一覧

- ・東京国立近代美術館 本館：東京都千代田区北の丸公園 3-1
- 工芸館：東京都千代田区北の丸公園 1-1
- フィルムセンター：東京都中央区京橋 3-7-6
- フィルムセンター相模原分館：神奈川県相模原市中央区高根 3-1-4
- ・京都国立近代美術館：京都府京都市左京区岡崎円勝寺町
- ・国立西洋美術館：東京都台東区上野公園 7-7
- ・国立国際美術館：大阪府大阪市北区中之島 4-2-55
- ・国立新美術館：東京都港区六本木 7-22-2

### 利用方法

各施設の窓口で本人の学生証を提示すること。

学生証不携帯の場合は特典の利用はできない。また、学生証を本人以外が使用した場合は不正を行った本人の処罰は勿論、学校全体が会員資格停止処分を受けることになりかねないため、十分に注意を払うこと。

### 特典内容

- ・所蔵作品展及びフィルムセンター所蔵作品上映を無料で観覧可能。（国立新美術館を除く）
- ・特別展及び共催展を各展覧会の割引料金（団体観覧料金）で観覧可能。
- ・フィルムセンターの特別上映及び共催上映を割引料金で観覧可能。

## 10) ハラスメント防止と相談

本学では、学生の人権が尊重され、保証されるために「学部学生および大学院生に対するハラスメント防止委員会規程」を制定し、下記に説明するハラスメントを防止し、快適な学習環境を整える取り組みをしております。

### 【ハラスメントとは】

- (1) セクシャル・ハラスメント：  
相手方の意に反する性的な言動をいう。以下に例を示す。
  - ①ことばによるセクシャル・ハラスメント：
    - ・いかがわしい冗談やからかいをいう。
    - ・「女（男）のくせに～」等の「固定的な性別役割意識に基づく言葉」をいう。
    - ・性的な経験を質問したり話す。
    - ・身体的な外観、性行動、性的好みに関する不適切な言葉をいう
  - ②行動によるセクシャル・ハラスメント：
    - ・性的な内容の電話・手紙・Eメールを送る。
    - ・執拗にデートに誘う。
    - ・身体に不必要に接触する。
    - ・性的な噂を流す。
    - ・雑誌等の卑猥な写真や記事等をわざと見せたり読んだりする。
- (2) アカデミック・ハラスメント：

教員等が意図的であるか否かを問わず、教育・研究の場における優位な立場や権限を利用し、または逸脱して、指導等を受ける者の学習意欲、就学環境および研究環境を著しく害する不適切な言動および指導をいう。以下に例を示す。

- ・ 正当な理由なく研究・教育上の指導を放棄する。
- ・ 客観的に見て著しく過大なレポートなどの課題を押し付ける。
- ・ 本人の希望に反する学習・研究計画や研究テーマを十分な説明もせず、無理矢理押しつける。
- ・ 正当な理由なく、研究室や文献・図書や研究機器類を使わせないことで、研究の遂行を妨害する。
- ・ 必要もないのに、休日の研究や深夜における指導を強要する。
- ・ 指導している学生の研究成果を不当に自分の研究成果とする。
- ・ 人格を否定するような暴言をいう
- ・ 学生をおとしめるような誹謗中傷や噂を流す。

### (3) ハラスメント防止委員会相談員

ハラスメントに関する相談・苦情に対応するために、相談員を設けています。相談員に相談・苦情の申し出ができる人は、ハラスメントの直接の対象者のほか、その者から相談を受けた人、またはキャンパスにおけるハラスメントを不快に感じる人も申し出ができます。

相談員は相談者の承諾を得て学部学生および大学院生に対するハラスメント防止委員会(以下「委員会」)に報告します。

委員会は、加害者とされる者及び第三者に事実等の確認を行ったりしながら、相談・苦情等に迅速かつ公平に対処し、環境調整や指導など問題解決に当たります。その際に、**個人の秘密は必ず守ります**！

### 【ハラスメントにあった時はどうしたらいいの？】

#### 1. 相談員にすぐに連絡しましょう！

相談員は、学部や専門領域を問わず誰にでも相談できます。相談しやすい相談員にメールや電話でご連絡ください。

相談員の一覧は学生ポータルサイトに掲載します。

#### 2. 自分を責める必要はありません。キャンパスからハラスメントをなくすために、小さな勇気を積み重ねましょう！

- ・ 加害者に「NO」の意志を伝えましょう！
- ・ いやなことがあったら、すぐに周囲の人に話しましょう！
- ・ あなたの受けたハラスメントについて記録をつけましょう！

### 【ハラスメントの被害者をどう支援すればいいのか？】

もし、ハラスメントの被害にあった友人がいたら、見過ごさないで助けてあげましょう！

- ・ 不快な場面を目撃したら、すぐに注意しましょう！
- ・ 必要なら、証人になってあげましょう！
- ・ 被害者の相談にのって精神的に支えてあげましょう！
- ・ 相談窓口に行くようにすすめ、同行してあげましょう！

### 【学部学生および大学院生に対するハラスメント防止委員会規程】

(設置)

第1条 東京女子医科大学(以下「本学」という。)の学部学生および大学院生(以下これらを総称して「学生等」という。)に対するハラスメントを防止し、ハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するため、ハラスメント防止委員会(以下「委員会」という。)をおく。

(目的)

第2条 委員会は、学生等の修学・研究環境を保護するため、教育の場における、学生等の意に反し、または学生等を不快にさせる諸問題（以下「ハラスメント」といい、次条において定義する。）の発生を防止するとともに、学生等からのハラスメントに関する相談、苦情等に迅速かつ公平に対処し、学生等の修学に与える不利益および修学・研究環境の悪化を阻止するための適切な措置を講じるための意見を学長に具申することを目的とする。

2 委員会は、前項に掲げる目的を達成するため、医学部学生委員会、看護学部学生委員会（以下これらを総称して「各学部学生委員会」という。）および人事部と連携を密にするものとする。

（定義）

第3条 本規程において「ハラスメント」とは、以下の各号に掲げるセクシャル・ハラスメントおよびアカデミック・ハラスメントならびにこれらに準ずる行為をいう。

(1) セクシャル・ハラスメント 本学の内外をとわず、本学の教職員等による、学生等の意に反する学生等を不快にさせる性的な言動、または、本学の教育・研究の場における、学生等の修学・研究環境を悪化させる性的な言動をいう。

(2) アカデミック・ハラスメント 本学の教職員等による、意識的であるか無意識的であるかを問わず、教育・研究の場における優位な立場や権限を不当に利用し、または逸脱して、学生等の学習意欲または修学・研究環境を著しく害する不適切な言動または指導をいう。

（職務）

第4条 委員会は、以下の各号に掲げる事項を審議し、学長に対して、適切な措置を講じるための意見を具申する。

(1) ハラスメント防止および排除のための、教職員および学生等に対する啓発活動の企画および実施に関すること。

(2) ハラスメントに関する相談・苦情事例（以下「事例」という。）への対応および救済に関すること。

(3) ハラスメントに関する調査結果の学長への報告および措置に関する意見の具申に関すること。

(4) その他ハラスメントの防止および排除に関すること。

（構成）

第5条 委員会は、以下の各号に掲げる委員をもって構成する。

(1) 学長が指名する教員4名（医学部2名、看護学部2名）

(2) 各学部学生委員会において選出された学生委員各2名

(3) 学長が指名する医学部校医および看護学部校医各1名

(4) 学務部長

(5) 人事部長

(6) 学長が指名する学外の専門家（学識経験者など）若干名

2 委員会に委員長をおき、委員長は学長が指名する。委員長の任期は2年とし、2期を限度とする。

3 委員会に副委員長を1名おき、委員長が指名する。委員長にやむを得ない事由があるときは、副委員長がその職務を代行するものとする。また、委員長または副委員長が、相談員として深く関与した事案または利害関係を有する事案の審議を行う場合には、委員長は、当該事案について委員長代理または副委員長代理を指名し、当該事案についてその職務を代行させることができる。

4 医学部、看護学部とも委員は男女両性で構成する。委員を指名または選出するにあたっては、委員全体の構成が、できる限り、男女同数となるように配慮する。

5 第1項第1号から第5号に掲げる委員は、原則として、別に定める必要な研修を既に受けている者とする。ただし、研修を受けていない者が委員に指名または選任され、もしくは職位に就任した場合、すみやかに必要な研修を受けるものとする。

6 第1項第1、第2および第3号に掲げる委員の任期は2年とし、原則2期までの再任は妨げない。また、同項第6号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。なお、任期中に委員が欠けた場合、新たに選出または指名される委員の任期は、前任者の残任期間とする。

7 委員長は必要に応じて、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

（開催）

- 第6条 委員会は、年2回定例で開催するほか、具体的なハラスメント事例（以下「事例」という。）が生じ、対応が必要な時または次条に掲げる相談員の求めがある場合に開催する。
- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって議決する。なお、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
  - 3 委員会の審議において、利害関係を有する委員は、その議事の議決に加わることができない。（相談員）
- 第7条 ハラスメントに関する相談または苦情の受付およびその対応のため、委員会の下に相談員をおき、以下の各号に掲げるものをもって当てる。
- (1) 医学部教員15名以内および看護学部教員10名以内
  - (2) 医学部学務課、看護学部学務課および医学部大学院課の職員若干名
- 2 前項に掲げる相談員は、性別、職種のバランスを配慮の上、各学部学生委員会において選出し、委員会の承認を得る。委員会で相談員リストを作成して、学生および学内に周知する。
  - 3 相談員が相談または苦情の申出を受けた場合は、指定の相談苦情報告書をもって委員長に報告するものとする。相談員は、相談または苦情の内容から、本学としての対応措置が必要と判断した場合は、委員会の開催を求めるものとする。
  - 4 委員会は、第1項に掲げる相談員のほか、必要に応じてメンタルケアその他の専門家に相談員を委嘱するなど必要な措置を講ずることができる。
  - 5 相談員は、速やかに必要な研修を受けなければならない。
  - 6 相談員の任期は2年とし、再任を妨げない。相談員が本学の教職員の地位を失ったときは、当然に退任する。ただし、相談員が現に具体的な相談・苦情の事例を取り扱っている場合には、任期満了その他の退任事由が生じてても、相談者の希望があるときは、当該事例について相談員としての職務を継続することができる。（相談および苦情の申出）
- 第8条 次項に定めるもの（以下「相談者」という。）は、相談員リストに掲載されている相談員の中から適宜の者を選んでその者に、ハラスメントに関する相談または苦情を申し出ることができる。
- 2 相談・苦情を申し出ることができる者は、第3条に定める「ハラスメント」の直接の当事者、当事者から相談を受けた者または修学・研究環境におけるハラスメントを不快に感じる者とする。
  - 3 相談員は、相談または苦情の申出を受けた場合は、相談者の意向、職種、性別等を考慮して、他の相談員1名を指名して、原則として2名の相談員で対応する。相談員が相談者と面談する際には、相談者と同性の相談員を少なくとも1人同席させる。
  - 4 相談員は、相談または苦情の申出があったときは、速やかに相談・苦情内容を指定の相談苦情報告書に記載する。（調査）
- 第9条 委員会は、事例を認知した場合（相談員から事例について委員会を開催するよう求められた場合を含むがこれに限られない）は、自ら、または委員会の下に事例毎にハラスメント調査部会（以下「調査部会」という。）を設置して、当該事例についての調査を行う。
- 2 調査部会は、以下の各号に掲げる者をもって構成する。
    - (1) 委員会委員のうち、医学部および看護学部の委員各1名
    - (2) 医学部学務課課長または看護学部学務課課長
    - (3) 人事部人事課長
    - (4) 委員長が指名する必要な研修を受けた教職員および外部専門家若干名
    - (5) 当該事例の相談を受けた相談員がいる場合は当該相談員
  - 3 調査部会は、男女両性で構成しなければならない。
  - 4 調査部会には部会長をおく。部会長は、部会員の互選とする。ただし、当該事案が発生した学部の教職員以外から選出する。
  - 5 委員会または調査部会は、相談者および行為者から迅速かつ公平に事情を聴取し実態調査を行う。必要に応じ第三者から事情を聴取することができる。調査部会は、必要に応じて、部会員に事情聴取その他の調査をさせることができるが、調査対象者の属性、性別、事案の内容等に応じて、適切な者に行わせるよう配慮する。
  - 6 部会長は、委員会から付託された事項等の実態調査結果について、書面により委員長に報告する。

- 7 調査部会は、委員会が付託した事項等の実態調査の終了を認めたとき、任務を終了する。
- 8 委員長は、委員会の調査結果または調査部会の報告を受けて、当該事案の対応と救済および再発防止その他の必要な措置に関して委員会において協議し、最終報告を書面により学長に具申する。

(ハラスメント等の処分)

第 10 条 最終報告書を受領した学長は、当該学部長に最終報告の内容を報告し、最終報告書の内容に則して、ハラスメント行為者への勧告、再発防止措置、良好な修学・研究環境の維持のために必要なその他の措置等を行う。

- 2 学長は、最終報告書の内容に則して、就業規則の懲戒基準条項にもとづき、懲戒委員会を開催するよう理事長に具申することができる。

(プライバシーの保護)

第 11 条 委員会委員、調査部会員および相談員は、ハラスメントに関する苦情相談への対応に当たっては、相談者および関係者の名誉、人権およびプライバシーを尊重し、当事者が申し出をしたことにより不利益を被らないよう留意するとともに、知りえた秘密を生涯漏らしてはならない。その職を辞した後も、同様とする。

(公表)

第 12 条 本学におけるハラスメント防止に必要な事例であると委員会が判断した場合、当事者が特定できない範囲で、当該事案の概要を公表することがある。

(相談苦情に関わる書類等の保管)

第 13 条 相談苦情において作成された相談苦情報告書、調査報告書、委員会議事録、その他の関係書類（電磁的記録を含む）については、当該学部の学務課において厳重な管理の下に保管しなくてはならない。

(会務)

第 14 条 委員会の会務は、当該学部の学務課において処理する。

附 則

本規程は、平成 26 年 11 月 22 日から施行する。

#### 11) その他

- ・ 本学は、すべての敷地内において禁煙です。
- ・ 授業中は携帯電話等の電源を切ること。
- ・ 学生宛の私的な郵便物・ファックス等について取り扱わない。

## 奨学金制度・教育訓練給付制度

### 奨学金制度

有為な人材を育成するために必要な学資を貸与して、勉学を援助する次のような奨学金制度があります。それぞれの制度によって、出願の時期、資格、方法が異なりますので掲示板により、その都度連絡いたします。

種 類	月 額	備 考
東京都看護師等修学資金 <u>(博士前期課程のみ)</u>	第一種貸与 83,000 円	修了後 1 年以内に都内の医療機関等に就業し引き続き 5 年間看護業務に従事すると全額免除
	第二種貸与 25,000 円 (1 口)	返還免除なし 2 口まで可
日本学生支援機構 奨 学 金	第一種奨学金 (無利子) 博士前期課程 50,000 円、88,000 円から選択 博士後期課程 80,000 円、122,000 円から選択  第二種奨学金 (有利子) 50,000 円、80,000 円、 100,000 円、130,000 円 150,000 円 から選択	返還は日本学生支援機構返還規程による  ※第一学年入学生で一定の条件を満たす学生に対して、希望により入学月または機構の定める月の貸与月額に定額 10 万円、20 万円、30 万円、40 万円、50 万円の増額貸与を選択することができる

上記募集は掲示により行う。

### 厚生労働省「教育訓練給付制度」(博士前期課程のみ)

本学看護学研究科博士前期課程は、「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」である。一定の条件に該当した場合、授業料の一部が支給される。(平成 18 年度入学生から適用)

## 傷害保険・賠償責任保険

正課中や課外活動中といった教育研究活動中に、不慮の災害事故が発生し傷害を受けた場合、学外施設等で看護実習時損害を与えてしまった場合などに備え、以下の保険に加入しています。事故が発生した場合には報告および必要な手続きを迅速に行うこと。

### 1. 賠償責任保険

この保険は、正課中※1 に発生した不慮の事故により、第三者に身体障害を与えた場合、もしくは第三者の財物を損壊させた場合、法律上の賠償責任を負担することによって被る損害について、あらかじめ設定した支払限度額の範囲内で保険金として支払われる保険です。なお、大学（法人）の賠償責任が対象となり、学生や教員個人の賠償責任は対象外となります。当該保険事故が起こった場合は、必ず当該科目責任者あるいは科目担当者（担当教員）までご報告ください※2。

※1 学生については、教員の指揮監督下にあることが条件です。

※2 事故発生時に相手側（被害者）と無許可で交渉しないでください。

担当教員の連絡により、原則、看護学部学務課が保険会社に報告いたします。

### 2. 学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）

#### 【対象となる活動範囲】

医療関連実習を含む正課中、学校行事中、課外活動中（本学の認めた学内学生団体の管理下で行う活動、ただし危険なスポーツを行っている間や大学が禁じた時間・場所・行為を行っている場合を除く）の事故等が対象となります。保険金および補償される事故の範囲等の詳細については、入学年度に配布した「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」を参照してください。

#### 【事故発生の報告および保険金請求手続】

事故発生の報告や保険金請求手続は被保険者である学生本人が、直接保険会社に対して行なってください。

#### 1) 事故の報告

事故が発生した場合は看護学部学務課に報告し、「事故通知はがき」もしくは「事故通知システム(Web)」で事故発生から30日以内に保険会社（東京海上日動）へ報告を行う。

##### ① 「事故通知はがき」で報告する場合

看護学部学務課で「事故通知はがき」と「プライバシー保護シール」を受け取り、必要事項を記載の上はがきにプライバシー保護シールを貼付してポストに投函する。

##### ② 「事故通知システム (Web)」で報告する場合

以下の URL から事故報告を行う。看護学部学務課にも忘れずに報告すること。

#### 【PC・スマートフォン】

[https://f.msgs.jp/webapp/form/15429\\_lvw\\_1/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/15429_lvw_1/index.do)

#### 【携帯】

[https://f.msgs.jp/webapp/form/15429\\_lvw\\_4/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/15429_lvw_4/index.do)



PC-スマホ用サイト



携帯用サイト

#### 2) 保険金の請求手続き

以下の各種書式を看護学部学務課で受け取って記載し、証明を受けてから保険会社に送付してください。

##### ① 保険金請求書（関連書類一式）

いずれの場合も提出が必要です。保険金請求額（他の傷害保険等でも請求した場合はそれを含めた総額）が10万円を超える場合には、医師の診断書（所定の書式）の提出も必要です。

②通学中事故証明書

通学中に発生した事故の場合に提出が必要です。

③施設間移動中事故証明書

学校施設等相互間の移動中に発生した事故の場合に提出が必要です。

④接触感染事故・感染症予防措置証明

接触感染もしくは事故発生後の対応として予防措置を行った場合提出が必要です。

3) 書類送付先

東京海上日動火災保険（株）

本店損害サービス第二部 傷害保険損害サービス第三課

（学校保険コーナー）

〒105-8760 東京都港区西新橋 3-9-4

虎ノ門東京海上日動ビルディング TEL - -

4) その他

保険会社から事故内容等を照会されることがある。審査終了、保険金が保険金受取口座に振り込まれる。

なお、保険会社の審査によっては、保険金の支払対象にならない場合があります。

3. 学研災付帯賠償責任保険 Cコース：医学生教育研究賠償責任保険（略称：医学賠）

【対象となる活動範囲】

国内外において学生が正課、学校行事、課外活動※1 及びその往復において、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したこと等により、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について補償するものです。

【事故発生の報告および保険金請求手続】

事故発生の報告や保険金請求手続は被保険者である学生本人が、直接保険会社に対して行なってください。

1) 事故の報告

学生本人が、直接保険会社に電話で連絡してください。

報告内容：学生（被保険者）の氏名と年齢、在籍する大学名、事故発生日時・場所、被害者の氏名と年齢、事故の原因、被害（傷害、損壊等）の程度保険会社に報告後に、大学に報告してください。

2) 示談交渉について

引受保険会社が被害者との示談交渉を行う「示談交渉サービス」はありません。

この保険が適用されると考えられる事故が発生した場合には、東京海上日動の損害サービス課に十分に相談の上、学生（被保険者）（未成年の場合は親権者）自身が被害者との示談交渉を進めることになります。なお、引受保険会社の承認を得ないで賠償責任を承認し又は賠償金額を決定した場合には、賠償金額の全部または一部が保険金として支払われない場合がありますので、ご注意ください。

3) 保険金の請求手続き

以下の書式を看護学部学務課で受け取って記載し、証明を受けその他必要書類を添付して保険会社に送付してください。

①保険金請求書

いずれの場合も提出が必要です。

②附帯賠償往復事故証明書

住居と活動場所となる施設間の移動中の事故の場合提出が必要です。

③その他

破損状況の写真、見積書、示談書、確認書など

4) 事故の報告・書類送付先

東京海上日動火災保険（株）

本店損害サービス第二部 傷害保険損害サービス第三課

（学校保険コーナー）

〒105-8760 東京都港区西新橋 3-9-4

虎ノ門東京海上日動ビルディング TEL - -

## 海外研修参加時の安全確保について

本学で実施する海外研修プログラムに参加する者は、以下を遵守することとする。  
また個人で海外渡航する場合にも、以下を参考に各自で安全確保に努めることとする。

1. 海外渡航について事前に家族または保護者の了解をとること。
2. 渡航先の法令等を守り、渡航先での自らの安全に努めること。
3. 渡航前に外務省海外安全ホームページを参照すること。<http://www.pubanzen.mofa.go.jp>
4. 渡航前に「たびレジ」 (<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>) に 必ず登録すること。  
(大使館、総領事館からの一斉緊急情報の入手、緊急事態の際の迅速な安否確認などのメリットがあります。)  
\*メールアドレス 3 件まで登録可能。内 1 件は大学 (国際交流緊急連絡用 アドレス) <@t>を登録してください。
5. 出発前に必ず添付誓約書 (別紙) を提出すること。
6. 日本国際教育支援協会の学研災 (学生教育研究災害傷害保険)「付帯海学 (海外留学保険)」に必ず加入すること。
7. 事件、事故が発生した場合、すぐに関係者と連絡が取れるよう、下記連絡先を自身で控えておくこと。
  - (1) 留学中に困ったこと (パスポートの紛失、貴重品の盗難、病気、ケガなど) があったら、  
まず右記に連絡すること : 東京海上日動海外総合サポートデスク  
**Tel.(+81)3-6758-2460** (日本語対応、コレクトコール可)。  
\* 予め「発信地の国際電話識別番号」を確認しておいてください。
  - (2) 留学先機関の受け入れ担当者の連絡先 (可能であれば携帯電話も)
  - (3) 宿泊先の住所及び電話番号
  - (4) 現地在外公館連絡先

平成 年 月 日

東京女子医科大学  
学長 殿

研修先 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ ㊞

保護者名 \_\_\_\_\_ ㊞

### 誓 約 書

私共（上記氏名欄記載の者）は、今般、上記学生氏名記載の者（以下「研修生」といいます。）が、東京女子医科大学看護学部海外研修プログラム（以下「本プログラム」といいます。）に参加するにあたり、以下の項目に同意し、誓約いたします。

（同意する事項にチェックを入れてください。全てにチェックがないと参加できません。）

1. 研修生は、海外研修に関わる全てについて、本プログラム参加者としての自覚と責任を持って行動するものとし、研修先の国の法令や施設の規則を遵守し、研修期間全般にわたる行動等に関し、東京女子医科大学にはいささかも迷惑をおかけしないことを誓約いたします。

学生欄       保護者欄

2. 研修生は、研修先でのプログラムや滞在に関しては、研修先担当者の指示に従います。

学生欄       保護者欄

3. 研修生は、自己の責任と負担において、適切な保険に加入するなどし、研修先で、研修生自身が事故等に遭遇した場合でも、東京女子医科大学や研修先の施設に対して、損害賠償請求その他クレーム申立等を行なうことはいたしません。保護者その他の救援者にかかる費用も同様とします。

学生欄       保護者欄

4. 研修生は、渡航先の情勢、研修先の素行、体調その他合理的な理由に基づき、海外研修の継続が困難と本プログラム責任者が判断した場合には、本プログラム責任者の指示に従い、速やかに自費で帰国することを誓約いたします。また、その場合に、キャンセル料その他の追加費用が発生した場合は、全て研修生が負担して支払うことを誓約いたします。

学生欄       保護者欄

5. 研修生は、研修開始前に、渡航先の情勢、研修生の体調など、東京女子医科大学の責めに帰すべからざる事情により、海外研修の参加が困難と本プログラム責任者が判断した場合には、研修は中止となることを了承し、それに伴う渡航費・宿泊費等のキャンセル料は研修生本人が支払うことを誓約いたします。

学生欄       保護者欄

以 上

## 図書館利用案内

図書館は、教育・研究に必要な資料を収集・管理しています。以下の規則を守り、利用してください。どのキャンパスも利用できます。

### (1) 開館時間

- 各館の開館時間は以下の通りです。開館時間は変更になる場合があります。

	平日	土曜日	日曜日
本館（医学部）	9:00～22:00	9:00～17:00	休館日
東医療センター図書室	9:40～18:00	10:00～14:00 (第3土曜日休室)	
八千代医療センター図書室	病院実習期間中、八千代医療センターICカードを配布された期間のみ利用可能		
大東分室（看護学部）	9:00～19:00	9:00～13:00 (第3土曜日休室)	
河田町分室（看護学部）	9:00～19:00	9:00～13:00 (第3土曜日休室) (第2土曜日のみ 13:00～17:00)	
看護専門学校図書室	10:00～18:00	9:00～13:00 (第1土曜日のみ開室)	

### (2) 休館日

- 日曜日、国民祝日、本学創立記念日、年末年始、蔵書点検期間

### (3) 利用資格

- 本学の学生・教職員、至誠会会員、看護系同窓会会員および図書館長の許可した者に限ります。

### (4) 入館

- 入館に際しては「学生証」が必要です。

### (5) 館内閲覧

- 係員の指示に従ってください。
- 閲覧を終えたときは直ちに図書を返却し、規程の手続を経ずにこれを館外へ持ち出してはいけません。
- 図書館においては静粛を旨とし音読、談話、飲食をしてはいけません。
- 著作権法による一定の制限のもとに複写サービス（モノクロ・カラー）が利用できます。

### (6) 館外貸出

- 図書、雑誌を借りる時は、学生証を必ずお持ちください。カウンターで手続きします。
- 貸出の冊数、期間は以下の通りです。

	貸出期間	更新	冊数
図 書	7日間	1回	5冊
雑 誌	7日間	不可	5冊
参考図書	オーバーナイト	不可	2冊

- 貸出期間の更新（図書のみ）については、借りた日の翌日から返却期限日までのいつでも可能です。返却期限日は延長手続きした日から1週間になります。

手続は図書館カウンター、または MyLibrary（次頁に「サービス紹介」を掲載）の中で手続きができます。カウンターで延長する際は学生証をお持ちください。なお、更新ができるのは1回だけです。借りている図書に予約がある場合、更新はできません。

- 貸出中の図書、雑誌はカウンター・MyLibrary で予約できます。本館においては、予約した新着雑誌は新着展示終了後、新着図書は第3月曜日からの貸出となります。
- Rラベルのついた辞書や事典（参考図書）は閉館1時間前より翌日の開館1時間後まで貸出ができます。（オーバーナイト）

(7) 館内設備の利用

- ・ 大東分室内には、セミナールーム、会議室があります。視聴覚資料の視聴やグループ学習に利用できます。1回の利用は3時間以内です。
- ・ 視聴覚室

	平日	土曜日
本館	9:00～19:00	9:00～16:00

- ・ セミナールーム・会議室

	平日	土曜日
大東分室	9:00～19:00	9:00～13:00

(8) MyLibrary の利用

- ・ 図書館で登録手続きが必要です。  
「MyLibrary 登録希望・氏名・学籍番号」を明記の上、libhelp.bi@twmu.ac.jp 宛にメールを送ってください。または、図書館カウンターでも申込ができます。
- ・ 利用終了後は、画面右上にある「ログアウト」ボタンをクリックし、ログアウトを行ってください。

(9) 延滞料

- ・ 貸出期間を過ぎた場合は、図書・雑誌は1日につき1冊20円、視聴覚資料は1日につき1本100円の延滞料を徴収します。
- ※ 図書館の詳しい利用案内・お知らせ等は、図書館ホームページをご覧ください。
- ・ <http://> (学内専用)
  - ・ <http://> (学外向け)

(10) 情報実習室

1. 開室時間等

	場所	平日	土曜日	担当
大東キャンパス	図書館内	9:00～18:50	9:00～12:50	学務課
河田町キャンパス	第3校舎2階	9:00～20:00	9:00～13:00	学務課

2. 大東キャンパスでは、必ず利用記録簿に学籍番号を記入してから入室してください。
3. 基本ソフト (Windows) やアプリケーションソフトの設定は変えないでください。装備してあるソフトのコピーは出来ません。また、自作のデータはコンピュータ上に残さず自分の、USB メモリー等に保存してください。
4. プリンタはモノクロ印刷のみ対応、カラー印刷はできません。無駄なプリントをしないよう心がけてください。
5. ソフトの使い方や、機器のトラブル等、解らないことがあれば担当者に連絡してください。
6. 室内で飲食・喫煙はしないでください。

## MyLibraryのサービス紹介

- ・図書館からのお知らせ
- ・新着アラートサービス
- ・サブジェクトゲートウェイ:  
データベースや電子ジャーナルのリンク。  
お気に入りを選択しリンク集をつくる  
ことができます。
- ・ブックマーク: お気に入りの図書・雑誌を  
カテゴリ別に登録できます。
- ・タグの設定: 資料に任意のキーワード(=タグ)  
を付与し、そのタグで簡単に検索できます。
- ・横断検索: 各種データベースやOPACの  
横断検索ができます(学内専用)。



### 文献複写/現物貸借

1論文1申込に(誌名)は別々に入力してください。著作権に関する一切の責任は申込者が負います。

同一エリア内の資料の申込みはできません(本館⇄河田町分室、東七図書室⇄河田町分室)。教職員のみ本館⇄河田町分室の複写依頼を受け付けます。(2012年4月2日より)

送付方法	学内他キャンパス	学外への複写依頼(複写料)
郵送	定期便	普通便(約1週間) 複写料
速達	保存庫資料はFTP対応	速達便(3~5日) 複写料
FAX(モノクロ)	—	当日もしくは翌日 複写料

\*FAXは至急時のみ選択して下さい。FAX不可の場合は「速達」に切り替えます。

受取館の希望は通信欄にご記入ください。

氏名  東京女子医科大学 所属

各分室、他大学への  
コピー依頼/貸借の  
お申込みができます。

- ・貸出期間延長(図書のみ)、予約
- ・貸出/予約状況の確認
- ・教室貸出図書購入申込みと状況照会  
(教室図書係のみ利用可)
- ・図書館備付希望図書のリクエスト
- ・文献複写/貸借申込みと状況照会
- ・パスワード/登録メールアドレスの変更  
※教職員の方はJOINT内で、医学部学生は  
学生ポータル内でご変更下さい。

### 貸出・予約状況照会

氏名  所属

貸出状況 | 予約状況 | 貸出・予約履歴

★ 資料は早くの方が利用します。期限日までの返却をお願いします。  
★ 貸出期間を延長される場合は、「延長」ボタンをクリックして下さい。  
延長期間は手続きした日から1週間です。  
延長できるのは図書のみ、仮借限りです。(雑誌・AV資料は延長できません)  
延長している図書や予約が入っている図書は、延長手続きできません。

No.	登録番号	貸出日	継続回数	返却期限日	予約有無	延長日数	資料名	配架場所
1	3100383128	2016.02.09	0回	2016.02.16	0人		消毒・滅菌と無菌操作 / 藤澤由美子, 中村 聡彦著; 医学映像教育センター制作著作	看護大東・青野氏

Showing 1 to 1 of 1 entries

貸出/予約中の資料  
の確認、延長が  
できます。

どうぞご利用ください!

▶ URL : <https://>

# 東京女子医科大学大学院学則

昭和 33 年 3 月 1 日制定

平成 28 年 10 月 1 日改正

## 第 1 章 総則

### (目的)

第 1 条 本大学院は、医学および看護学に関する学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与するとともに社会に貢献すべき有為の人材を養成する。

なお、本大学院における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、別に定める。

### (自己点検・評価)

第 2 条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果にもとづいて教育研究活動等の改善および充実に努める。

2 前項の点検および評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等は、別に定める。

### (大学院組織)

第 3 条 本大学院に医学研究科博士課程および看護学研究科博士前期課程・博士後期課程をおく。

医学研究科博士課程は、独創的研究によって、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、専攻分野に関し研究を指導する能力を養うものとする。この場合において、内科系専攻および外科系専攻においては、新しい医療技術の開発および高度な専門技術の修得を含むものとする。看護学研究科博士前期課程は、専攻分野に関し知見を深めるとともに高度な専門性を有する看護の実践能力や研究者の基礎能力を養うものとする。看護学研究科博士後期課程は、複雑多岐にわたる看護の事象を理論的に深く探求し、研究的思考を磨き、自立して創造的に研究を実施できる能力を育成するものとする。

2 医学研究科博士課程および看護学研究科博士前期課程・博士後期課程に次の専攻をおく。

#### (1) 医学研究科博士課程

形態学系専攻

機能学系専攻

社会医学系専攻

内科系専攻

外科系専攻

先端生命医科学系専攻

共同先端生命医科学専攻

#### (2) 看護学研究科博士前期課程

看護学専攻

(3) 看護学研究科博士後期課程

看護学専攻

3 医学研究科共同先端生命医科学専攻については連絡協議会により管理・運営を行う。なお、連絡協議会に関する事項は別に定める。

(修業年限)

第4条 医学研究科博士課程の標準修業年限は4年とする。ただし、共同先端生命医科学専攻は3年とする。

2 看護学研究科博士前期課程の標準修業年限は2年とし、看護学研究科博士後期課程は3年とする。

3 前2項に規定する修業年限は特例として、短縮されることがある。修業年限の特例に関する事項は別に定める。

(学生定員)

第5条 第3条に定める医学研究科と看護学研究科の学生定員は次のとおりとする。

(1) 医学研究科

形態学系専攻

入学定員 5名 総定員 20名

機能学系専攻

入学定員 4名 総定員 16名

社会医学系専攻

入学定員 4名 総定員 16名

内科系専攻

入学定員 8名 総定員 32名

外科系専攻

入学定員 10名 総定員 40名

先端生命医科学系専攻

入学定員 8名 総定員 32名

共同先端生命医科学専攻

入学定員 5名 総定員 15名

計入学定員44名 総定員171名

(2) 看護学研究科

看護学専攻博士前期課程

入学定員16名 総定員32名

看護学専攻博士後期課程

入学定員10名 総定員30名

第2章 学年・学期および休業日

(学年および学期)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。

2 学年は次の学期に分ける。

前期 4月1日から9月末日まで  
後期 10月1日から翌年3月末日まで  
(休業日)

第7条 定期休業日を次のとおりとする。

- (1) 土曜日、日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (3) 本学創立記念日12月5日

2 前項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることがある。

### 第3章 分野、学科目、単位数および時間数

(分野、学科目、単位数および時間数)

第8条 医学研究科博士課程および看護学研究科博士前期課程・博士後期課程の各専攻に以下の基幹分野をおく。

(1) 医学研究科博士課程

内科系および外科系専攻には、基幹分野に所属する関連分野をおくことができる。その設置については別に定める。なお、先端生命医科学系専攻および共同先端生命医科学専攻に所属する分野は関連分野相当とする

形態学系専攻

解剖学分野

解剖学・発生生物学分野

病理学(第一)分野

病理学(第二)分野

微生物学免疫学分野

機能学系専攻

生理学(第一)分野

生理学(第二)分野

生化学分野

薬理学分野

社会医学系専攻

衛生学公衆衛生(第一)分野

衛生学公衆衛生(第二)分野

法医学分野

国際環境・熱帯医学分野

医学教育学分野

内科系専攻

内科学(第一)分野

内科学(第二)分野

内科学(第三)分野

内科学(第四)分野

循環器内科学分野  
消化器内科学分野  
神経内科学分野  
血液内科学分野  
精神医学分野  
小児科学分野  
皮膚科学分野  
放射線腫瘍学分野  
画像診断学・核医学分野  
加齢・老年医学分野  
外科系専攻  
外科学(第一)分野  
外科学(第二)分野  
心臓血管外科学分野  
消化器外科学分野  
脳神経外科学分野  
整形外科学分野  
形成外科学分野  
眼科学分野  
耳鼻咽喉科学分野  
産婦人科学分野  
麻酔科学分野  
泌尿器科学分野  
歯科口腔外科学分野  
救急医学分野  
先端生命医科学系専攻  
先端工学外科学分野  
遺伝子医学分野  
代用臓器学分野  
再生医工学分野  
総合医科学分野  
疾患モデル研究分野  
共同先端生命医科学専攻  
共同先端生命医科学分野

(2) 看護学研究科博士前期課程

看護学専攻  
看護基礎科学分野(食看護学・基礎看護学)  
看護管理学分野(看護管理学)  
看護職生涯発達学分野(看護職生涯発達学)  
実践看護学分野 I(クリティカルケア看護学・がん看護学)

実践看護学分野 II(ウーマンズヘルス)  
実践看護学分野 III(老年看護学)  
実践看護学分野 IV(精神看護学)  
実践看護学分野 V(地域看護学)  
実践看護学分野 VI(小児看護学)

(3) 看護学研究科博士後期課程

看護学専攻  
看護基礎科学分野  
食看護学  
看護管理学  
看護職生涯発達学  
実践看護学分野  
クリティカルケア看護学・がん看護学  
ウーマンズヘルス  
老年看護学  
解釈的精神看護学  
地域看護学  
小児看護学

- 2 学生は前項の分野の中から主分野を選択するものとする。
- 3 単位数、時間数は別に定める「履修方法に関する内規」による。
- 4 看護学研究科博士前期課程看護学専攻実践看護学分野 II(ウーマンズヘルス)に関する事項は別に定める。

第4章 学科目の履修方法および単位習得の認定

(履修方法)

第9条 学科目の履修方法は次のとおりとする。

(1) 医学研究科博士課程の履修方法

- 1) 学生は30単位以上を修得し、かつ、独創的研究にもとづき学位論文を作成しなければならない
- 2) 学科目の履修については、主分野の担当教授の指導および承認を得なければならない。  
各分野の担当教授は、その分野の教育研究の指導教授で、原則として医学部の当該分野に相当する教授・講座主任が兼務する。なお、関連分野および先端生命医科学系専攻を担当する教員を大学院教授、大学院准教授および大学院講師と称する
- 3) 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議にもとづき他の大学院で10単位を限度として授業科目を履修させ、これを修得単位に加えることができる
- 4) 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、学生は他の大学院、研究所等において必要な研究指導を受けることができる。この場合主分野教授・講座主任(関連分野にあつては所属する基幹分野の教授・講座主任、先端生命医科学系専攻に所属する分野にあつては研

究科委員となる大学院教授)は、あらかじめ他の大学院等当該機関との間に研究指導の範囲、期間、その他実施上必要とされる具体的な措置について協議するものとする

- 5) その他履修方法の細目は別に定める履修方法に関する内規による
- (2) 看護学研究科博士前期課程の履修方法
  - 1) 学生は、30 単位以上を修得しなければならない
  - 2) 学生は修士論文コースおよび実践看護コースのいずれかを選択するものとする。なお、修士論文コースおよび実践看護コースの定義等については別に定める修士論文コースおよび実践看護コースの定義等に関する内規による
  - 3) 修士論文コースの学生は学術的研究にもとづく学位論文を作成しなければならない。実践看護コースの学生は、実践にもとづく専門領域を追及する論文を作成しなければならない。
  - 4) 学科目の履修については、担当教授の指導および承認を得なければならない。各分野の教授は、その分野の教育研究の指導教授である
  - 5) その他履修方法の細目は別に定める履修方法に関する内規による
- (3) 看護学研究科博士後期課程の履修方法
  - 1) 学生は、6 単位以上を修得しなければならない
  - 2) 学生は学術的研究にもとづく学位論文を作成しなければならない
  - 3) 学科目の履修については、担当教授の指導および承認を得なければならない。各分野の教授は、その分野の教育研究の指導教授である
  - 4) その他履修方法の細目は別に定める履修方法に関する内規による

(単位修得の認定)

第 10 条 各学科目の単位修得の認定は試験または研究報告等により、当該学科目担当教授が学期末または学年末に行う。

- 2 各学科目の成績は、100 点を満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とし、合格、不合格の 2 種とする。ただし、特段の事情がある場合に限り不合格の学科目を次の試験に受験させることがある。

#### 第 5 章 修了の要件、学位および審査機関

第 11 条 本大学院医学研究科博士課程(修了の要件)および看護学研究科博士前期課程・博士後期課程の修了要件は次のとおりとする。

- (1) 修業年限で定められた年数以上在学すること。
- (2) 所要学科目を履修し医学研究科博士課程は 30 単位以上、看護学研究科博士前期課程は 30 単位以上、博士後期課程は 6 単位以上修得すること。
- (3) 学位論文の審査に合格することとする。

(課程博士および課程博士前期・課程博士後期)

第12条 本大学院医学研究科および看護学研究科に所定の期間在学して、所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した者には博士(医学)、博士(生命医科学)および修士(看護学)・博士(看護学)の学位を授与する。

(論文博士)

第13条 大学院医学研究科の博士課程を終え学位を授与される者と同等以上の内容を有する学位論文を提出してその審査に合格し、かつ専攻学術に関し、同様に広い学識を有することを、試験により確認(学力確認)された者には博士(医学)の学位を授与する。

(学位審査機関)

第14条 学位論文の審査は医学研究科委員会および看護学研究科委員会において各々行う。

2 学位論文の審査および試験の方法、その他学位に関する必要な事項は別に定める学位規程および学位論文審査内規による。

## 第6章 入学、休学、主分野の変更および復学、退学、再入学

(入学の時期)

第15条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学の資格)

第16条 本大学院医学研究科および看護学研究科に入学を志願することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 医学研究科博士課程

- 1) 大学医学部または医科大学を卒業した者
- 2) 本大学院において、これと同等以上の学力があると認められた者

(2) 看護学研究科博士前期課程

- 1) 大学を卒業した者
- 2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- 3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- 4) 文部科学大臣の指定した者
- 5) 本学大学院が個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

(3) 看護学研究科博士後期課程

- 1) 修士の学位を有する者
- 2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- 3) 本大学院において、これと同等以上の学力があると認められた者

(入学志願の手続き)

第17条 本大学院に入学を志願する者は、入学願書に所定の書類および検定料を添えて願い出なければならない。

(入学の審査)

第18条 入学の審査は、前条の入学志願者につき、人物、学力および身体について行うものとする。試験の期日および試験方法については別に定める。

(入学の決定)

第19条 入学の決定は、医学研究科委員会および看護学研究科委員会にて各々行う。

(入学の手続きおよび許可)

第20条 入学を許可された者は、定められた期日以内に入学の手続きを終了し、同時に入学料を納付しなければならない。この手続きを怠る者は、入学の許可を取り消すことがある。

(学籍票)

第21条 入学を許可された者は、所定の期日までに所定の学籍票を学長に提出しなければならない。

(休学)

第22条 学生が病気その他の理由により3ヶ月以上休学しようとするときは、医師の診断書または詳細な理由書を添え、保証人連署で、学長に願い出許可を受けなければならない。

2 学長は特に必要と認めた者には休学を命ずることがある。

(休学期間)

第23条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事情があるときは更に1年以内の休学を許可することがある。休学期間は通算2年を超えることができない。

2 休学期間は在学年数に算入しない。

(主分野の変更)

第24条 主分野の変更は原則として認めない。ただし、特別の事情あるものに限り医学研究科委員会または看護学研究科委員会の議を経て許可することがある。

2 主分野を変更した後の修業年限は、医学研究科委員会または看護学研究科委員会の議を経て前履修学科目の内容により決定する。前項により修業年限を変更された者の在学年限は、第4条による標準修業年限の2倍を超えることができない。

(復学)

第25条 休学者が復学しようとするときは保証人連署で、復学を願い出なければならない。

(退学)

第26条 学生が病気その他の事情で退学しようとするときは、保証人連署で学長に願い出、その許可を受けなければならない。

(除籍)

第27条 学長は次の各号のいずれかに該当する者には、医学研究科委員会または看護学研究科委員会の議を経て、退学を命ずることがある。

(1) 在学年限が第4条による標準修業年限の2倍を超える者

(2) 病気その他の事情で成業の見込みがないと認めた者

(再入学)

第28条 前条第1号以外の理由により除籍されたのちその理由が消滅して、再入学を願い出た者は、選考のうえこれを許可することがある。再入学者は前在学中に所属した主分野に所属するものとする。

2 再入学を許可されたものの在学年数は、第4条による標準修業年限の2倍を超えることはできない。

3 再入学者の前在学中における取得単位は、医学研究科委員会または看護学研究科委員会の認定により第9条に規定する単位に加えることができる。

## 第7章 学費

### (学費)

第29条 入学検定料、入学料、授業料その他納入すべき学費に関する事項は、別表にこれを定める。

### (学費の減免)

第30条 特別な事由により学費を支払うことができない学生に対し、学費の減免を行うことがある。

2 学長は申請があった場合、第43条に規定する各大学院委員会に諮問する。同委員会は別に定める内規にもとづき、適否を判定し、学長に答申する。学長は該当者について理事長の了解を得て、これを許可する。

3 減免および期間については別に定める。

## 第8章 委託生、聴講生、特別聴講学生、および外国人学生

### (委託生)

第31条 国または公共団体から、一定の在学期間と履修学科目を定めて、入学を願い出た者に対して、選考の上委託生として入学を許可することがある。

### (委託生の入学資格)

第32条 委託生の入学資格は第16条を準用する。

### (委託生の合格証明書)

第33条 委託生はその履修した学科目について試験を受けることができる。この場合において、試験に合格した者には、願い出によってその学科目の合格証明書を与える。

### (聴講生)

第34条 医学研究科または看護学研究科において1学科目または数学科目の聴講を希望する者がある場合は、選考の上聴講生として聴講を許可することがある。聴講を希望する者の出願手続きは、別に定めるところによる。

### (特別聴講学生)

第35条 他の大学院との協議にもとづき特別聴講学生として学科目を10単位を限度として履修させることができる。特別聴講学生は履修した学科目につき試験を受け、合格した場合は単位取得証明書が与えられる。

2 他の大学院との協議にもとづき当該大学院学生の研究指導を行うことができる。

(外国人学生)

第36条 第16条の各号のいずれかに該当する資格があり、かつ外国公館の証明する外国人は、選考の上外国人学生として入学を許可する。

(大学院科目等履修生)

第37条 看護学研究科博士前期課程の所定授業科目のうち、一部の科目について履修することを願った者に対して、本学における教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、大学院科目等履修生として登録を許可することがある。大学院科目等履修生については別に定める。

第38条 委託生、聴講生、特別聴講学生、および外国人学生に関しては、本学則を準用する。

## 第9章 教員組織

(教員組織)

第39条 大学院の授業および研究指導を担当する教員は、本学の教授、准教授、講師および助教をもって当てる。

## 第10章 運営組織

(委員会)

第40条 本大学院の管理運営のため医学研究科委員会、看護学研究科委員会、医学研究科大学院委員会および看護学研究科大学院委員会をおく。

(医学研究科委員会および看護学研究科委員会)

第41条 医学研究科委員会および看護学研究科委員会の委員長は、学長をもって当てる。

2 医学研究科委員会においては、分野の担当教授・講座主任、先端生命医科学系専攻の大学院教授および基幹分野に所属する関連分野の大学院教授をもって組織する。なお、同専攻の兼担大学院教授および基幹分野に所属する関連分野の大学院教授が主査として学位を申請する場合には原則として審査に加わる。

3 看護学研究科委員会においては、担当教授の代表1名をもって組織する。

4 委員長が必要と認めた場合は、その他の教授または准教授の出席を求めることができる。

5 医学研究科委員会は、委員総数の過半数の出席がなければ開くことができない。この場合において、出張中の委員および休職中の委員は、委員総数に算入しない。

6 看護学研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

7 医学研究科委員会および看護学研究科委員会は、出席委員の3分の2以上をもって議決する。

(医学研究科委員会および看護学研究科委員会の役割)

第42条 研究科委員会は次の事項を審議する。

(1) 研究および教育に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 課程、専攻、分野および学科目に関する事項

(4) 学生の入学、休学、主分野の変更、復学、退学および再入学ならびに賞罰に関する重要事項

(医学研究科大学院委員会および看護学研究科大学院委員会)

第43条 医学研究科大学院委員会および看護学研究科大学院委員会の組織、運営等に関する事項は別に定める。

(大学協議会)

第44条 医学研究科および看護学研究科に共通する重要な事項を協議するため、大学協議会をおく。

2 大学協議会の組織、運営に関する事項は別に定める。

(大学院生に関する規定)

第45条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、大学院生生活で得られる個人情報は大学院の到達目標を達成する目的のみに利用し、適切に管理するとともにこれを生涯守秘することを義務とする。なお、指示に応じてその都度、所定の誓約書に署名するものとする。

2 本学則に定めるもののほか大学院学生に関して必要な事項は、大学学則の規程を準用する。

附 則(平成28年10月1日学則第1610号の2)

本学則は、平成29年4月1日から施行する。

別表(学則第29条)

1. 入学検定料

- 1) 医学研究科 : 30,000円
- 2) 看護学研究科 : 30,000円

2. 学費

1-1) 医学研究科(4年課程)

種別	入学時	2学年以降の納入金
入学金	310,000円	
授業料(年額)	350,000円	350,000円
実習費(年額)	500,000円	500,000円
合計	1,160,000円	850,000円

- 1) 本学卒業者の入学金は100,000円とする。
- 2) 授業料等の納入金は、休学中等の場合も原則として減免しない。

1-2) 医学研究科(3年課程、共同先端生命医科学専攻)

種別	入学時	2学年以降の納入金
入学金	310,000円	
授業料(年額)	350,000円	350,000円
実習費(年額)	500,000円	500,000円
合計	1,160,000円	850,000円

- 1) 本学卒業者の入学金は100,000円とする。

2) 授業料等の納入金は、休学中等の場合も原則として減免しない。

2) 看護学研究科

種別	入学時	2 学年以降の納入金
入学金	300,000 円	
授業料(年額)	900,000 円	900,000 円
教育運営費(年額)	300,000 円	300,000 円
合計	1,500,000 円	1,200,000 円

1) 本学部(本学短期大学・看護専門学校は除く)卒業者の入学金は 200,000 円とする。

2) 本学看護学研究科博士前期課程(修士課程)修了者が博士後期課程に入学する場合は入学金を免除する。

3. 学費の減免等

特別の場合、理事長、学長、財務担当理事、当該学部長、当該大学院委員会委員の協議の上、外国人留学生の学費の減免等を行うことができる。

# 学位規程

平成 25 年 2 月 1 日改訂

(目的)

第 1 条 この規程は、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号、以下「省令」という）第 13 条の規程に基づき本学において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第 2 条 本学において授与する学位は学士、修士、及び博士とする。

学士（医学）

学士（看護学）

修士（看護学）

博士（医学）

博士（生命医科学）

博士（看護学）

(学位授与の要件)

第 3 条 学士の学位は、本大学学則の定めるところにより、当該課程を修了した者に授与する。

2. 修士の学位は、本学大学院学則第 11 条の定めるところにより、博士前期課程を修了した者に授与する。

3. 博士の学位は、本学大学院学則第 11 条の定めるところにより、医学研究科博士課程および看護学研究科博士後期課程を修了した者に授与する。医学研究科博士課程および看護学研究科博士後期課程の修了には、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

4. 博士の学位は前項に規程するもののほか、本学大学院学則第 13 条の定めるところにより、本学に学位論文を提出してその審査及び試験に合格し、本学大学院の医学研究科博士課程および看護学研究科博士後期課程の修了者と同等以上の学力があると認められた者に授与することができる。

(学位論文の提出時期)

第 4 条 前条第 3 項の学位論文の提出期間は、大学院課程の所定期間修了後 2 ヶ年以内とする。

(学位論文の審査及び試験の方法)

第 5 条 第 3 条第 2 項の看護学研究科博士前期課程の所定の単位修得者より提出された、修士論文コースの修士論文、実践看護コースの課題研究論文の、審査及び試験の方法は、別に定める「学位論文審査内規」による。

第 6 条 第 3 条第 3 項の医学研究科博士課程および看護学研究科博士後期課程の所定単位修得者により提出された学位論文、並びに第 3 条第 4 項による学位論文の提出者の資格及び提出された学位論文の、審査及び試験の方法は、別に定める「学位論文審査内規」による。

2. 学位論文の審査は、当該論文を受理してから、原則として 1 年以内に終了させるものとする。

(学位の授与)

第 7 条 医学研究科委員会は博士の学位の授与の可否について、看護学研究科委員会は修士及び

博士の学位の授与の可否について議決をする。

2. 前項の医学研究科委員会は委員総数の2分の1以上の出席がなければ開くことができない。医学研究科委員会においては海外旅行中の委員及び休職中の委員は、委員総数には算入しない。
3. 第1項の看護学研究科委員会は委員総数の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
4. 第1項の議決は出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

(学位記の交付)

第8条 学長は、医学研究科委員会の議決により、博士の学位の授与、看護学研究科委員会の議決により修士及び博士の学位の授与を決定し、学位を授与するものとする。

2. 不合格者についてはその旨通知する。

(論文要旨の公表)

第9条 本学は、博士の学位を授与したときは当該博士の学位を授与した日から3ヶ月以内に、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

(学位論文の公表)

第10条 博士の学位の授与を受けた者は、博士の学位の授与を受けた日から1年以内に、その論文を印刷公表するものとする。但し、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表した時はこの限りではない。

(学位の名称の使用)

第11条 学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは学士(医学、看護学)、修士(看護学)、博士(医学、生命医科学、看護学)のそれぞれに「東京女子医科大学」と附記するものとする。

2. 学位記の様式は、別表のとおりとする。

(学位授与の取消)

第12条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は当該研究科委員会の議を経て、学位の授与を取り消すことができる。

2. 前項の議決については、第7条の議決方法を準用する。

(学位記の再交付)

第13条 学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を具し、学長に願い出なければならない。

2. 再交付料は5千円とする。

(学位授与の報告)

第14条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、省令第12条の定めるところにより文部科学大臣に報告するものとする。

(細則)

第15条 この規程で定めるもののほか、必要な内規は各研究科委員会が学長の承認を経て定めることができる。

附 則 この規程は平成25年2月1日から施行する。

## 倫理委員会規程

昭和62年 1月28日制定  
平成26年 3月18日改訂

### (目的)

第1条 倫理委員会（以下「委員会」という）は、学長の諮問機関として、東京女子医科大学（以下「本学」という）で行われる人を対象とする研究あるいは医療行為が、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮のもとに行われるよう必要な事項を審議し、指示を与えることを目的とする。

### (職務)

第2条 委員会は、本学で行われる研究あるいは医療行為に関して、当該研究の実施責任者から申請された実施計画につき、倫理的観点及び科学的観点に立ってその妥当性を審査する。なお、人遺伝子解析研究については、遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会において審査するものとする。

2. 介入を伴う臨床研究の研究課題については、委員会のもとに設置する病院倫理委員会において審査するものとする。

### (委員会)

第3条 委員会は、男女両性で構成された以下の委員により構成される。

- (1) 学長の指名する本学教授・准教授・講師から少なくとも10名以上
- (2) 法律学の専門家等医学分野以外の学外者を含む有識者3名以上
- (3) 一般の立場を代表する者1名以上

2. 委員会に委員長をおき、委員長は委員の互選により選出する。

3. 委員長は委員会を招集し、その議長となる。委員長がやむを得ない事由により職務を遂行できないときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

4. 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が任期の途中で退任したときは新たに委員を選任することができる。任期は前任者の残任期間とする。

5. 委員会は、定員の過半数が出席し、かつ第1項2号又は第1項3号に定める委員から少なくとも1名の出席により成立する。

6. 審議事項の議決は、出席委員の3分の2以上の合意によるものとする。

7. 委員会が必要と認める時は、委員以外の者の出席を求めることができる。

### (守秘義務)

第4条 委員会の委員は、職務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。そ

の職務を辞した後も同様とする。

(審 議)

第5条 委員会審議事項のうち、委員会が書類審議に適していると判断する申請については、書類送付により審議とすることができる。

2. 委員長は次の場合、あらかじめ指名した委員、または小委員会による迅速審査を行うことができる。

(1) 研究計画の軽微な変更

(2) 共同研究であって、既に主たる研究機関での倫理審査を受け承認された研究計画を実施しようとする場合

(3) 研究参加者に対して最小限の危険（日常生活や日常的な医学検査で被る身体的、心理的、社会的危害の可能性の限度を超えない危険であって、社会的に許容される種類のものをいう）を超える危険を含まない研究

3. 審査の経過および決定は記録として保存し、委員会が必要と認める場合は、公表することがある。この際個人のプライバシーを侵害してはならない。

(議決権の代理公使)

第6条 委員は、他の委員を代理人として、その議決権を行使することができる。ただし、議決権の代理公使は5名を上限とする。

2. 人を直接の対象とする研究あるいは医療行為で、倫理審査を要する行為を行おうとする実施責任者は、所定の「審査申請書」を作成し、審査を申請しなければならない。

3. 委員長は審議終了後に速やかに、その結果にもとづき「審査結果通知書」に意見を付して申請者に通知しなければならない。

4. 申請者は審査の結果に異議があるときは、再審査を求めることができる。

(事 務)

第7条 委員会の事務は、研究支援部倫理・知財・産学連携課が行う。

(雑 則)

第8条 本規程に定めるもののほか、本規程の実施にあたり必要な事項は、委員会が別に定める。

(規程の変更)

第9条 本規程の変更は、医学部及び看護学部教授会の議を経なければならない。

附 則 第3条第1項1号のうち、過半数は本学教授とする。

本規程は、平成26年 3月26日から施行する。

# 看護学研究科倫理審査委員会規程

平成23年3月23日制定

## (目的)

第1条 本委員会は、東京女子医科大学（以下「本学」という）大学院看護学研究科博士前期課程に所属する学生が行う人を対象とする研究および医療行為が、適切な倫理的配慮のもとに行われるよう、本学倫理委員会に先だって、倫理的ならびに科学的観点からその妥当性を審査し、審査結果を本学倫理委員会に報告し、よって本学倫理委員会の審査の円滑化をはかることを目的とする。

## (職務)

第2条 本委員会は、本学大学院看護学研究科博士前期課程に所属する学生が行う研究および医療行為に関して、担当教授から提出された実施計画につき、倫理的ならびに科学的観点からその妥当性を審査するものとする。審査の過程には教育的指導も含まれる。

## (組織)

第3条 本委員会は、看護学研究科教授および研究科長が指名する教員若干名をもって組織される。委員会の下に審査会を置き、申請課題ごとの審査を行う。

2. 委員会に委員長をおき、委員長は委員の互選により選出する。
3. 委員長は委員会を招集し、その議長となる。委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
4. 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

## (審査の申請)

第4条 人を対象とする研究および医療行為で、倫理的な検討を要すると考えられる行為を行おうとする学生の担当教授は、審査を申請しなければならない。申請の手続きは別に定める。

## (審査会)

第5条 審査会は、委員長と担当教授、および委員長が指名する教員2名の計4名から構成される。

2. 審査会の議長は審査会委員の互選により選出する。
3. 審査の決議は出席委員の合意によるものとする。但し、担当教授は決議には加わらない。
4. 研究科長は随時審査会に出席し、意見を述べることができる。
5. 審査会が必要と認める場合には、委員以外の者の出席を求めることができる。
6. 審査の経過および決定は記録として保存し、看護学研究科倫理審査委員会に報告し承認を受けるものとする。

(倫理委員会への報告と審査)

第6条 本委員会の審査結果は、報告書(様式1.)をもって本学倫理委員会に報告し、最終的な判定は倫理委員会に委ねるものとする。

2. 申請者は倫理委員会の審査結果に異議があるときは、倫理委員会に対し直接再審査を求めることができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学務部看護学部学務課が行う。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたり必要な事項は、委員会が別に定める。

(規程の変更)

第9条 この規程の変更は、倫理委員会および看護学研究科委員会の議を経なければならない。

附則 この規程は、平成23年3月23日から施行する。

看倫審 様式 1

平成 年 月 日提出

看護学研究科倫理審査委員会 審査結果報告書

審査年月日	平成 年 月 日	審査回数	第 回目
課題名			
研究責任者名		職名	
研究分担者名		所属	
審査結果概要			
東京女子医科大学倫理委員会委員長殿 倫理的観点からの審査の結果、承認であることをご報告いたします。 看護学研究科倫理審査委員会委員長 氏名 _____ 印			

# 大学院看護学研究科学費減免内規

(平成 24 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 本内規は、東京女子医科大学大学院学則第 30 条の規定にもとづき、東京女子医科大学(以下「本学」という。)大学院看護学研究科に在籍する学生および入学志願者(以下「在學生等」という。)のうち、経済的理由により修学困難な者ならびに本学が休学を認めた者に対して行う学費減免に関し必要な事項を定める。

(対象)

第 2 条 対象者は、本学大学院看護学研究科の在學生等とする。この場合において、休学による学費減免の対象者は、学年の初日から 1 年間休学を許可された学生とする。

(学費減免)

第 3 条 経済的理由による学費減免の基準および減免額は、以下のとおりとする。

区分	収入の年額合計	減免内容
収入基準額	120 万円以下	学費(授業料)1 年分の半額

(注)1 申請者本人の前年の収入合計額(配偶者がある場合は、配偶者の収入を含む。ただし、定職収入に限る。)をいう。

2 前項に規定する収入の合計額とは、定職収入、アルバイト収入、金銭、物品等の父母等からの給付、奨学金その他の収入により本人が 1 年間に得た金額をいう。ただし、事業所得(主に自営業等をいう。)の場合は、収入の年額から必要経費を控除した金額をいう。

2 休学による学費減免額は、以下の各号に掲げるとおりとする。

(1) 授業料 60 万円の減額

(2) 実習費 全額免除

3 第 1 項の規定にかかわらず、外国人留学生には、経済的理由により就学困難である場合に、学費減免をすることができる。

(減免申請および申請時期)

第 4 条 経済的理由による学費減免は、年度ごとに、在學生等からの申請にもとづき選考する。ただし、罹災等による場合は、事由が生じたときに随時行うことができる。

2 前項の規定による学費の減免申請者のうち在學生は、前年度の 1 月末日までに入学志願者は入学試験日の 2 ヶ月前までに学費減免申請書(本学所定書式)に所得証明書およびその他の必要書類を添えて、学長に提出するものとする。この場合において、所得証明書は、所得見込額を申請書に記載し、後日、所得証明書を提出することも可とする。

3 休学による学費減免は、原則として前年度の 2 月末日までに学費減免申請書を学長に提出するものとする。

(減免期間)

第 5 条 減免期間は 1 年間とし、年度ごとに新たに申請するものとする。

附則 本内規は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、休学者の学費減免については、平成 28 年度入学者から適用する。

# 廣澤克江看護国際交流助成金規程

平成23年 3月23日制定

## (目的)

第1条 本規程は、廣澤克江氏（元東京女子医科大学看護短期大学教授）の遺贈による寄附金をもって原資とする助成金について定める。

## (助成金の使途)

第2条 この助成金は、東京女子医科大学（以下「本学」という）大学院看護学研究科博士前・後期課程学生、本学大学院看護学研究科および看護学部専任教員の国際学会発表、海外研修、および海外留学の助成に充てる。

2. 支給される助成金額は、1名につき上限10万円とする。年間助成総額を50万円程度とする。

## (選考委員会)

第3条 助成金の被授与者は選考委員会で選考するものとし、毎年若干名とする。

2. 選考委員会は学長、国際交流委員会室長、看護学部長、国際交流委員会委員1名、看護学研究科委員会で選出された教授1名、看護学部教授会で選出された教授1名をもって構成し、学長が委員長となる。
3. 選考委員会は、書類審査にて決議し、選考結果を看護学研究科委員会ならびに看護学部教授会に報告し承認を得る。
4. 看護学研究科委員会および看護学部教授会より選出された委員の任期は2年とする。

## (応募方法と公示)

第4条 助成金の授与を希望する者は、応募理由書（様式1）を学長に提出するものとする。

2. 応募は、原則として毎年5月末、11月末までに行うものとし、選考結果は応募締切後1か月以内に公示する。

## (被授与者の遵守事項)

第5条 助成金を受けた者は次の事項を遵守する。

- 1) 帰国後、1か月以内に学長に報告書を提出する。
- 2) 帰国後、1か月以内に補助金使用について領収書添付のうえ報告する。

## (事務)

第6条 選考に関する事務は学務部看護学部学務課が行う。

## (雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたり必要な事項は、選考委員会が別に定める。

## (規程の変更)

第8条 この規程の変更は、看護学研究科委員会および看護学部教授会の議を経なければならない。

附則 この規程は、平成23年3月23日から施行する。

東京女子医科大学学長  
殿

廣澤克江看護国際交流助成金応募理由書

申請者名		職名 (所属名)	
助成金使途目的		申請額	円
渡航先			
渡航期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
応募理由			
助成金使途計画			

# Kidney 太田奨励賞規程

平成13年9月26日制定  
平成15年1月29日改訂  
平成20年6月25日改訂

第1条 本規程は、本学太田和夫名誉教授よりの寄附金ならびにその他の寄附金をもって原資とする奨励賞について定める。

第2条 この奨励賞は、東京女子医科大学看護学部学生のうちで特に学業成績人物とともに優秀な者および大学院看護学研究科の学生で成績優秀かつ優れた研究・論文発表を行なった者に対し授与する。

第3条 被授与者の選考は、看護学部の教務委員会で看護学部生2名、看護学研究科委員会で大学院生2名を選考し、看護学部長に報告する。

第4条 被授与者の選考は3月中旬までに行うものとする。

第5条 看護学部長は、被授与者の選考結果を学長に報告し、承認を得る。

第6条 授与式は卒業式および大学院修了式当日に行う。

第7条 奨励賞は、奨励金・記念品・賞状とし、奨励金と記念品については別に定める。

第8条 選考に関する事務は学務部看護学部学務課が行う。

附 則 本規程は、平成20年6月25日から施行する。

# フローラドームトリートリー使用規程

平成10年4月1日制定

平成11年7月1日改正

(目的)

第1条 このドームトリートリーは、大東キャンパスで行う授業、セミナー、研究活動および課外活動等において学生、教職員が宿泊するための施設である。

(利用心得)

第2条 利用者は諸規定を守り、互いに快適な生活が送れるよう努めるものとする。

(利用者)

第3条 利用者は原則として看護学部の学生および教職員とする。

(利用順位)

第4条 利用の優先順位は、4年次における地域看護学実習および小児看護学実習のための宿泊を第一とし、その他の宿泊については申し込み順とする。

ただし、医学部学生が学習の一環として利用する場合は、看護学部学生の実習に準じて扱う。

2. 看護学部学生、教職員以外の者の宿泊については看護学部学生部長が決める。

(利用手続き)

第5条 宿泊を希望する者は、学務部看護学部学務課に利用申込書を提出し、宿泊料金と引き換えに利用券の交付を受ける。

2. 利用者は到着後直ちに大東事務室（または管理人）に利用券を提出し、利用室を決定の上鍵を受け取り入室する。

3. キャンセルによる宿泊料金の払戻しは宿泊予定日の2日前までとする。

(利用者の責務)

第6条 利用者は居室内および共用部分の管理に責任をもつものとする。

附 則

利用料および利用上の細則は別に定める。

## 大学院看護学研究科科目等履修生規程

(平成 24 年 11 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 本規程は、東京女子医科大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 39 条の規定にもとづいて設置する大学院看護学研究科の科目等履修生(以下「履修生」という。)の取扱いに関し必要な事項を定める。

(登録)

第 2 条 履修生として登録できる者は、大学院学則第 16 条第 2 号の看護学研究科博士前期課程アからウまでのいずれかに該当する者に限る。

2 登録を希望する者は、検定を経て、登録することができる。

3 履修生の登録開始の時期は、年度の始めとする。

(在籍期間)

第 3 条 履修生の在籍期間は、原則 1 年とする。この場合において、所定の手続により延長登録を申請した者に関しては、1 年ごとの延長を許可する。

(出願手続)

第 4 条 履修生として登録を志願する者は、東京女子医科大学(以下「本学」という。)所定の様式による書類に、所定の検定料を添えて、学長に願い出なければならない。ただし、既に本学看護学研究科を修了した者が再び志願する場合には、本学所定の様式による書類の提出を一部免除する。

(検定料、登録料および授業料の額)

第 5 条 検定料、登録料および授業料は以下の各号に掲げる額とし、指定の期日までに納入しなければならない。

(1) 検定料 10,000 円

(2) 登録料 30,000 円(1 年間)

(3) 授業料 30,000 円(1 単位)

2 既に納入した登録料および授業料は、原則として返還しない。

(履修許可科目および単位数)

第 6 条 履修生として履修を許可する授業科目は、博士前期課程開講科目のうち、本学の教育研究に支障のない範囲で看護学研究科が定めるものとし、1 学年度に履修することができる単位数は、10 単位以内とする。

2 実習科目、課題研究および特別研究の履修は、原則として許可しない。その他の授業科目についても、許可しないことがある。ただし、本学看護学研究科博士前期課程修了者については、実習科目についても、理由書の提出により看護学研究科委員会の議を経て履修を許可することがある。なお、演習、実習科目を履修する者は、賠償責任保険に必ず加入することとする。

3 本学学生の履修登録がなかった授業科目については、履修を一旦許可された授業科目でも、許可を取り消すことがある。

4 本学看護学研究科博士前期課程修了者については、本学で既に単位修得済みの授業科目を履修することはできない。

(単位の授与)

第7条 授業科目の単位の認定は、試験その他の評価法によるものとする。

(履修生登録等の証明)

第8条 本学により履修登録を認められた者は科目等履修生登録証明書を、また単位を授与された履修生はその単位の取得証明書を請求することができる。

(施設等の利用)

第9条 履修生は、本学の図書館等の教育施設を利用することができる。

(諸規程の準用)

第10条 履修生については、本規程に定めるもののほか、必要に応じて大学院学則および本学学生に関する諸規程を準用する。

(登録の取消し)

第11条 履修生が登録を取り消そうとするときは、理由を付して学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 履修生として不相当と認めたときは、看護学研究科委員会の議を経て、学長は登録の取り消しを命ずることができる。

3 授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しない者は、看護学研究科委員会の議を経て、学長が登録抹消の措置を講じる。

## 附 則

本規程は、平成24年11月1日から施行する。